

青森県埋蔵文化財調査報告書 第323集

上野尻遺跡Ⅲ

—青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2002年3月

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第323集

上野尻遺跡Ⅲ

—青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2002年3月

青森県教育委員会



獨立柱建物遺群

序

青森市の東部に建設が進められている青森県新総合運動公園は、北に青森湾、西に青森平野と岩木山を望む場所にあり、周辺には山野峠遺跡、長森遺跡、宮田館遺跡等の存在が知られております。当センターでは、新総合運動公園建設に伴い、平成8年度から上野尻遺跡・米山(2)遺跡・山下遺跡等の発掘調査を進めてきました。

上野尻遺跡については、平成9年度及び平成11年度から13年度にわたって発掘調査を行い、平成13年度の調査で全ての調査を終了しております。

調査の結果からは、本遺跡は、縄文時代前期・後期と平安時代のふたつの時代を中心とする遺跡であることが判明し、平成12年度の調査では、環状に巡る縄文時代後期の掘立柱建物跡群の検出が注目を浴びました。なお、この建物跡群は平成13年度の確認調査によって直径約90メートルの環状に巡ることが確認されました。

本報告書は、平成12年度の発掘調査についてまとめたものです。なお、環状建物跡群については、平成13年度に行った確認調査の調査結果と合わせて平成14年度に報告する予定です。

この報告書が、青森市のみならず、周辺地域の歴史研究や文化財保護に活用されることを期待するとともに、この調査の実施及び報告書の作成にあたって、御指導・御協力を賜りました関係各位に対し、厚く感謝申し上げます。

平成14年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 中島邦夫

例 言

- 1 本報告書は、平成12年度に青森県新総合運動公園建設事業に伴い発掘調査を実施した青森市上野尻遺跡の調査報告書である。
- 2 本遺跡は、平成10年3月に青森県教育委員会が編集・発行した『青森県遺跡地図』に、遺跡番号01281として登録されている。
- 3 本報告書は青森県埋蔵文化財調査センターが編集・作成した。なお執筆者の氏名は、依頼原稿については文頭に記載し、その他は文末に記した。
- 4 本書に掲載した地形図（遺跡の位置）は、国土地理院発行の5万分の1地形図を複製したものである。
- 5 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付した。なお、遺物写真の縮尺は不同である。
- 6 試料の分析・鑑定などについては、次の方々と機関に依頼した。
石器の石質鑑定 八戸市文化財審議委員 松山 力
放射性炭素年代測定 株式会社地球科学研究所
第356、365号七坑、第471号ピットの自然科学的分析 バリノ・サーヴェイ株式会社
- 7 出土遺物のうち剥片石器の実測・トレース図の作成の一部は、株式会社アルカに委託した。また遺物の写真はシルバーフォトおよびフォトスタジオいなみに依頼した。
- 8 堆積土層等の色調観察には、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 1996）を用いた。
- 9 遺構の計測値は〔 〕で残存値、（ ）で推定値を示した。
- 10 遺物の計測値は最大値であるが、破片については（ ）を付して残存最大値を示した。
- 11 発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 12 挿図中で使用したスクリーントーンは以下の通りである。



焼 土



炭 化 物



赤 色 顔 料



ス ス



ス リ



タ タ キ



凹 み

- 13 発掘調査の実施及び本報告書の作成にあたって、下記の諸氏から御協力・御助言を得た（50音順、敬称略）。

阿部義平、奥山一絵、小野貴之、木村真明、児玉大成、小谷地肇、佐藤剛、佐藤智雄、設楽政健、鈴木克彦、瀬川滋、高橋潤、田中寿明、藤井誠二、占屋敷則雄、三宅徹也

目次

序

例言

目次

挿図目次

写真図版目次

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査要項	1
第2節 調査の方法	2
第3節 調査の経過	3
第4節 遺跡の地質と基本層序	4

第2章 E区検出遺構と出土遺物

第1節 土坑	10
第2節 溝状土坑	57
第3節 ビット・ビット群	57
第4節 遺構外出土遺物	77

第3章 F区検出遺構と出土遺物

第1節 竪穴遺構	101
第2節 土坑	103
第3節 溝跡	114
第4節 焼土遺構	116
第5節 ビット群	119
第6節 遺構外出土遺物	124

第4章 自然科学的分析

第1節 出土炭化材の放射性炭素年代測定	145
第2節 第356、365号土坑、第471号ビットの自然科学的分析	149

第5章 まとめ

引用・参考文献	182
---------	-----

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

図1	遺跡位置図	図34	E区ビット群配置図	58	
図2	調査対象区域図	図35	ビット群図①、図②	60	
図3	基本層序	6	図36	ビット群図③	61
図4	平成12年度遺構配置図	7	図37	ビット群図③-2、図④、図⑤	62
図5	E区遺構配置図	8	図38	ビット群図⑥	63
図6	F区遺構配置図	9	図39	ビット群図⑥-2、図⑦	64
図7	第202・203号土坑、出土遺物	11	図40	ビット群図⑧、図⑨	65
図8	第248・258・262・272・293・316・317・318・375・376号土坑	13	図41	ビット群図⑩、図⑪	66
図9	第248・258・262・272・293・316・317・318・375・376号土坑 上位出土石器分布状況	19	図42	ビット群図⑫、図⑬	67
図10	第248・258・262・272・293・316・317・318・375・376号土坑 中位出土石器分布状況	20	図43	ビット群図⑭	68
図11	第248・258・262・272・293・316・317・318・375・376号土坑 下位出土石器・上位出土石器分布状況	21	図44	ビット群図⑮、図⑯	69
図12	第248・258・262・272・293・316・317・318・375・376号土坑 中・下位出土石器分布状況	22	図45	ビット群図⑰	70
図13	第248号土坑出土遺物、第258号土坑出土遺物(1)	23	図46	ビット群図⑱、ビット群出土遺物	71
図14	第258号土坑出土遺物(2)、第272・293号土坑出土遺物	24	図47	ビット群図⑳、図㉑、図㉒、図㉓	72
図15	第316・318・375・376号土坑出土遺物、第306号土坑	25	図48	ビット群図㉔、図㉕	73
図16	第306号土坑 石器分布状況	27	図49	ビット群図㉖、図㉗、図㉘	74
図17	第306号土坑 石器分布状況	28	図50	ビット群図㉙、図㉚、図㉛	75
図18	第306号土坑出土遺物(1)	29	図51	集石	76
図19	第306号土坑出土遺物(2)	30	図52	集石出土石器	77
図20	第329・356号土坑、第356号土坑出土遺物(1)	33	図53	E区遺構外出土石器(1)	79
図21	第356号土坑 石器分布状況	34	図54	E区遺構外出土石器(2)	80
図22	第356号土坑 石器分布状況	35	図55	E区遺構外出土石器(3)	81
図23	第356号土坑出土遺物(2)	36	図56	E区遺構外出土石器(4)	82
図24	第356号土坑出土遺物(3)、第357号土坑・出土遺物(1)	38	図57	E区遺構外出土石器(5)	84
図25	第357号土坑 遺物分布状況・出土遺物(2)	39	図58	E区遺構外出土石器(6)	87
図26	第357号土坑出土遺物(3)、第358・359号土坑	40	図59	E区遺構外出土石器(7)	88
図27	第358号土坑 遺物分布状況・出土遺物	42	図60	E区遺構外出土石器(8)	89
図28	第361・362号土坑 遺物分布状況・出土遺物	44	図61	E区遺構外出土石器(9)	90
図29	第363・364号土坑 出土遺物、第365号土坑	46	図62	E区遺構外出土石器(10)・土製品	91
図30	第365号土坑出土遺物、第366号土坑 出土遺物、第367・588号土坑	49	図63	E区遺構外出土石器(1)	92
図31	第367・588号土坑出土遺物、第368号土坑出土遺物、第369・441・462・468・565号土坑	52	図64	E区遺構外出土石器(2)	93
図32	第566・567・568号土坑 出土遺物、第587号土坑、第592号土坑 出土遺物	55	図65	E区遺構外出土石器(3)	94
図33	第593・594・595・596号土坑、第201号溝状土坑、第591号ビット	58	図66	E区遺構外出土石器(4)	95
			図67	E区遺構外出土石器(5)	96
			図68	E区遺構外出土陶器・土器(11)	97
			図69	E区遺構外出土土製品・石製品・銭貨	98
			図70	E区遺構外出土遺物出土状況	99
			図71	第201号竪穴遺構出土遺物	102
			図72	第202・203号竪穴遺構	104
			図73	第231・232・233・273・274・275・276・355・380号土坑	108
			図74	第597・598・599・600・604・609・613・614・615・616号土坑出土遺物	113
			図75	第201・202号溝跡	115
			図76	第201・202・203・204・205・206号焼土遺構	118
			図77	F区ビット群	123
			図78	F区遺構外出土石器(1)	125
			図79	F区遺構外出土石器(2)	126

図80	F区遺構外出土土器 (3)	128
図81	F区遺構外出土土器 (4)	129
図82	F区遺構外出土土器 (5)	130
図83	F区遺構外出土土器 (6)	131
図84	F区遺構外出土土器 (7)	132
図85	F区遺構外出土土器 (1)	133
図86	F区遺構外出土土器 (2)	134
図87	F区遺構外出土土器 (3)	135
図88	F区遺構外出土土器 (4)	136

図89	F区遺構外出土陶磁器・土製品	137
図90	F区遺構外出土遺物出土状況 (1)	138
図91	F区遺構外出土遺物出土状況 (2)	139
図92	F区遺構外出土遺物出土状況 (3)	140
図93	F区遺構外出土遺物出土状況 (4)	141
図94	F区遺構外出土遺物出土状況 (5)	142
図95	F区遺構外出土遺物出土状況 (6)	143
図96	F区遺構外出土遺物出土状況 (7)	144

写真図版目次

写真図版1	遺跡遠景
写真図版2	E区 調査風景・基本順序
写真図版3	E区 第202・203・248・258・272・293・316・587号土坑
写真図版4	E区 第248・258・262・272・293・316・317・318・375・376号土坑
写真図版5	E区 第306号土坑
写真図版6	E区 北西側土坑群・第356号土坑
写真図版7	E区 第356・357号土坑
写真図版8	E区 第358・359・361・362号土坑、Pit360・590
写真図版9	E区 第361・362・363・364号土坑
写真図版10	E区 第363・364・365・366・367・368・369・588号土坑
写真図版11	E区 第369・441・462・468・565・568号土坑、Pit440・569
写真図版12	E区 第566・567・568・592・593号土坑、第201号溝状土坑、Pit591
写真図版13	E区 第594・595・596号土坑、Pit394・409・464・465
写真図版14	E区 Pit464・465・470・474・561・562・570
写真図版15	E区 集石検出・石器出土状況
写真図版16	E区 遺構検出状況
写真図版17	E区 遺物集中区 遺物出土状況
写真図版18	F区 調査前風景・基本順序
写真図版19	F区 第201号竪穴遺構
写真図版20	F区 第202・203号竪穴遺構
写真図版21	F区 第273・274・275・276・355・380・597・598号土坑
写真図版22	F区 第599・600・604・609・613・614・615・616号土坑
写真図版23	F区 第201・202号溝跡、第201・202・203・204号溝状遺構、Pit601・602
写真図版24	F区 Pit603・605・606・607・608・610・611・612
写真図版25	F区 遺物出土状況・作業風景
写真図版26	第202・203・248・258・272号土坑出土

写真図版27	遺物 第272・293・316・318・375・376・306号土坑出土遺物
写真図版28	第306号土坑出土遺物
写真図版29	第566号土坑出土遺物
写真図版30	第356・357号土坑出土遺物
写真図版31	第358・361・362・363・364号土坑出土遺物
写真図版32	第365・366・367・588・368・567・568号土坑、Pit407・451・464・465出土遺物
写真図版33	E区 遺構外出土遺物 (1)
写真図版34	E区 遺構外出土遺物 (2)
写真図版35	E区 遺構外出土遺物 (3)
写真図版36	E区 遺構外出土遺物 (4)
写真図版37	E区 遺構外出土遺物 (5)
写真図版38	E区 遺構外出土遺物 (6)
写真図版39	E区 遺構外出土遺物 (7)
写真図版40	E区 遺構外出土遺物 (8)
写真図版41	E区 遺構外出土遺物 (9)
写真図版42	第201・203号竪穴遺構、第613号土坑、F区 遺構外出土遺物 (1)
写真図版43	F区 遺構外出土遺物 (2)
写真図版44	F区 遺構外出土遺物 (3)
写真図版45	F区 遺構外出土遺物 (4)
写真図版46	F区 遺構外出土遺物 (5)
写真図版47	F区 遺構外出土遺物 (6)
写真図版48	炭化材
写真図版49	種実遺体・植物珪酸体分析プレパラートの状況写真

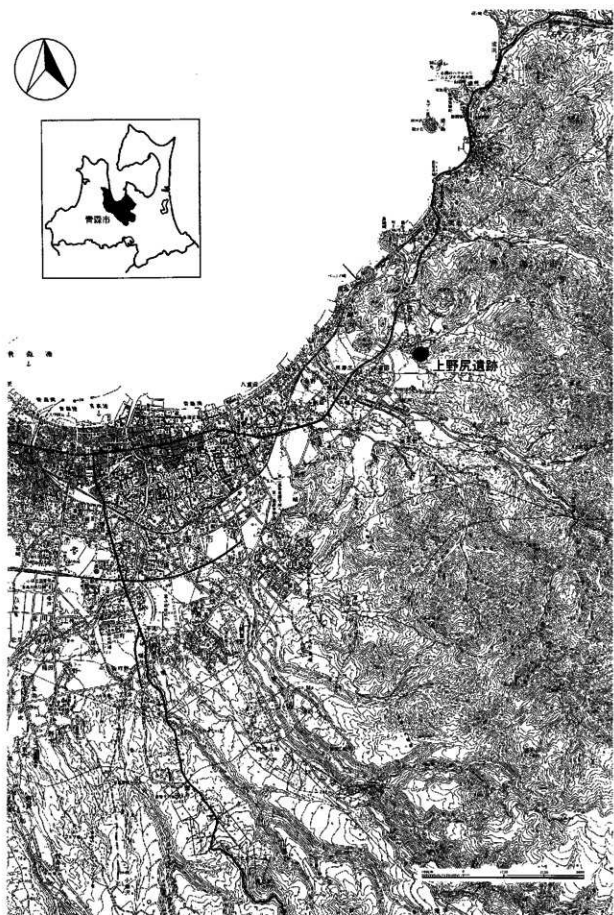


图1 遺跡位置图

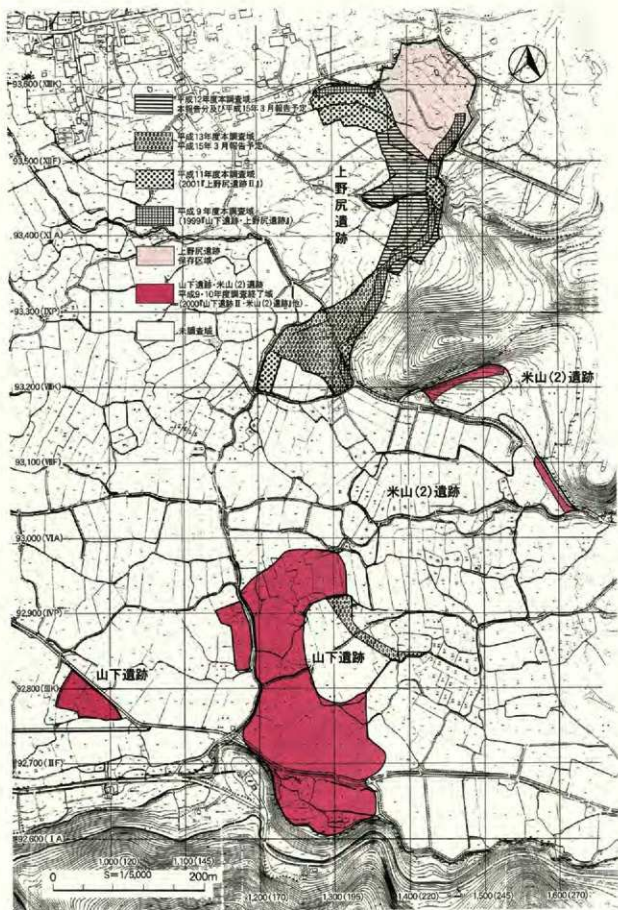


図2 調査対象区域図

第1章 発掘調査の経過

第1節 調査要項

1 調査目的

青森県新総合運動公園施設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する青森市上野尻遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財活用に資する。

2 発掘調査期間

平成12年4月19日から11月10日まで

3 遺跡名及び所在地

上野尻遺跡 青森市大字矢田字上野尻54ほか
(青森県遺跡番号 01281)

4 発掘調査面積

10,060㎡

5 調査委託者

青森県土木部都市計画課

6 調査受託者

青森県教育委員会

7 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査体制

調査指導員	村越 深	青森大学教授 (考古学)
調査指導員	市川 金丸	青森県考古学会会長 (考古学)
調査員	松山 力	八戸市文化財審議委員 (地質学)
調査員	葛西 勲	青森短期大学助教授 (考古学)
調査員	遠藤 正夫	青森市教育委員会文化財課課長 (考古学)
調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター	
	所 長	中島 邦夫
	次 長	成田 誠治
	総務課長	西口 良一
	調査第三課長	木村鐵次郎
	文化財保護主事	工藤由美子
	文化財保護主事	浅田 智晴
	文化財保護主査	笹森 一朗
	文化財保護主事	齋藤 正
調査補助員	館岡杏子、工藤真優子、佐々木志野、栗谷川昭子、 中村敦子、佐藤由加子、伊藤敦子、天内敬子	

第2節 調査の方法

1 グリッドの設定

グリッド番号の呼称は、新総合運動公園用地内の平成8・9・10・11年度の調査のものを踏襲している。グリッドは4×4mで1単位とし、公共座標の軸に合わせ、公共座標X=92,680、Y=644をII A-30とした。X軸の南北方向はローマ数字とアルファベットの組み合わせで呼称し、Y軸の東西方向は算用数字で呼称した。X軸で使用するアルファベットはA～Tまでとし、グリッド名は南西隅の交点を用いて表した。

2 調査の手順

まず、調査区に2m×2m又は4m×2mのトレンチを数ヶ所設定し、人力で掘り下げを行った。その結果、遺物の出土状況・遺構の分布密度がおおよそ把握できたため、重機による表土除去を行った。遺物包含層・遺構確認には、上層より分層発掘による掘り下げを行った。

遺物の取り上げは、ローマ数字で表記した基本層序に従い、グリッド単位・層単位を基本として行った。良好な遺物または遺物の出土状況の場合は、できる限り座標値・標高の記録をした。

3 遺構の調査

遺構の調査は四分法及び二分法により、土層観察のためのベルトを設けて行った。実測は簡易測り方測量によるものとした。遺構の実測図の縮尺は、必要に応じて10分の1・20分の1を使用することにした。

遺構名は、種別ごとに確認順に付した。調査時には種別ごとに1番から付していたが、調査が複数年度にわたっているため、各調査年度分の遺構がそれぞれ区別できるように、平成9年度に調査した遺構については各遺構ごとに1番から、平成11年度調査分については、整理時にすべての遺構を101番から、平成12年度調査分(今回報告分)については、201番からとした。ただし、平成12年度調査時に、土坑・ピットについては土坑・ピットの別無く通し番号として土坑番号をふっていったという経緯がある。それを整理時に土坑とピットに振り分けたが、混乱を避けるため、あえて現場段階での遺構番号を生かし、その番号に12年度の番号である200をプラスしていくという形をとった。そのため、土坑・ピットとも欠番が非常に多くなってしまった。

遺構内の堆積土については、上位から下位に向かって順に算用数字を付した。土層観察にあたっては、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄 1996)を用いて注記した。

4 写真撮影

写真撮影は適宜行うこととし、主としてカラーリバーサル及びモノクロームネガの2種類のフィルムを用いた。ただし、遺構や遺物の状況に応じて、カラーネガフィルムやボラロイドカメラも使用した。

第3節 調査の経過

4月19日、調査機材を搬入し調査を開始した。今年度調査区の北側からトレンチを入れ、遺物の出土状況・遺構の分布状況などを確認していった。その結果、遺物の分布は希薄で、表土は重機で剥ぐことにし、5月中旬より重機による表土剥ぎを開始した。

5月12日、原因者より市道矢田2号線の付け替え道路部分(平成9年度調査)の幅杭が入るので、未調査区があれば先に調査して欲しいとの依頼があった。確認したところ、9年度調査区A・B区の調査区域幅より付け替え道路部分がやや広がることがわかり、そちらの調査も開始したが、遺物・遺構ともほとんど検出されなかった。

5月下旬には掘立柱建物跡が検出され始めた。7月上旬段階では、3棟ほどが検出されているのみであったが、8月に入ると棟数は徐々に増えていった。

8月11日、9月1日から今年度調査予定区の更に南側(F区)にも1チームが調査に入るようになった。

8月下旬、掘立柱建物跡が数棟検出されている更に東側部分の表土剥ぎを行い、結果として東側部分にも掘立柱建物跡が確認された。

9月7日、原因者より付け替え道路工事が調査終了後すぐに入るということで、今年度調査区東側部分は早急に終了させて欲しいとの連絡があった。9月の中旬には調査を終え、空中撮影終了後には引き渡しができるという予定であった。

しかし引き続きの調査の結果、掘立柱建物跡が西側にも延び、それが11年度調査区の掘立柱建物跡と繋がり、直径約80mほどの半円状に配列されていることが確認された。そのため、掘立柱建物跡が北側にも広がる可能性があるとして、9月末から遺跡範囲外である北側の確認調査も行っていった。遺構精査と確認調査を併行して行ったため調査は難航した。

確認調査の結果、北側にも掘立柱建物跡群が広がっていることがわかり、掘立柱建物跡に関しては、来年度以降に調査をし、今年度は掘立柱建物跡群の外側部分の調査を終了させるということになった。

調査期間を延長して11月10日まで調査を行い、10日には原因者と県教育委員会の協議の結果、掘立柱建物跡群とそれに伴う土坑群の保存が確定した。

(工藤 由美子)

第4節 遺跡の地質と基本層序

1 遺跡の位置・地形

上野尻遺跡は、平成8年度の試掘・範囲確認調査に引き続き、平成9・11年度に本調査が行われ、既に報告が行なわれている（『山下遺跡・上野尻遺跡』1999、『上野尻遺跡Ⅱ』2001）。今回の調査区は既報告地区に囲まれた範囲であり、本遺跡の位置、地形の概略に関しては上述の報告書において述べられているため、ここでは今回の調査範囲に限定して記載する。

E区は平成11年度A区の南東側、平成9年度B区西側の2箇所の既調査部分と、独立柱建物跡群が検出された保存地区の南側によって、調査区北東側を囲まれた位置関係となる。平成9年度C区は矢田の洪積下位面の平頂部南半部とされている。調査区の地形は、北東から南西に向かって僅かだが傾斜しており、遺跡北側に位置する貴船川や谷状地形からの氾濫によって形成された、扇状地地形の端部にあたるものと思われる。平成11年度A区では千曳浮石層の2次堆積土が確認されており、隣接するE区北側でも同様の堆積を示している。E区南側には遺物集中区が存在するが、その下部は浅い小谷の谷頭となっている。その更に南側では千曳浮石層が表土直下で検出される部分もあり、耕作による削平等の影響を少なからず受けている。

F区はE区の南側に隣接し、平成9年度A区が北東から南西に向かって緩やかに蛇行する形で位置する両脇に存在する。調査時には調査区を東西に横断する水路が設けられていたが、水路の南側に浅い小谷が蛇行して存在していた。平成9年度B区は山地急斜面下の浅い小谷の谷頭の底部とされており、端部の方向からは関連性があるものと思われる。調査区中央から南側にかけては耕作地作出のためと思われる、大規模な土地改変を受けている。調査時点では上下2段の平坦面が存在したが、本来は山地急斜面下の緩傾斜地であったと考えられる。飛び地状に残っていた平成9年度A区の東側部分も、調査の結果、平坦面作出のため削平されているものと思われ、西側と同様の状況であったと考えられる。

2 基本層序（図3）

基本層序を観察する土層断面は、E区に1箇所、F区に2箇所設定した。それぞれの地区において若干堆積に相違が見られるが、表土である第I層は、調査前の土地利用形態である畑作、果樹栽培など耕作による影響を大きく受けている点で、各区とも共通している。

E区（XⅡC-223グリッド）

北側に広がる遺物集中区より若干標高が高く、遺物包含層である第Ⅱ層が薄い、もしくは耕作による攪乱や削平により存在しない地点である。

第Ⅰ層は表土であり、基本的に耕作土となっている。そのため草木根の影響を大きく受けている。第Ⅱ層は作図地点では存在しないが、黒褐色土で遺物集中区では遺物包含層となっている。第Ⅲ層も作図地点では確認されなかったが、暗褐色土で下層のローム層との漸移層にあたる。部分的に確認された。第Ⅳ層は黄褐色ローム層である。浮石が混入し、千曳浮石層に相当するものと思われる。作図地点ではこの層まで耕作による影響が見られる。第Ⅴ～Ⅵ層は流れ込みによると思われる、ロームの二次堆積層である。第Ⅴ層は黒色粒の混入度により更にa、bに細分した。第Ⅵ層は地下水位面で、

部分的に礫層が存在する。第Ⅶ～Ⅹ層は灰白色を主体とする粘土層である。不透水層になっており、地下水の湧水によって土層観察用ピットは常に水没する状況であった。

F区(XR-228グリッド)

平成9年度調査区は付け替え道路の範囲に該当する。調査開始後、道路工事用の杭の打設が行われたが、調査終了範囲の外側に工事範囲が広がっていたため、未調査部分の調査が必要となった。またその道路によって飛び地状に残されていた平成9年度A区東側部分の調査も合わせて行った。作図地点は東側部分の北端に位置する。調査以前は畑地であったと思われる。緩斜面であった丘陵部を段切りして平坦面を作出しており、大半の部分は地山に耕作痕が明瞭に確認された。遺構確認面である第Ⅲ層より上層は人為的に改変されたものであると思われる。

作図地点はXR-228グリッドで、第Ⅱ層下で倒木痕が重複している。古い倒木痕内には肉眼観察で白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)と十和田a火山灰(To-a)と思われる火山灰が、レンズ状に堆積していることが確認された。倒木痕の窪地に流入した二次堆積によるものと思われる。基本層序第Ⅱ層と倒木痕との層界はほぼ水平であることから、倒木痕をならすように第Ⅱ層が堆積したと考えられる。従って少なくとも第Ⅰ、Ⅱ層は古代以降に堆積、形成されたものと考えられる。第Ⅲ層は第201号溝跡で記録されているが、確認されない部分も存在する。第Ⅳ層は浮石を多量に含む。明黄褐色土で、この層も一部にしか確認できない。既報告の千曳浮石層相当に該当するものであろう。第Ⅴ層は図示されていないが、褐色のローム層が存在する。本観察地点は平成9年度調査におけるA区の基本層序に比較的近く、共通する層序となっている。なお、倒木痕は新旧が確認された。第1～4層の倒木痕が第5～18層の倒木痕を切っている。新しい倒木痕は黒色土を主体とする。一方古い倒木痕は火山灰堆積層より上層では黒褐色土主体であるが、火山灰層以下では暗褐色土が主体となる。いずれの火山灰もレンズ状の堆積を示し、倒木痕の下層ほど良好に堆積していることから、窪地状態であった倒木痕に二次的に流入したものと考えられる。

F区(XIE-217・XIF-225・XIF-226グリッド)

9月からF区の調査範囲を南側に拡張した際、それまでの調査区壁を用いて東西に長く設定したベルトから作図し、その一部を抜粋した。調査前の状況では上下2段の平坦面が存在したが、本来は緩傾斜地で、耕作地造成の際、平坦面を作り出すために斜面部の高い部分を削平し、低い方に盛土を行なう段切りが行われたものと思われる。そのため崖線下では再堆積ローム層まで削平されている。崖線に沿って溝が掘られていたが、多くの現代廃棄物が混入していたことから、少なくとも近年まで使用されていたものと思われる。上段には斜面下ほど厚く盛土がなされていたため、下層の黒色土が結果的に保護される状況であった。遺物包含層である第Ⅲ層は崖線に近いほど厚く堆積している。下段は擾乱の影響も大きい。黒色土の堆積が薄く、しかも漸移層から下層では地下水の影響を受けることが想定される。

第Ⅰ層は表土、耕作土であるが、上段崖線付近では平坦面を作出するために盛土がなされており、斜面下方にいくにしたがって厚く堆積している。また、図示していない部分に多量の現代の廃棄物を埋めた穴が存在している。第Ⅱ層は黒色土を主体とし、硬質である。第Ⅲ層は黒色土で第Ⅱ層と同様であるが、第Ⅱ層より軟質である。この層が縄文時代の遺物包含層となっている。上段の崖線に近い部分ほど厚く堆積している。第Ⅳ層は黒褐色土が主体となっている。第Ⅴ層は漸移層で黒色粒を混入

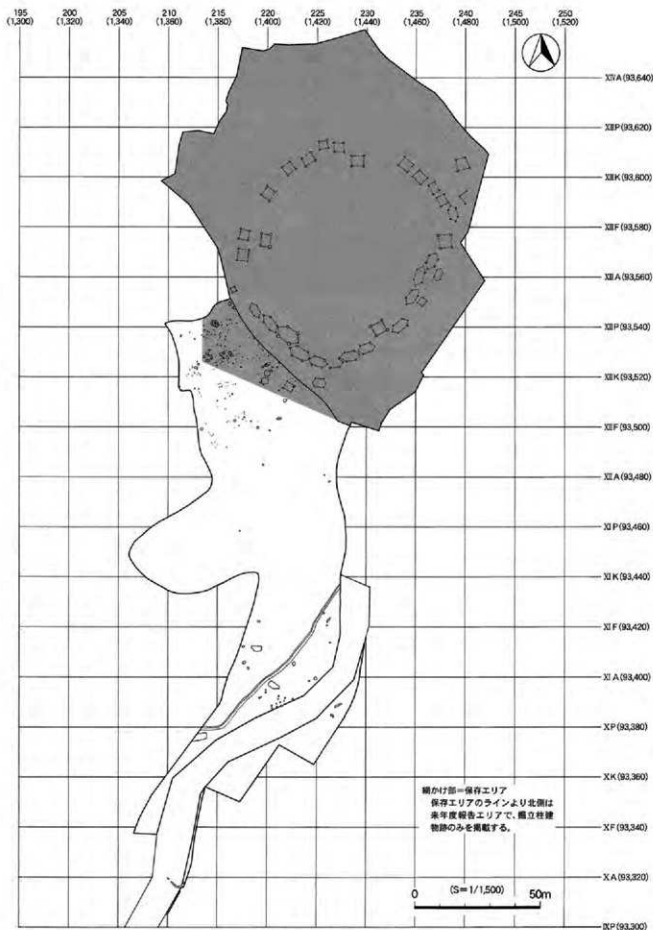


図4 平成12年度遺構配置図

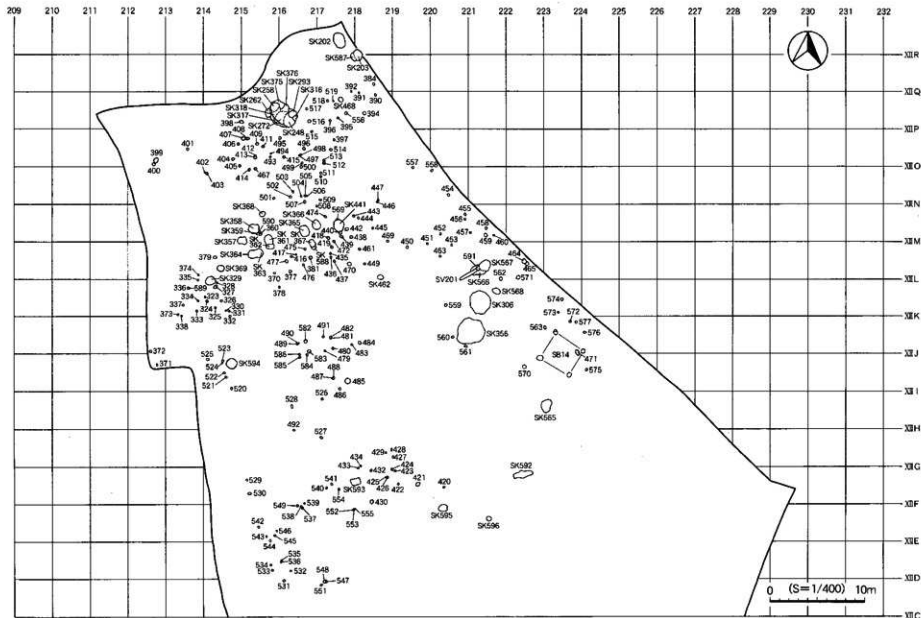


图5 E区遺構配置圖

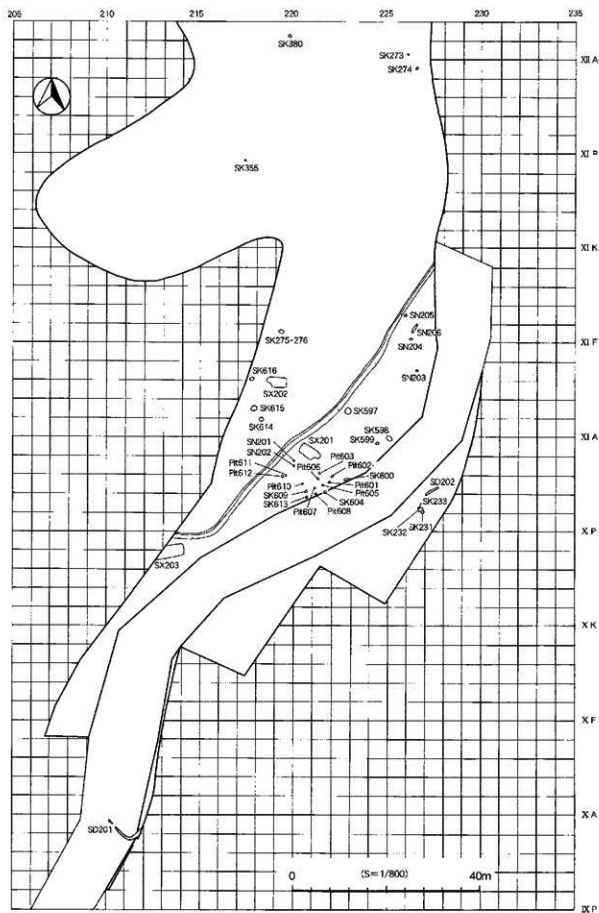


図6 F区遺構配置図

第2章 E区検出遺構と出土遺物

E区で検出された遺構は、掘立柱建物跡1棟・土坑41基・溝状土坑1基・ピット206基である。

E区には保存エリアが一部含まれており、そのエリアで検出された遺構は、掘立柱建物跡1棟・土坑33基・溝状土坑1基・小ピット108基である。

今回の報告書では、掘立柱建物跡が環状に巡っている保存エリアに関しては来年度の報告とし、また、E区内で保存エリアにかかっている掘立柱建物跡1棟も、掘立柱建物跡群として来年度まとめて報告することとする。

第1節 土坑

第202号土坑（図7）

〔位置・確認〕XⅡR-217グリッドに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形を呈し、開口部長軸1m72cm×短軸1m22cm、底部長軸1m65cm×短軸1m13cm、深さ43cmである。

〔断面・底面〕壁は北側は底面からやや開くように立ち上がり、南側は垂直に近い形で立ち上がる。底面は平坦である。土坑の西側底面には、規模が23cm×21cm、深さ7.5cmのピットが検出された。

〔堆積土〕16層に分層した。全体に黒褐色土が堆積し、中には黒色土・底面中央にはにぶい黄褐色土が堆積している。人為堆積と思われる。底面のピットは2層に分層した。上位に黒褐色土・下位に暗褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕土器破片が5点、土坑中位から出土している。すべて小破片である。図示したのは3点で、すべて縄文時代後期前葉のものと思われる。202土-1は沈線文が施された深鉢の口縁部破片、202土-2は無文の深鉢の胴部破片、202土-3は磨消縄文が施文される壺の胴部破片である。

〔小結〕時期決定の根拠に欠けており不明である。

（工藤 由美子）

第203号土坑（図7）

〔位置・確認〕XⅡQ・R-218グリッドに位置する。第587号土坑とともに黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕第587土坑と重複し、本遺構の方が新しい。

〔平面形・規模〕遺構確認面では重複が不明であり、西側の先端を確認できなかった。そのため確認面での先端は推定であるが、おそらく楕円形であると思われる。開口部長軸1m20cm×推定短軸90cm、底部長軸1m11cm×短軸80cm、深さ42cmである。

〔断面・底面〕壁は遺構の北側から北東側にかけては底面からややプラスチック気味に立ち上がり、ほかは底面からやや開くように立ち上がる。底面は平坦である。

〔堆積土〕10層に分層した。黒褐色土主体の覆土構成で、遺構西壁中位第587号土坑との境界には黒

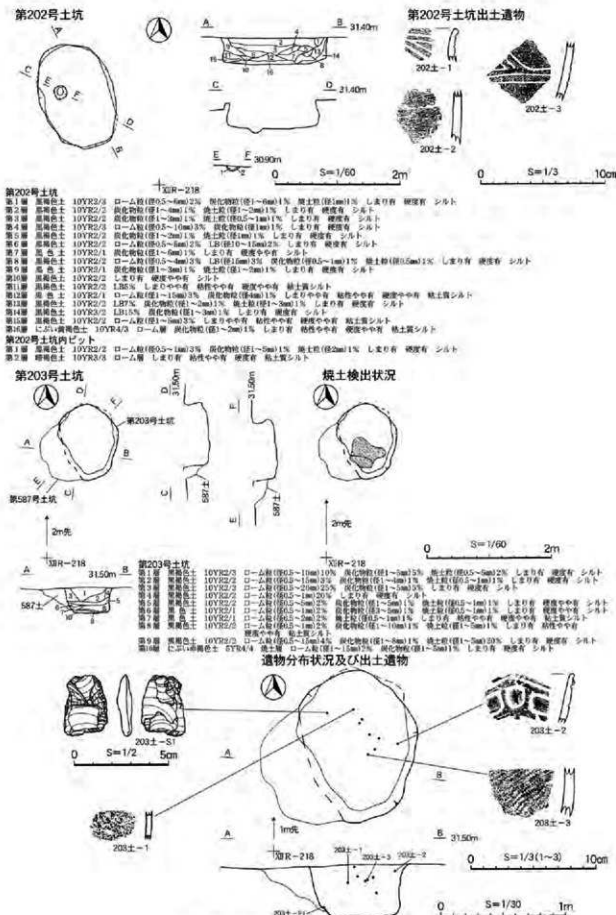


図7 第202・203号土坑、出土遺物

色土、底面には焼土が堆積している。焼土は底面からの検出であるが、現地性のもではなく廃棄されたものと思われる。

〔出土遺物〕 土器破片が7点、土坑の上位から中位にかけてから出土している。すべて小破片で、図示したのは3点である。203土-1・3は縄文が施文される深鉢の胴部破片で、1には内面にススが付着している。縄文時代後期のものと思われる。203土-2は楕円文が施文される深鉢の波状口縁部破片で、縄文時代後期前葉のものと思われる。

石器は1点のみの出土で、S1は両極剥片の側面に二次加工が施されたスクレイパーである。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第248・258・262・272・293・316・317・318・375・376号土坑は、掘立柱建物跡群南西側、「上野尻遺跡Ⅱ」(工藤・永嶋 2001)で報告したA区土坑群の南側において、すべての遺構が切り合った状態で検出された。確認段階では3基ほどが重複しているものと思われたが、最終的には10基が切り合い関係にあることが判明し、そのすべての切り合い関係を把握することはできなかった。この10基については切り離しての報告は難しいため、まとめて掲載することとする。

第248号土坑 (図8～13)

〔位置・確認〕 XⅡP-216グリッドに位置する。北西-南東方向に延びる黒色土の不整形プランとして確認した。

〔重複〕 第272・293・316号土坑と重複する。第272号土坑より新しく、第293・316号土坑よりも古い。第272号土坑<第248号土坑<第316号土坑<第293号土坑

〔平面形・規模〕 遺構の南から東側にかけてのみ上端・下端が残存している。その他の平面は確認できなかったが、おそらく楕円形になるものと思われる。底部推定長軸1m40cm×推定短軸1m24cmで、深さは38cmである。

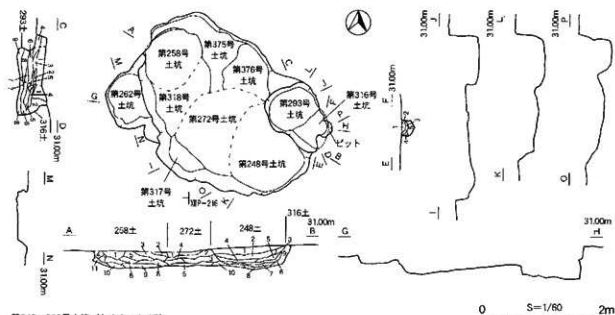
〔断面・底面〕 壁は残存部をみると、底面から開くように立ち上がっている。底面は平坦である。

〔堆積土〕 黒色土主体の覆土構成で、下位にわずかに黒褐色土が堆積している。9層に分層した。

〔出土遺物〕 土器は163点出土した。ほとんどが小破片である。分布状況を見ると、平面的には土坑残存部の北側・南側からの出土が目立ち、垂直分布で見ると上・中位からの出土が多い。縄文時代後期前葉の無文の土器と縄文のみを施文した土器が主体で、全体の76%を占めている。

図示したのは15点で、248土-1は縦位に条線文が施文される深鉢の胴部破片であり、縄文時代後期前葉のものと思われる。

248土-2～4は無文の深鉢破片で、2・3には外面にスス、4には内面にススが付着している。248土-5・6と、第258号土坑の258土-13・第293号土坑の293土-8は同一個体である。248土-5・6は鉢の口縁部破片で、外面には平行沈線文、口唇内面には貼瘤が施文される。248土-7～11は異原体羽状縄文が施文されている深鉢の破片で、7の内面には炭化物、7の外面・8の内外面・9の外面・11の内面にはスス、10の内面には炭化物が付着している。248土-12は壺か注口の胴部破片で、外面に縄文帯が施文される。248土-13はミニチュアと思われる口縁部破片で、口縁部



第248・316号土坑 (セクションAB)

- 第1層 黒色土 10YR2/1 炭化物粒(厚1~4mm)1% 焼土粒(厚1~2mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第2層 黒色土 10YK2/1 炭化物粒(厚1~6mm)10% 焼土粒(厚1mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第3層 黒色土 10YR2/1 土粒2% 炭化物粒(厚1mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第4層 黒色土 10YR1/1 炭化物粒(厚1~10mm)3% 焼土粒(厚1~6mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第5層 黒色土 10YR2/1 土粒(厚10~20mm)2% 炭化物粒(厚1~4mm)1% 焼土粒(厚1mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第6層 黒色土 10YR2/1 LB10% 炭化物粒(厚5mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第7層 黒色土 10YR2/2 LB2% しまり有 硬質有 シルト
 第8層 黒色土 10YR2/1 LB10% 炭化物粒(厚1~4mm)1% 焼土粒(厚1mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第9層 黒色土 10YK2/1 LB17% しまり有 硬質有 シルト

第258号二坑 (セクションAB)

- 第1層 黒色土 10YR2/1 炭化物粒(厚1~2mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第2層 黒色土 10YR1/1 炭化物粒(厚1~6mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第3層 黒色土 10YR2/1 炭化物粒(厚1~8mm)1% 焼土粒(厚1~4mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第4層 黒色土 10YR2/1 炭化物粒(厚2~5mm)2% 焼土粒(厚1~2mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第5層 黒色土 10YR2/1 LB15% 炭化物粒(厚1~2mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第6層 黒色土 10YK1/1 炭化物粒(厚1~3mm)1% 焼土粒(厚1mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第7層 黒色土 10YR2/2 LB18(厚30mm)1% 炭化物粒(厚1~6mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第8層 黒色土 10YR1/1 炭化物粒(厚2~20mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第9層 黒色土 10YR2/2 LB18(厚10~15mm)2% 炭化物粒(厚2~6mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第10層 黒色土 10YR2/2 LB18(厚5mm)1% 炭化物粒(厚1~3mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第11層 黒色土 10YR2/2 LB7% しまり有 粘質や中粘 硬質有(粘質より硬らか)4% シルト

第272号土坑 (セクションAB)

- 第1層 黒色土 10YK1/1 炭化物粒(厚1~8mm)1% 焼土粒(厚1mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第2層 黒色土 10YR1/1 炭化物粒(厚1~3mm)1% 焼土粒(厚1~2mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第3層 黒色土 10YK1/1 炭化物粒(厚1~6mm)1% 焼土粒(厚1~2mm)1% 土粒(厚120mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第4層 黒色土 10YK1/1 炭化物粒(厚1~15mm)1% 焼土粒(厚1mm)1% 小骨(厚1~10mm)2% しまり有 硬質有 シルト
 第5層 黒色土 10YR2/2 ローム粒(厚0.5~10mm)3% LB18(厚15mm)1% 炭化物粒(厚1~2mm)1% 焼土粒(厚1mm)1% しまり有 硬質有 シルト
 第6層 黒色土 10YR2/2 ローム粒(厚0.5~10mm)5% しまり有 粘質や中粘 硬質有 シルト

第293号土坑 (セクションCD)

- 第1層 黒色土 10YR2/2 ローム粒(厚1~2mm)2% 炭化物粒(厚1~3mm)2% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第2層 黒色土 10YR2/2 炭化物粒(厚1~15mm)1% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第3層 黒色土 10YR2/2 炭化物粒(厚1~20mm)3% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第4層 黒色土 10YR2/1 炭化物粒(厚0.5~1mm)1% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第5層 黒色土 10YK2/3 ローム粒(厚0.5~10mm)3% 炭化物粒(厚1~5mm)2% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第6層 黒色土 10YK2/2 炭化物粒(厚1~5mm)3% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第7層 黒色土 10YR2/2 炭化物5% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第8層 黒色土 10YR3/3 ロームと黒色土(10YR2/2)の混合層 しまりなし 粘質有 硬質なし 粘土質シルト
 第9層 黒色土 10YR2/3 LB18(厚30mm)3% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト

第316号土坑 (セクションCD)

- 第1層 黒色土 10YR2/2 ローム粒(厚1~2mm)2% 炭化物粒(厚1~3mm)2% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第2層 黒色土 10YR2/3 LB18(厚1~10mm)1% 炭化物粒(厚1~5mm)1% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第3層 黒色土 10YK2/2 炭化物粒(厚1~15mm)1% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第4層 黒色土 10YK2/3 ローム粒(厚0.5~10mm)3% 炭化物粒(厚1~5mm)2% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第5層 黒色土 10YK2/2 炭化物粒(厚1~5mm)3% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第6層 黒色土 10YR2/2 炭化物5% しまり有 粘質や中粘 硬質有 粘土質シルト
 第7層 黒色土 10YR3/3 ロームと黒色土(10YR2/2)の混合層 しまりなし 粘質有 硬質なし 粘土質シルト
 第8層 粘色土 10YR4/6 黒色土(10YR2/1)2% 砂多量 しまり有 粘質有 硬質有 粘土質シルト

第316号土坑脇ピット (セクションEF)

- 第1層 黒色土 10YR2/2 ローム粒(厚1mm)5% しまり有 硬質有 シルト
 第2層 粘色土 10YK3/4 ローム粒 硬質有 1(10YR2/2)3% しまり有 硬質有 シルト
 第3層 硬色土 10YK3/2 ローム粒(厚1~2mm)10% しまり有 硬質有 シルト
 第4層 黒色土 10YR2/3 ローム粒(厚1~5mm)25% しまり有 硬質有 シルト
 第5層 黒色土 10YR3/2 ローム粒(厚1~8mm)20% 炭化物粒(厚1~3mm)2% しまり有 粘質や中粘 硬質有 シルト

図8 第248・258・262・272・293・316・317・318・375・376号土坑

に縄文・刺突が見られる。内外面にはススが付着している。248土-14・15は注口土器の注口部破片で、無文に貼瘤が施されている。248土-2～15は縄文時代後期後葉の土器と思われる。

石器はフレイクが39点、礫が3点、チップが282点出土した。土坑群全体からチップは多数出土したが、第248号土坑からの出土が最も多い。図示したS1は凹石で、両面中央に1ヶ所ずつ凹みが残されている。

〔小結〕出土遺物を見るとほとんどが縄文時代後期後葉期のものであり、縄文時代後期後葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

第258号土坑（図8～14）

〔位置・確認〕XII P-215・216グリッドに位置する。北西―南東方向に延びる黒色土の不整形プランとして確認した。

〔重複〕第262・318・375号土坑と重複し、それらよりも新しい。

第262号土坑<第318号土坑<第258号土坑

第375号土坑<第318号土坑<第258号土坑

〔平面形・規模〕平面は確認面でははっきりとしたプランは確認できず、開口部・底面の一部を検出したのみである。楕円形になると思われる。底部推定長軸98cm×推定短軸83cm、深さは28cmである。

〔断面・底面〕断面形は、確認できた部分では北西・南東（セクションABライン）がフラスコ状、更に北よりは底面からやや開くように立ち上がっている。底面は平坦である。

〔堆積土〕上位に黒色土、下位に黒褐色土が堆積する。11層に分層した。

〔出土遺物〕土器は98点出土した。ほとんどが小破片である。土器の分布状況を見ると、平面的には遺構残存部のほぼ全域から出土しているが、中央部からの出土が目立つ。垂直分布では中位からの出土が最も多い。縄文時代後期後葉の縄文のみを施文した土器が主体で、全体の約半数を占める。次には縄文時代後期後葉の無文の土器が多く、全体の34%を占めている。

図示したのは14点で、258土-1は深鉢か鉢の口縁部破片で、沈線文が施文されている。258土-2は深鉢の胴部破片で、沈線文と縄文が施文されている。1・2は縄文時代後期前葉の土器と思われる。258土-3～6は無文の深鉢破片で、3の外・6の内面にはスス、5の外面には炭化物が付着している。258土-7は異原形羽状縄文が施文される深鉢の胴部破片で、外面にはススが付着している。258土-8～12は縄文が施文される深鉢の破片で、8の内面に炭化物、10・12の外面にはススが付着している。258土-13は鉢の略完形土器で、248土-5・6、293土-8と同一個体である。口唇内面に貼瘤が施され、口縁部には縄文と平行沈線文、胴部には縄文帯と貼瘤が施文される。また内面にはわずかにススが付着している。258土-14は深鉢の口縁から胴部にかけての土器片である。口唇内面には上面に棒状痕を伴う突起がみられ、胴部には縄文(LR斜行)が施文されている。また外面にはススが、内面には炭化物が付着している。3～14は縄文時代後期後葉の土器と思われる。

石器はフレイク12点、礫5点、チップ47点が出土した。S1・3は磨石で、S1は全面、S3は両面に磨痕が残される。S2は凹石で、浅い凹みが両面に残される。

土製品は1点出土した。土1は土器片利用の土製品で、土器片を打ち欠いて不整形円形に成形している。外面は無文でミガキが施されており、胎土から縄文時代後期前葉のものと思われる。

〔小結〕 出土した土器より縄文時代後期後葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

第262号土坑（図8～12）

〔位置・確認〕 XⅡP-215グリッドに位置する。第248・258・272号土坑を半截した段階で、これらとは別の遺構であると判明した。

〔重複〕 第258・318号土坑と重複し、それらより古い。

第262号土坑<第318号土坑<第258号土坑

〔平面形・規模〕 平面形は不明である。開口部長軸89cm×残存短軸57cm、底部長軸72cm×残存短軸51cm、深さは18cmである。

〔断面・底面〕 壁は底面からやや開くように立ち上がり、底面は南東側から北西側に向かってやや下方に傾斜している。

〔堆積土〕 断面を観察する前に掘りあげてしまったため不明である。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠けており不明である。

第272号土坑（図8～14）

〔位置・確認〕 XⅡP-215・216グリッドに位置する。北西—南東方向に延びる黒色土の不整形プランとして確認した。

〔重複〕 第248・293・317・318・375・376号土坑と重複する。第317・318・375・376号土坑より新しく、第248・293号土坑よりも古い。

第375号土坑<第376号土坑<第272号土坑、

第375号土坑<第318号土坑<第317号土坑<第272号土坑<第248号土坑<第293号土坑

〔平面形・規模〕 平面形は不明である。底部は推定長軸1m39cm×推定短軸86cm、深さは26cmである。

〔断面・底面〕 断面形は不明である。底面はほぼ平坦だが、東側から西側にむかって下方に緩やかに傾斜している。

〔堆積土〕 黒色土主体の堆積土で、底面に黒褐色土が堆積している。6層に分層した。

〔出土遺物〕 土器は111点出土した。ほとんどが小破片である。分布状況を見ると、平面的には遺構全体から出土し、垂直分布では中位からの出土が最も多い。縄文時代後期後葉の縄文のみを施文している土器が約半数を占め、無文の土器は全体の35%を占めている。

図示したのは13点で、272土-1は沈線文が施文される深鉢の口縁部破片、272土-2は沈線文が施文される深鉢の胴部破片である。2の内面には炭化物が付着している。1・2は縄文時代後期前葉の土器と思われる。

272土-3・4・6・8は無文の深鉢破片で、6の外面にはススが付着している。272土-5・7・10は縄文が施文される深鉢破片で、7には内面にススが付着している。272土-9は異原体羽状縄文が施文される深鉢破片で、内面にススが付着している。272土-11・12は壺か注口の土器片で、縄文帯が施文されている。272土-13は注口土器の注口部破片で、縄文帯と貼筒が施され、注口部の付け根下側の瘤には棒状圧痕が見られる。外面には丁寧な磨きが施されている。3～13は縄文時代

後期後葉の土器と思われる。

石器は、フレイク20点、礫3点、チップ118点が出土した。図示したのは1点で、S1は凹石である。両面に長軸方向に細長い凹みが残される。

【小結】出土遺物より縄文時代後期後葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

第293号土坑（図8～14）

【位置・確認】XⅡP-216グリッドに位置する。第248号土坑を完掘中に第248号土坑とは異なる遺構として確認した。

【重複】第248・272・316・376号土坑と重複し、そのすべての土坑よりも新しい。

第376号土坑<第272号土坑<第248号土坑<第316号土坑<第293号土坑

【平面形・規模】平面形は楕円形になると思われる。開口部長軸86cm、底部長軸74cm×短軸61cm、深さは47cmである。

【断面・底面】壁は北西壁は底面からややくびれをもって立ち上がり、南東壁は底面からやや開くように立ち上がると思われる。底面は南東側から北西側にかけてやや下方に傾斜している。

【堆積土】黒褐色土主体の覆土構成で、中位北西側壁際に黒色土、下位に1層のみ暗褐色土が堆積している。9層に分層した。

【出土遺物】土器は68点出土した。すべて小破片である。分布状況を見ると、平面的には上・中位では遺構の南西側からの出土が目立つが、下位では遺構の全面から出土している。垂直分布では中・下位からの出土が多い。縄文時代後期後葉の無文の土器片が全体の約半数、縄文のみを施文している土器片が34%を占めている。

図示したのは9点で、293土-1は鉢の波状口縁部破片で、沿口沈線2条と沈線間に刻目が施されている。縄文時代後期中葉の土器と思われる。

293土-2～5は無文の深鉢破片、293土-6は縄文のみが施文された深鉢の胴部破片である。293土-7は深鉢の口縁部破片で、小突起が付されている。口縁部と小突起外面には異原体羽状縄文が施文され、突起と口縁部の境目付近に貼瘤が施されている。293土-8は248土-5・6、258土-13と同一個体である。鉢の口縁部破片で、口唇部内面に貼瘤、口縁部外面に平行沈線文が施文されている。293土-9は壺か注口の胴部破片で、縄文帯が施文されている。2～9は縄文時代後期後葉の土器と思われる。

石器はフレイクが8点、礫が4点、チップが69点出土したが、図示するまでには至らなかった。土製品は1点のみの出土で、土1は蹄形土製品である。つまみの部分には棒状工具によって直径5mmの孔が穿孔されているが、工具を抜いた後、刺突の際にできためくれを撫でつけているため、若干孔を狭めている。胴部上半に小さい竹管による刺突列が施され、下半部は欠損している。表面は丁寧な磨かれており、胎土には砂粒を含んでいる。

【小結】出土遺物より縄文時代後期後葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

第316号土坑（図8～15）

【位置・確認】XⅡP-216グリッドに位置する。第293号土坑とともに第248号土坑を完掘中に第

248号土坑とは異なる遺構として確認した。

〔重複〕第248・293号土坑と重複し、第248号土坑より新しく、第293号土坑よりも古い。

第248号土坑<第316号土坑<第293号土坑

〔平面形・規模〕平面形は不明である。土坑の東壁には小ピットを検出した。開口部残存長軸30cm×短軸62cm、底部残存長軸44cm×短軸56cm、深さは52cmである。また小ピットの規模は開口部長軸27cm×残存短軸15cm、深さは20cmである。

〔断面・底面〕断面形は北東から南東側にかけてはややフラスコ形、南側から南西側にかけては垂直気味に立ち上がっている。底面は平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土主体の覆土構成で、底面に褐色土が堆積している。8層に分層した。

〔出土遺物〕土器が21点出土した。すべて小破片である。分布状況を見ると、平面的には遺構北・東側からは土器は出土していない。垂直分布では上・下位からの出土が主で、中位からは数片のみの出土である。縄文時代後期後葉の無文の土器片が多く、全体の70%を占める。

図示したのは4点で、316土-1は深鉢の波状口縁部破片であり、沈線文が施文されている。縄文時代後期中葉の土器と思われる。316土-2は無文深鉢の口縁部破片である。316土-3は縄文が施文される深鉢の胴部破片で、外面に炭化物が付着している。316土-4は縄文帯と貼瘤が施文される壺か注口の胴部破片で、内面にスガが付着している。2~4は縄文時代後期後葉の土器と思われる。

石器はフレイク2点、礫2点、チップ16点が出土したが、図示するまでには至らなかった。

〔小結〕第248・293号土坑と重複関係にあり、両遺構とも縄文時代後期後葉期以前に廃絶されたと考えられることより、本遺構も縄文時代後期後葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

第317号土坑 (図8~12)

〔位置・確認〕XⅡP-215・216グリッドに位置する。第272号土坑を完掘中に第272号土坑とは異なる遺構として確認した。

〔重複〕第272・318号土坑と重複し、第318号土坑より新しく、第272号土坑よりも古い。

第318号土坑<第317号土坑<第272号土坑

〔平面形・規模〕平面形は不明である。開口部残存短軸41cm、底部残存短軸26cm、深さは30cmである。

〔断面・底面〕壁は底面からやや開くように立ち上がり、底面にはやや起伏がある。

〔堆積土〕断面を観察する前に掘り上げてしまったため不明である。

〔出土遺物〕出土しなかった。

〔小結〕時期決定の根拠に欠けており不明である。

第318号土坑 (図8~15)

〔位置・確認〕XⅡP-215・216グリッドに位置する。第248・258・272号土坑を完掘中にそれらの遺構とは異なる遺構として確認した。

〔重複〕第258・262・272・317・375号土坑と重複する。第262・375号土坑より新しく、第258・272・317号土坑よりも古い。

第262・375号土坑<第318号土坑<第258号土坑

第318号土坑<第317号土坑<第272号土坑

〔平面形・規模〕平面形は不明である。底部残存短軸98cm、深さは28cmである。

〔断面・底面〕断面形は不明で、底面は東から西側に向かって下方に緩やかに傾斜する。

〔堆積土〕断面を観察する前に掘り上げてしまったため不明である。

〔出土遺物〕土器が41点出土した。すべて小破片である。分布状況を見ると、平面的には遺構残存部の東側から北側にかけての出土が目立つ。垂直分布では中位からの出土が主体で、上位からはわずが、下位からはほとんど出土していない。縄文時代後期後葉の縄文のみを施文した土器が20点、無文の土器が18点出土している。

図示したのは2点で、318土-1は縄文(LR)を施文した深鉢の口縁部破片で、外面にススが付着している。318土-2は台部破片で、縄文(RL)を縦回転施文している。1・2とも縄文時代後期後葉の土器と思われる。

石器はフレイク6点、礫3点、チップ22点が出土したが、図示するまでには至らなかった。

〔小結〕時期決定の根拠に欠けており不明である。

第375号土坑(図8~15)

〔位置・確認〕XII P-215・216グリッドに位置する。第258・272・318号土坑を完掘中に、それらとは異なる遺構として第376号土坑とともに確認した。

〔重複〕第258・272・318・376号土坑と重複し、すべての遺構よりも古い。

第375号土坑<第318号土坑<第258号土坑

第375号土坑<第376号土坑<第272号土坑

〔平面形・規模〕残存部分が少なく不明である。

〔断面・底面〕断面形は不明で、底面には起伏がある。

〔堆積土〕断面を観察する前に掘り上げてしまったため不明である。

〔出土遺物〕土器が11点出土している。すべて小破片である。分布状況を見ると、平面的には上位では遺構残存部の東側付近に、中位では遺構残存部南側に集中している。下位からは出土していない。

図示したのは7点で、375土-1は鉢の胴部破片であり、条線文を施文した後に沈線にて区画している。縄文時代後期前葉の土器と思われる。375土-2~5は深鉢の破片で、2・4・5は同一個体で、異原体羽状縄文が施文され、内面には炭化物が付着している。3は縄文が施文される口縁部破片で、内面にススが付着している。375土-6は無文の鉢の口縁部破片で、内面にススが付着している。375土-7は無文の壺の肩部破片である。2~7は縄文時代後期後葉の土器と思われる。

石器はフレイク3点、礫1点、チップ14点が出土した。いずれも図示するまでには至らなかった。

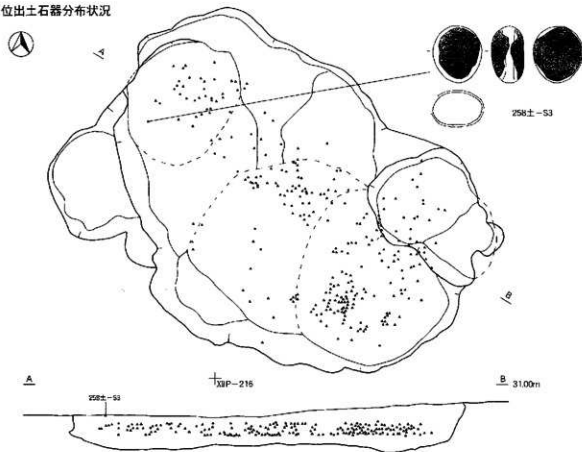
〔小結〕時期決定の根拠に欠けており不明である。

第376号土坑(図8~15)

〔位置・確認〕XII P-216グリッドに位置する。第258・272・318号土坑を完掘中にそれらとは異なる遺構として第375号土坑とともに確認した。

〔重複〕第272・293・375号土坑と重複し、第375号土坑より新しく、第272・293号土坑よりも古い。

中位出土石器分布状況



下位出土石器分布状況

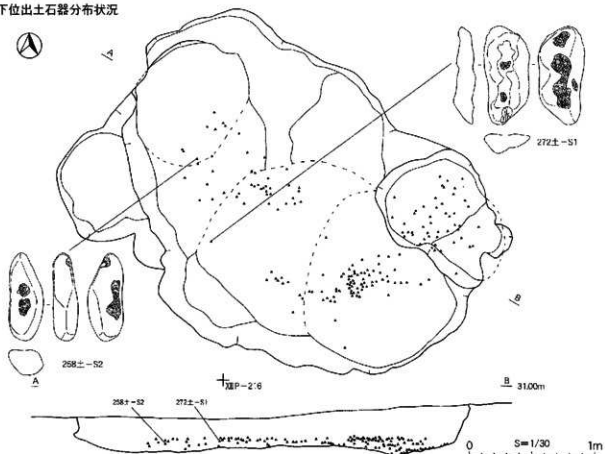
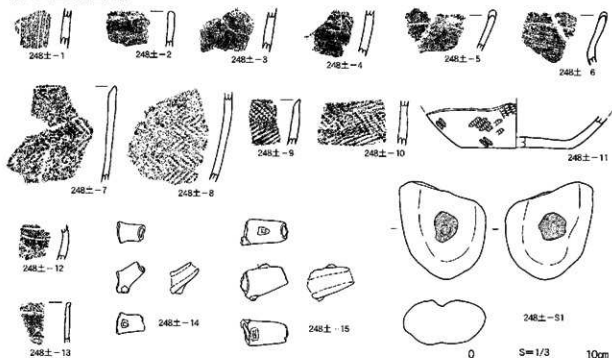


图12 第248・258・262・272・293・316・317・318・375・376号土坑 中・下位出土石器分布状況

第248号土坑出土遺物



第258号土坑出土遺物

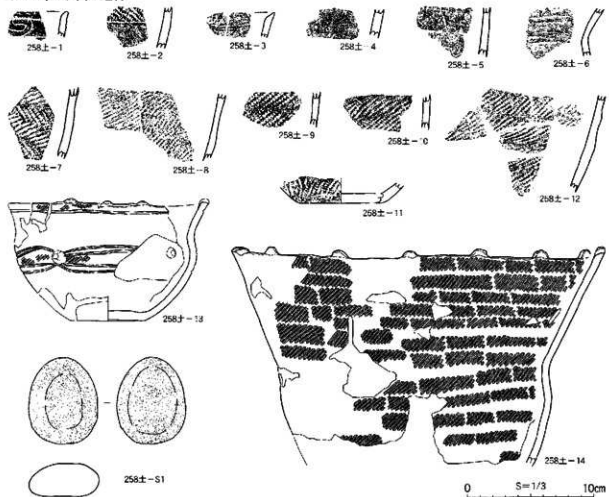
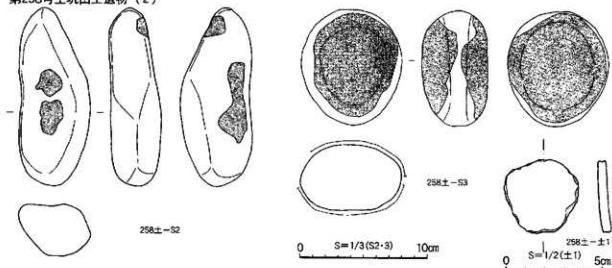
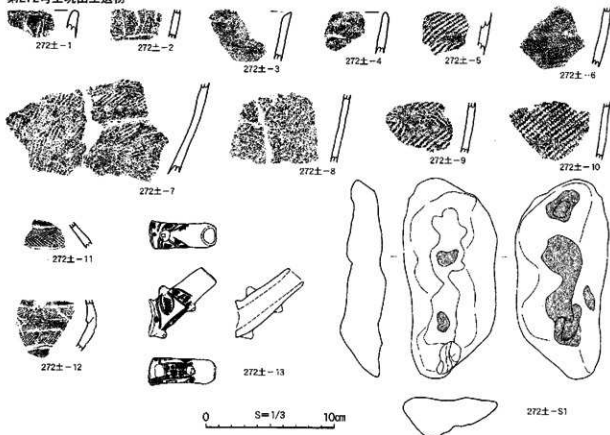


図13 第248号土坑出土遺物、第258号土坑出土遺物(1)

第258号土坑出土遺物(2)



第272号土坑出土遺物



第293号土坑出土遺物

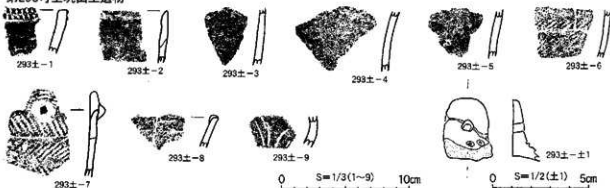
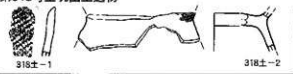


図14 第258号土坑出土遺物(2)、第272・293号土坑出土遺物

第316号土坑出土遺物



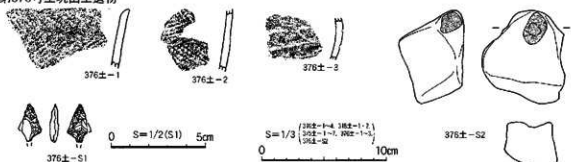
第318号土坑出土遺物



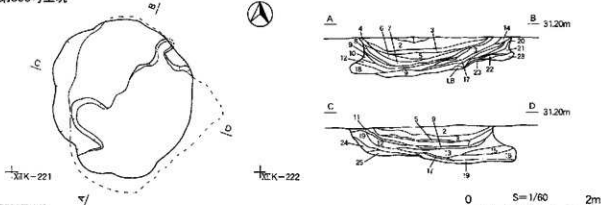
第375号土坑出土遺物



第376号土坑出土遺物



第306号土坑



第306号土坑

第1層 黒色土	10YK1.7/1	炭化粉粒(径30μ)1%	しまりや中や	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト			
第2層 黒色土	10YK1.7/1	炭化粉粒(径3~7μ)1%	しまり中や有	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト			
第3層 黒色土	10YR1.7/1	炭化粉粒(径50μ)1%	しまり中や有	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト			
第4層 黒色土	10YR1.7/1	しまり中や有	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト				
第5層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~10μ)2%	炭化粉粒(径1~20μ)2%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト		
第6層 黒色土	10YR1.7/1	炭化粉粒(径2~10μ)3%	炭化粉粒(径2~5μ)1%	しまり中や有	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト		
第7層 黒色土	10YR1.7/1	炭化粉粒(径2~5μ)1%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト			
第8層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~5μ)2%	炭化粉粒(径3~30μ)1%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト		
第9層 黒色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10μ)2%	炭化粉粒(径2μ)1%	しまり中や有	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト		
第10層 黒色土	10YK1.7/1	炭化粉粒(径1~2μ)1%	しまり中や有	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト			
第11層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3μ)5%	LB(径15~25μ)5%	炭化粉粒(径3~5μ)3%	粘土粒(径2~3μ)2%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト
第12層 黒褐色土	10YR1.7/1	炭化粉粒(径2~5μ)3%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト			
第13層 黒褐色土	10YR2/1	ローム粒(径1~10μ)2%	炭化粉粒(径1~3μ)1%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト		
第14層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5μ)2%	LB(径70μ)2%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト		
第15層 黒褐色土	10YR2/1	炭化粉粒(径1~2μ)1%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト			
第16層 黒褐色土	10YR1.7/1	炭化粉粒(径1~3μ)1%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト			
第17層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2~5μ)3%	LB(径15~25μ)5%	炭化粉粒(径3~5μ)3%	粘土粒(径2~3μ)2%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト
第18層 黒褐色土	10YR2/1	炭化粉粒(径2~2μ)1%	しまり中や有	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト			
第19層 黒褐色土	10YR1.7/1	炭化粉粒(径2μ)1%	しまり中や有	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト			
第20層 黒褐色土	10YK2/2	ローム粒(径1~3μ)7%	LB(径20~30μ)7%	炭化粉粒(径2~5μ)1%	しまり中や有	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト	
第21層 黒褐色土	10YK1.7/1	ローム粒(径1~5μ)3%	炭化粉粒(径2μ)1%	しまり中や有	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト		
第22層 黒褐色土	0YR3/4	ローム粒(径1~10μ)3%	LB(径100μ)10%	しまり中や有	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト		
第23層 黒褐色土	0YR2/1	ローム粒(径1~10μ)3%	粘質有	硬度中や有	粘土質シルト				
第24層 黒褐色土	0YR2/2	ローム粒(径1~10μ)3%	炭化粉粒(径3μ)1%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト		
第25層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5μ)5%	LB(径15~25μ)5%	炭化粉粒(径3~5μ)3%	粘土粒(径2~3μ)1%	しまりなし	粘質有	硬度なし	粘土質シルト

図15 第316・318・375・376号土坑出土遺物、第306号土坑

第375号土坑<第376号土坑<第272号土坑<第293号土坑

[平面形・規模] 平面形は不明で、残存底部は76cmである。

[断面・底面] 断面形は不明で、底面は平坦である。

[堆積土] 断面を観察する前に掘り上げてしまったため不明である。

[出土遺物] 土器は9点出土した。すべて小破片である。遺構残存部の中央から南側にかけての部分の上位から出土している。

図示したのは3点で、縄文時代後期後葉の土器と思われる。376土-1は深鉢の口縁部破片で、外面に羽状縄文が施文され、内面には炭化物が付着している。376土-2は深鉢の胴部破片で、異原体羽状縄文が施文されている。376土-3は壺か注口の胴部破片で、縄文帯が施されている。

石器は石鏃1点、フレイク2点、礫1点が出土した。S1は一側刃側を欠損する有茎石鏃で、茎基部がわずかに挟られている。S2は凹石で、一面平坦面の端部に大きい凹みが、一側面に浅い凹みがそれぞれ残される。

[小結] 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第306号土坑 (図15~19)

[位置・確認] XII K-221・222グリッドに位置する。黒色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長軸2m50cm×短軸2m20cm、底部長軸2m78cm×短軸2m45cm、深さ62cmである。

[断面・底面] 東・南・北側の壁はフラスコ状で、西壁のみが底面から開くように立ち上がる。底面は不整形で、北西側から南東側に向かって下方へ傾斜している。

[堆積土] 黒色土主体の覆土構成で、中位と下位に黒褐色土、北壁底面付近にわずかに暗褐色土が堆積している。25層に分層した。

[出土遺物] 土器は235点出土した。分布状況を見ると、平面的には遺構の中央部からの出土が多く、特に中央部の北西側・南西側に集中している。垂直分布では中位からの出土が目立つ。縄文時代後期後葉の無文の土器片が全体の約半数を占める。次に多いのは縄文のみを施文した縄文時代後期後葉の土器片で、全体の約20%を占めている。

図示したのは29点で、306土-1は平行沈線文と楕円文が施文される深鉢の胴部破片、306土-2は沈線文が施文される深鉢の胴部破片で、どちらも縄文時代後期前葉の土器と思われる。306土-3は無文の深鉢の波状口縁波状部破片で、口唇部が肥厚している。縄文時代後期中葉の土器と思われる。306土-4~14は無文の深鉢の破片で、5は外面に炭化物が、13・14は内面に炭化物が付着している。306土-15~20は深鉢の破片で、外面に異原体羽状縄文が施文されている。15には外面に炭化物・内面にスス、16・18には外面にススが付着している。306土-21は無文の壺の胴部破片である。306土-22・24は同一個体で、壺か注口の胴部破片である。外面には縄文(LR)と沈線文が施文され、内面にはススが付着している。306土-23は注口土器の胴部破片で、縄文帯と瘤の剥落痕が確認できる。内面にはススが付着している。306土-25は壺か注口の胴部破片で、上位に棒状瓦痕と縄文が施文されている貼瘤を施した後に縄文帯を施文している。306土-26・27は注口土器の注口部破片で、

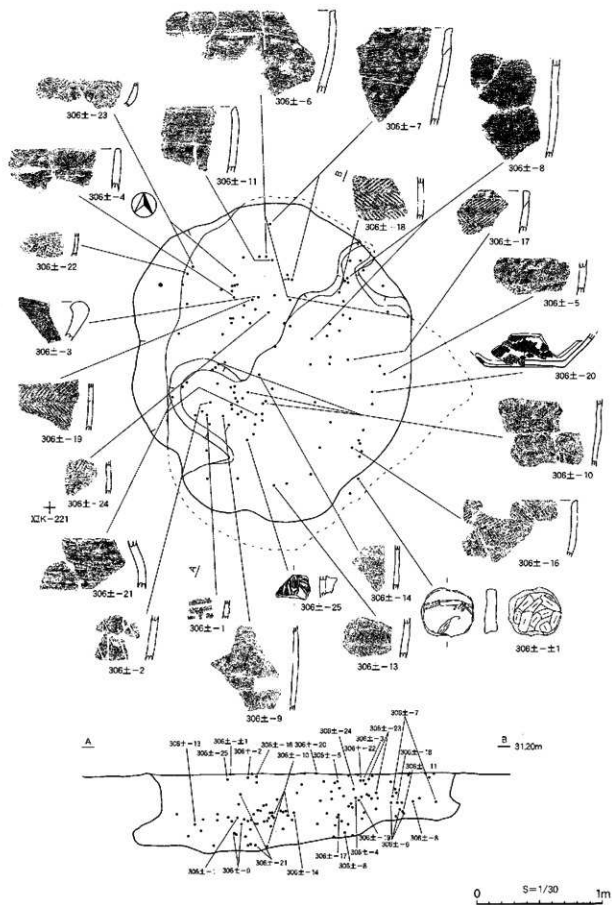


图16 第306号土坑 土器分布状況

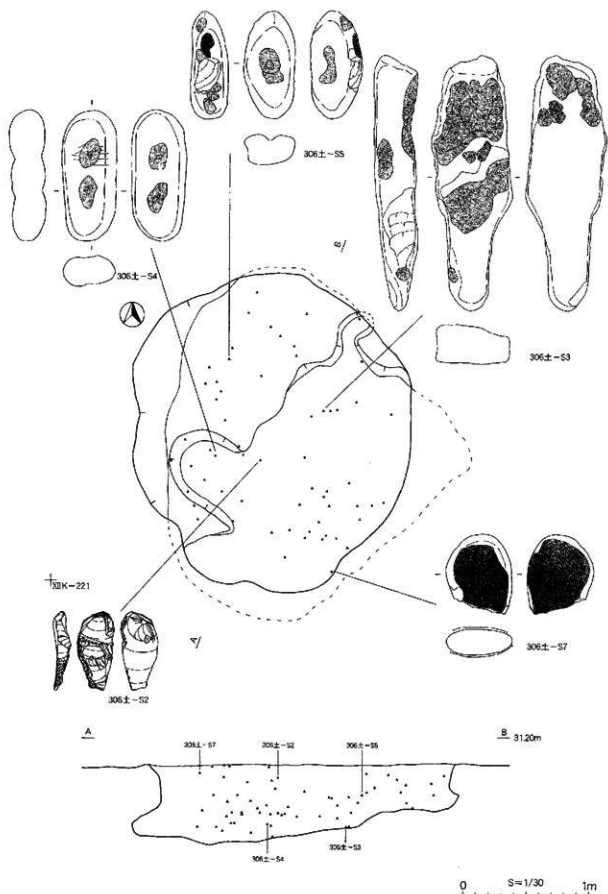


图17 第306号土坑 石器分布状况

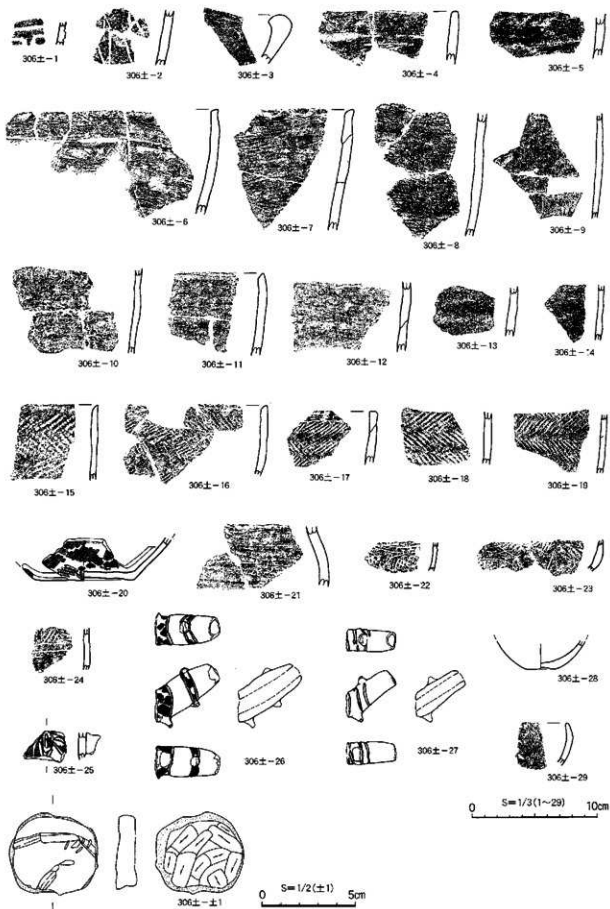


图18 第306号土坑出土遗物(1)

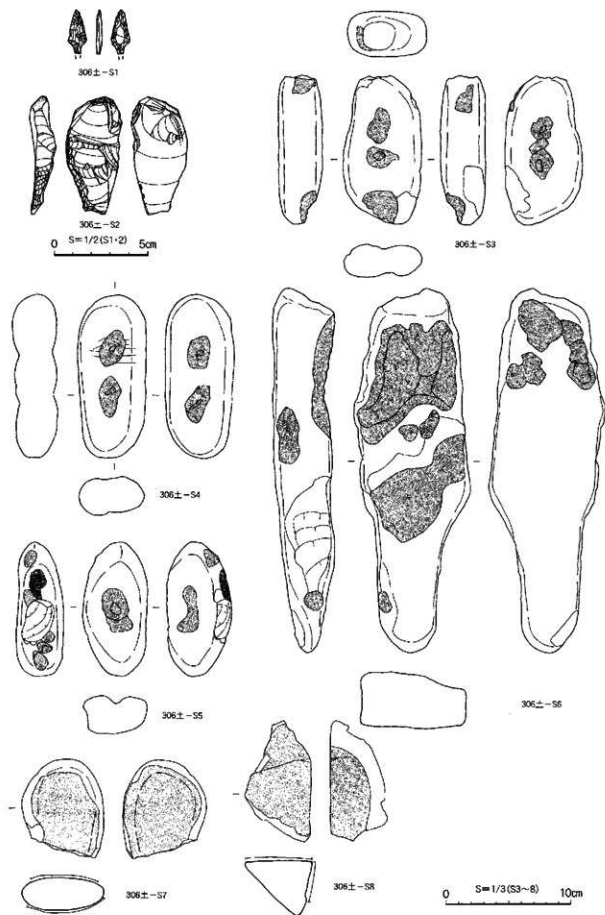


图19 第306号土坑出土遺物(2)

26は貼瘤を施した後に縄文帯を施文している。注口部の下部付け根部分の瘤には棒状圧痕が見られる。27は瘤を貼付した後に沈線文を施文している。26・27とも外面には丁寧な磨きが施されている。306土-28は小型の壺か注口の胴部から底部にかけての破片、306土-29はミニチュアの鉢の口縁部から胴部にかけての破片でどちらも無文である。4~29までの土器片は、縄文時代後期後葉の土器と思われる。

石器は石鏃1点、スクレイパー1点、フレイク40点、礫28点が出土した。S1は基部先端を欠損した有茎石鏃である。S2は縦長剥片の側面に二次加工が施されたスクレイパーである。S3~7は敲磨器で、S3・4は凹石、S5は磨凹石である。S3は両面・両側面に凹みが、S4は両面2ヶ所に均等に細長い凹みがそれぞれ残り、S4の片面には擦痕が見られる。S5は両面中央に長軸方向に細長い凹みが、一側面に凹みと磨痕が残される。S6は羽子板のような形状をしており、グリップの部分は挟りを入れて細くなっている。一面はほぼ全面に凹みが残され、もう一面には先端部分周辺のみに見られる。S7は磨石で、両面全面に磨痕が残され、一端は欠損している。S8は石皿の破片と思われ、折損後にできた平坦は側面に磨痕が残される。

土製品は1点のみの出土で、土1は土器片利用土製品である。片面には浅い沈線と爪形圧痕、もう片面には明瞭なナデが施される。形態は不整形を呈する。土器片を打ち欠いて制作されたものと思われ、胎土等から縄文時代後期のものと考えられる。

〔小結〕 出土遺物より、縄文時代後期後葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

(工藤 由美子)

第329号土坑 (図20)

〔位置・確認〕 XⅡK・L-214グリッドに位置する。黒色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形に近い楕円形で、開口部長軸1m4cm×短軸94cm、底部長軸89cm×短軸70cm、深さ31cmである。

〔断面・底面〕 壁は底面からやや開くように立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 黒色の覆土で、2層に分層した。上層にはしまり・硬度ともにやや有るが、下層にはない。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第356号土坑 (図20~24)

〔位置・確認〕 XⅡJ-220・221グリッドに位置する。黒色土の不整形円形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形円形で、開口部長軸3m20cm×短軸2m90cm、底部長軸3m×短軸2m58cm、深さ56cmである。

〔断面・底面〕 壁は底面から開くように立ち上がる。底面には北西-南東方向が1m22cm、南西-北東方向が95cmの窪みがみられる。

〔堆積土〕 黒色土主体の覆土構成で、中位に黒褐色土、南東側中位と下位の一部に暗褐色土が堆積している。17層に分層できた。

また、堆積土から炭化物・土壌サンプルを採取し、炭素年代測定(1点)・樹種同定(8点)・植物珪酸体分析(1点)・土壌理化学分析(4点)・X線回折分析(1点)を行っている。(第4章第2節)。

【出土遺物】土器は219点出土している。小破片資料が多い。分布状況を見ると、平面的には土坑の中央部からの出土が大半を占め、垂直分布では中位からの出土が目立つ。縄文時代後期後葉の無文の土器が全体の半数以上を占める。それに縄文時代後期後葉の縄文のみを施文した土器が続き、全体の22%を占めている。

図示したのは32点で、356土-8は鉢の口縁部破片で、沿口沈線文が施文され、口唇部と沈線文の間に縦刻目が施されている。縄文時代後期中葉の土器と思われる。

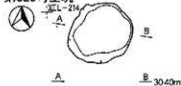
356土-1~5は無文の深鉢の破片で、2の外面にはわずかにススが付着している。356土-6・7・14は外面に異原体羽状縄文が施文されている深鉢の破片で、6の内面、7・14の内外面にはススが付着している。356土-9は深鉢の口縁から胴部まで残存している土器で、口縁部に小突起が施され、突起の内面には棒状圧痕、外面には貼瘤が見られる。口頸部には縄文(LR・RL)が施文され、頸部には瘤が貼付される。胴部には異原体羽状縄文が施文されている。外面にはスス・内面には炭化物が付着している。356土-10は深鉢の口縁部~胴部の破片で、356土-12・16・17は同一個体である。口唇部には小突起が貼付され、口頸部には沈線文と貼瘤が施されている。内外面には炭化物が付着している。356土-11は深鉢の波状口縁波状部で、波頂部に貼瘤・外面には縄文と沈線文が施文されている。356土-13は深鉢の波状口縁波状部で、波状部外縁と外面の中心部に縦位に瘤が貼付されている。外面は瘤を貼付した後に縄文(LR)を施し、更に沈線文を施文している。356土-15は深鉢の胴部破片で、縄文帯が施文されている。内外面にはススが付着している。356土-18~21・23は無文の壺の破片で、19の内面にはわずかにススが付着している。356土-22・24~26は壺か注口の胴部破片で、22は無文、24は無文に棒状圧痕のある瘤が貼付、25は地文縄文(RL)に上位に棒状圧痕のある瘤が貼付、26は縄文帯が施文されている。356土-27は注口土器の胴部破片で、瘤を貼付した後に縄文帯を施文している。裏面には瘤の剥落痕が確認でき、外面にはススが付着している。356土-28は小型土器と思われる壺か注口の胴部破片と思われる。縄文を施文した後に瘤を貼付し、更に沈線文を施している。356土-29は土器の無文の台部である。356土-30・31は無文の小型深鉢で、30の内外面にはススが付着している。356土-32はミニチュアの壺の無文破片である。1~7、9~32はすべて縄文時代後期後葉の土器と思われる。

石器はフレイク44点、石核1点、磯14点、チップ34点が出土した。S1は石核で、当初は現存する自然面に向かって剥片剥離が行われたが、その後その剥離面を打面としている。S2は凹石で、両端を除くほぼ全面に小さい凹みが残される。S3・4は石皿・台石で、S3には平坦面はほぼ全面に磨痕が残され、S4には両側面に赤色物質が付着する。S5は磨凹石で、片面中央に凹みが残され、その他は全面磨痕が残される。

石製品は1点出土した。石1は一端が若干窄まった細長い礫の先端部を巡るように、細い刻線で文様が描かれている。縦横方向に粗い格子模様とXを組み合わせた斜格子文様が確認できる。石材は流紋岩で、表面は滑らかである。性格などは不明である。

【小結】7層から採取した炭化物は、炭素年代測定の結果縄文時代後期後葉のものであるという結果が得られた。また出土遺物を見ると、ほとんどが縄文時代後期後葉のもと考えられる。これらのこ

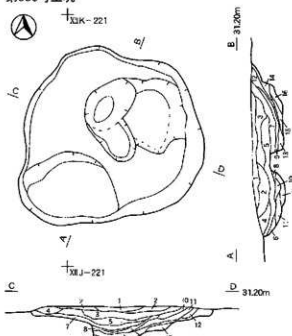
第329号土坑



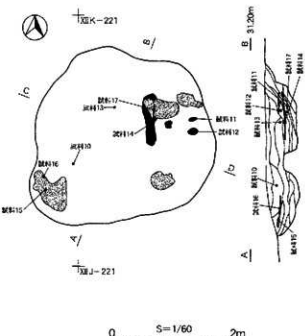
第329号土坑

- 第1層 灰色土 10YR2/1 しまりややや粘性有 硬底やややシルト
 第2層 黒色土 10YK2/1 しまりなし 粘性有 硬底なしシルト

第356号土坑



炭化物・焼土検出状況及び分析試料図



第356号土坑

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 しまりややや 粘性有 硬底ややや 粘土質シルト
 第2層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物検出(1)~20m1% しまりややや 粘性有 硬底ややや 粘土質シルト
 第3層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物検出(2)~70m1% しまりややや 粘性有 硬底ややや 粘土質シルト
 第4層 黒色土 10YR2/1 炭化焼土(1)~50m2% しまりなし 粘性有 硬底なし 粘土質シルト
 第5層 黒色土 10YR1.7/1 ローム層(1)~10m10% L.R.径15~20mm15% 炭化物検出(5)~10m15% しまりややや 粘性有 硬底ややや 粘土質シルト
 第6層 黒色土 10YR2/2 ローム層(2)~60m3% L.R.径20~35mm25% 炭化物検出(2)~30m1% しまりややや 粘性有 硬底ややや 粘土質シルト
 第7層 黒色土 10YR1.7/1 炭化焼土(1)~30m2% しまりややや 粘性有 硬底ややや 粘土質シルト
 第8層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物検出(2)~60m1% しまりなし 粘性有 硬底なし 粘土質シルト
 第9層 黒色土 10YR2/2 ローム層(2)~60m10% L.R.径20~30m10% 炭化物検出(2)~70m2% しまりややや 粘性有 硬底ややや 粘土質シルト
 第10層 焼土色土 0YR3/3 ローム層(3)~50m 0% L.R.径20~30m10% しまり有 粘性有 硬底有 粘土質シルト
 第11層 黒色土 0YR2/1 ローム層(2)~60m3% 炭化焼土(1)~50m1% しまりややや 粘性有 硬底ややや 粘土質シルト
 第12層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物検出(3)3% しまりややや 粘性有 硬底ややや 粘土質シルト
 第13層 黒色土 10YR1.7/1 炭化焼土(1)~10m2% しまりややや 粘性有 硬底ややや 粘土質シルト
 第14層 黒色土 10YK2/1 炭化物検出(2)~30m1% しまり有 粘性有 硬底有 粘土質シルト
 第15層 黒色土 10YK1.7/1 炭化焼土(1)~20m2% しまり有 粘性有 硬底有 粘土質シルト
 第16層 黒色土 10YR2/1 ローム層(1)~50m2% L.R.径30~50mm2% 炭化物検出(2)1% しまりややや 粘性有 硬底ややや 粘土質シルト
 第17層 焼土色土 10YR3/4 ローム層(1)~10m10% L.R.径15~50mm3% しまり有 粘性有 硬底有 粘土質シルト

第356号土坑出土遺物

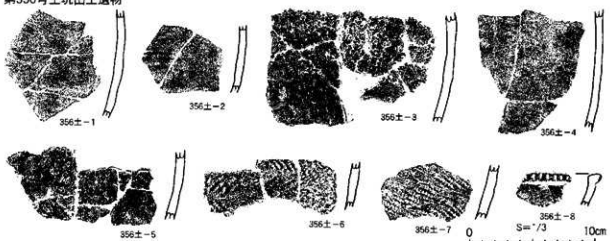


図20 第329・356号土坑、第356号土坑出土遺物(1)

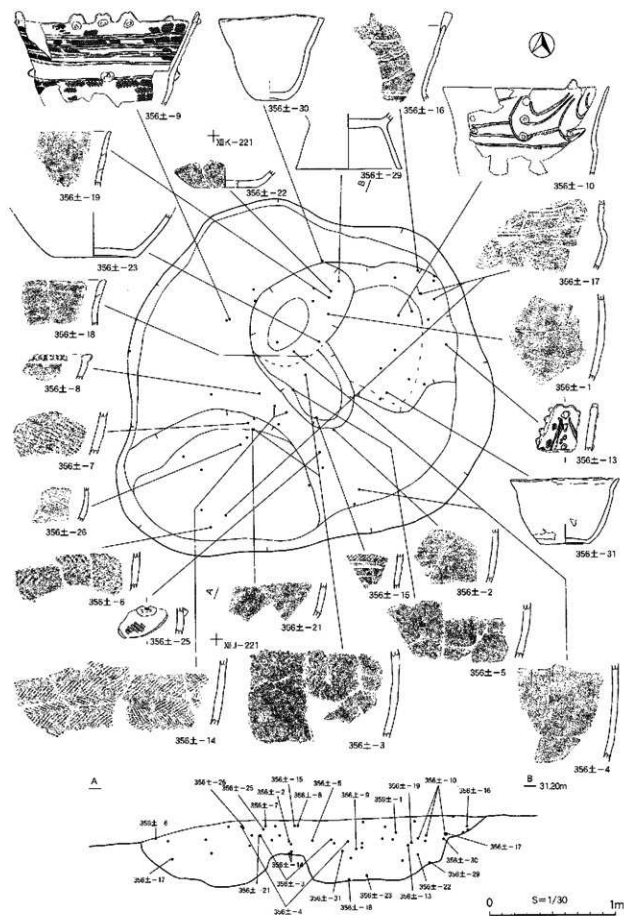


图21 第356号土坑 土器分布状况

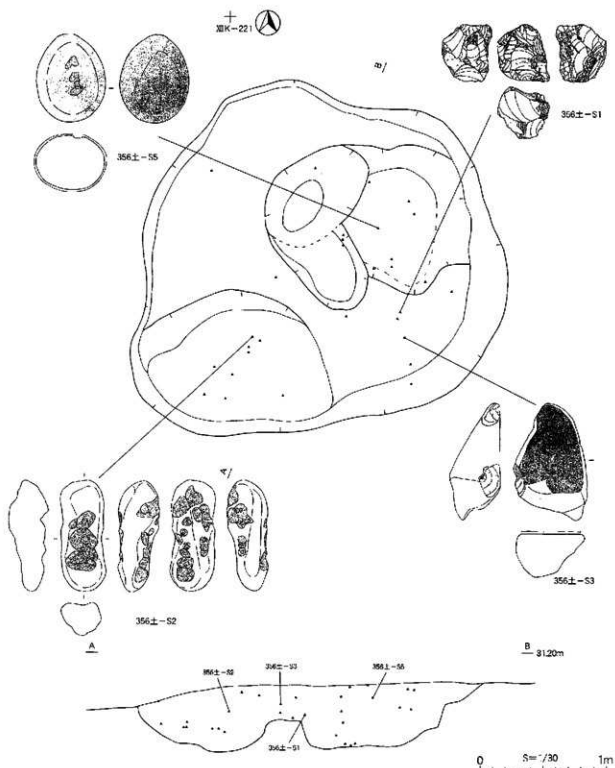


図22 第356号土坑 石器分布状況

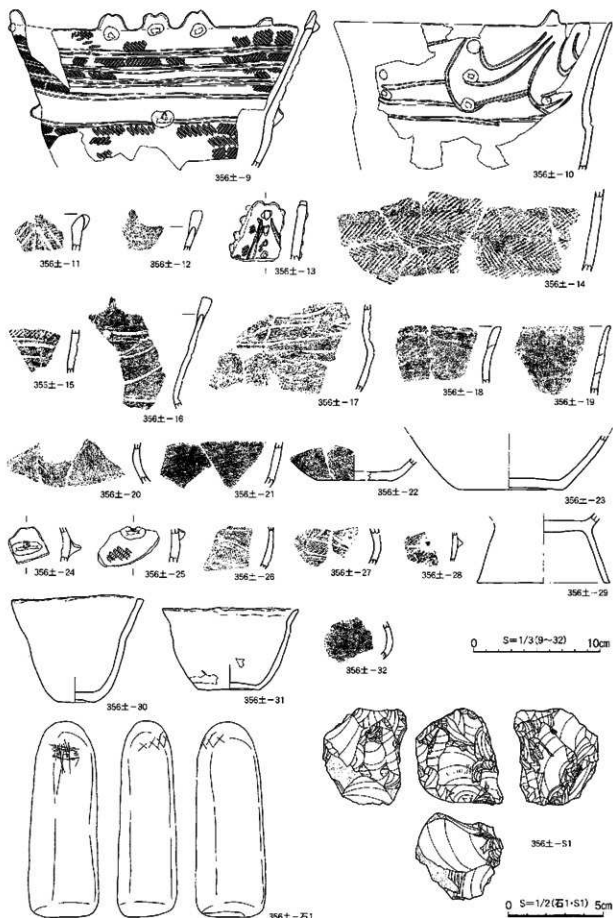


圖23 第356号土坑出土遺物(2)

とより、この土坑は縄文時代後期後葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

(工藤 由美子)

第357号土坑 (図24～26)

〔位置・確認〕 XⅡL・M-214・215グリッドに位置する。掘立柱建物跡群の南西側に数基密集している土坑群の中に、黒色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整の隅丸形状を呈し、開口部長軸1m1cm×短軸71cm、底部長軸83cm×短軸63cm、深さ22cmである。

〔断面・底面〕 壁は底面からやや開くように立ち上がり、底面は東側から西側に向かって緩やかに下方に傾斜している。

〔堆積土〕 上位に黒色土、下位に黒褐色土が堆積している。2層に分層した。

〔出土遺物〕 土器は63点出土した。1層から2層の上位にかけてに集中している。縄文時代後期前葉の沈線文が施文された土器が主体で、全体の約60%を占める。

357土-1・2は深鉢の破片で、1には沿口沈線が施文され、内面にはススが付着している。357土-3～10は壺の破片である。3は壺の胴部下半から底部にかけての破片で、平行沈線が3条施文されている。4・5・6・9・10は同一個体で、渦巻状沈線文が施文される胴部破片である。7・8は楕円文が施文されている。357土-12は胴上半から底部にかけてが残存する壺で、楕円文・渦巻状文が施文されており、外面には赤色顔料が塗布されている。1～10・12は縄文時代後期前葉の土器である。11は沈線文と縄文が施文される深鉢の胴部破片で、縄文時代後期のものと思われる。

石器は、フレイク2点、磯4点が出土した。S1は磨石で、片面平坦面に磨痕が残される。

〔小結〕 出土遺物等により、縄文時代後期前葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

(工藤 由美子)

第358・359号土坑、第590・360号ピットは掘立柱建物跡群の南西側の土坑群の中に検出された。新旧関係は以下になる。

第359号土坑<第358号土坑

第359号土坑<第590号ピット<第360号ピット

なお、ここでは第358・359号土坑についてのみ掲載し、第590・360号ピットについては、第3節のピット群に含めて掲載する。

第358号土坑 (図26・27)

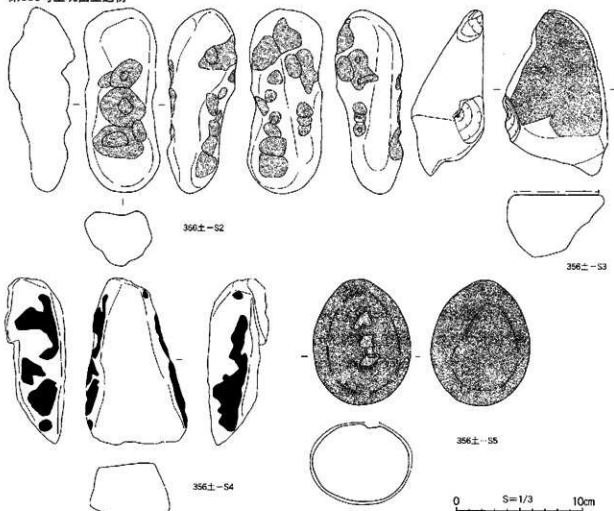
〔位置・確認〕 XⅡM-215グリッドに位置する。第359号土坑・第590号ピット・第360号ピットとともに黒色・黒褐色土の北西-南東方向に延びる不整形プランとして確認した。

〔重複〕 第359号土坑と重複し、第359号土坑よりも新しい。

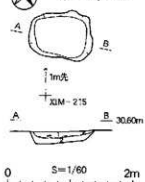
〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈し、開口部長軸1m12cm×短軸1m2cm、底部長軸95cm×短軸81cm、深さ20cmである。

〔断面・底面〕 壁は底面からやや開くように立ち上がり、底面にはやや起伏がある。

第356号土坑出土遺物



第357号土坑



第357号土坑

第1層 黄褐色土 10YR2/1 炭化赤粒(図3~5)0.3% しまり石 硬質石 シルト
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 黒色土(10YR2/1)40%混入 LB(最大径3cm)15% 炭化物0.3% しまり石 硬質石 シルト

第357号土坑出土遺物

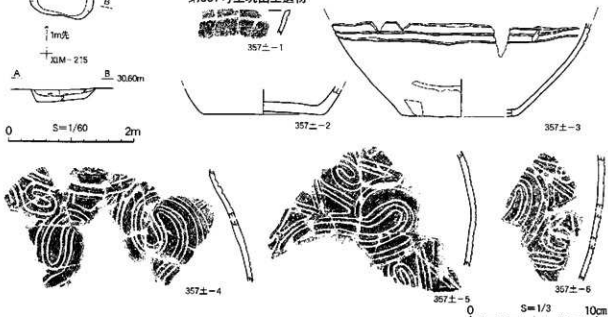
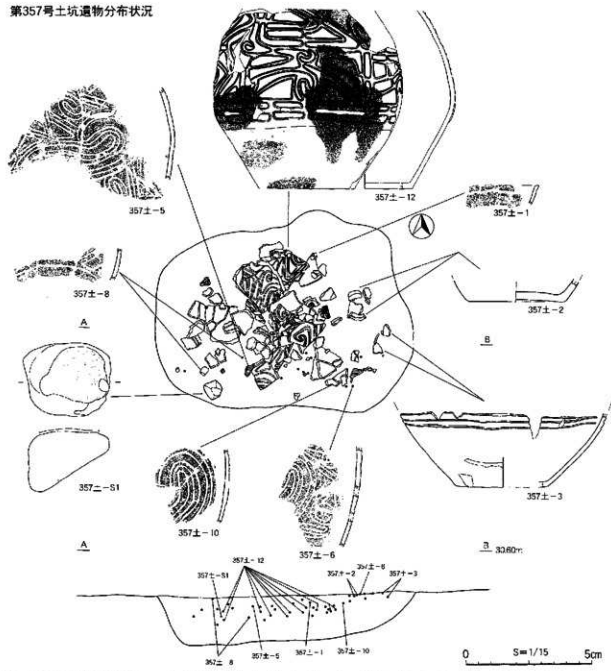


図24 第356号土坑出土遺物 (3). 第357号土坑・出土遺物 (1)

第357号土坑遺物分布状況



第357号土坑出土遺物

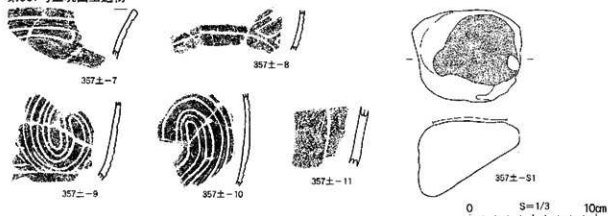
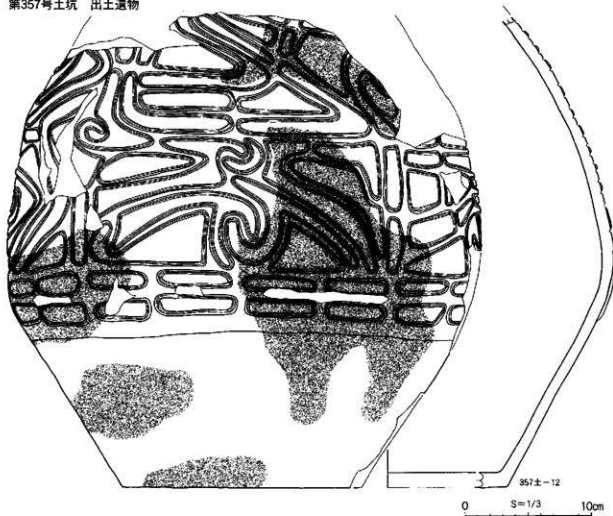
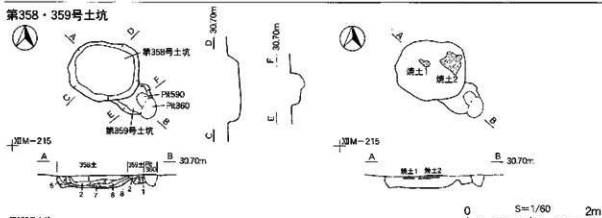


図25 第357号土坑 遺物分布状況・出土遺物(2)

第357号土坑 出土遺物



第358・359号土坑



第358号土坑

- | | | | | | | |
|----------|---------|------------------|-------------------|--------------------|--------|-------------------|
| 第1層 黒色土 | 10YR2/1 | 炭化物(径1~5cm)2% | しまりやや粗 | 粘性有 | 硬度中やや弱 | 粘土質シルト |
| 第2層 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム殻(径1~3cm)2% | 炭化殻(径1~2cm)1% | 粘土粒(径1~2m)1% | しまりやや粗 | 粘性有 硬度中やや弱 粘土質シルト |
| 第3層 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム殻(径1~3cm)2% | 炭化殻(径1~2cm)1% | 炭ニブロック(径15~30mm)2% | しまりやや粗 | 粘性有 硬度中やや弱 粘土質シルト |
| 第4層 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム殻(径1~3cm)2% | 炭化殻(径1.5cm)1% | しまり有 | 粘性有 | 硬度有 粘土質シルト |
| 第5層 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム殻(径1~2cm)3% | 炭化殻(径2cm)1% | しまり有 | 粘性有 | 硬度有 粘土質シルト |
| 第6層 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム殻(径1~2cm)3% | 炭化殻(径2cm)1% | 炭化殻(径2cm)1% | しまりやや粗 | 粘性有 硬度中やや弱 粘土質シルト |
| 第7層 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム殻(径1~1.0cm)3% | しまりやや粗 | 粘性有 | 硬度中やや弱 | 粘土質シルト |
| 第8層 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム殻(径1~3cm)4% | 炭化殻(径1.0~4.0cm)4% | 炭化殻(径2cm)1% | しまりやや粗 | 粘性有 硬度中やや弱 粘土質シルト |
- 第359号土坑
- | | | | | | | | |
|----------|---------|----------------|---------------|------|-----|--------|--------|
| 第1層 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム殻(径1~2cm)2% | 炭化殻(径1~2cm)1% | しまり有 | 粘性有 | 硬度有 | 粘土質シルト |
| 第2層 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム殻(径1~5cm)3% | しまり有 | 粘性有 | 硬度有 | 粘土質シルト | |
| 第3層 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム殻(径1~5cm)3% | 炭化殻(径1~2cm)1% | しまり有 | 粘性有 | 硬度有 | 粘土質シルト |

図26 第357号土坑出土遺物 (3)、第358・359号土坑

〔堆積土〕上位に黒色土、中位下位には黒褐色土が堆積している。8層に分層した。

〔出土遺物〕土器は32点出土した。すべて小破片である。土器は遺構のほぼ全域から出土している。垂直分布で見ると上位から中位にかけての出土が大半を占める。縄文時代後期前葉の縄文のみを施文した土器が主体で、全体の約60%を占めている。

358土-1～3は深鉢の口縁部破片で、単軸絡条体第1類が施文されている。358土-4・5は深鉢の胴部破片で、単軸絡条体第5類が施文されている。358土-6は深鉢の口縁部破片で、平行沈線文と楕円文が施文されている。358土-7は鉢と思われる胴部破片で、沈線文が施文されている。1～7は縄文時代後期前葉のものと思われる。358土-8は深鉢の胴部破片で、縄文時代後期のものと思われる。

石器は石匙が1点、礫が2点が出土した。S1は片面が全面調整される石匙で、腹面側の一部に使用痕と考えられる光沢面が観察される。下部は欠損している。S2は石皿・台石で、片面の半分に磨痕が残され、3面の側面には赤色物質が付着する。

〔小結〕出土遺物より、縄文時代後期前葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

(工藤 由美子)

第359号土坑 (図26)

〔位置・確認〕XII M-215グリッドに位置する。第358号土坑・第590号ピット・第360号ピットとともに黒色・黒褐色土の北西-南東方向に延びる不整形プランとして確認した。

〔重複〕第358号土坑、第590・360号ピットと重複し、すべての遺構よりも古い。

〔平面形・規模〕平面形は第358号土坑・第590・360号ピットに切られているため不明である。開口部残存部54cm×25cm、残存底部41cm、深さ15cmである。

〔断面・底面〕残存部分から壁は底面からやや開くように立ち上がると思われる。底面は残存部を見ると南東から北西側に向かってやや下方に傾斜している。

〔堆積土〕黒褐色土のみが堆積している。3層に分層した。

〔出土遺物〕出土しなかった。

〔小結〕時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第361号土坑 (図28)

〔位置・確認〕XII L・M-215グリッドに位置する。第362号土坑とともに黒色土の南北に延びる不整形円形プランとして確認した。

〔重複〕第362号土坑と重複し、第362号土坑よりも古い。

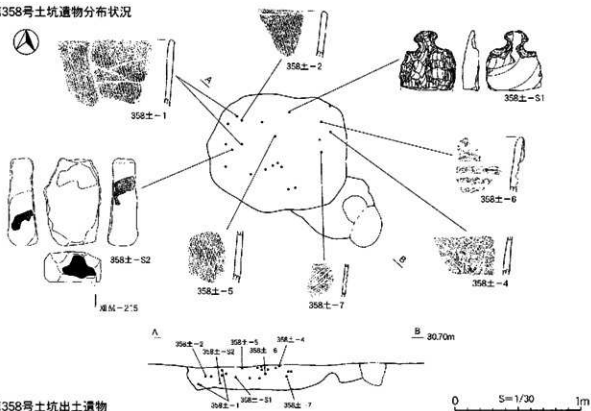
〔平面形・規模〕平面形は第362号土坑に切られているが、おそらく楕円形か隅丸方形になると思われる。開口部残存長軸1m3cm×短軸87cm、底部残存長軸93cm×短軸77cm、深さ15cmである。

〔断面・底面〕壁は底面からやや開くように立ち上がる。底面は南側から北側に向かって緩やかに下方に傾斜している。

〔堆積土〕上位に黒色土、下位に黒褐色土が堆積している。10層に分層した。

〔出土遺物〕土器が17点出土した。すべて小破片で縄文時代後期前葉のものである。出土状況は平面的には遺構の北側にやや偏っており、ほとんどが上位からの出土である。

第358号土坑遺物分布状況



第358号土坑出土遺物

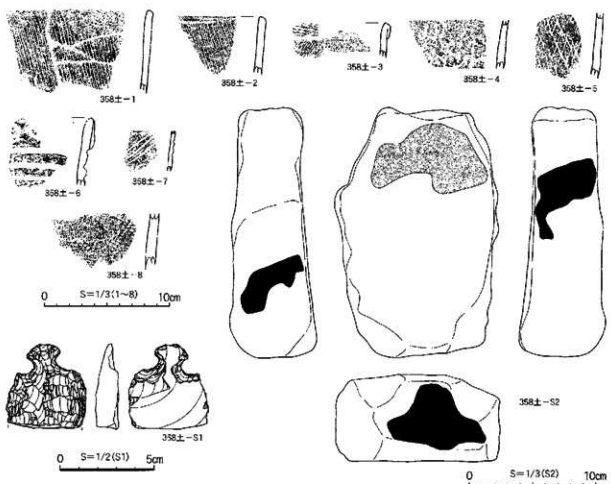


図27 第358号土坑 遺物分布状況・出土遺物

361土-1は無文深鉢の胴部破片で、内面にはススが付着している。361土-2・3は単軸絡条体第1類が施文される深鉢の破片である。361土-4は深鉢の胴部破片で、外面には沈線文が施文され、内面にはススが付着している。361土-5は深鉢の胴部破片で、単軸絡条体第5類が施文されている。361土-6は深鉢の波状口縁波状部で、外面には縄文(RL)と沈線文、内面には沈線文1条が施文される。

石器はフレイクと礫がそれぞれ1点ずつ出土したが、図示するまでには至らなかった。

〔小結〕出土遺物より、縄文時代後期前葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

(工藤 由美子)

第362号土坑 (図28)

〔位置・確認〕XⅡL-215グリッドに位置する。第361号土坑とともに黒色土の南北に延びる不整楕円形プランとして確認した。

〔重複〕第361号土坑と重複し、第361号土坑よりも新しい。

〔平面形・規模〕平面形は東西に長い楕円形で、開口部長軸89cm×短軸56cm、底部長軸78cm×短軸42cm、深さ29cmである。

〔断面・底面〕壁は底面からやや開くように立ち上がり、底面にはやや起伏がある。

〔堆積土〕上位と下位に黒色土、中位に暗褐色土、南北の壁際に黒褐色土が堆積している。11層に分層した。

〔出土遺物〕土器が32点出土した。すべて小破片で縄文時代後期前葉のものと思われる。平面的にも垂直分布状況からもあまり特徴は見られず、土器は遺構全体から出土している。

362土-1～6は深鉢の胴部破片である。1には単軸絡条体第5類、2には羽状縄文、3には縄文(RL)、4には沈線文、5には粘土紐を貼付しその上に刺突を施し、粘土紐に沿って沈線文を施文している。6は縄文(RL)を施文した後に沈線で楕円文を施文している。362土-7は無文の壺の胴部破片である。362土-8はミニチュアと思われる土器の口縁部破片で、口唇部の一部がやや隆起しその頂部に刺突・口唇部に沿って沈線が施文され、外面には楕円文が施されている。また内面には平行沈線が1条付され、ススが付着している。362土-9は浅鉢の口縁部破片で、沿口沈線が2条施され、内面にはススが付着している。

〔小結〕出土遺物より、この遺構は縄文時代後期前葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

(工藤 由美子)

第363・364号土坑 (図29)

〔位置・確認〕XⅡL-215グリッドに位置する。黒色土の2つの土坑が重複している状態を確認した。

〔重複〕第363・364号土坑は重複しているが、新旧関係は不明である。

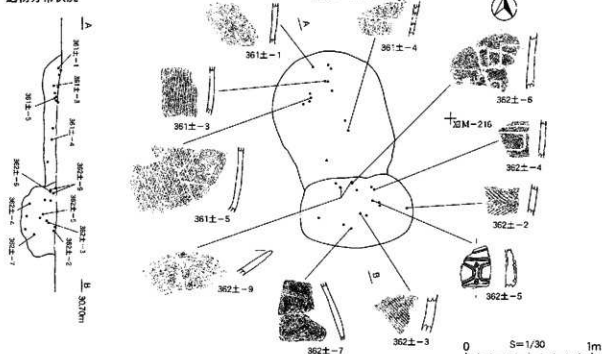
〔平面形・規模〕平面形は2つの土坑の線引きが出来なかったため不明であるが、おそらく円形か楕円形になると思われる。規模は開口部・底部長軸は第363・364号土坑を合わせて計測し、開口部・底部短軸と深さは各遺構ごとに計測した。開口部長軸1m66cm、底部長軸1m54cm、第363号土坑開口部短軸95cm、底部短軸80cm、深さ10cm、第364号土坑開口部短軸90cm、底部短軸75cm、深さ13cmである。

第361・362号土坑



第361号土坑	10YR2/1	炭化物物(81~2m)2%	しまりあまりなし	粘性やや弱	硬軟	粘土質シルト
第361号土坑	10YR2/2	炭化物物(81m)1%	しまりあまりなし	粘性やや弱	硬軟	粘土質シルト
第361号土坑	10YR2/2	ローム層(81~2m)2%	炭化物物(81m)1%	しまりあまりなし	粘性	硬軟なし
第362号土坑	10YR2/1	ローム層(81~5m)2%	しまりあまりなし	粘性	硬軟なし	粘土質シルト
第362号土坑	10YR2/2	ローム層(81~2m)5%	炭化物物(81m)1%	しまりあまりなし	粘性	硬軟なし
第3号土坑	10YR2/1	ローム層(81~3m)2%	しまりあまりなし	粘性やや弱	硬軟なし	粘土質シルト
第7号土坑	10YR2/2	ローム層(81~2m)2%	炭化物物(81~2m)1%	しまりあまりなし	粘性	硬軟なし
第3号土坑	10YR2/1	ローム層(81~2m)1%	小礫(830m)1%	しまりあまりなし	粘性やや弱	硬軟なし
第4号土坑	10YR2/2	ローム層(81~5m)2%	しまりあまりなし	粘性やや弱	硬軟あまりなし	粘土質シルト
第5号土坑	10YR2/1	炭化物物(81~3m)1%	小礫(830m)1%	しまりあまりなし	粘性	硬軟あり
第9号土坑	10YR3/3	ローム層(81~2m)3%	L.B.層(80m)3%	炭化物物(81~2m)1%	小礫(830m)	硬軟あり
第7号土坑	10YR3/4	ローム層(81~2m)5%	L.B.層(80m)5%	炭化物物(81~2m)1%	しまりなし	粘性
第8号土坑	10YR2/2	ローム層(81~2m)2%	炭化物物(81~3m)1%	しまりなし	粘性	硬軟なし
第9号土坑	10YR3/3	ローム層(81~2m)3%	L.B.層(80m)3%	炭化物物(81~2m)1%	小礫(830m)	硬軟あり
第11号土坑	10YR2/1	ローム層(81~5m)2%	炭化物物(81~3m)1%	しまりあまりなし	粘性	硬軟なし

遺物分布状況



第361号土坑 出土遺物



第362号土坑 出土遺物

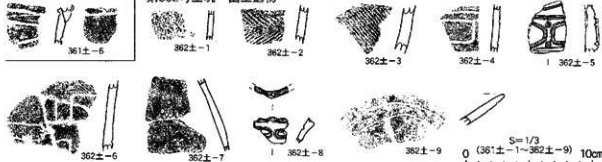


図28 第361・362号土坑 遺物分布状況・出土遺物

〔断面・底面〕断面からも2つの土坑の重複関係は把握できなかったが、第2層の東側の立ち上がり第364号土坑の立ち上がりになる可能性もある。壁は底面からやや開くように立ち上がり、底面は平坦である。

〔堆積土〕上位に黒色土、中位に黒色土と黒褐色土、土坑中央底面に褐色土、西側壁際には暗褐色土が堆積している。7層に分層した。

〔出土遺物〕土器は15点出土した。すべて小破片である。第363・364号土坑の線引きができないため、遺物も2遺構まとめて掲載した。すべて上位からの出土で、縄文時代後期前葉の土器とみられる。

363・364土-1・2は深鉢の破片で、単軸結条体第5類が施文されている。363・364土-3・4は沈線文が施文される深鉢の胴部破片である。363・364土-5は壺の胴部破片で、沈線文と縄文(LR)が施文されている。

石器はフリイクとチップが1点ずつ出土している。S1は剥片の末端部に急角度の刃部を有するもので、背面側の打面側を除く3辺に二次加工が施されている。

土製品は2点出土した。土1は鐔形土製品で、つまみ部は棒状工具を用いて直径約4mmの穴が穿孔されている。つまみ部分と胴部の屈曲は少なく、胴部には平行沈線による施文が施される。器面は剥落が進行し、遺存状態は良好ではない。下半部は欠損している。土2は土器片利用土製品で、土器片を打ち欠いて三角形に整形している。外面は摩滅しているため詳細は不明であるが、縄文施文後に沈線文を施文していると思われる。

〔小結〕2つの土坑は平面・断面では重複関係を把握することができなかった。しかし底面が同じレベルに平坦に形成されていることから、あまり時期差がない状態で2つの土坑が形成されたものと思われる。遺物の接合状況を見ると、2基の遺構内遺物が接合状況にあることからほぼ同時期に埋まったものと思われる。

土坑覆土1層から採取した炭化物を炭素年代測定したところ、縄文時代後期前葉のものであるという結果が得られた(第4章第1節)。遺物をもみても縄文時代後期前葉のものが出土しており、縄文時代後期前葉期以前には廃絶された遺構と思われる。

(工藤 由美子)

第365号土坑(図29・30)

〔位置・確認〕XⅡM-216グリッドに位置する。黒色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は隅丸方形で、開口部長軸1m26cm×短軸1m1cm、底部長軸1m21cm×短軸95cm、深さ22cmである。

〔断面・底面〕壁は遺構の北西・南西側は底面からやや開くように立ち上がり、北東・南東側はほぼ垂直に立ち上がる。底面は南側から北側にかけて下方に緩やかに傾斜している。

〔堆積土〕黒色土主体の覆土構成で、壁際には黒褐色土が堆積している。北東側下位には暗褐色土、北東側底面には褐色土がわずかに堆積している。10層に分層した。また、堆積土から炭化物・土壌サンプルを採取し、炭素年代測定(1点)・樹種同定(1点)・土壌理化学分析(2点)・種実遺体同定(1点)を行っている(第4章第2節)。

〔出土遺物〕土器が14点出土した。周辺の土坑からは縄文時代後期前葉を主体とした土器が出土し

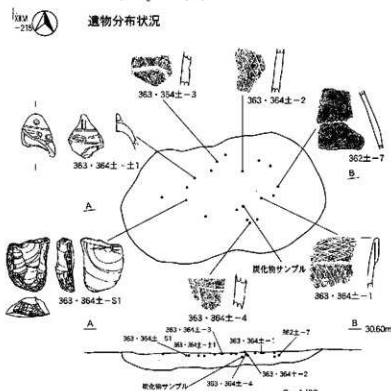
第363・364号土坑



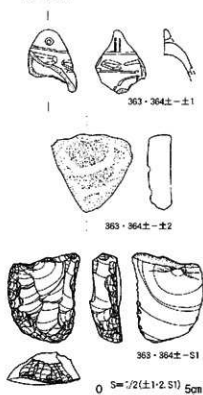
第363・364号土坑

- 第1層 黒色土 10YR2/1 炭化粉粒(径2~10 μ m)3% 小礫(径20 μ m)1個 しまりなし 粘性强 硬質なし 粘土質シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(径\sim10 μ m)2% 炭化粉粒(径1~3 μ m)2% しまりなし 粘性强 硬質なし 粘土質シルト
- 第3層 黒色土 10YR2/1 炭化粉粒(径\sim15 μ m)3% 小礫(径15 μ m)1個 しまりなし 粘性强 硬質なし 粘土質シルト
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(径\sim2 μ m)2% しまりやや弱 粘性强 硬質やや弱 粘土質シルト
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム状(径\sim10 μ m)3% しまりやや弱 粘性强 硬質やや弱 粘土質シルト
- 第6層 褐色土 10YR4/6 黒色土(10YR2/1)10%混入 しまり弱 粘性强 硬質なし 粘土質シルト
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム状(径\sim2 μ m)7% 炭化粉粒(径1 μ m)2% しまり弱 粘性强 硬質なし 粘土質シルト

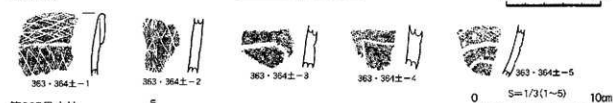
遺物分布状況



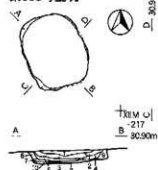
出土遺物



出土遺物



第365号土坑



第365号土坑

- 第1層 黒色土 10YR2/1 小礫(径5 μ m)7% しまりなし 硬質なし シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR2/1 ローム状(径\sim2 μ m)7% 炭化粉粒(径1~3 μ m)1% しまりやや弱 粘性强 硬質やや弱 粘土質シルト
- 第3層 褐色土 10YR2/1 ローム状(径\sim2 μ m)2% 炭化粉粒(径1~3 μ m)1% しまりやや弱 粘性强 硬質やや弱 粘土質シルト
- 第4層 褐色土 10YR2/1 しまりなし 粘性强 硬質なし シルト
- 第5層 暗褐色土 10YR2/2 ローム状(径\sim2 μ m)2% 炭化粉粒(径1~3 μ m)1% しまりやや弱 粘性强 硬質やや弱 粘土質シルト
- 第6層 暗褐色土 10YR2/3 ローム状(径1 μ m)4% しまりやや弱 粘性强 硬質なし シルト
- 第7層 暗褐色土 10YR2/3 ローム状(径\sim2 μ m)5% 炭化粉粒(径1~3 μ m)1% しまりやや弱 粘性强 硬質やや弱 粘土質シルト
- 第8層 暗褐色土 10YR2/3 ローム状(径\sim2 μ m)5% 炭化粉粒(径1~3 μ m)1% しまりやや弱 粘性强 硬質やや弱 粘土質シルト
- 第9層 暗褐色土 10YR2/3 ローム状(径1~15 μ m)2% 炭化粉粒(径1~3 μ m)1% しまりやや弱 粘性强 硬質やや弱 粘土質シルト
- 第10層 黒土 (10YR4/4)と同質(10YR2/1)の砂混 0.5%混入 しまりやや弱 粘性强 硬質やや弱 粘土質シルト

図29 第363・364号土坑 出土遺物、第365号土坑

ているが、この遺構からは縄文時代中期前葉の土器が出土している。遺物の分布状況を見ると平面的には遺構全体から、垂直分布では中位からの出土が目立つ。

365土-1~3は深鉢の破片で、すべて同一個体である。口唇には粘土紐が貼付され、その粘土紐の上部には窪み、その窪みの周りには縄文(L)が押圧されている。口縁~口頸部には縄文(R)が横位に押圧され、口唇部の粘土紐と粘土紐の間からまっすぐに口頸部に下がる部分には蔭帯の剥落痕が見られる。胴部には羽状縄文(結束第1種)が施文されている。

石器は礫が2点、チップが5点出土したが、図示するまでには至らなかった。

[小結] 3層から採取した炭化物の炭素年代測定を行ったところ、縄文時代後期前葉のものであるという結果が得られた。出土遺物を見ると縄文時代中期前葉の土器が主体であり、遺構の時期決定は難しい。

(工藤 由美子)

第366号土坑 (図30)

[位置・確認] XⅡM-216・217グリッドに位置する。黒色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長軸1m8cm×短軸81cm、底部長軸83cm×短軸60cm、深さ27cmである。

[断面・底面] 壁は底面からやや開くように立ち上がり、底面は平坦である。

[堆積土] 黒色土主体の覆土構成で、壁際には黒褐色土、底面には褐色土が堆積している。7層に分層した。

[出土遺物] 土器が33点出土した。いずれも小破片である。分布状況には特徴は見られず、遺構全体から出土している。

図示したのは8点で、366土-1は縄文時代後期のものとみられる深鉢の胴部破片で、縄文(RL)が施文されている。366土-2は単軸絡条体第1類が施文される深鉢の胴部破片、366土-3は粘土紐を横位に貼付し、粘土紐の両脇に沈線文を施文した壺の胴部破片で、内面にススが付着している。2・3は縄文時代後期前葉の土器と思われる。

366土-4は深鉢の胴部破片で、異原体羽状縄文が施文されている。366土-5・6は無文深鉢の破片で、5の外面にはススが付着している。366土-7は無文の壺の肩から胴部にかけての破片である。4~7は縄文時代後期後葉の土器とみられる。366土-8は縄文時代後期のものとみられる土器の台部である。

[小結] 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第367号土坑 (図30・31)

[位置・確認] XⅡL-216・217、XⅡM-216グリッドに位置する。第588号土坑とともに北西-南東方向に長い黒色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] 第588号土坑と重複し、第588号土坑よりも新しい。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長軸84cm×短軸59cm、底部長軸78cm×短軸54cm、深さ47cmである。

〔断面・底面〕壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面は北西側から南東側に向かってやや上方に傾斜し、土坑の南東側半分ほどには窪みがみられる。

〔堆積土〕黒色土のみが堆積している。第588号土坑と合わせて15層に分層した。

〔出土遺物〕土器は22点出土した。すべて小破片である。分布状況を見ると、平面では土坑南東側に偏って分布し、垂直分布では土坑下位からの出土がほとんどである。沈線文を施した土器が主体で、縄文時代後期前葉の土器とみられる。

図示したのは2点で、367土-1は鉢の胴部破片であり、沈線文を施文した後に縄文(LR)を施文している。367土-2は深鉢か鉢の口縁部破片で、沈線文が施文されている。

石器はブレイク3点と礫1点が出土している。S1は片面はほぼ全損しているが、石鉄の破損品と思われる。

〔小結〕出土遺物より、縄文時代後期前葉期以前には廃絶された遺構と思われるが、時期決定は困難である。

(工藤 由美子)

第588号土坑 (図30・31)

〔位置・確認〕XⅡL-216・217グリッドに位置する。第367号土坑とともに黒色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕第367号土坑と重複し、第367号土坑よりも古い。

〔平面・規模〕平面形は第367号土坑に切られているため不明であるが、おそらく楕円形になると思われる。開口部残存長軸35cm×短軸59cm、底部残存長軸40cm×短軸40cm、深さ38cmである。

〔断面・底面〕南東壁はややフラスコ気味に立ち上がる。南西・北東壁は底面からやや開くように立ち上がる。底面は北側から南側に向かってやや下方に傾斜する。

〔堆積土〕黒褐色土と黒色土が堆積している。断面を観察すると、第588号土坑が埋まる段階では黒褐色土が堆積し、その一部を掘り込んで第367号土坑が形成され、それが最終的に埋まる時に堆積した黒色土が第588号土坑にも流れこんできたものと考えられる。断面では第367号土坑との線引きはできず、両遺構をあわせて15層に分層した。

また4層からは炭化物サンプルを採取し、炭素年代測定を行っている。(第4章第1節)

〔出土遺物〕土器は3点のみ出土した。すべて小破片である。図化したのは1点で、588土-1は底部が角張っている鉢の胴部から底部にかけての土器片で、外面には楕円文が施され内面には赤色顔料が付着している。縄文時代後期前葉の土器である。

〔小結〕炭素年代測定では、炭化物は縄文時代後期前葉のものであるという結果が得られた。おそらく縄文時代後期前葉期以前に廃絶された遺構とみてもよいと思われるが、時期決定は困難である。

(工藤 由美子)

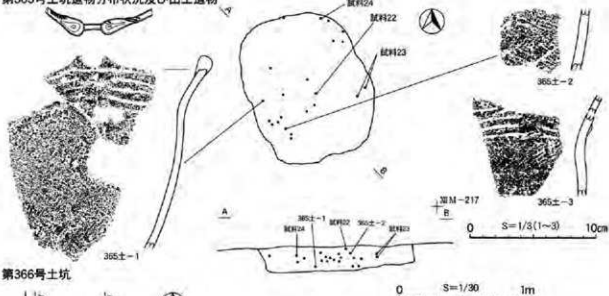
第368号土坑 (図31)

〔位置・確認〕XⅡM-215グリッドに位置する。基本層序第Ⅲ層に氾濫によると思われる礫が帯状に堆積している箇所に黒色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕なし。

〔平面・規模〕平面形は円形を呈し、開口部長軸61cm×短軸55cm、底部長軸49cm×短軸42cm、深さ

第365号土坑遺物分布状況及び出土遺物



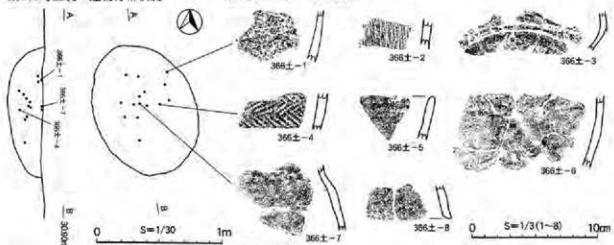
第366号土坑



- 第366号土坑
- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1mm)5% しまりや中や 粘質 硬度中や シルト
 - 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)10% しまりや中や 粘質 硬度中や シルト
 - 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~5mm)3% しまりや中や 粘質 硬度中や シルト
 - 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)5% しまりや 粘質中や 硬度中や シルト
 - 第5層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)3% しまりや 粘質 硬度中や シルト
 - 第6層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~5mm)7% しまりや中や 粘質 硬度中や シルト
 - 第7層 褐色土 10YR4/4 黒色土(10YR2/1)20%混入 しまりや中や 粘質 硬度なし シルト

第366号土坑 遺物分布状況

第366号土坑 出土遺物



第367・588号土坑

第387号土坑



- 第367・588号土坑
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 砂-ム粒(径1mm)2% しまりや中や 粘質中や 硬度なし 粘土質シルト
 - 第2層 黒色土 10YR2/1 砂-ム粒(径5~10mm)15% しまりや中や 粘質中や 硬度なし 粘土質シルト
 - 第3層 黒色土 10YR2/1 しまりや 粘質 硬度中や 粘土質シルト
 - 第4層 黒色土 10YR1.7/1 しまりや中や 粘質 硬度中や 粘土質シルト
 - 第5層 黒褐色土 10YR2/2 砂-ム粒(径5~10mm)2% しまりや中や 粘質 硬度なし 粘土質シルト
 - 第6層 黒色土 10YR2/1 砂-ム粒(径5~10mm)3% しまりやなし 粘質 硬度なし 粘土質シルト
 - 第7層 黒色土 10YR2/1 しまりや中や 粘質 硬度なし 粘土質シルト
 - 第8層 黒色土 10YR1.7/1 しまりやなし 粘質 硬度なし 粘土質シルト
 - 第9層 黒色土 10YR1.7/1 しまりやなし 粘質中や 硬度なし 粘土質シルト
 - 第10層 黒色土 10YR2/1 砂-ム粒(径1mm)3% しまりや中や 粘質 硬度なし 粘土質シルト
 - 第11層 黒褐色土 10YR2/2 しまりや中や 粘質 硬度中や 粘土質シルト
 - 第12層 黒色土 10YR2/1 しまりや中や 粘質 硬度なし 粘土質シルト
 - 第13層 黒色土 10YR2/1 砂-ム粒(径5~10mm)3% しまりや中や 粘質 硬度なし 粘土質シルト
 - 第14層 黒色土 10YR1.7/1 砂-ム粒(径1~10mm)10% しまりや中や 粘質 硬度なし 粘土質シルト
 - 第15層 黒色土 10YR2/1 しまりやなし 粘質中や 硬度なし 粘土質シルト

図30 第365号土坑出土遺物、第366号土坑 出土遺物、第367・588号土坑

15cmである。

〔断面・底面〕 壁は底面から開くように立ち上がり、底面には起伏がある。

〔堆積土〕 上位に黒色土、下位に黒褐色土が堆積し、全体に小礫がわずかに混入している。

〔出土遺物〕 土器が4点出土した。すべて小破片で、図示したのは2点である。368土-1は無文深鉢の胴部破片、368土-2は深鉢の波状口縁波状部で沈線文が施されている。縄文時代後期前葉の土器と思われる。

石器はフレイクとチップが1点ずつ出土しているが、図示するまでには至らなかった。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第369号土坑 (図31)

〔位置・確認〕 XⅡL-214グリッドに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面・規模〕 平面形は円形を呈し、開口部長軸74cm×短軸67cm、底部長軸56cm×短軸56cm、深さ9cmである。

〔断面・底面〕 壁は底面から開くように立ち上がり、底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 2層に分層した。黒褐色土が堆積している。

〔出土遺物〕 土器が2点出土したが、非常に小さい破片で、図示するまでには至らなかった。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第441号土坑 (図31)

〔位置・確認〕 XⅡM-217グリッドに位置する。Pit440・569とともに黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕 Pit440・569と重複し、Pit569よりも新しくPit440よりも古い。

Pit569<第441号土坑<Pit440

〔平面・規模〕 平面形は一部Pit440に切られているが、おそらく楕円形になると思われる。開口部長軸1m33cm×短軸1m16cm、底部長軸1m26cm×短軸1m6cm、深さ11cmである。

〔断面・底面〕 壁は底面からやや開くように立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、北側がやや深くなっている。

〔堆積土〕 黒褐色土が堆積している。2層に分層した。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第462号土坑 (図31)

〔位置・確認〕 XⅡK・L-218グリッドに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面・規模〕 平面形は楕円形で、開口部長軸62cm×短軸49cm、底部長軸56cm×短軸43cm、深さ16cmである。

[断面・底面] 壁は底面から開くように立ち上がり、底面は平坦である。

[堆積土] 上位に黒褐色土、壁際と下位には褐色土が堆積している。5層に分層した。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第468号土坑 (図31)

[位置・確認] XⅡP-217グリッドに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面・規模] 平面形は楕円形で、開口部長軸53cm×短軸45cm、底部長軸49cm×短軸39cm、深さ38cmである。

[断面・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、底面は中央部がやや深くなっている。

[堆積土] 黒褐色土とにぶい黄褐色土が堆積している。人為堆積と思われる。5層に分層した。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第565号土坑 (図31)

[位置・確認] XⅡH-223グリッドに位置する。黒色土の不整形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部長軸1m47cm×短軸1m3cm、底部長軸1m33cm×短軸94cm、深さ11cmである。

[断面・底面] 壁は底面からやや開くように立ち上がり、底面にはやや起伏がみられる。

[堆積土] 黒色土主体の覆土構成で、南側壁際と底面に黒褐色土がわずかに堆積している。4層に分層した。

[出土遺物] 土器の小破片が1点のみ出土している。時期などは不明である。図示するまでには至らなかった。

[小結] 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第566号土坑 (図32)

[位置・確認] XⅡL-221グリッドに位置する。第567号土坑・第201号溝状土坑とともに、黒褐色・黒色土の北東-南西方向に延びるプランとして確認した。

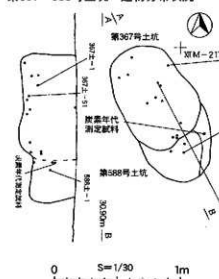
[重複] 第567号土坑・第201号溝状土坑・第591号ピットと重複し、第591号ピット・第201号溝状土坑よりも新しく、第567号土坑よりも古い。

第591号ピット<第201号溝状土坑<第566号土坑<第567号土坑

[平面・規模] 北東側は第567号土坑に切られているため全体形は不明であるが、おそらく楕円形になるものと思われる。開口部長軸1m65cm×短軸1m10cm、底部長軸1m52cm×短軸99cm、深さ33cmである。

[断面・底面] 壁は底面から開くように立ち上がる。底面は北東から南西に向かって緩やかに下方に

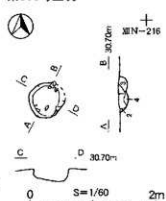
第367・588号土坑 遺物分布状況



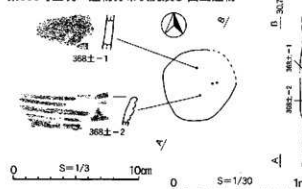
第367・588号土坑 出土遺物



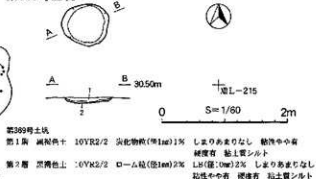
第368号土坑



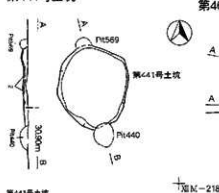
第368号土坑 遺物分布状況及び出土遺物



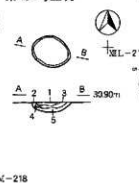
第369号土坑



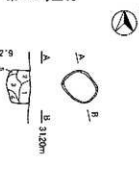
第441号土坑



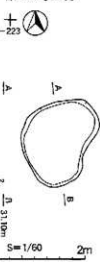
第462号土坑



第468号土坑



第565号土坑



第441号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(径1~3cm)7% しまり有 粘質有 硬質有 粘土質シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR3/1 ローム状(径~5cm)15% しまり有 粘質有 硬質有 粘土質シルト
- 第3層 灰褐色土 10YR2/8 ローム状(径1~2cm)2% 珪石(径5mm)1% しまり有 硬質有 シルト
- 第4層 黒褐色土 10YR3/4 ローム状 しまり有 硬質有 シルト
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム状(径1~5cm)3% しまり有 硬質有 シルト
- 第6層 黒褐色土 10YR3/2 しまり有 硬質有 シルト
- 第7層 黒褐色土 10YR3/4 LB(径10~15cm)1% しまり有 硬質有 シルト

第468号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム状(径1~10cm)3% 炭化植物(径1~5cm)1% しまり有 粘質有 シルト
- 第2層 におい黄褐色土 10YR4/3 ローム状 黒褐色土(10YR3/2)3% しまり有 粘質有
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム状(径1~5cm)7% しまり有 粘質有 硬質有 シルト
- 第4層 におい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土(10YR3/2)3% しまり有 粘質有 硬質有
- 第5層 におい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土(10YR3/2)3% しまり有 粘質有 硬質有

第565号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR1/7/1 ローム状(径1~3cm)8% 炭化植物(径1~2cm)1% しまり有 硬質有 シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR2/1 ローム状(径1~2cm)10% しまり有 硬質有 シルト
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム状(径1~2cm)7% しまり有 硬質有 シルト
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム状(径1~2cm)15% しまり有 硬質有 シルト

図31 第367・588号土坑出土遺物、第368号土坑 出土遺物、第369・441・462・468・565号土坑

傾斜している。

[堆積土] 黒褐色土主体の覆土構成で、中位に黒色土・下位に暗褐色土が堆積している。6層に分層した。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第567号土坑 (図32)

[位置・確認] XⅡL-221グリッドに位置する。第566号土坑・第201号溝状土坑とともに、黒褐・黒色土の北東-南西方向に延びるプランとして確認した。

[重複] 第566号土坑・第201号溝状土坑・第591号ピットと重複し、そのすべての遺構よりも新しい。

第591号ピット<第201号溝状土坑<第566号土坑<第567号土坑

[平面・規模] 平面形は楕円形で、開口部推定長軸1m35cm×短軸1m8cm、底部長軸1m16cm×短軸87cm、深さ26cmである。

[断面・底面] 壁は底面から開くように立ち上がり、底面にはやや起伏がある。

[堆積土] 黒色土主体の覆土構成で、東壁際に黒褐色土・底面に暗褐色土が堆積している。6層に分層した。

[出土遺物] 土器が3点出土した。図示したのは2点で、567土-1は深鉢の頸部破片で、縄文帯が施文されている。567土-2は無文の壺の胴部破片である。どちらも縄文時代後期後葉の土器とみられる。

[小結] 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第568号土坑 (図32)

[位置・確認] XⅡK-221グリッドに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面・規模] 平面形は楕円形で、開口部長軸84cm×短軸62cm、底部長軸77cm×短軸57cm、深さ14cmである。

[断面・底面] 壁は底面からほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、遺構の西側がやや浅くなっている。

[堆積土] 上位に黒褐色土、中位に黒色土、下位に褐色土が堆積している。4層に分層した。

[出土遺物] 土器が5点出土した。すべて無文の小破片で、1層からの出土である。図示したのは2点で、568土-1・2ともに無文深鉢の胴部破片で、外面に炭化物が付着している。縄文時代後期後葉の土器と考えられる。

[小結] 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第587号土坑 (図32)

[位置・確認] XⅡQ-217・218、XⅡR-218グリッドに位置する。第203号土坑とともに黒褐

色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕第203号土坑と重複し、本遺構が古い。

〔平面形・規模〕第203号土坑に切られているため平面形は不明である。開口部残存長軸98cm×残存短軸35cm、底部残存長軸78cm×残存短軸25cm、残存深さ35cmである。

〔断面・底面〕壁は底面から開くように立ち上がる。底面は残存部分が少ないため不明である。

〔堆積土〕全体に黒褐色土が堆積し、西壁下位にはわずかに黒色土・褐色土が堆積している。5層に分層した。

〔出土遺物〕出土しなかった。

〔小結〕時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

第592号土坑 (図32)

〔位置・確認〕XⅡF-222グリッドに位置する。黒褐色土の長楕円形プランとして検出された。

〔重複〕重複は確認されなかった。

〔平面形・規模〕平面形は不整長楕円形を呈する。C-Dセクション部分が両側に若干張り出す。開口部での最大長は2m12cm、最大幅86cm、深さ16cm、底面の最大長1m40cm、最大幅34cmを測る。

〔断面・底面〕壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は一部2段になっている。

〔堆積土〕2層に分層した。東側を除く壁面に第2層が堆積し、残りを第1層が埋めている。いずれも自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕1点図示した。1は縄文時代後期後葉の所産と思われる無文の壺もしくは注口の口縁部である。覆土と共に流入したものと思われる。

〔小結〕時期比定の根拠に欠けており不明である。

(浅田 智晴)

第593号土坑 (図33)

〔位置・確認〕XⅡF-217・218グリッドに位置する。黒褐色土の長方形プランとして検出された。

〔重複〕重複は確認されなかった。

〔平面形・規模〕平面形は東西に長い長方形を呈する。開口部での最大長は102cm、最大幅72cm、深さ7cm、底面の最大長94cm、最大幅60cmを測る。

〔断面・底面〕確認面から掘り込みが浅いため壁の状況は不明な点があるが、緩やかに立ちあがるものと思われる。底面は平坦である。

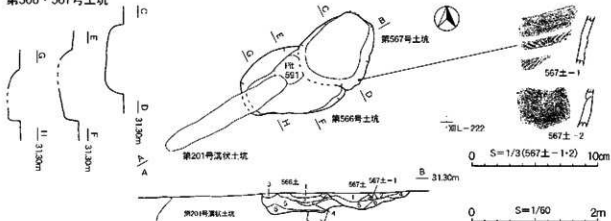
〔堆積土〕黒褐色土の単一層であった。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕時期比定の根拠に欠けており不明である。

(浅田 智晴)

第566・567号土坑



第566号土坑

第1層 黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5cm)10%	LD(径20~100mm)7%	しまりなし	粘性有	硬度有	粘土質シルト
第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3cm)3%	炭化植物(径1~3cm)1%	しまりなし	粘性有	硬度なし	粘土質シルト
第3層 黒色土	10YR1/2	ローム粒(径1~5cm)2%	炭化植物(径2~5cm)5%	しまりなし	粘性有	硬度なし	粘土質シルト
第4層 炭褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10cm)3%	炭化植物(径1~5cm)1%	しまりなし	粘性有	硬度なし	粘土質シルト
第5層 黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5cm)1%	炭化植物(径1~2cm)3%	しまり有	粘性有	硬度有	粘土質シルト
第6層 暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~3cm)2%	炭化植物(径3cm)1%	しまり有	粘性有	硬度有	粘土質シルト

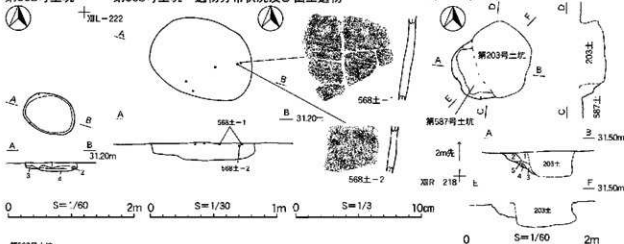
第567号土坑

第1層 赤土	10YR2/1	ローム粒(径1~2cm)2%	炭化植物(径1~5cm)2%	しまりなし	粘性有	硬度なし	粘土質シルト	
第2層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~3cm)3%	炭化植物(径1~2cm)1%	しまりなし	粘性有	硬度なし	粘土質シルト	
第3層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~3cm)3%	炭化植物(径3cm)1%	しまりなし	粘性有	硬度なし	粘土質シルト	
第4層 炭褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~7cm)5%	炭化植物(径2~3cm)1%	しまり有	粘性有	硬度有	粘土質シルト	
第5層 炭褐色土	10YR2/1	ローム粒(径1~5cm)2%	LD(径40cm)1割	炭化植物(径2~4cm)1%	しまりなし	粘性有	硬度なし	粘土質シルト
第6層 暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5cm)10%	LD(径20~50cm)5%	しまりなし	粘性有	硬度なし	粘土質シルト	

第568号土坑

第568号土坑 遺物分布状況及び出土遺物

第587号土坑



第568号土坑

第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~7mm)5%	炭化植物(径2~4cm)1%	しまり中やや	粘性有	硬度中やや	粘土質シルト	
第2層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~3cm)5%	LD(径25cm)1%	炭化植物(径2~4cm)1%	しまり中やや	粘性有	硬度中やや	粘土質シルト
第3層 黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5cm)5%	炭化植物(径2~4cm)2%	しまり中やや	粘性有	硬度中やや	粘土質シルト	
第4層 褐色土	10YR4/4	ローム粒	炭化植物上(10YR3/2)5%	しまり中やや	硬度有	シルト		

第587号土坑

第1層 暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径0.5~20cm)25%	炭化植物(径1~5cm)2%	しまり有	硬度有	シルト
第2層 炭褐色土	10YR2/2	ローム粒(径0.5~20cm)10%	炭化植物(径1~3cm)1%	しまり有	硬度有	シルト
第3層 炭褐色土	10YR2/3	LD(径3cm)10YR4/6(40%)	しまり有	硬度有	粘土質シルト	
第4層 黒色土	10YR2/1	炭化植物(径0.5~1cm)1%	しまり有	硬度有	シルト	
第5層 褐色土	10YR4/6	ローム層	しまり有	硬度有	粘土質シルト	

第589号土坑



第589号土坑

第1層 暗褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5cm)5%	炭化植物(径1~2cm)1%	しまり中やや	粘性なし	硬度中やや	シルト
第2層 暗褐色土	10YR3/3	しまり有	粘性なし	硬度有	シルト		

図32 第566・567・588号土坑 出土遺物、第587号土坑、第589号土坑 出土遺物

第594号土坑 (図33)

〔位置・確認〕 X II I-214グリッドに位置する。黒褐色土の円形プランとして検出された。

〔重複〕 重複は確認されなかった。

〔平面形・規模〕 平面形は円形を呈する。開口部での最大長は116cm、最大幅110cm、深さ20cm、底面の最大長102cm、最大幅96cmを測る。

〔断面・底面〕 壁は北側で急角度な他は、底面から開くように立ちあがる。底面は平坦である。

〔堆積土〕 黒褐色土の単一層であった。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 時期比定の根拠に欠けており不明である。

(浅田 智晴)

第595号土坑 (図33)

〔位置・確認〕 X II E-220グリッドに位置する。黒色土の不整楕円形プランとして検出された。

〔重複〕 重複は確認されなかった。

〔平面形・規模〕 南東側に若干張り出しを持つ不整楕円形を呈する。開口部での最大長は90cm、最大幅74cm、深さ24cm、底面の最大長70cm、最大幅20cmを測る。

〔断面・底面〕 壁は北西側で緩やかに立ち上がる。その他の部分で底面から開くように立ち上がる。底面は南西から北東に向かって緩やかに傾斜している。南東側の張り出し部分に一段高い底面が存在する。

〔堆積土〕 黒色土の単一層であった。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 時期比定の根拠に欠けており不明である。

(浅田 智晴)

第596号土坑 (図33)

〔位置・確認〕 X II E-222グリッドに位置する。黒色土の楕円形プランとして検出された。

〔重複〕 重複は確認されなかった。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈する。開口部での最大長は52cm、最大幅42cm、深さ26cm、底面の最大長36cm、最大幅16cmを測る。

〔断面・底面〕 壁は北西側で急角度に立ち上がる他は緩やかに立ち上がる。底面は細長い形態であるが、平坦である。

〔堆積土〕 2層に分層した。第2層の堆積は少なく、東側の壁面に流れ込んだ様相を呈する。その後第1層の堆積で埋没が完了している。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 時期比定の根拠に欠けており不明である。

(浅田 智晴)

第2節 溝状土坑

第201号溝状土坑（図33）

〔位置・確認〕XⅡK-220・221、XⅡL-221グリッドに位置する。第566・567号土坑とともに黒褐・黒色土の北東-南西方向に延びるプランとして確認した。

〔重複〕第566号土坑と重複し、第566号土坑よりも古い。

〔平面・規模〕開口部で最大長2m17cm、最大幅36cm、深さ57cmの溝状を呈する。底面は最大長2m36cm、最大幅31cmである。長軸方向は南西-北東である。

〔断面・底面〕断面形は短軸はほぼ垂直に立ち上がり、長軸は北東側の残存部では開口部がやや開く形で、南西側は袋状を呈している。底面は平坦で、北東から南西側に向かってわずかに下方に傾斜している。

〔堆積土〕上位に黒褐色土、下位に暗褐色土が堆積している。13層に分層した。

〔出土遺物〕出土しなかった。

〔小結〕時期決定の根拠に欠けており不明である。

（工藤 由美子）

第3節 ピット・ピット群

E区ではピットが206基検出された。そのほとんどは小ピットである。ここではピット群として扱っているが、現段階では小ピットが掘立柱建物跡などに組めるということは確定できなかった。しかし、保存区となっている掘立柱建物跡群周辺のピット群の中に、新たな掘立柱建物跡として認定できそうなものが混じっており、来年度の報告段階までには確定できると考えている。

ピットが比較的広範囲に分布しているため、便宜的に4グリッドごとに図番号①～④を付し、図番号ごとに掲載した。ただし、第591号ピットについては平面的には第566号土坑の内部にあり、他の遺構(第201号溝状土坑・第567号土坑)とも重複関係にあるため、あえてピット群とは切り離して報告する。

このピット群の詳細は観察表にまとめた。

ピットの径は、最大径62cm、最小径15cmで平均すると27.2cmである。深さ別のピットの個数をみると、1～9cm=26基、10～19cm=108基、20～29cm=51基、30～39cm=10基、40～49cm=4基、50cm以上=7基となっており、深さの最大が80cm、最小が7cm、平均の深さが21.5cmである。深さ10～29cmのピットが主体を占めている。

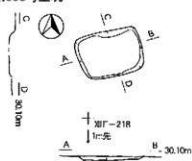
ピットの堆積土は、基本層序第Ⅱ層由来の黒色土が主体を占めており、ピット周辺の土坑等の堆積土と共通している。

遺物はほとんど混入しておらず、遺物が出土したのはPit360、407、451、464、465、467のみである。

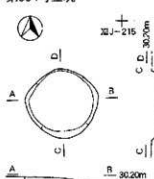
このピット群の時期は不明である。

（図①～⑤・⑩～⑬が工藤、⑥～⑨・⑭～⑳が浅田）

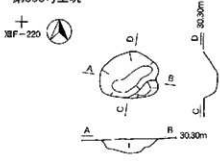
第593号土坑



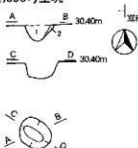
第594号土坑



第595号土坑



第596号土坑



第593号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径$\sim 2\text{mm}$)5% しまり石 粘着性 硬度中やや 粘土質シルト

第594号土坑

第1層 黒褐色土 10YK3/2 浮石(径$\sim 10\text{mm}$)1% ローム粒(径$\sim 20\text{mm}$)10% 炭化物粒(径$\sim 10\text{mm}$)1% しまり石 粘着性 硬度中 粘土質シルト

第595号土坑

第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径$\sim 2\text{mm}$)2% しまり石 粘着性極めて高 硬度なし 粘土質シルト

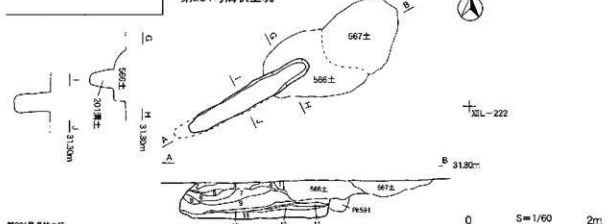
第596号土坑

第1層 黒色土 10YK2/1 ローム粒(径$\sim 5\text{mm}$)2% しまり石 粘着性極めて高 硬度なし 粘土質シルト

第2層 暗褐色土 10YK3/3

ローム粒(径$\sim 3\text{mm}$)5% しまり石 粘着性 硬度中やや 粘土質シルト

第201号溝状土坑



第201号溝状土坑

- 第1層 灰褐色土 10YK3/2 ローム粒(径$\sim 2\text{mm}$)3% 炭化物粒(径$1\sim 2\text{mm}$)1% しまり石 粘着性 硬度中 粘土質シルト
- 第2層 黒褐色土 10YK3/2 ローム粒(径$\sim 5\text{mm}$)3% 炭化物粒(径$1\sim 2\text{mm}$)1% しまり石やや粘着性 硬度中やや 粘土質シルト
- 第3層 黒褐色土 10YK2/2 ローム粒(径$\sim 10\text{mm}$)3% 炭化物粒(径$1\sim 2\text{mm}$)2% しまり石 粘着性 硬度なし 粘土質シルト
- 第4層 黒褐色土 10YK3/2 ローム粒(径$\sim 3\text{mm}$)3% 1層(径$10\sim 50\text{mm}$)2% 炭化物粒(径$1\sim 3\text{mm}$)1% しまり石 粘着性 硬度中 粘土質シルト
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径$\sim 5\text{mm}$)2% 炭化物粒(径$1\sim 5\text{mm}$)1% しまりなし 粘着性 硬度なし 粘土質シルト
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径$1\sim 2\text{mm}$)2% LD(径30mm)1個 炭化物粒(径$1\sim 5\text{mm}$)3% しまりなし 粘着性 硬度なし 粘土質シルト
- 第7層 黒褐色土 10YK3/2 ローム粒(径$1\sim 10\text{mm}$)3% LD(径$20\sim 30\text{mm}$)2個 炭化物粒(径$1\sim 3\text{mm}$)1% しまり石 粘着性 硬度中 粘土質シルト
- 第8層 暗褐色土 10YK3/3 ローム粒(径$1\sim 5\text{mm}$)5% LD(径30mm)1個 しまりなし 粘着性 硬度なし 粘土質シルト
- 第9層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒 ローム粒(径$1\sim 3\text{mm}$)5% 炭化物粒(径$1\sim 2\text{mm}$)3% しまり石 粘着性 硬度中 粘土質シルト
- 第10層 暗褐色土 10YK2/2 ローム粒(径$1\sim 5\text{mm}$)2% 炭化物粒(径$2\sim 5\text{mm}$)3% しまり石やや粘着性 硬度中やや 粘土質シルト
- 第11層 暗褐色土 10YK3/4 ローム粒(径$1\sim 3\text{mm}$)5% 炭化物粒(径$1\sim 2\text{mm}$)1% しまり石やや粘着性 硬度中やや 粘土質シルト
- 第12層 暗褐色土 10YK2/3 ローム粒(径$1\sim 3\text{mm}$)3% 炭化物粒(径$2\sim 5\text{mm}$)3% しまりなし 粘着性 硬度なし 粘土質シルト
- 第13層 暗褐色土 10YK3/3 黒色土(径$1\sim 3\text{mm}$)1% 炭化物粒(径$1\sim 2\text{mm}$)1% しまり石 粘着性 硬度中 粘土質シルト

第591号ピット

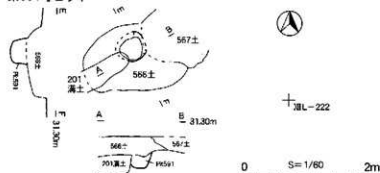


図33 第593・594・595・596号土坑、第201号溝状土坑、第591号ピット

第591号ピット (図33)

〔位置・確認〕 XⅡL-221グリッドに位置する。第566号土坑を精査中に、第566号土坑の底面を更に下方に掘り込んでいるピットとして確認した。

〔重複〕 第566号土坑・第201号溝状土坑と重複し、そのどちらよりも古い。

第591号ピット<第201号溝状土坑<第566号土坑

〔平面・規模〕 平面形はほとんど残存部がないため不明であるが、開口部残存径は47cm、底部長軸37cm×短軸35cm、残存深さ26cmである。

〔断面・底面〕 断面は残存部では底面からやや開くように立ち上がる。底面は平坦である。

〔堆積土〕 断面を観察する前に掘り上げてしまったため不明である。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠けており不明である。

(工藤 由美子)

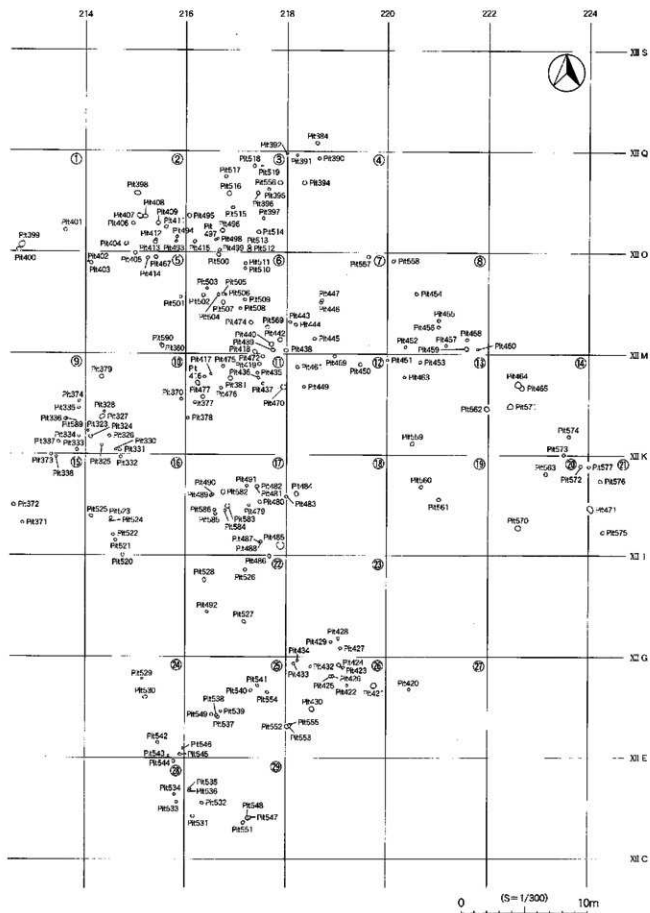
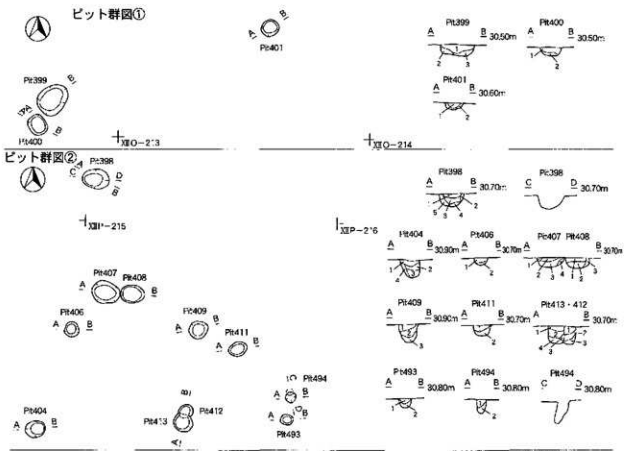


図34 E区ビット群配置図



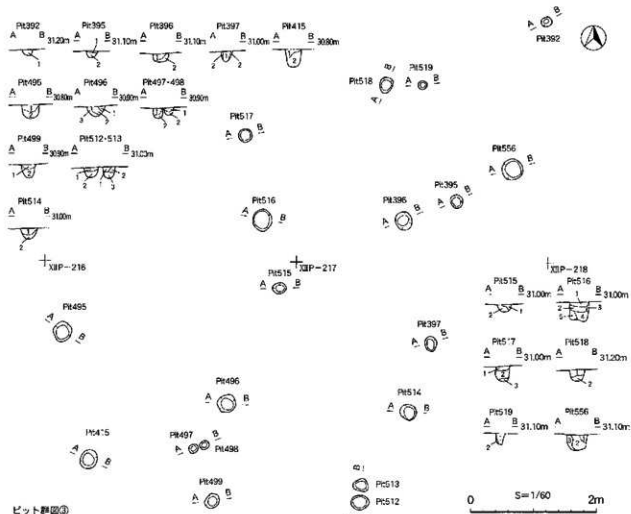
ピット群①

- Pt399 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt400 黒色土 10YR2/4 ローム粒(径1~1.5m)7% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt401 黒色土 10YR2/4 ローム粒(径1~1.5m)7% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt398 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt404 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt406 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt407 Pt408 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt409 Pt411 Pt413-412 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt493 Pt494 Pt494 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト

ピット群②

- Pt396 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt397 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt398 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt404 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt406 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt407 Pt408 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt409 Pt411 Pt413-412 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト
 Pt493 Pt494 Pt494 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~1.5m)5% しまりやや軟 粘質 硬直 粘土質シルト

図35 ピット群①、②



ピット群②

- PR392** 遺構点: 10YR2/2 11-ム灰(厚1~3cm)5% しまり有 焼炭層 シルト
- PR395**
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ロ-ム灰(厚1~3cm)2% LUI(厚10cm)3% しまり有 粘性有 硬質中やや軟土質シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ロ-ム灰(厚0~1cm)2% 炭化物粒(径1cm)3% しまり有 粘性有 硬質中やや軟土質シルト
- PR396**
- 遺1層 黒褐色土 10YR3/3 赤-ム灰(厚1~2cm)2% しまり有 粘性有 硬質中 粘土質シルト
- 遺2層 黒褐色土 10YR3/3 黒褐色土(厚20~50cm)3% しまり有 粘性有 硬質有 粘土質シルト
- PR397**
- 遺1層 赤い黄褐色土 10YR4/3 赤-ム灰(厚1~2cm)5% 小礫(径1~3cm)3% しまり有 粘性中やや 硬質有 シルト
- 遺2層 褐色土 10YR4/4 赤-ム灰(厚3cm)2% しまり有 硬質有 シルト
- PR415**
- 第1層 褐色土 10YR2/1 しまり中やや 粘性有 硬質中やや 粘土質シルト
- 第2層 褐色土 10YR2/3 赤-ム灰(厚1~5cm)3% しまり有 粘性有 硬質有 粘土質シルト
- PR495**
- 遺1層 黒褐色土 10YR2/1 赤-ム灰(厚1~5cm)7% しまり有 粘性中やや 硬質有 粘土質シルト
- 遺2層 褐色土 10YR4/4 赤-ム灰(厚1cm)5% 黒褐色土5% しまり中やや 粘性有 硬質中やや 粘土質シルト
- PR496**
- 第1層 黒褐色土 10YR3/4 黒褐色土(10Y/4)2/3 小礫(径2~8cm)5% 砂粒(径1cm)1% しまり有 硬質有 シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 しまり有 硬質有 シルト
- 第3層 褐色土 10YR3/4 黒褐色土(厚1cm)1% 粘土粒(径1cm)1% 砂粒(径1cm)1% しまり有 粘性有 硬質有 シルト
- PR497**
- 遺1層 黒褐色土 10YR2/2 小礫(径2~8cm)3% しまり有 硬質有 シルト
- 遺2層 黒褐色土 10YR3/3 赤-ム灰(厚2~5cm)20% しまり有 粘性有 硬質中やや 粘土質シルト
- PR498**
- 遺1層 赤褐色土 10YR3/3 11-ム灰(厚5~10cm)4% しまり有 粘性有 シルト
- 遺2層 褐色土 10YR4/3 赤-ム灰(厚5~10cm)3% しまり有 粘性有 硬質なし 粘土質シルト
- PR499**
- 遺1層 黒褐色土 10YR3/4 しまり有 硬質有 シルト
- 遺2層 黒褐色土 10YR2/2 しまり有 粘性有 硬質中やや 粘土質シルト
- PR512**
- 遺1層 黒褐色土 10YR3/2 赤-ム灰(厚1~5cm)10% 小礫(径1~5cm)5% しまり有 硬質有 シルト
- 遺2層 黒褐色土 10YR3/3 赤-ム灰(厚1~2cm)10% 炭化物粒(厚1~2cm)3% しまり有 粘性有 硬質有 シルト
- PR513**
- 遺1層 赤褐色土 10YR3/3 赤-ム灰(厚1~5cm)7% しまり有 硬質有 シルト
- 遺2層 赤褐色土 10YR3/2 赤-ム灰(厚1~3cm)10% 小礫(径5cm)2% しまり有 硬質有 シルト
- 遺3層 褐色土 10YR4/4 11-ム灰 しまり有 粘性中やや 硬質有 粘土質シルト
- PR514**
- 第1層 黒褐色土 10YR3/1 赤-ム灰(厚1~5cm)20% 粘土質(厚1~2cm)3% 小礫(径2cm)2% しまり有 硬質有 シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 赤-ム灰(厚1~5cm)10% しまり有 粘性中やや 硬質有 粘土質シルト
- PR515**
- 遺1層 黒褐色土 10YR3/4 赤-ム灰(厚1~20cm)20% 炭化物粒(厚1~5cm)1% しまり有 粘性有 硬質中やや 粘土質シルト
- 遺2層 黒褐色土 10YR3/2 赤-ム灰(厚1~20cm)20% 炭化物粒(厚1~5cm)2% しまり中やや 粘性中やや 粘土質シルト
- PR516**
- 遺1層 黒褐色土 10YR3/2 赤-ム灰(厚1~2cm)2% しまり有 粘性中やや 硬質有 シルト
- 遺2層 黒褐色土 10YR3/2 しまり中やや 粘性中やや 硬質有 シルト
- 遺3層 褐色土 10YR4/4 赤褐色土(10YR3/3)20% しまり中やや 粘性有 硬質中やや 粘土質シルト
- 遺4層 褐色土 10YR3/2 粘土(厚1~20cm)2% しまり中やや 粘性中やや 硬質中やや 粘土質シルト
- PR517**
- 遺1層 黒褐色土 10YR2/2 LUI(厚1~3cm)3% しまり有 粘性有 硬質有 シルト
- 遺2層 黒褐色土 10YR2/2 LUI(厚1~20cm)7% しまり中やや 粘性中やや 硬質中やや 粘土質シルト
- 遺3層 赤い黄褐色土 10YR4/3 しまり中やや 粘性中やや 硬質中やや 粘土質シルト

図36 ピット群③

ビット群図⑤



PR405

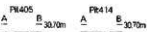
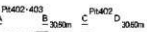
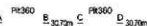


XIO-216

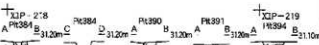
ビット群図④



XIQ 219



XIN-215



ビット群図③

第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10㎗)2%	LB(径1~30㎗)7%	しまり多量なりし 粘性やや有 締り度あまりなし	シルト
第2層 褐色土	10YR4/4	黒色土(10YR2/1)5%	しまりあまりなし	粘性やや有 締り度あまりなし	粘土質シルト
PR555					
第1層 黒褐色土	10YR2/2	LB(径1~30㎗)20%	しまり有	粘性なし	粘厚なシルト
第2層 褐色土	10YR4/4	しまりやや有	粘性やや有	締り度やや有	粘土
PR556					
第1層 灰褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1㎗)10%	しまりの 粘性あまりなし	硬質な	シルト
第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10㎗)5%	しまり中量	粘性の中	硬質の中
第3層 黒褐色土	10YR2/2	LB(径1~30㎗)20%	しまり有	粘性あまりなし	硬質な
PR557					

ビット群図②

第1層 灰褐色土	10YR4/3	ローム粒(径1~20㎗)10%	しまり有	粘性有	硬質な	粘土質シルト
第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10㎗)6%	しまり有	粘性有	硬質な	粘土質シルト
第3層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10㎗)7%	しまり有	粘性有	硬質な	粘土質シルト
第4層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~20㎗)5%	しまり有	粘性有	硬質の中	粘土質シルト
第5層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~20㎗)6%	しまり有	粘性有	硬質の中	粘土質シルト
第6層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~4㎗)3%	しまり有	粘性有	硬質あまりなし	粘土質シルト
PR390						
第1層 灰褐色土	10YR4/3	ローム粒(径1~20㎗)1%	しまり有	粘性なし	硬質な	シルト
第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~4㎗)7%	しまり有	粘性有	硬質の中	粘土質シルト
PR391						
第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~20㎗)5%	しまり有	粘性やや有	硬質の中	粘土質シルト
第2層 灰褐色土	10YR4/3	ローム粒(径1~20㎗)3%	しまり有	粘性なし	硬質の中	シルト
PR394						
第1層 黒褐色土	10YR3/3	炭化物粒(径2~4㎗)1%	しまり有	硬質有	シルト	
第2層 褐色土	10YR4/4	ローム粒 炭化物粒(径3㎗)1%	しまり有	硬質有	シルト	

ビット群図①

第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~20㎗)3%	炭化物粒(径1~4㎗)1%	しまり有	粘性有	硬質有	粘土質シルト
第2層 灰褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10㎗)2%	炭化物粒(径2~3㎗)1%	しまり有	粘性有	硬質有	粘土質シルト
第3層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~20㎗)2%	しまり中量	粘性有	硬質の中	粘土質シルト	
PR402							
第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10㎗)2%	しまり有	粘性有	硬質有	粘土質シルト	
第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~20㎗)2%	しまり中量	粘性有	硬質の中	粘土質シルト	
PR403							
第1層 灰褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2~20㎗)2%	しまり中量	粘性有	硬質の中	粘土質シルト	
第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10㎗)3%	しまり中量	粘性有	硬質の中	粘土質シルト	
PR405							
第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~20㎗)3%	しまり中量	粘性有	硬質有	粘土質シルト	
第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10㎗)3%	しまり有	粘性有	硬質有	粘土質シルト	
PR414							
第1層 黒褐色土	10YR2/2	しまり有	粘性有	硬質有	粘土質シルト		
第2層 灰褐色土	10YR4/3	ローム粒(径1~20㎗)3%	LB(径20~30㎗)3%	しまり有	粘性有	硬質有	粘土質シルト
PR501							
第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~20㎗)2%	炭化物粒(径20㎗)1%	しまり有	硬質有	シルト	
第2層 灰褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10㎗)7%	しまり有	硬質有	シルト		

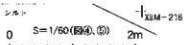


図3 ビット群図③-2、図④、図⑤

ピット群図⑦



X10-219

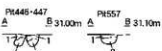
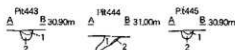


X1N-218



X1N-219

P6443



X1M-218

X1M-219

0 S=1/60 2m

ピット群図⑧

P6506	第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム状(厚1~5cm)2%	しまり付 硬質有	シルト
	第2層 黒褐色土	10YR3/2	炭化植物(厚2cm)1% 小礫(厚2~5cm)2%	しまりやや有	硬質有
P6507	第1層 黒褐色土	10YR2/2	IR(厚30cm)1個 炭化植物(厚6cm)1%	しまり有	硬質有
	第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム状3%	小礫(厚10~15cm)2%	しまりやや有
	第3層 赤い黄褐色土	10YR4/3	ローム層 黒褐色土粒3%	小礫(厚5~20cm)2%	しまりやや有
P6508	第1層 黒褐色土	10YR3/2	ローム状(厚1~5cm)2%	小礫(厚2~10cm)2%	しまり有
	第2層 褐色土	10YR4/4	ローム層 黒褐色土粒5%	しまり有	粘状やや有
P6509	第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム状(厚1~2cm)2%	しまり有	硬質有
	第2層 黒褐色土	10YR2/2	しまり有	硬質有	シルト
	第3層 黒褐色土	10YR2/2	しまり有	硬質有	粘土質シルト
P6510	第1層 赤褐色土	10YR3/2	ローム状(厚1~3cm)7%	小礫(厚3cm)2%	しまり有
	第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム状(厚1~2cm)10%	炭化植物(厚3cm)2%	しまり有
	第3層 黒褐色土	10YR3/1	ローム状(厚1~5cm)7%	しまり有	粘状やや有
P6511	第1層 黒褐色土	10YR3/2	ローム状(厚1~2cm)25%	炭化植物(厚1cm)2%	焼土粒(厚1cm)3%
	第2層 黒褐色土	10YR3/3	ローム状(厚1~5cm)25%	炭化植物(厚1~2cm)2%	しまり有
P6569	第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム状(厚1~3cm)7%	しまり有	粘状有
	第2層 黒褐色土	10YR2/1	ローム状(厚1~2cm)15%	しまり有	粘状有

ピット群図⑨

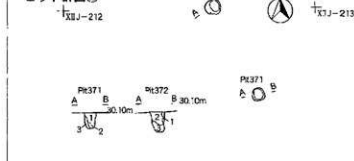
P6443	第1層 赤褐色土	10YR2/2	ローム状(厚1~10cm)4%	しまり有	硬質やや有
	第2層 褐色土	10YR4/4	ローム層 赤褐色土2%	しまり有	粘状やや有
P6444	第1層 黒色土	10YR1.7/1	ローム状(厚1~5cm)2%	IR(厚15cm)1個	しまり有
	第2層 赤い黒褐色土	10YR4/3	ローム層 黒褐色土2%	しまり有	粘状やや有
P6445	第1層 赤褐色土	10YR3/1	ローム状(厚1~5cm)3%	炭化植物(厚2cm)1%	しまり有
	第2層 黒褐色土	10YR3/3	ローム状(厚1~10cm)5%	しまり有	硬質有
P6446	第1層 黒褐色土	10YR3/2	ローム状(厚1~5cm)2%	しまり有	粘状有
	第2層 灰褐色土	10YR5/2	ローム層 赤褐色土2%	しまりなし	粘状有
P6447	第1層 黒褐色土	10YR3/3	ローム状(厚1~7cm)3%	しまりやや有	粘状有
	第2層 黒褐色土	10YR3/3	ローム状(厚1~5cm)2%	しまりなし	粘状有
P6507	第1層 黒褐色土	10YR3/3	ローム状(厚1~5cm)7%	炭化植物(厚1~2cm)1%	焼土粒(厚2~4cm)1%
	第2層 赤褐色土	10YR3/1	ローム状(厚1~10cm)5%	炭化植物(厚1~2cm)1%	しまりやや有

図39 ピット群図⑥-2、⑦

ビット群図⑧



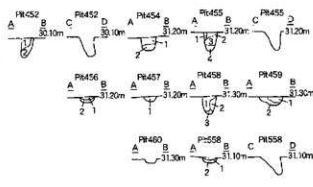
ビット群図⑩



XEN-220



XEN-221



XEM-220



XEM-221

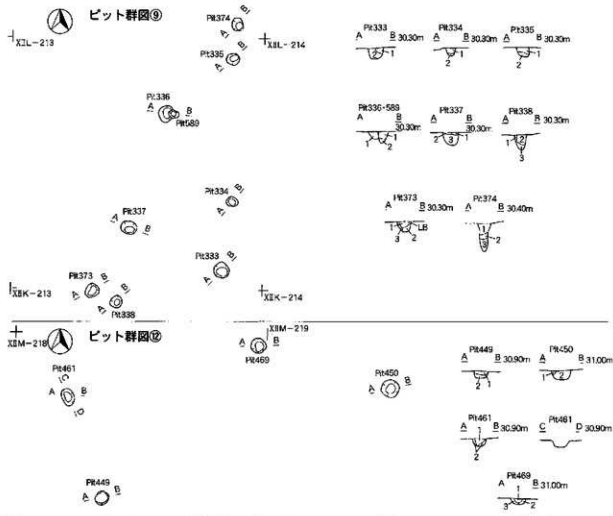


ビット群図⑨

- PR452
第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム殻(厚1~3cm)2% 炭化植物(厚2~3cm)1% しまりあまりなし 粘性有 硬成なし 粘土質シルト
第2層 黒褐色土 10YR2/3 粘褐色土(10YR3/3)との混合層 ローム殻(厚1~8cm)7% しまりなし 粘性有 硬成なし 粘土質シルト
- PR454
第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム殻(厚1~3cm)2% 炭化植物(厚1~3cm)1% しまりなし 粘性有 硬成なし 粘土質シルト
第2層 黒色土 10YR2/1 炭化植物(厚2cm)1% しまりなし 粘性有 硬成なし 粘土質シルト
- PR455
第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム殻(厚1~3cm)2% 炭化植物(厚1cm)1% しまり有 粘性有 硬成有 粘土質シルト
第2層 黒色土 10YR1.7/1 炭化植物(厚1~2cm)3% しまりやや有 粘性有 硬成やや有 粘土質シルト
第3層 黒色土 10YR0/1 しまりなし 粘性有 硬成なし 粘土質シルト
第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム殻(厚1~3cm)2% しまりなし 粘性有 硬成なし 粘土質シルト
- PR456
第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム殻(厚1~6cm)2% しまりやや有 粘土質シルト
第2層 黒色土 10YR4/3 ローム殻(厚1~2cm)5% しまりやや有 粘土質シルト
- PR457
第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム殻(厚1~2cm)2% しまりなし 粘性有 硬成なし 粘土質シルト
- PR458
第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム殻(厚1~3cm)2% 1.5(厚50cm)2個 しまりなし 粘性有 硬成なし 粘土質シルト
第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム殻(厚1~10cm)3% しまりなし 粘性有 硬成なし 粘土質シルト
第3層 黒色土 10YR2/1 LD(厚2cm)1片 炭化植物(厚3cm)1% しまりなし 粘性有 硬成なし 粘土質シルト
- PR459
第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム殻(厚1~2cm)2% 炭化植物(厚1cm)1% しまりなし 粘性有 硬成なし 粘土質シルト
第2層 炭褐色土 10YR2/3 ローム殻(厚1~5cm)3% しまりやや有 粘性有 硬成やや有 粘土質シルト
- PR558
第1層 黒色土 10YR2/1 ローム殻(厚1~3cm)7% しまり有 粘性有 硬成やや有 粘土質シルト
第2層 粘褐色土 10YR3/3 しまり有 粘性有 硬成有 粘土質シルト
- ビット群図⑪
- PR371
第1層 黒色土 12YR2/1 ローム殻(厚2~5cm)10% しまり有 粘性やや有 硬成有 シルト
第2層 黒色土 12YR2/1 ローム殻(厚5~10cm)3% しまりやや有 粘性有 硬成やや有 シルト
第3層 黒色土 10YR4/6 硬成10% しまりなし 粘性有 硬成なし シルト
- PR372
第1層 黒褐色土 10YR5/6 硬成10% しまりやや有 粘性やや有 硬成やや有 シルト
第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム殻(厚1~3cm)5% しまり有 粘性やや有 硬成やや有 シルト
第3層 黒褐色土 12YR3/1 ローム殻(厚1~5cm)90% しまりやや有 粘性有 硬成なし シルト

0 S=1/60(縮小・倍) 2m

図40 ビット群図⑧、⑩



ピット群⑨

PR333	第1層 黒褐色土	10YR2/3	ローム状(厚1~10cm)20%	しまりやや有	粘性有	硬度やや有	シルト
	第2層 黒褐色土	10YR3/1	塊上(厚2cm)5%	しまりやや有	粘性有	硬度やや有	シルト
PR334	第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム状(厚2~10cm)20%	しまりやや有	粘性有	硬度やや有	シルト
	第2層 褐色土	10YR4/5	塊状(厚2~10cm)10%	しまりやや有	粘性有	硬度やや有	シルト
PR335	第1層 灰色土	10YR2/1	ローム状(厚2cm)5%	しまり有	粘性やや有	硬度有	シルト
	第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム状(厚2~10cm)20%	しまり有	粘性有	硬度やや有	シルト
PR336	第1層 黒色土	10YR2/1	ローム状(厚2~5cm)10%	しまり有	粘性やや有	硬度有	シルト
PR589	第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム状(厚2~10cm)5%	しまり有	粘性やや有	硬度有	シルト
	第2層 黒褐色土	10YR3/1	ローム状(厚10cm)5%	しまり有	粘性やや有	硬度やや有	シルト
PR337	第1層 灰色土	10YR2/1	ローム状(厚2~5cm)5%	しまり有	粘性やや有	硬度有	シルト
	第2層 黒褐色土	10YR2/1	ローム状(厚2~10cm)20%	しまり有	粘性有	硬度やや有	シルト
	第3層 黒褐色土	10YR3/2	ローム状(厚2~10cm)20%	しまり有	粘性有	硬度有	シルト
PR338	第1層 褐色土	10YR4/4	黒色土(厚1~2cm)2%	しまり有	粘性有	硬度有	シルト
	第2層 黒褐色土	10YR2/1	ローム状(厚1~2cm)2%	しまり有	粘性有	硬度やや有	シルト
	第3層 褐色土	10YR4/4	黒色土(厚1~2cm)2%	しまり有	粘性有	硬度やや有	シルト
PR373	第1層 灰色土	10YR2/1	ローム状(厚1~3cm)5%	しまりやや有	粘性やや有	硬度やや有	シルト
	第2層 褐色土	10YR3/2	ローム状(厚1~3cm)5%	しまりなし	粘性有	硬度やや有	シルト
	第3層 褐色土	10YR4/4	黒色土(厚1~3cm)5%	しまり有	粘性有	硬度有	シルト
PR374	第1層 褐色土	10YR2/1	ローム状(厚1~20cm)10%	しまりやや有	粘性やや有	硬度やや有	シルト
	第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム状(厚20~30cm)30%	しまり有	粘性有	硬度やや有	シルト
	第3層 褐色土	10YR4/8	黒色土20%	しまり有	粘性有	硬度有	シルト

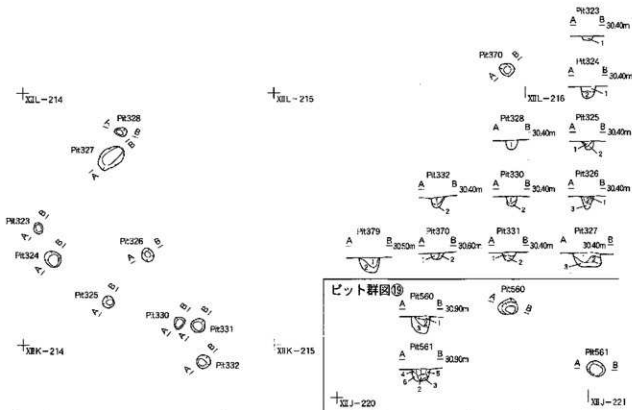
ピット群⑩

PR449	第1層 黒褐色土	10YR2/3	ローム状(厚1~7cm)2%	しまりなし	粘性有	硬度なし	粘土質シルト
	第2層 褐色土	10YR4/4	ローム状(厚1~5cm)7%	しまりやや有	粘性有	硬度やや有	粘土質シルト
PR450	第1層 褐色土	10YR4/6	ローム層	しまり有	粘性有	硬度有	粘土質シルト
	第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム状(厚1~5cm)7%	しまり有	粘性有	硬度あまりなし	粘土質シルト
PR461	第1層 黒褐色土	10YR3/2	ローム状(厚1~10cm)15%	しまり有	粘性やや有	硬度有	粘土質シルト
	第2層 褐色土	10YR4/4	ローム状20%	褐色土(厚2~8cm)1%	しまり有	硬度有	シルト
PR469	第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム状(厚1~2cm)2%	しまり有	粘性有	硬度やや有	粘土質シルト
	第2層 黒褐色土	10YR2/3	ローム状(厚1~2cm)2%	しまり有	粘性有	硬度やや有	粘土質シルト
	第3層 褐色土	10YR4/4	褐色土(厚2~5cm)3%	しまり有	粘性有	硬度やや有	粘土質シルト

図41 ピット群⑨、⑩



ビット群図⑩



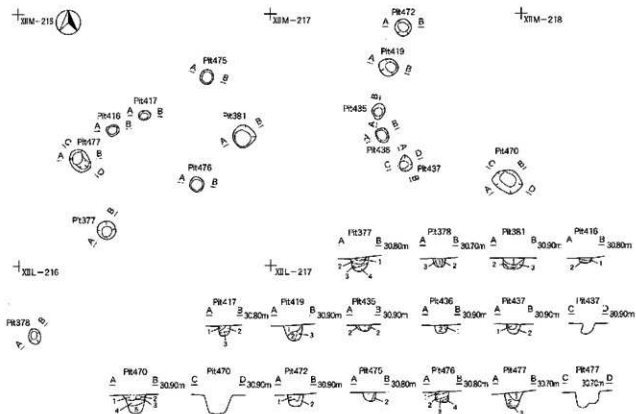
ビット群図⑩

Pt323	第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5~10mm)10%	しまり有	粘性有	硬底有	シルト	
Pt324	第1層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径5~10mm)10%	しまり有	粘性有	硬底有	シルト	
Pt325	第1層 灰褐色土	10YR3/3	ローム粒(径5~10mm)20%	しまり有	粘性有	硬底有	シルト	
Pt326	第1層 灰褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)30%	しまり有	粘性有	硬底有	シルト	
Pt327	第2層 暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径2~5mm)10%	しまり有	粘性有	硬底有	シルト	
Pt328	第1層 暗褐色土	10YR3/4	しまり有	粘性有	硬底有	シルト		
Pt329	第2層 灰色土	10YR2/1	ローム粒(径2~10mm)5%	しまりなし	粘性有	硬底有	シルト	
Pt330	第3層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径5~10mm)10%	しまりなし	粘性有	硬底なし	シルト	
Pt331	第1層 黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径5~20mm)50%	しまり有	粘性やや有	硬底有	シルト	
Pt332	第2層 灰褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5~10mm)15%	しまりなし	粘性やや有	硬底有	シルト	
Pt333	第3層 暗褐色土	10YR3/4	黒褐色土混5%	しまりなし	粘性やや有	硬底なし	シルト	
Pt334	第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2~5mm)5%	しまり有	粘性有	硬底有	シルト	
Pt335	第1層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2~20mm)7%	しまり有	粘性有	硬底有	シルト	
Pt336	第1層 暗褐色土	10YR3/4	しまり有	粘性有	硬底有	シルト		
Pt337	第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)5%	しまりやや有	粘性有	硬底有	シルト	
Pt338	第2層 暗褐色土	10YR3/4	黒褐色土混1%	しまりやや有	粘性有	硬底有	シルト	
Pt339	第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径10mm)5%	しまり有	粘性有	硬底有	シルト	
Pt370	第2層 赤褐色土	10YR4/3	ローム粒(径5mm)3%	しまり有	粘性有	硬底有	シルト	
Pt379	第1層 黒褐色土	10YR2/2	しまり有	粘性有	硬底有	シルト		
Pt379	第2層 黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)2%	しまりあまりなし	粘性有	硬底なし	粘土質シルト	
Pt379	第1層 黒色土	10YR2/1	しまり有	硬底有	シルト			
Pt379	第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)3%	LB(径20mm)3個	しまり有	粘性有	硬底有	粘土質シルト

ビット群図⑪

Pt560	第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)7%	しまり有	粘性やや有	硬底有	シルト
Pt561	第2層 灰色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)7%	しまり有	硬底有	シルト	
Pt561	第3層 暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~3mm)5%	LD(径5~10mm)5%	しまり有	硬底有	シルト
Pt561	第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)5%	しまり有	硬底有	シルト	
Pt561	第3層 暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)10%	LD(径20mm)2%	しまり有	硬底有	シルト
Pt561	第4層 灰褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~3mm)7%	しまり有	硬底有	シルト	
Pt561	第5層 黒色土	10YR2/4	しまり有	硬底有	シルト		
Pt561	第6層 赤褐色土	10YR5/4	ローム粒	しまりやや有	硬底有	シルト	

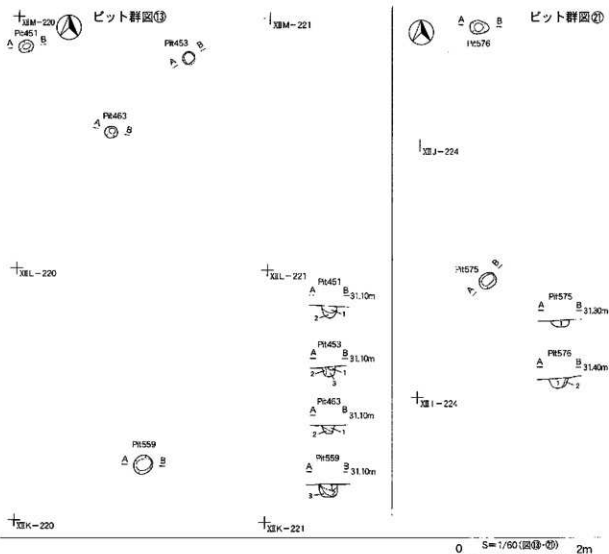
図42 ビット群図⑩、⑪



ピット群①②

- Pk377**
 第1層 灰褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)2% しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
 第2層 暗褐色土 10YR2/4 ローム粒(径1~2mm)4% 炭化植物(径1~2mm)1% しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
 第3層 暗褐色土 10YK2/3 ローム粒(径1~2mm)3% 炭化植物(径1~2mm)1% しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
 第4層 褐色土 10YR4/4 土色15% (R比1~10mm)7% しまりや中や 粘性質 硬さ中 粘土質シルト
 Pk378
 第1層 暗褐色土 10YR1/1 しまりなし 粘性質 硬さなし 粘土質シルト
 第2層 暗褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1mm)2% しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
Pk381
 第1層 暗褐色土 10YK2/3 ローム粒(径1~2mm)3% 炭化植物(径1mm)1% しまりや中や 粘性質 硬さなし 粘土質シルト
 第2層 灰色土 10YR2/1 ローム粒(径1~2mm)2% しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
 第3層 暗褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)3% しまりや 粘性質 硬さ中 粘土質シルト
Pk416
 第1層 暗褐色土 10YK2/2 ローム粒(径1~2mm)2% しまりや 硬さ中 シルト
 第2層 ほぼ均質粘土 10YR5/4 ローム層 しまりや中や 粘性質や中 硬さ中 シルト
Pk417
 第1層 暗褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)3% しまりや 硬さ中シルト
 第2層 暗褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)2% 炭化植物(径2mm)2% しまりや 硬さ中 シルト
 第3層 暗褐色土 10YK2/3 ローム粒(径1~2mm)3% しまりや 粘性質 シルト
Pk435
 第1層 暗褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)3% 炭化植物(径1mm)1% しまりや 粘性質や中 硬さ中 シルト
 第2層 暗褐色土 10YK2/2 ローム粒(径1~2mm)2% 炭化植物(径1~2mm)2% しまりや中や 粘性質や中 シルト
 第3層 暗褐色土 10YK2/4 ローム粒(径1~2mm)4% 炭化植物(径1~2mm)5% しまりや 硬さ中 シルト
Pk436
 第1層 暗褐色土 10YK2/2 ローム粒(径1~2mm)2% 炭化植物(径1mm)1% しまりや中や 粘性質や中 硬さ中 シルト
 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~2mm)4% 炭化植物(径1~2mm)5% しまりや中や 硬さ中 シルト
Pk437
 第1層 褐色土 10YR4/6 ローム層 しまりや中や 粘性質や中 硬さ中 シルト
 第2層 暗褐色土 10YK2/2 ローム粒(径1~2mm)2% 炭化植物(径2mm)2% しまりや 粘性質や中 硬さ中 シルト
Pk470
 第1層 灰褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)3% 炭化植物(径1~2mm)1% しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
 第2層 暗褐色土 10YR2/4 ローム粒(径1~2mm)4% 炭化植物(径1~2mm)1% しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
 第3層 暗褐色土 10YK2/3 ローム粒(径1~2mm)3% L.R.(径5mm)2mm しまりなし 粘性質 硬さなし 粘土質シルト
 第4層 暗褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)3% しまりなし 粘性質 硬さなし 粘土質シルト
 第5層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~2mm)4% しまりなし 粘性質 硬さなし 粘土質シルト
Pk472
 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~2mm)3% 炭化植物(径3mm)1% しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
 第2層 暗褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)3% しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
Pk475
 第1層 暗褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)2% しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
 第2層 暗褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)3% しまりや中や 粘性質 硬さやや中 粘土質シルト
Pk476
 第1層 暗褐色土 10YK2/1 ローム粒(径1~2mm)10% 炭化植物(径1mm)1% しまりや 粘性質や中 硬さ中 シルト
 第2層 暗褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)3% 炭化植物(径1~2mm)2% しまりや 粘性質や中 硬さ中 シルト
 第3層 暗褐色土 10YR2/1 ローム粒(径1~2mm)7% 炭化植物(径1~2mm)2% しまりや 粘性質や中 硬さ中 シルト
 第4層 暗褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)3% しまりや 粘性質や中 硬さ中 シルト
Pk477
 第1層 暗褐色土 10YR2/3 ローム層 しまりや中 粘性質 シルト
 第2層 暗褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)3% しまりや 硬さ中 シルト
 第3層 暗褐色土 10YR2/1 ローム粒(径1~2mm)7% 炭化植物(径1~2mm)2% しまりや 粘性質や中 硬さ中 シルト
 第4層 暗褐色土 10YK2/6 ローム層 しまりや中 粘性質 シルト

図43 ピット群①②



ビット群図⑱

PR451

第1層 黒褐色土 10Y2.2/3 ローム殻(厚1~3cm)7% しまり有 粘性有 硬度やや有 粘土質シルト

第2層 緑褐色土 10Y2.3/3 しまり有 粘性有 硬度有 粘土質シルト

PR453

第1層 黒褐色土 10Y2.2/3 ローム殻(厚1~3cm)2% 炭化動物(厚1cm)1% しまりなし 粘性有 硬度なし 粘土質シルト

第2層 暗褐色土 10Y3.5/3 ローム殻(厚1~2cm)3% しまりなし 粘性有 硬度なし 粘土質シルト

第3層 黒褐色土 10Y2.2/3 ローム殻(厚1~2cm)2% しまりなし 粘性有 硬度なし 粘土質シルト

PR463

第1層 暗褐色土 10Y2.3/3 ローム殻(厚1~5cm)7% 炭化動物(厚3cm)4% しまり有 粘性有 硬度有 粘土質シルト

第2層 黒褐色土 10Y2.2/3 ローム殻(厚1~5cm)3% しまり有 粘性有 硬度やや有 粘土質シルト

PR559

第1層 黒褐色土 10Y2.2/2 ローム殻(厚1~3cm)7% LB(厚30cm)1層 しまり有 粘性有 シルト

第2層 暗褐色土 10Y3.5/3 ローム殻(厚1~5cm)10% 炭化土粒(0YR1.7/1)粒1~5mm7% しまり有 硬度有 シルト

第3層 暗褐色土 10Y3.2/4 ローム殻(厚1~4cm)2% しまり有 硬度有 シルト

ビット群図⑳

Pt575

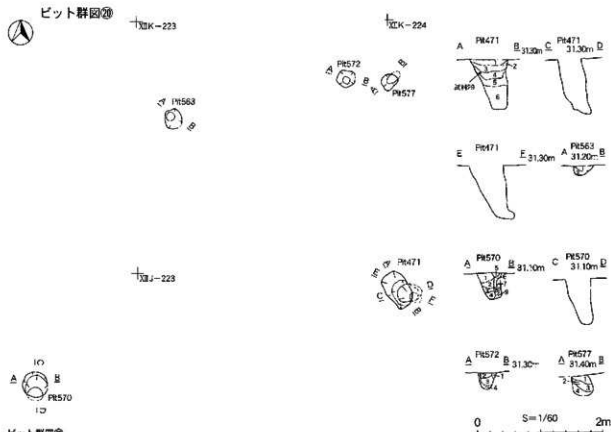
第1層 黒褐色土 10Y2.2/3 しまりやや有 粘性有 硬度有 粘土質シルト

Pt576

第1層 黒褐色土 10Y2.2/2 ローム殻(厚1~2cm)2% 炭化動物(厚2~5cm)1% しまりやや有 粘性有 硬度あまりなし 粘土質シルト

第2層 暗褐色土 10Y3.5/3 ローム殻(厚1~2cm)10% LB(厚25cm)1層 しまり有 粘性やや有 硬度やや有 粘土質シルト

図44 ビット群図⑱、⑳



ビット群図⑨

PH471

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~4mm)5%	炭化物粒(径2~7mm)1%	しまりやや弱粘性	硬度やや弱	粘土質シルト
第2層	黒褐色土	10YR3/3	しまりあまりなし	粘性やや弱	硬度あまりなし		粘土質シルト
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)7%	炭化物粒(径3~12mm)2%	しまりややあり	粘性	硬度ややあり 粘土質シルト
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)5%	炭化物粒(径3~23mm)2%	しまりややあり	粘性	硬度あまりなし 粘土質シルト
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~10mm)7%	炭化物粒(径3~7mm)2%	しまりややあり	粘性	硬度ややあり 粘土質シルト
第6層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~10mm)7%	炭化物粒(径3~5mm)2%	しまりなし	粘性	硬度なし 粘土質シルト

PH563

第1層	黒褐色土	10YK3/1	ローム粒(径1~2mm)5%	しまり有	硬度弱		シルト
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)7%	しまり有	硬度弱		シルト

PH570

第1層	褐色土	10YR2/1	ローム粒(径1~3mm)5%	LD(径20mm)1個	炭化物粒(径2~4mm)1%	しまりやや弱	粘性	硬度弱	粘土質シルト	
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)3%	炭化物粒(径1~3mm)1%	しまりやや弱	粘性	硬度あまりなし		粘土質シルト	
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)5%		しまりやや弱	粘性	硬度なし		粘土質シルト	
第4層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)3%	炭化物粒(径2~4mm)1%	しまりやや弱	粘性	硬度なし		粘土質シルト	
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)7%	LD(径20mm)1個	炭化物粒(径3~8mm)1%	しまりやや弱	粘性	硬度やや弱	粘土質シルト	
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)5%		しまりやや弱	粘性	硬度		粘土質シルト	
第7層	黄褐色土	10YR4/4	黄褐色土(10YR3/2)3%		しまりやや弱	粘性	硬度あまりなし		硬さ有	シルト
第8層	灰褐色土	10YK3/1	ローム粒(径1~2mm)12%	しまりやや弱	粘性	硬度あまりなし			粘土質シルト	
第9層	灰黄色土	10YR6/4	ローム層 黒褐色土(10YR3/2)5%	しまりあまりなし	硬度弱				シルト	

PH572

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)7%	しまりやや弱	粘性	硬度あまりなし			粘土質シルト
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)3%	しまりやや弱	粘性	硬度あまりなし			粘土質シルト
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)5%	LD(径30mm)1個	炭化物粒(径3mm)1%	しまりやや弱	粘性	硬度あまりなし	粘土質シルト
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)7%	LD(径25mm)1個	しまりやや弱	粘性	硬度あまりなし		粘土質シルト

PH577

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)7%	炭化物粒(径3~3mm)1%	しまりやや弱	粘性	硬度		粘土質シルト
第2層	灰褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)5%	炭化物粒(径1~3mm)1%	しまりやや弱	粘性	硬度		粘土質シルト
第3層	黒褐色土	10YK3/2	ローム粒(径1~5mm)5%	炭化物粒(径3~3mm)1%	しまりやや弱	粘性	硬度		粘土質シルト
第4層	褐色土	10YR4/6	黒褐色土5%	しまりやや弱	粘性	硬度			粘土質シルト

ビット群出土遺物

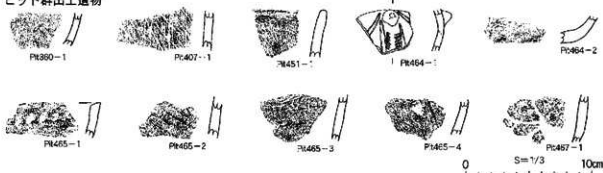


図46 ビット群図⑩、ビット群出土遺物

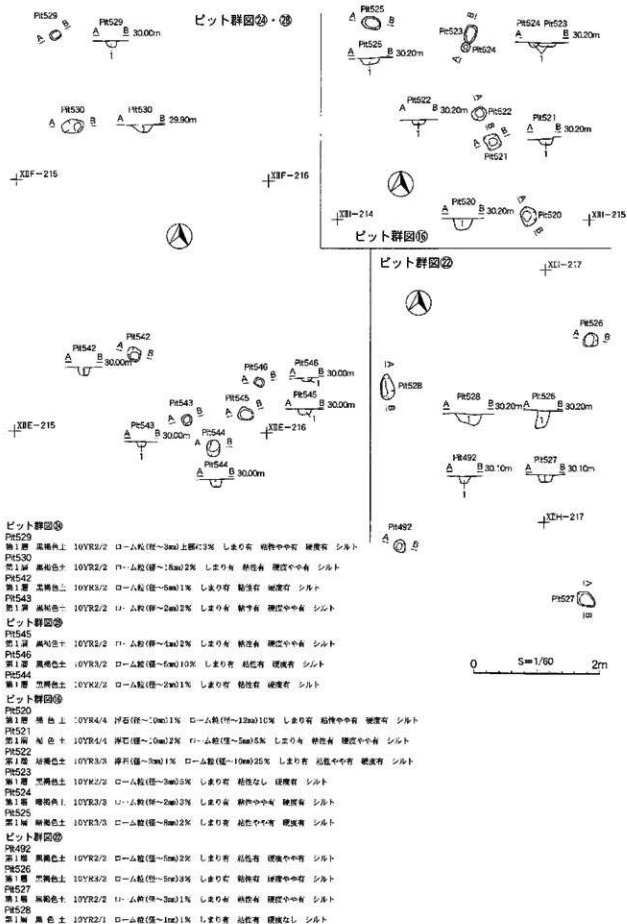
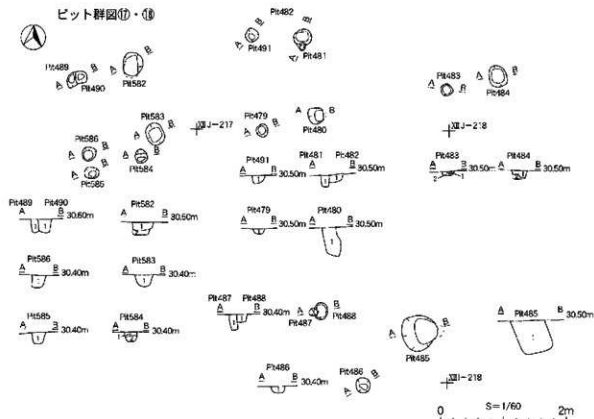


図47 ピット群⑬、⑭、⑮、⑯、⑰



ピット群図⑩

Pt479

第1層 粘褐色土 10YR3/3 ローム粒(径~15m)25% しまり有 粘土や中骨 硬度やや有 シルト

Pt480

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径~5m)10% しまりや中骨 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt481

第1層 暗褐色土 10YR3/3 灰色粘土粒(径~2m)下部に10% しまりや中骨 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt482

第1層 黄褐色土 10YR2/2 ロームブロック(径~50m)1% 灰白色粘土粒(径~2m)5% しまりや中骨 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt485

第1層 灰褐色土 10YR3/3 ローム粒(径~40m)2% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt486

第1層 黄褐色土 10YR2/1 ローム粒(径~10m)10% しまり有 粘土や中骨 硬度有 シルト

Pt487

第1層 黄褐色土 10YR2/1 ローム粒(径~2m)1% しまり有 粘土粒極めて有 硬度なし シルト

Pt488

第1層 黄褐色土 10YR2/2 ローム粒(径~2m)5% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt489

第1層 黄褐色土 10YR2/1 ローム粒(径~3m)2% しまり有 粘土極めて有 硬度なし シルト

Pt490

第1層 黄褐色土 10YR2/2 灰白色粘土粒(径~20m)3% ローム粒(径~2m)1% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt491

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径~5m)2% しまり有 粘土有 硬度やや有 シルト

Pt582

第1層 黄褐色土 10YR2/2 ローム粒(径~7m)5% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt583

第1層 黄褐色土 10YR2/4 ローム粒(径~6m)1% しまり有 粘土有 硬度やや有 シルト

Pt584

第1層 黄褐色土 10YR2/1 ローム粒(径~8m)1% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt585

第1層 黄褐色土 10YR4/4 ローム粒(径~2m)10% しまり有 粘性有 硬度なし シルト

Pt586

第1層 黄褐色土 10YR2/2 灰白色粘土粒(径~3m)1% ローム粒(径~6m)2% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt585

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径~2m)10% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt586

第1層 黄褐色土 10YR2/2 ローム粒(径~10m)5% しまり有 粘土や中骨 硬度有 シルト

ピット群図⑪

Pt483

第1層 黄褐色土 10YR2/2 ローム粒(径~2m)1% しまり有 粘性有 硬度有 シルト

Pt484

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径~2m)2% しまり有 粘性有 硬度有 シルト

Pt484

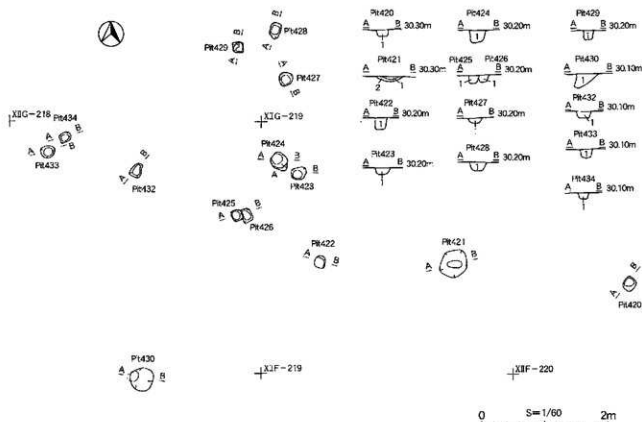
第1層 黄褐色土 10YR4/4 ローム粒(径~5m)5% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt484

第1層 暗褐色土 10YR3/2 ローム粒(径~4m)1% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

図48 ピット群図⑩、⑪

ビット群図②・③・⑦



ビット群図②

- Pr427
第1層 黒褐色土 10YR2/2 10μm粒(厚～2mm)5% しまり有 粘性有 硬度中やや有 シルト
- Pr428
第1層 黒色土 10YR2/1 10μm粒(厚～2mm)2% しまり有 粘性極めて有 硬度なし シルト
- Pr429
第1層 黒褐色土 10YR2/2 10μm粒(厚～8mm)2% しまり有 粘性やや有 硬度有 シルト

ビット群図③

- Pr421
第1層 黒色土 10YR2/1 10μm粒(厚～5mm)1% 焼七粒(厚～9mm)1% しまり有 粘性有 硬度中やや有 シルト
- 第2層 におい散雑土 10YR5/4 しまり有 粘性極めて有 硬度有 シルト

ビット群図⑦

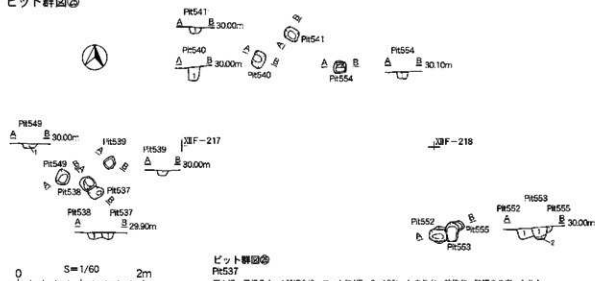
- Pr422
第1層 赤色土 10YR2/1 10μm粒(厚～10mm)5% しまり有 粘性極めて有 硬度有 シルト
- Pr423
第1層 黒褐色土 10YR2/2 10μm粒(厚～3mm)3% しまり有 粘性有 硬度有 シルト
- Pr424
第1層 黒褐色土 10YR2/2 10μm粒(厚～5mm)5% しまり有 粘性有 硬度有 シルト
- Pr425
第1層 赤色土 10YR2/1 10μm粒(厚～2mm)1% しまり有 粘性極めて有 硬度中やや有 シルト
- Pr426
第1層 黒褐色土 10YR2/2 10μm粒(厚～3mm)3% しまり有 粘性有 硬度中やや有 シルト
- Pr430
第1層 黒色土 10YR2/1 10μm粒(厚～5mm)1% しまり有 粘性有 硬度中やや有 シルト
- Pr432
第1層 黒褐色土 10YR2/1 10μm粒(厚～1mm)1% しまり有 粘性有 硬度中やや有 シルト
- Pr433
第1層 黒褐色土 10YR2/2 10μm粒(厚～12mm)2% しまり有 粘性有 硬度中やや有 シルト
- Pr434
第1層 黒褐色土 10YR2/2 しまり有 粘性有 硬度中やや有 シルト

ビット群図⑦

- Pr420
第1層 黒褐色土 10YR2/1 10μm粒(厚～10mm)10% しまり有 粘性極めて有 硬度中やや有 シルト

図49 ビット群図②、③、⑦

ピット群図②



ピット群図②

Pt537

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~3cm)2% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt538

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~3cm)5% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt539

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~5cm)5% しまり有 粘性極めて有 硬度なし シルト

Pt540

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~18cm)20% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt541

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~5cm)1% しまり有 粘性有 硬度なし シルト

Pt549

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~2cm)2% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt552

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~5cm)3% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt553

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~5cm)1% しまりやや有 粘性有 硬度やや有 シルト

第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム状(厚~2cm)5% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

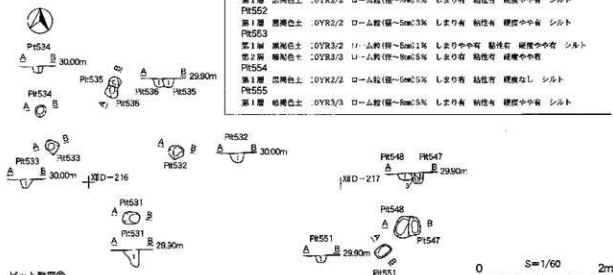
Pt554

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~6cm)5% しまり有 粘性有 硬度なし シルト

Pt555

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム状(厚~8cm)5% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

ピット群図③・④



ピット群図③

Pt531

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~1cm)1% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt532

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム状(厚~2cm)10% しまりやや有 粘性やや有 硬度やや有 シルト

Pt533

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~15cm)1% しまり有 粘性有 硬度有 シルト

Pt534

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~4cm)2% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt535

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(厚~12cm)16% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt536

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム状(厚~15cm)40%下部ほど多い しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt547

第1層 黒褐色土 10YR2/1 ローム状(厚~3cm)1% しまり有 粘性有 硬度なし シルト

第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム状(厚~20cm)60% しまりやや有 粘性やや有 硬度なし シルト

第3層 暗褐色土 10YR3/2 ローム状(厚~20cm)10% しまりやや有 粘性やや有 硬度なし シルト

Pt548

第1層 褐色土 10YR4/4 ローム状(厚~20cm)50%褐色土 しまりやや有 粘性有 硬度やや有 シルト

Pt551

第1層 黒褐色土 10Y2/1 ローム状(厚~3cm)10% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト

図50 ピット群図②、③、④

第4節 遺構外出土遺物

集石 (図51・52)

XⅡD・XⅡE-222・223グリッドで表土除去後、ほぼ同一レベルで多量の礫の出土が確認された。確認された範囲は長さ8m、幅1mで、特にXⅡE-222グリッドにまとまって出土している。長軸方向は北東-南西方向である。特に意図的に並べられたような部分は確認できず、集石として遺物集中区の扱いとした。

出土層位は基本層序第Ⅱ層に集中している。周辺にはローム粒が混入した黒色土を覆土に持つ、不整形のビット列が見られた。特に集石北側では、全体的に基本層序第Ⅳ層であるローム層まで大きく掘り込み、更にビット列が掘り込まれている部分が見られる。これらは調査以前の畑作等に伴う耕作痕であると思われる。これらの軸方向は集石の方向にほぼ水平、もしくは垂直に位置している。集石の長軸延長上には耕作痕が存在していないことから、この部分が畑地間の畦として機能していた事が想定される。そして耕作時に掘り起こされた不用の礫が、畦部分に集められて集石が形成された可能性も考えられる。

出土した遺物は総数235点、総重量91.84kgであった。内容は縄文時代の所産と思われる石器が計7点、それ以外はすべて自然礫であった。出土石器の器種としては台石・石皿が中心で、ススや赤色物質が付着している。S1は磨凹石でほぼ全面磨痕が見られるが、片面と一側面に浅い凹みを持つ。S2は残存する表面の片側半分にススが多量に付着している。S3～5は平坦面を持つ石皿で、残存する平坦面には磨痕が明瞭に見られる。いずれも石質は安山岩である。S6は両面と一側面に赤色物質の付着が見られる。S7は片刃がつけられるように磨痕が確認される。

時期比定に関しては根拠となる遺物が存在しないことから、詳細は不明である。

縄文土器 (図53～62)

1～5は胎土に繊維を含む。口縁部には燃糸側面圧痕、胴部には無節縄文、単節縄文、単軸絡条体等による施文が施される。縄文時代前期末葉、円筒下層d式に比定される。

6は横方向に単軸絡条体の側面圧痕を施す。縄文時代中期前葉、円筒上層式に比定されるものと思われるが、詳細は不明である。

7は縦方向の縄文施文上に沈線でJ字文を描き、内部を磨り消している。縄文時代中期末葉の所産と思われる。8、9は深鉢底部に網状痕が観察できる。詳細な時期比定は困難であるが、胎土からは縄文時代中期末葉から後期初頭の所産と思われる。

10～46は縄文時代後期初頭から前葉の所産と思われる。10～12は縄文地上に沈線文を施文する。縄文時代後期初頭の所産と思われる。13～19は肥厚口唇下に縄文帯が巡り、沈線と磨消により施文される。20～32は沈線のみによる施文がなされる。22は沈線間に櫛歯状工具による条線が充填される。33～41、46は単軸絡条体第5類による網目状燃糸文が施される。口唇部形態には様々見られるが、折返口縁が多く見られる。42は口唇下に燃糸施文が施される。43は単軸絡条体第1類を縦方向に施文している。44、45は肥厚した口縁部に単節縄文を施文している。46は網目状燃糸文と思われるが、施文が粗く、明瞭に網目になっていない。縄文時代後期前葉の所産と思われる。

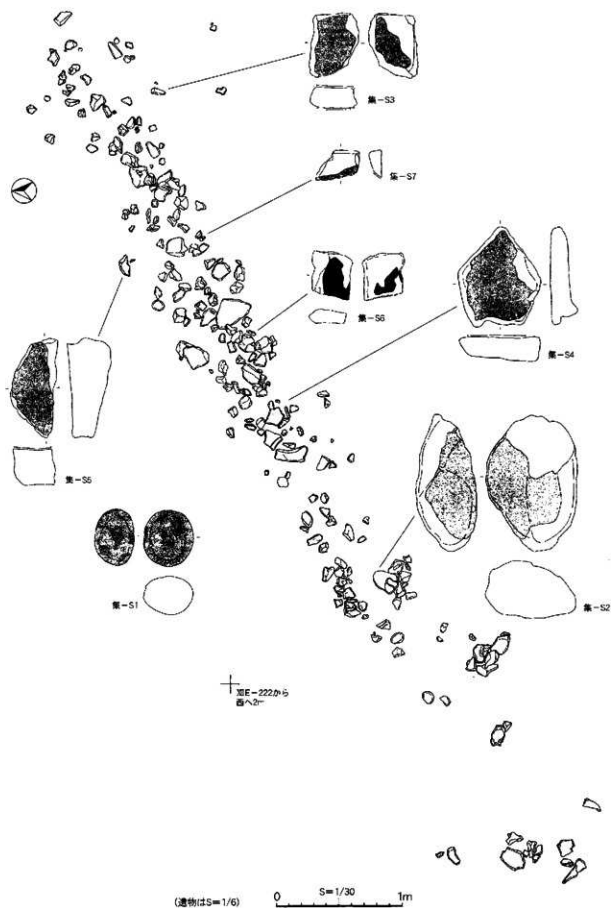


図51 集石

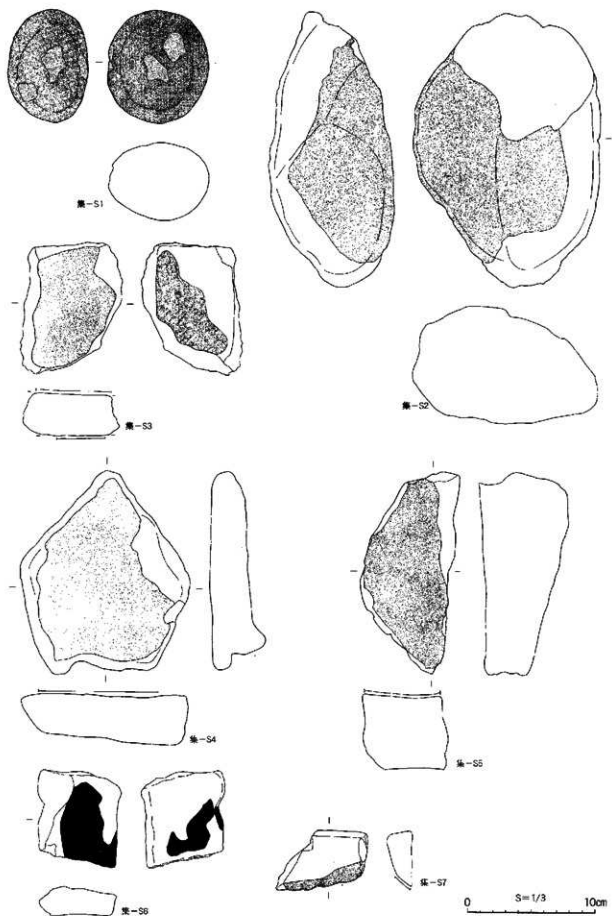


图52 兼石出土石器

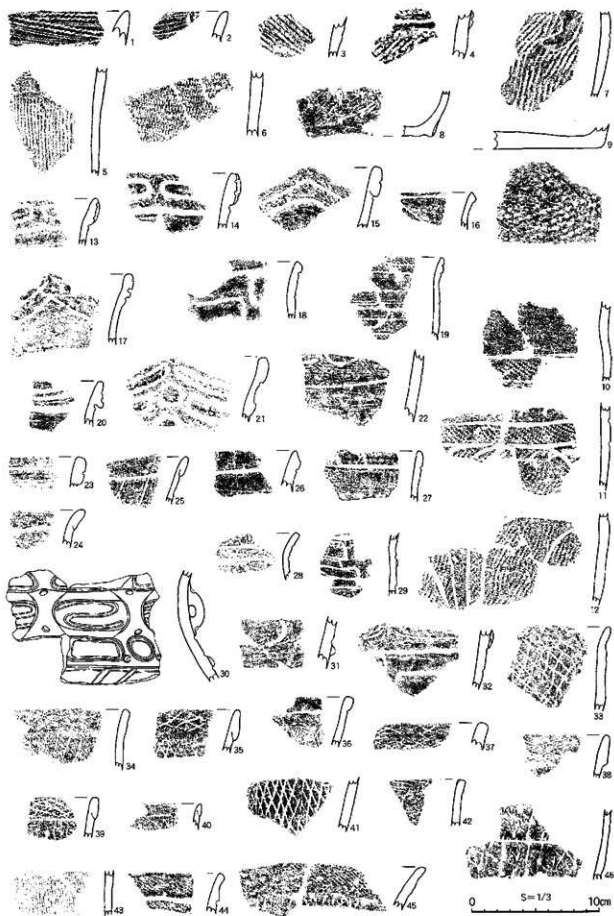


图53 E区遺構外出土土器 (1)

47～48はいずれも口唇部下に縦方向の刻目列を作成する。47は平口縁で、口唇下に2列の刻目列が施文される。下部は横ナデ調整がなされ、無文となっている。48は非常に厚手で、外側に張り出す隆帯上に刻目列が施され、下部は横方向のナデ調整となっている。刻目列の特徴からいずれも縄文時代後期中葉～後葉にかけての所産と思われる。

49～234は諸特徴から、縄文時代後期後葉の所産と考えられる。E区遺構外出土土器の主体を成している。

49～52単口土器と思われる。49、50は同一個体で、紐状入組文が施されている。入組文の屈曲部には貼瘤が施されるが、一部には先端の鋭利な棒状工具による刺突が観察され、瘤を作成する際の目安がそのまま残された可能性が考えられる。53、54、56、57は注口土器と思われる。胴部には幅の細い紐状入組文が施文される。55は壺が注口の胴部で上面に短沈線が施された横長の突起が貼り付けられる。58～60は幅の細い紐状入組文が施文される深鉢である。61～67は平行帯縄文が施文される深鉢もしくは壺か注口である。65は口唇部上の突起外面にV字状の短沈線が施される。縄文帯には瘤状突起が貼り付けられる。68～74は鉢もしくは壺か注口で、変形木葉状帯状文が施文される。71は内外面に瘤状突起が貼り付けられていた痕跡が見られる。75～79は深鉢で、瘤状突起を起点にして木葉状入組文が施文される。75の胴部屈曲は内面に稜線がつくほど明瞭ではない。木葉状帯状文の中央にはスリット状の沈線が施され、その部分で縄文の原体が変化し、羽状縄文となる。80、81は深鉢で、波状口縁で口唇下に縄文帯が巡る。81は頂部の突起内面に刻目が施され、その直下に瘤状突起が貼り付けられる。82～87の瘤状突起はいずれも入組文の起点部分に貼り付けられている。88には橋状突起が貼り付けられる。89～96は口唇部下から平行沈線が施文され、瘤状突起が縦に2、3個並べて貼り付けられている。94の口唇部に付く大型突起は上方ではなく外面を向くように貼り付けられている。上面には刻目が施される。97～100は壺もしくは注口で、97、99は屈曲部と思われる。隆帯が平行に巡り、その上面に沈線や瘤状突起が施文される。98、100は注口土器で、98は平行帯縄文の磨消部分に瘤状突起列が、100は連結帯縄文が施文される。

101～107は同一個体であると思われる注口土器である。いずれも摩滅が進んでいるが、器表面には一部に赤色顔料が残存している。口唇部の突起は外面に向かって張り出しており、大小が存在する。胴部上半部には瘤状突起橋状突起を起点にして沈線で木葉状入組文が施文されている。胴部最大径の部分には平行沈線上に大き目の瘤状突起が列となって貼り付けられるが、胴部上半部には粒状突起が貼り付けられている。105は大き目の粒状突起に上部から棒状工具で刺突されている。

108～118は注口部分のみ残存していたものを提示した。いずれも摩滅や剥落が目立つものが多い。108、109は基部付近に沈線を巡らし、沈線間に縄文を施文している。110、111、113は基部付近に沈線のみで施文している。112、114～118は無文となっているが、116、117は基部が大きく欠損しているため、何らかの施文が施されていた可能性もある。116、117以外で突起が貼り付けられるが、瘤状突起や粒状突起など様々で、貼り付ける位置も上部と下部が多いが、113のように両側面に貼り付けられるものもある。

119～121は口唇部下の貼瘤上部に、縦方向の刻みを施している。波状口縁頂部は上面からの刻みとなっている。胴部には羽状縄文が施文される。122、123は波状口縁の口唇部下に貼瘤のみが見られる。124は小型鉢で4条の横走沈線が施文される。125は壺もしくは注口の頸部で平行沈線上に粒状

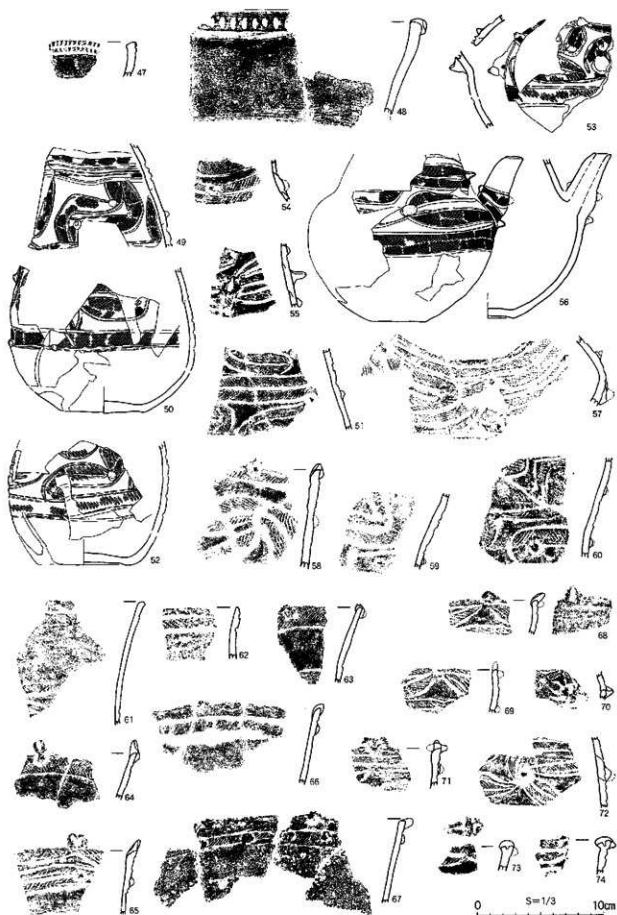


図54 E区遺構外出土土器 (2)

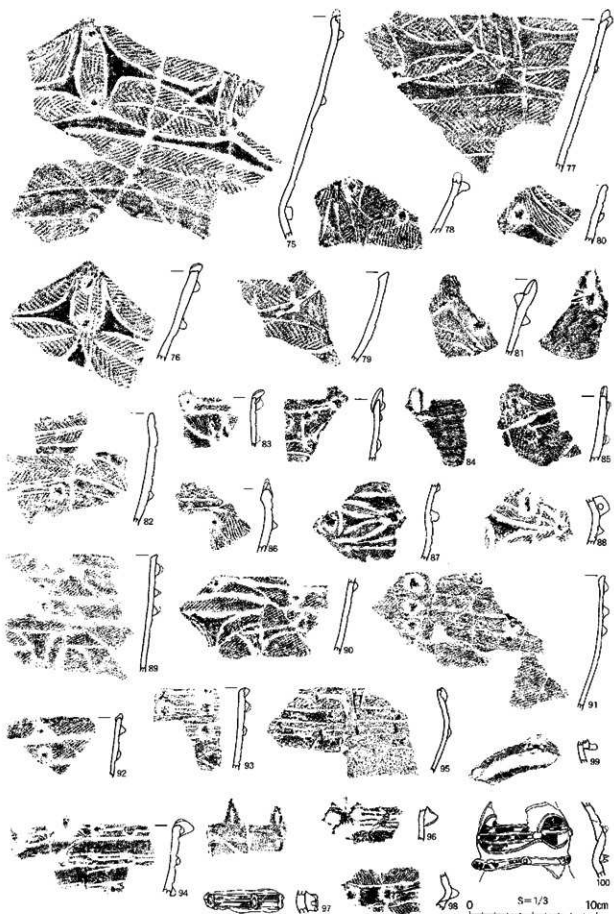


图55 E区遺構外出土土器 (3)

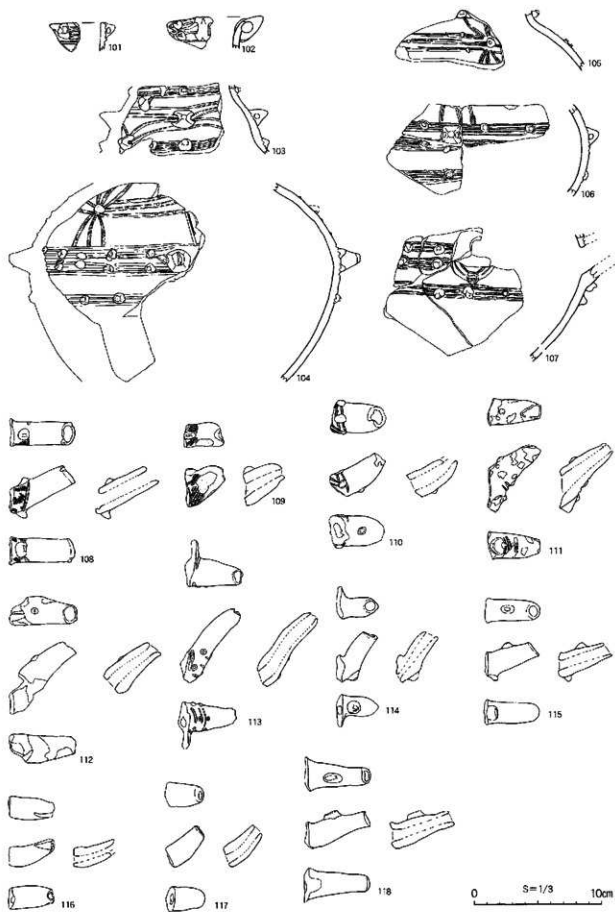


图56 E区遺構外出土土器 (4)

突起が施文される。126、127は注口土器の胴部と思われる。3本1単位の樽掛状櫛描文が施文される。128～130は屈曲を持つ深鉢と思われるが、128は櫛状の突起、129は円筒形の瘤状突起上を棒状工具による刺突が施されている。

131～144は口唇部に突起を持つ深鉢である。口唇部に一定間隔で台形上の突起を巡らし、外面に貼瘤を施文する。地文は羽状縄文が大半を占める。突起は上方に向かって立ち上がる。146、147は胴部破片であるが胴部の屈曲部に突起を持ち、上面から刻みが施されるという共通の手法を用いている。

148～188は地文に羽状縄文を施文する鉢、深鉢、台付鉢である。いずれも縄文時代後期後葉の所産であると思われる。口唇部断面形態は内削ぎになっているものが多い。また羽状縄文は単節RLと0段多条LRの組み合わせが多くみられる。175～177は口縁部が内湾しやや特異である。187は台部に羽状縄文が施文される。185は深鉢の胴下部～底部で、胴部中央に羽状縄文と平行沈線が施文される。186、197は台付鉢と思われる。口唇部断面形は内削ぎで、内側に肥厚する。

189は外面に横方向の条痕が施される深鉢と思われる。F区の67、68と類似する。

190、191は壺の口縁部である。190は口唇部下に羽状縄文帯と瘤状突起が施文される。191は無文であるが外面は丁寧なナデが施され、胎土も精製され堅緻に焼成されている。

192～196は無文の注口土器である。胴部最大径に上面に短沈線が施文された横長突起が貼り付けられるものが多い。196は突起裏側にも刻みを持つ。

198～218は無文の深鉢、鉢である。口唇部形態は短く強い外反を呈するものが多く、口唇部断面形が内削ぎのものも多くみられる。207は胴部に輪積みを指で抑えた調整痕跡が明瞭に残る。218は口唇部に上面から刻んだ瘤が施される。

219～227は無文の台付鉢の台部である。239は胎土がやや砂質で焼成が軟質、225は台部に細い隆帯が2条巡る。隆帯の脇は棒状工具で押さえており、平行沈線が巡るようになっている。

228～234は鉢、壺、注口土器の底部である。いずれも縄文時代後期後葉の所産と思われる。

235～239は縄文時代晩期の所産である。235は羊歯状文が施文され、縄文時代晩期前葉の所産と思われる。236は口唇内面に平行沈線が、外面に4条の平行沈線が施文される。晩期中葉の所産と思われる。237～238は鉢の胴部破片で、上部に平行沈線が数条巡る。239は深鉢の胴～底部で、胴下部に2条の平行沈線が巡る。いずれも晩期中葉～後葉の所産と思われる。

240～250は縄文施文のみの深鉢で、所産時期は縄文時代晩期と思われる。247、248は斜方向に地文を施文し、口唇部を指で押さえ小波状口縁となっている。

251、252は台付鉢、253は壺、255は蓋、256は香炉形のミニチュア土器と思われる。

254は弧状の沈線間に粒状突起が貼り付けられる。両端に痛み上げられたような外反が見られる。装飾品のような土製品である可能性もあるが、不明である。

文化遺物（縄文時代）（図62）

257は先端が三又に分かれるように突起状の張り出しが作出されている。胎土には砂粒を若干含むが、外面は丁寧にミガキ調整がなされている。剥片石器に見られる石偶の模倣とも思われるが、詳細は不明である。

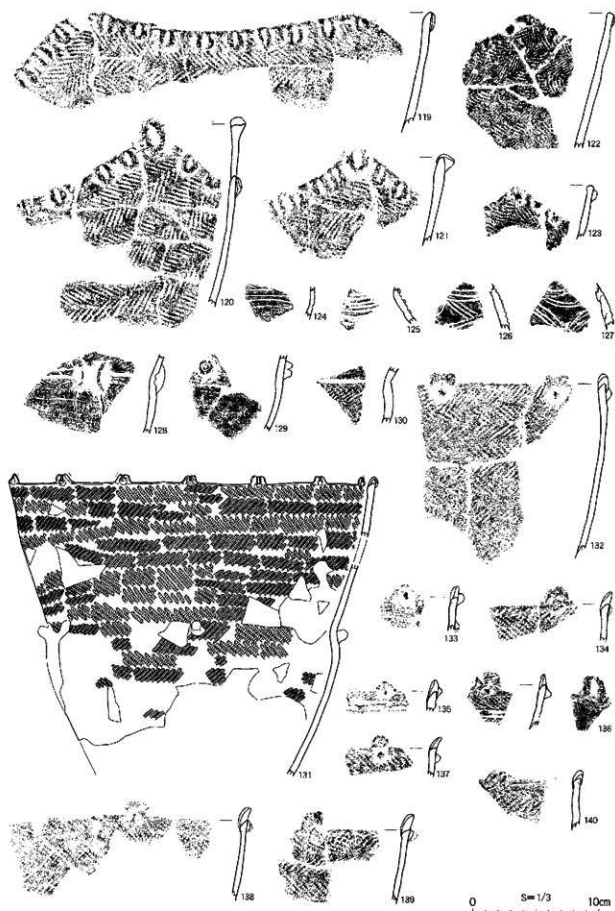


图57 E区遺構外出土土器(5)

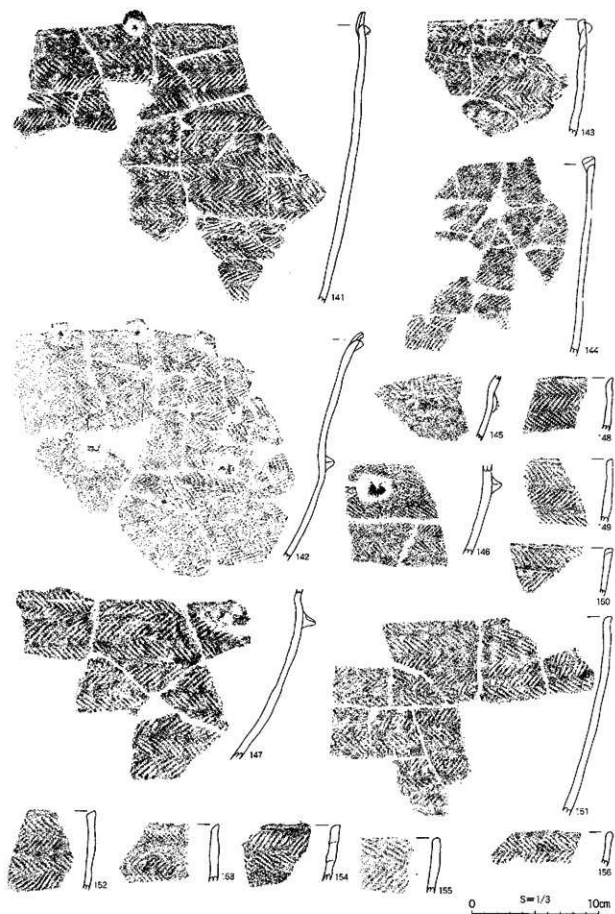


图58 E区遗址外出土土器 (6)

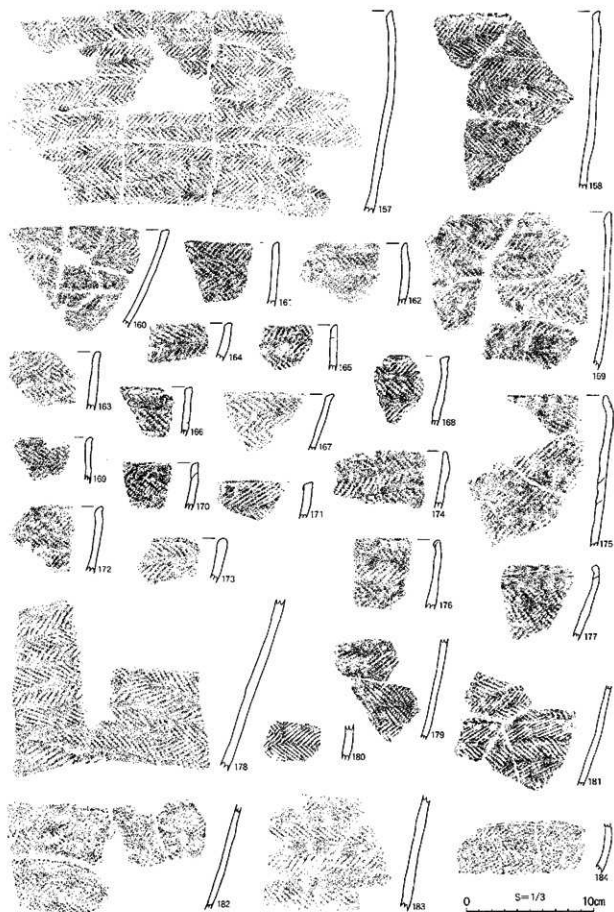


图59 E区遺構外出土土器(7)

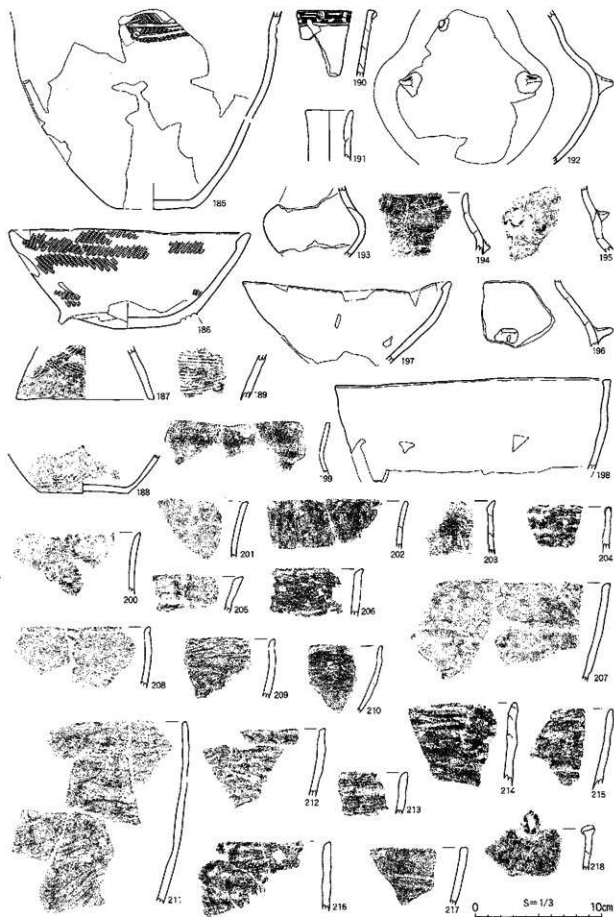


图60 E区遺構外出土土器(8)

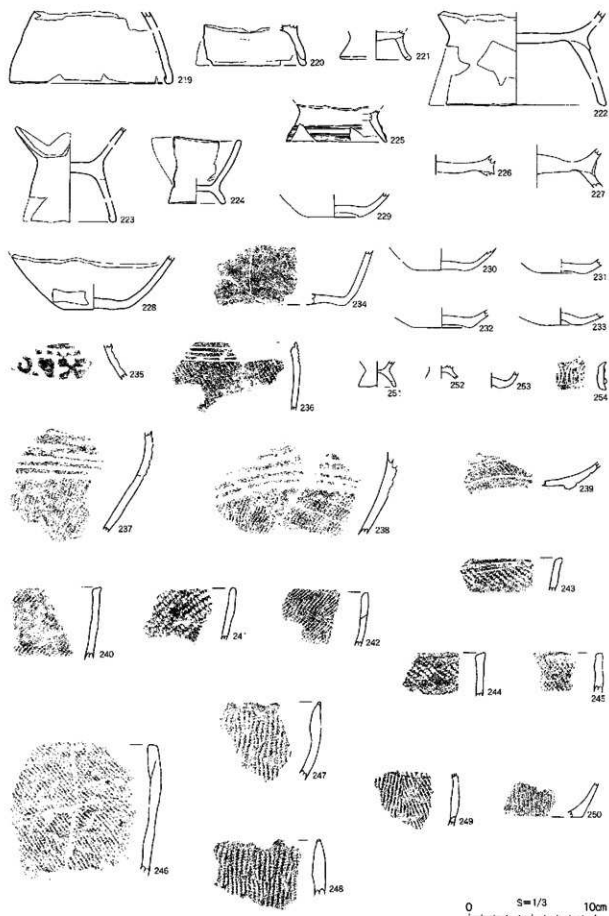


图61 E区遺構外出土土器(9)

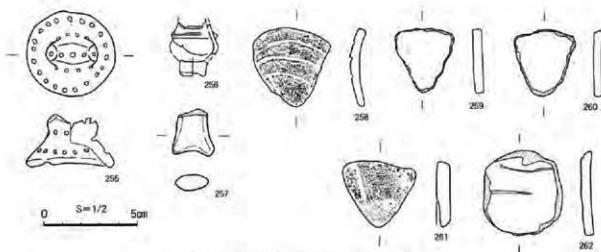


図62 E区遺構外出土土器 (10)・土製品

258～262は土器片利用土製品である。いずれも土器の破片を打ち欠いて三角形、もしくは不整円形に成形されている。表面の文様は無文が多く、258は沈線で弧状に文様がつけられている。262が円形に近いが、その他は三角形である。摩滅が進んでいるため、断面の磨痕は明確に確認できなかった。胎土や文様から所産時期は縄文時代後期前葉であると思われる。

石器 (図63～67)

S1～19・S21・S23は石鏃である。基部が残るものは、S21を除きすべて有茎か凸基様であり、いずれも着柄部方向は尖頭状を呈する。S21は無茎平基の基部を呈する。表採品であるが、唯一の黒曜石製である。他はすべて、珪質頁岩もしくは玉髓質珪質頁岩が利用されている。S5は器面中央に鳥状の高まりが残る。S13は基部付近にタール状の黒色物質が残存する。S14は被熱により表面のハジケが両面に見られる。S23は石鏃の基部側を欠損する。S24は、横長剥片の両面の周縁に二次加工が施されたもので、石鏃の未製品と考えられる。

S20およびS22は石鏃もしくは石錐と考えられる。S20は両面に広く、主要剥離面または先行する剥離面を残し、先端部をいびつな形で残す。S22は、石錐またはF区遺構外出土のS4(図85)の石鏃(?)基部様部分に類似する。石錐にしては二次加工が非常に細かく、錐部の厚みが薄く、また石鏃の基部にしては長すぎるという特徴を有している。

S25は明瞭な摘みを有する石錐で、錐部の先端部を欠損する。

S26は弧状の刃部を有する筥状石器である。片面は全面調整、片面は周縁のみ加工し、中央部に先行する剥離面を残す。

S27～40は石匙である。石匙の縦形・横形の分類は、剥片石器の実測を委託した(株)アルカの池谷勝典氏の見解によるものである(※)。池谷勝典氏による当遺跡出土石匙の観察によれば2種類の形態が認められる。一つは、石器の対称軸線上に摘みがくるか、両側辺に刃部が整形される「縦形石匙」であり、もう一つは、摘みの位置が対称軸から大きくずれるか、刃部がどちらか一方の長い辺に整形される「横形石匙」である。さらに池谷氏によれば、剥離技術は、刃部および整形加工にSPを用いて、摘み部の抉り加工には間接打撃のSIあるいはHIを用いるものが主体である。

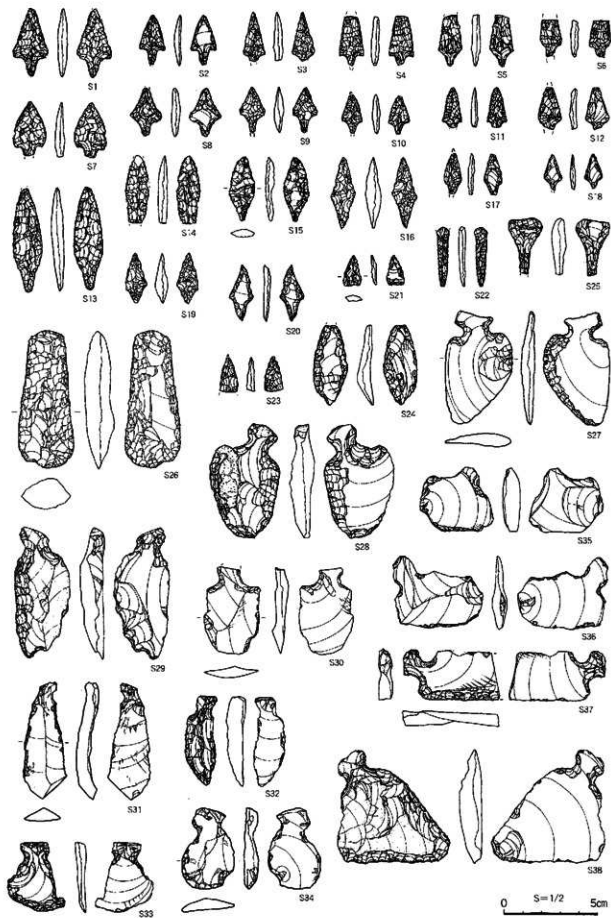


图63 E区遺構外出土石器(1)

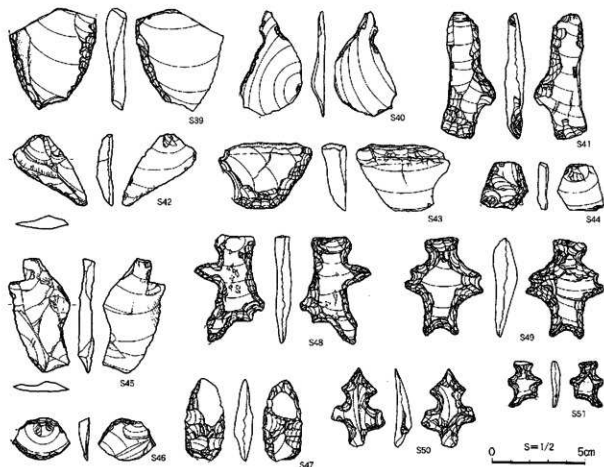


図64 E区遺構外出土石器(2)

S27は横長剥片利用の縦形石匙で、自然面が片面を成し、その面の一側縁にのみ、連続的な二次加工が施され、腹面側には打点部分除去の為の二次加工のみが確認される。背面に一部自然面が残る。S28は縦長剥片利用の縦形石匙で、背面側両側縁と腹面側一側面に連続的な二次加工が施される。S29はやや粗雑なつくりの縦形石匙である。片面には連続的な二次加工が施され使用痕の可能性のある微細剥離がみられるのに対し、もう一面には雑で大きな稜の高い剥離面が連続して見られる。S30は背面側に僅かに二次加工が見られ、腹面側には若干の微細剥離が認められる縦形石匙である。S31~33・S37は、縦長剥片利用の縦形石匙である。S31~33・S37は片面にのみ二次加工が見られる。S34は、打点の反対側の厚みが残る一側縁に、握み部を作出し、両面に二次加工が施されている。

S35~38は、縦長剥片利用の横形石匙である。S36は刃部の一端に打点を残す。握み部は簡略的となっており、本遺跡で確認される特徴として、これまでの報告において指摘されている。すべて片面側のみ二次加工を施す。S39は背面側両側縁と腹面側一側縁に連続的な二次加工が施されるスクレイパーと考えられるが、石匙の破損品の可能性もある。S40は腹面側の一側辺にのみ二次加工が施されている。

S41は、素材剥片の打点と反対側に、急角度の刃部を有し、一側辺に両面側から連続的な二次加工が加えられるものである。S42~46はスクレイパー類とした。中でもS43とS44は、急角度の刃

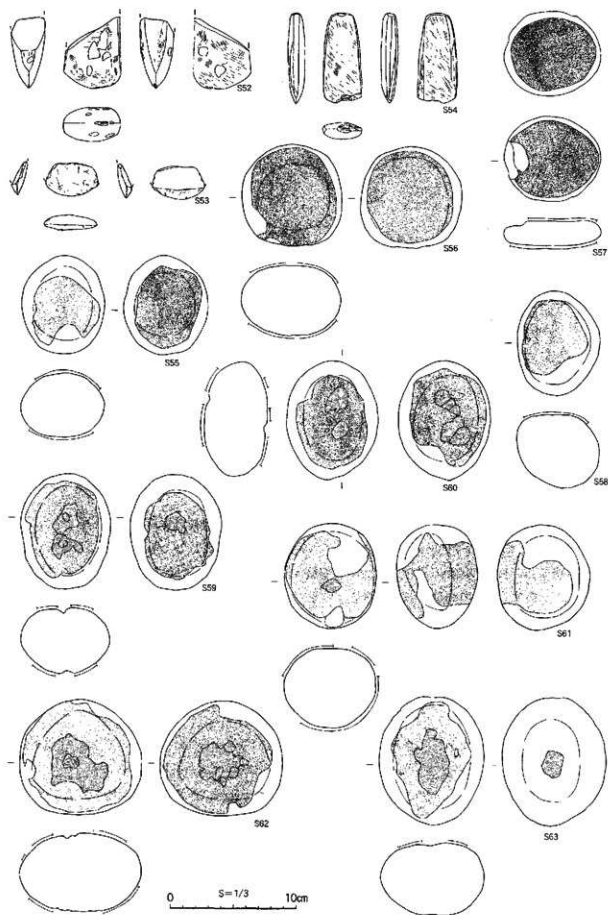


图65 E区遗址外出土石器(3)

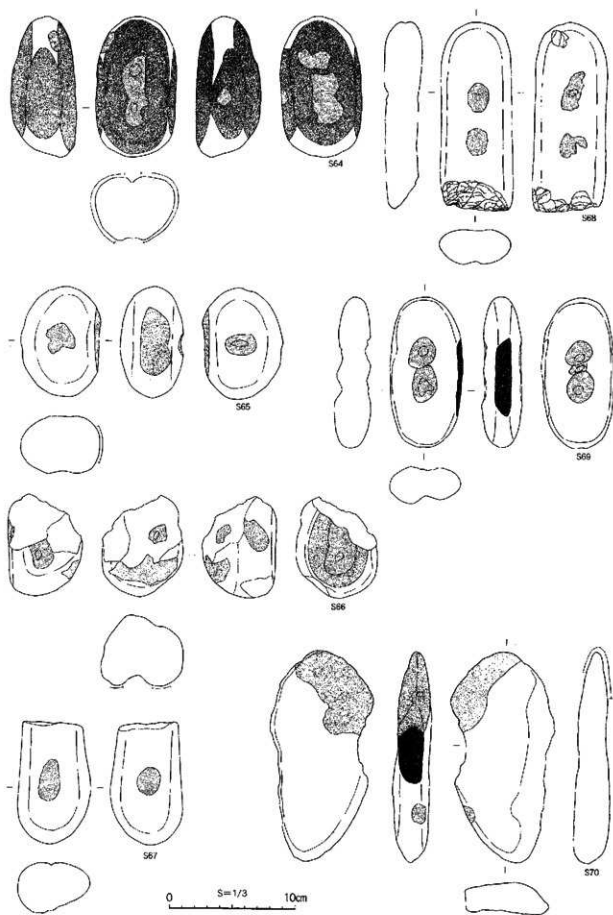


图66 E区遺構外出土石器(4)

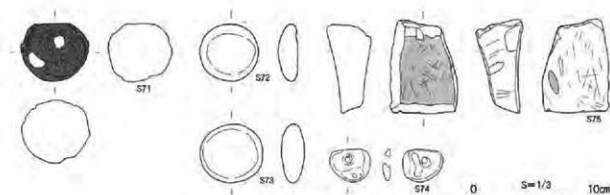


図67 E区遺構外出土石器(5)

部を一辺に有するものである。S47は被熱によるハジケによって欠損する部分が見られ器種は不明であるが、尖頭状の加工を意図したものであろうか。

S48～51は、所謂異形石器である。S48・S49・S51は、石偶と呼称しても差し支えないものと思われる。3点共、両面の周縁を整形加工されている。また、同様の形態の頭部らしき部分を作り出してあり、作り手による明確な意図がうかがわれる。池谷氏によれば、S48・S49は、SPによる剥離技術が優位を占める当遺跡では珍しくHPによる剥離が行われており、形態は異なるが大きさも近似しており、剥離技術の一致は、同じく作り手による明確な作り分けを示唆する。S49は左右対称形をなし、一眼手に見える部分は両側共二又に分かれる。S51は他の2点より一回り小型になり、片方の足に相当する部分を欠く。またS48は同方向の片手と片足に相当する部分を欠くが、少なくとも片手部分は当初から無かったか、欠損後に調整が加えられたものである。他の部分は、本来より無かったか、破損によるものかの判断は出来ない。S50は石態状の尖頭部を一角に作出し、その基部側4ヶ所にノッチ状の加工を加え、十字形を呈している。

※ 角張淳一氏は、剥離を行う対象となる石材より硬質のハンマーをH、石材より軟質のハンマーをSで表記する。ハンマーの当て方において、直接打撃をD、間接打撃をI、押圧剥離をP、両極剥離をBと表記する。よって剥離の種類を決定付ける大きな要因となるハンマーと当て方の組み合わせの主なもの、次のように表記される(角張2001)。

HD(硬質ハンマーによる直接打撃)、HI(硬質ハンマーによる間接打撃)、HP(硬質ハンマーによる押圧剥離)。

SI(軟質ハンマーによる間接打撃)、SP(軟質ハンマーによる押圧剥離)

S52～54は磨製石斧である。S52、53はいずれも刃部付近のみ残存している。刃部の擦痕は水平方向に近い斜方向である。S54は小型で、ほぼ全面に擦痕が残る。

S55～71は敲磨器類である。S55～57は両面に、S58は片面にのみ磨痕が残される。断面形は円形に近い楕円形のものから、薄い板状までである。S59～66は磨痕と凹みが残る磨凹石である。断面形は薄手の板状のものは見られず、楕円形のもの多数である。磨痕は両面に残るものが半数を占める。S66は約3分の1を欠損しているが、欠損面にも凹みが残される。S67は凹石で、両面に一箇所ずつ凹みが存在する。S68は長楕円形の礫に両面二ヶ所の凹みを有するが、先端部を斧もしくは盤のように用いた敲打痕が見られる。大きく開いた面には比較的小さな剥離が全面に見られ、調整のために打ち欠いた可能性がある。反対の面は使用時の剥離と思われる小さな剥離のみ見られる。S69は敲凹石で、両面に細長く連結した凹みを持ち、一側面に浅い敲打痕が残る。S70は一端の角が

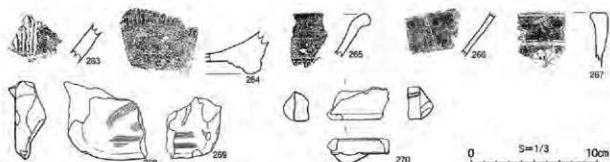


図68 E区遺構外出土陶器・土器 (11)

鋭角になっており、両面に磨痕が見られる。一側縁に敲打痕が見られ、挟りが入る状況である。

S71は円礫を用いており、ほぼ全面に敲打痕を持つ。

S72、73は円形岩版に形態が類似するが、明瞭な磨痕は一部にしか確認されない。いずれも石質は凝灰岩である。F区出土資料同様、何らかの用途に用いられたものと思われる。

S74は穿孔のある礫である。やや斜めに開いた穴は人為的に穿孔されたものでは無く、自然に開いたものと思われる。器面は平滑であり、そのまま利用することが可能である。

S75は砥石である。表採であるため器表面が荒れているが、両面に使用に伴う磨痕が残る。刀傷のような痕が多くみられる。古代以降の所産と思われる。

陶磁器・土器 (図68)

263は楕鉢の胴部破片である。内面の卸目は6本確認できる。胎土等から珠洲焼と思われるが、詳細は不明である。264、265も楕鉢の破片である。卸目に関しては殆ど確認できないため不明である。胎土等から肥前産と思われる。266は薄手で硬質な焼成となっている。産地、所産時期等是不明である。267は火鉢の口縁部と思われる。口唇部は内側に張り出しており、外面に型押で菊花文が施文されている。268～270はいずれも焔炉の一部と思われる。268、269は火口の張り出し部分で、二次被熱による変色が見られる。270は底部に貼り付けられた脚部があり、内側から底部に向けて焼成前に穿たれた細い穴が確認できるが一部しか残存していないため、詳細は不明である。

文化遺物〔近世以降〕 (図69)

271～273は近世の所産と思われる人形である。271は髪を結った女性の前顔部分のみ残存している。272と273は七福神のような縁起物であると思われるが上部を欠損している。いずれも背面は残存しておらず、型打成形の痕跡が明確に観察できる。

274は胎土内にスサを多量に混入しており、被熱による変色が見られる。図示が可能なものはこの1点であったが、その他に胎土が脆く、小片になったものが多数存在する。以上の特徴からカマドの炉壁等火に関連する遺構の構築材、もしくは敷土として塗られたものが被熱によって崩落したものである。時期決定の根拠に乏しいが、概ね近世以降の所産であると思われる。

S75～77は黒色の珪質頁岩を用いた碁石と思われる。いずれも法量が類似している。表面は研磨による光沢を持つ部分がある。いずれも片面はほぼ平坦であるが、もう一面には若干の凹凸が見られ

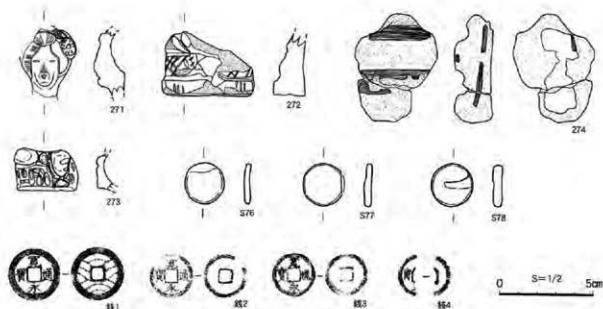


図69 E区遺構外出土土製品・石製品・銭貨

る。

銭1～4は銅製の寛永通宝である。いずれも文字の細かい部分は錆によって確認できないなど、遺存状況はあまり良好ではないが、全て新寛永である。銭1は十一波の四文銭である。銭2～4は無背の一文銭で、銭4は半分以上を欠損しているため詳細不明である。

遺構外遺物出土状況（図70）

遺物集中区

礎の集中区を集石として扱ったことは上述したが、集石の北西側で同様に表土除去を行ったところ、XⅡC～XⅡL-215～224の約40m四方の中に、比較的まとまった遺物の出土が見られた。特に南西側は浅い小谷状に低くなっており、基本層序第Ⅱ層が周辺に比べ厚く堆積していた。その他の部分は表土である基本層序第Ⅰ層の下に地山である第Ⅳ層がすぐに確認できる場所も存在する。遺物取上げは、基本的にグリッド毎に行なった。出土層位は上述のように浅い小谷状部分以外では基本層序第Ⅰ層からの出土が大半を占める。そのため、調査以前に行なわれていた畑地の耕作等により、廃棄された当初の位置からは移動したことが想定される。沢内に関しては多くの遺物がまとめて出土しているが、土器は脆くっており、地下水による影響が想定される。小片での出土であり、遺存状況は、あまり良好ではない。

XⅡG-219グリッド周辺には磨消と沈線による入組文や、地文に羽状縄文を施文する深鉢など、縄文時代後期後葉の土器がまとめて出土している。また、XⅡG-221グリッドからは縄文時代後期後葉の注口土器がまとめて出土している。約2m四方内にまとめており、まとめて廃棄されたものと思われる。いずれも出土層位は基本層序第Ⅱ層である。

出土土器の所産時期は縄文時代後期後葉が主体となっている。その他の時期も存在するが、縄文時代後期初頭から前葉にかけての時期の遺物が比較的まとまっている以外は散見されるのみである。

周辺地形や遺構分布から考えると、北側に位置する遺構群に伴う活動に伴って生じた廃棄物を、若

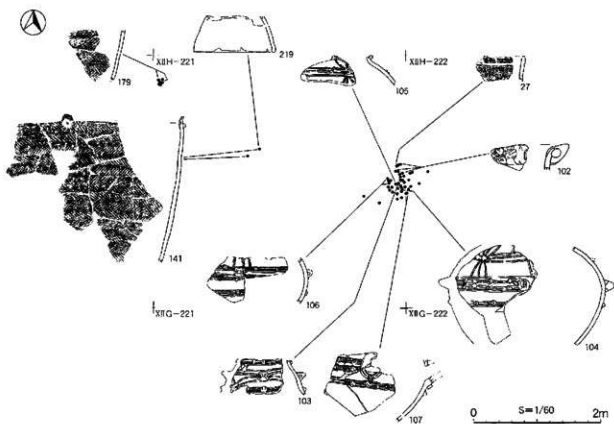
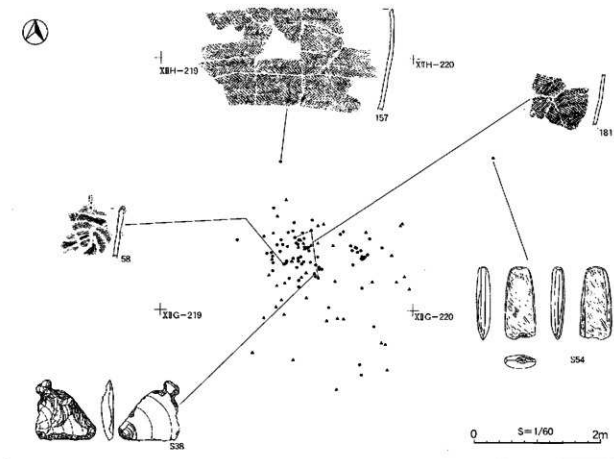


図70 E区遺構外出土遺物出土状況

干であるが低く窪んでいるこの地区に廃棄したものと思われる。

古代以降の遺物

陶磁器はまとまりなく様々な地点から出土している。出土層位はすべて表土層である基本層序第Ⅰ層である。土製品も点数は少ないが同様の分布を示し、出土層位は第Ⅱ層からの出土も見られる。古銭はすべて基本層序第Ⅱ層から出土している。出土位置はXⅡF～J-222～224グリッドと調査区東側にまとまっている。なお、提示していない近代の銭貨も4点出土しているが、1点の表採品を除き、XⅡJ-223～225グリッドからまとまって出土している。碁石はXⅡE-223、225、226グリッドとXⅡEラインにまとまって出土が見られる。

以上のように、出土位置に特別まとまりは見られず、出土量も散見される状況である。調査以前の状況が畑地、果樹栽培が行なわれていた状況から、近世、近代にかけて耕作等何らかの行為に伴って持ち込まれたものと思われるが、該当する時期の遺構は確認されておらず、詳細に関しては不明である。

(浅田 智晴)

第3章 F区検出遺構と出土遺物

今回、F区から検出された遺構は、竪穴遺構3基、土坑19基、溝跡2条、焼土遺構6基、ピット10基で、縄文時代～近代に属するものと思われる。その他、縄文時代の遺物集中区が3箇所検出されている。以下遺構毎に概要を記述する。

第1節 竪穴遺構

第201号竪穴遺構（図71）

〔位置・確認〕X S・T-220・221グリッドにかけて位置する。第Ⅲ層上面でロームブロックを多量に含んだ混土の広がりを確認した。

〔重複〕なし。

〔規模と形状〕長軸350cm、短軸216cmの長方形を呈し、確認面からの深さは46cmを計測する。長軸東側に出入り口状の張り出しを有する。張り出し部の規模は幅106cm、奥行き80cmを計測する。

〔堆積土〕24層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

〔内部施設〕壁際に40～50cm間隔で柱穴状のピットが計12基検出された。平面形は円形及び楕円形で円形ピットの直径は15～25cm、深さは底面から30～40cm、楕円形ピットは長径60～85cm、短径30～40cm、深さは底面から40～55cmを計測する。

〔その他の施設〕前述したように、長軸東側に出入り口状の張り出しが確認されている。張り出し部の段面形状は階段状を呈しており、確認面から1段目までの比高差は26cm、1段目から2段目は12cm、2段目から底面までは14cmを計測する。各段ともに明確な硬化面は認められなかった。また、底面からは炉跡のような焼土の堆積も認められなかった。

〔出土遺物〕底面付近から鉄鍋が1点正立状態で出土している。F1は一部欠損する。底部に足が3足認められる。厚さは2～4mmで、叩き出して作られている。釣り手部分は欠損しているため確認することはできない。また、図示できない磁器小片が1点出土している。詳細は不明であるが、幕末以降の所産である可能性が高い。

〔小結〕形状より竪穴建物跡と思われる。鉄鍋の製作技法や出土磁器から、明治以降の構築であると思われる。

（齋藤 正）

第202号竪穴遺構（図72）

〔位置・確認〕X I C・D-218・219グリッドにかけて位置する。第IV層上面でロームブロックを多量に含む混土の広がりを確認した。

〔重複〕なし。

〔規模と形状〕長軸322cm、短軸216cmの長方形を呈し、確認面からの深さは最大46cmを計測する。長軸西側に出入り口状の張り出しを有する。張り出し部の規模は幅122cm、奥行き130cmを計測する。

〔堆積上〕調査時の多量の降雨により観察用のベルトが崩壊したため詳細は不明であるが、第201号竪穴遺構同様に堆積の様相を呈していた。

〔内部施設〕長軸略際に40～50cm間隔で柱穴と思われるピットが計8基検出された。平面形は方形及び円形で、方形ピットの規模は一边10～20cm、深さは底面から30～40cm、円形ピットの規模は直径20～40cm、深さは底面から25～45cmを計測する。

〔その他の施設〕前述したように、長軸西側に入出口状の張り出しが確認されている。確認面から底面までの比高差は45cmで、第201号竪穴遺構のような階段状のテラスは認められなかった。また、底面での焼土の堆積は第201号竪穴遺構同様認められなかった。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

〔小結〕規模・形状より、第201号竪穴遺構同様明治以降の竪穴建物跡と思われる。

(笹森 一朗)

第203号竪穴遺構 (図72)

〔位置・確認〕XN・O-212～214グリッドにかけて位置する。第IV層上面でロームブロックを多量に含む混土の広がりを確認した。

〔重複〕なし。

〔規模と形状〕西側が調査区外に伸びているため全体形状は不明であるが、現存での長軸は640cm、短軸242cm、確認面からの深さは攪乱部を除くと最大28cmを計測する。

〔堆積上〕乗機によると思われる攪乱部を除くと18層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

〔内部施設〕検出されなかった。

〔その他の施設〕検出されなかった。

〔出土遺物〕覆土内から陶磁器片が6点出土している。いずれも小片であるため、4点のみ写真図版に掲載した。1、2は紙製摺絵の磁器片、3は小型の甕の頸部付近と思われる。4は内外面に灰釉が施された碗と思われる。いずれも小片であるため詳細は不明であるが、いずれも近世後半～近代にかけての所産と思われる。

〔小結〕竪穴状を呈しているが、柱穴等の内部施設が検出されなかったため、構築時期や機能等についても判断としない。

(笹森 一朗)

第2節 土坑

第273号土坑 (図73)

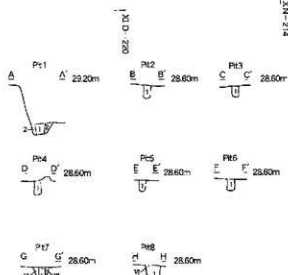
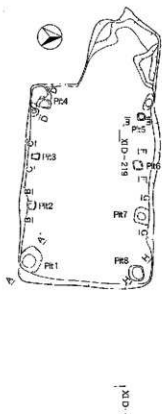
〔位置・確認〕XⅡA-225グリッドに位置する。黒色～黒褐色上の楕円形プランとして検出された。

〔重複〕確認されなかった。

〔平面形・規模〕平面形は不整楕円形を呈する。開口部の最大長68cm、最大幅53cm、底面の最大長49cm、最大幅30cm、深さ20cmを測る。

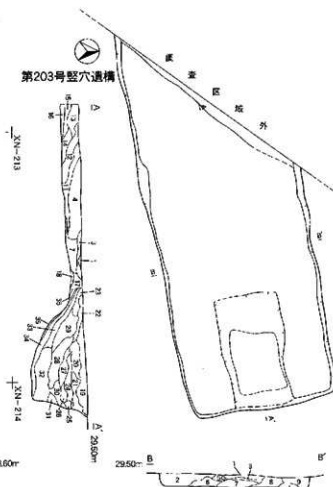
〔断面・底面〕壁は比較的緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

第202号竪穴遺構



Pt1	第1層 黒色土	10YR2/1	ロームブロック(厚1~3cm)20%	ローム殻(径~5cm)20%	しまりや 粘粒や中骨 シルト
Pt2	第2層 黒色土	10YR2/1	ローム/ブロック(厚3~5cm)70%	しまりや 粘粒や中骨 シルト	
Pt3	第1層 黒色土	10YR2/1	しまりや中骨 粘粒や	ローム殻(径2~3cm)10%	シルト
Pt3	第1層 褐色土	10YR2/1	ローム/ブロック(厚1cm)3%	ローム殻(径2~3cm)5%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト
Pt4	第1層 黒色土	10YR2/1	ローム/ブロック(厚2~3cm)30%	ローム殻(径2~3cm)50%	硬文状塊粒 しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト
Pt5	第1層 褐色土	10YR2/1	ローム/ブロック(厚1~3cm)3%	ローム殻(径1~3cm)10%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト
Pt6	第1層 黒色土	10YR2/1	ローム/ブロック(厚1cm)2%	ローム殻(径1~2cm)5%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト
Pt7	第1層 褐色土	10YR2/1	ローム/ブロック(厚1~3cm)2%	ローム殻(径2~3cm)2%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト
Pt8	第1層 褐色土	10YR2/1	ローム/ブロック(厚1~3cm)30%	ローム殻(径2~5cm)20%	硬文状塊粒 しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト

第203号竪穴遺構



第203号竪穴遺構

第1層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径3cm)2%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第2層	褐色土	10YR2/1	ローム殻(径5~10cm)40%	白色粘上ブロック(厚2~3cm)7%	
				硬文状塊粒 1% しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第3層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径2~10cm)7%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第4層	褐色土	10YR2/1	ローム殻(径7~10cm)30%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第5層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径1~3cm)20%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第6層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径2~5cm)10%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第7層	褐色土	10YR2/1	ローム殻(厚1~2cm)2%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第8層	褐色土	10YR2/1	ローム殻(径3cm)7%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第9層	褐色土	10YR2/1	ローム殻(厚2cm)2%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第10層	褐色土	10YR2/1	ローム殻(径1~5cm)2%	粘土塊粒(径5mm)1%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト
第11層	褐色土	10YR4/4	しまりや中骨 粘粒や中骨 褐色ローム主体		
第12層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径3~10cm)70%	しまりや中骨 粘粒や中骨 塊粒や中骨 シルト	
第13層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径5cm)70%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第14層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(厚1~10cm)30%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第15層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径5~10cm)30%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第16層	褐色土	10YR2/4	しまりや中骨 粘粒や中骨 褐色ローム主体		
第17層	褐色土	10YR2/1	ローム殻(径3~10cm)40%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第18層	褐色土	10YR2/5	しまりや中骨 粘粒や中骨 褐色ローム主体		
第19層	褐色土	10YR4/4	しまりや中骨 粘粒や中骨 褐色ローム主体		
第20層	褐色土	10YR2/1	しまりや中骨 粘粒や中骨 ローム/ブロック(厚5cm)20%	ローム殻(径10~15cm)2%	
				硬文状塊粒 1% しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第21層	褐色土	10YR2/1	ローム殻(径2~3cm)2%	硬文状塊粒 1%	
				しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第22層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径2~10cm)15%	白色粘上ブロック(厚2cm)5%	
				しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第23層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径2~10cm)30%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第24層	褐色土	10YR3/2	ローム殻(径2~10cm)10%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第25層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(厚1~3cm)15%	硬文状塊粒 1%	
				しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第26層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径2~5cm)25%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第27層	褐色土	10YR2/1	ローム殻(径1~3cm)3%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第28層	褐色土	10YR2/1	ローム殻(厚1~10cm)30%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第29層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径2~10cm)50%	硬文状塊粒 1%	
				しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第30層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径2~10cm)50%	硬文状塊粒 1%	
				しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第31層	褐色土	10YR2/1	ローム殻(径1~2cm)5%	硬文状塊粒 1%	
				粘粒や中骨 シルト	
第32層	褐色土	10YR3/1	ローム殻(径1~10cm)50%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第33層	褐色土	10YR2/1	ローム/ブロック(厚3cm)15%	ローム殻(径2~3cm)10%	
				硬文状塊粒 1%	
				しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第34層	褐色土	10YR3/2	ローム殻(径2~10cm)20%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第35層	褐色土	10YR2/2	ローム殻(径3cm)5%	しまりや中骨 粘粒や中骨 シルト	
第36層	褐色土	10YR4/3	しまりや中骨 粘粒や中骨 ローム主体		

図72 第202・203号竪穴遺構

〔堆積土〕 3層に分層された。いずれも自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 時期比定の根拠に欠けており、不明である。

(浅田 智晴)

第274号土坑 (図73)

〔位置・確認〕 X I T-226グリッドに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして検出された。

〔重複〕 確認されなかった。

〔平面形・規模〕 平面形は不整隅丸方形を呈する。開口部での最大長100cm、最大幅52cm、底面の最大長68cm、最大幅24cm、深さ52cmを測る。

〔断面・底面〕 壁は大きく開き、緩やかに立ち上がる。底面は二段形成され、北東側が一段高くなるが、底面は中央に向かって下りの傾斜となる。最も深い底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 4層に分層されたが、第3、4層が遺構覆土となり、この2層の堆積時点でほぼ埋没が完了している。第1、2層はその後僅かな窪みに流入した自然堆積層になると思われる。

〔出土遺物〕 遺構上部を覆う第2層に遺物が包含されており、遺構周辺から出土しているが、遺構内部からの出土は確認されなかった。

〔小結〕 時期比定の根拠に欠けており、不明である。

(浅田 智晴)

第275号土坑 (図73)

〔位置・確認〕 X I F-219グリッドに位置する。ローム質の基本層序第VII層上で、黒褐色土の楕円形プランとして検出された。当初第276号土坑まで1つの遺構として捉えたが、土層観察の際、混入物のない非常に硬質の粘土層が、覆土中位に薄く堆積している事を確認した。この堆積層より上位の基本層序に粘土層は存在せず、第4層が自然に流入して堆積したとは想定しにくい。また薄く均一に堆積している状況から廃棄のために投げ込まれたものとも捉えがたいものであった。そのため何らかの意図によって底面に敷くように入れられたものと想定した。結果、第276号土坑の埋没過程で何らかの要因により粘土が入られた段階の前後で分離し、それぞれ別遺構として報告した。

〔重複〕 第276号土坑と重複し、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は不整楕円形を呈する。開口部での最大長136cm、最大幅74cm、深さ40cm、底面の最大長90cm、最大幅44cmを測る。

〔断面・底面〕 壁面は緩やかに立ち上がる。底面は中央が若干窪むが、ほぼ平坦である。

〔堆積土〕 4層に分層された。第4層は上述のとおりである。第2、3層は自然堆積の様相を呈する。第1層は比較的厚く均一に堆積しており、人為的に埋め戻された可能性がある。

〔出土遺物〕 なし。

〔小結〕 時期比定の根拠に欠けており、不明である。

(浅田 智晴)

第276号土坑 (図73)

[位置・確認] XⅡF-219グリッドに位置する。第275号土坑の調査時に確認された。

[重複] 第275号土坑と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 第275号土坑の下部にあたるため、開口部は不明である。底面は最大長152cm、最大幅84cm、深さは確認面から44cmを測る。

[断面・底面] 断面形は壁面を掘り込みフラスコ状を呈する。底面はほぼ平坦であった。

[堆積土] 2層に分層された。第2層は壁面に存在する地山のローム層の崩落土と、基本層序第Ⅳ層の黒褐色土が交互に堆積しており、水成堆積したものと思われる。調査の際、降雨時に水没したことから、地下水の湧水による影響も考えられる。第1層には壁面の崩落に起因すると思われるロームブロックが多量に混入する。

[出土遺物] なし。

[小結] 時期比定の根拠に欠けており、不明である。

(浅田 智晴)

第355号土坑 (図73)

[位置・確認] XⅠO-217グリッドに位置する。黒褐色土～黒色土の円形プランとして検出された。

[重複] 重複は確認されなかった。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈する。開口部の最大長42cm、最大幅40cm、深さ12cm、底面の最大長24cm、最大幅16cmを測る。

[断面・底面] 壁は急角度で立ち上がる。底面は南東側に偏っており、その他の部分は底に向かって緩やかな傾斜となっている。

[堆積土] 3層に分層された。いずれの層も自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] なし。

[小結] 時期比定の根拠に欠けており、不明である。

(浅田 智晴)

第380号土坑 (図73)

[位置・確認] XⅡB-219グリッドに位置する。基本層序第Ⅵ層上で暗褐色土の円形プランとして検出された。

[重複] 重複は確認されなかった。

[平面形・規模] 平面形は不整形円形を呈する。開口部に最大長86cm、最大幅80cm、深さ58cm、底面の最大長104cm、最大幅86cmを測る。

[断面・底面] 断面形は台形状で、底面近くほど角度が急になる。底面はほぼ平坦であった。

[堆積土] 6層に分層された。第3～6層は自然堆積の様相を呈する。第6層にはマンガンと思われる黒色粒が含まれており、地下水の影響を受けているものと思われる。第2層は壁面の崩落土である。第1層は一部攪乱を受けているが、埋没途中の遺構を一気に埋めており、人為的に埋め戻された可能性がある。

[出土遺物] なし。

[小結] 時期比定の根拠に欠けており、不明である。

(浅田 智晴)

第231号土坑 (図73)

[位置・確認] X P・Q-226グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で黒褐色土の不整楕円形のプランとして検出された。当初単一遺構として調査を行ったが、調査段階で第232・233号土坑と重複していたことが判明した。

[重複] 第232号土坑と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 開口部での最大長は45cm、最大幅34cm、深さ16cm、底面の最大長30cm、最大幅14cmを測る。

[断面・底面] 壁は大きく開いて立ちあがる。底面はほぼ平坦であった。

[堆積土] 黒褐色土主体の単一層であった。重複する土坑と異なり、土性が砂質シルトであり、基本層序の単純な流れ込みではない。

[出土遺物] なし。

[小結] 時期比定の根拠に欠けており、不明である。

(浅田 智晴)

第232号土坑 (図73)

[位置・確認] X P・Q-226グリッドに位置する。確認状況は第231号土坑と同一である。

[重複] 第231号土坑と重複しており、本遺構が古い。また第233号土坑と重複しており、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 開口部での最大長は56cm、最大幅42cm、深さ18cm、底面の最大長19cm、最大幅9cmを測る。

[断面・底面] 壁は大きく開いて立ちあがる。底面には若干の凹凸が見られる。

[堆積土] 黒色土主体の単一層であった。基本層序の流れ込みと考えられる。

[出土遺物] なし。

[小結] 土坑として扱ったが、状況から自然の落ち込みである可能性も考えられる。

(浅田 智晴)

第233号土坑 (図73)

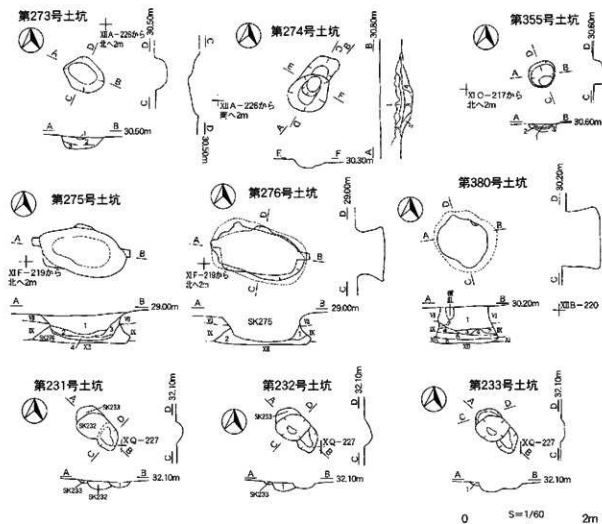
[位置・確認] X Q-226グリッドに位置する。確認状況は第231号土坑と同一である。

[重複] 第232号土坑と重複しており、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は第232号土坑と重複により大半を破壊されている。開口部での最大長は37cm、最大幅15cm、深さ4cm、底面の最大長24cm、最大幅10cmを測る。確認面からの掘り込みは浅い。

[断面・底面] 壁は削平のため大半を失っており不明であるが、北西側は緩やかに立ち上がる。底面も殆ど残存していない。

[堆積土] 黒色土主体の単一層であった。第232号土坑より色調が暗い。基本層序の流れ込みである



- 第273号土坑
 第1層 黒色土 10Y22/1 ローム状(厚~2m)2% 炭化物粒(径~3mm)1% しまり有 粘性やや有 硬度やや有 シルト
 第2層 黒褐色土 10Y22/2 ローム状(厚~5m)10% しまりやや有 粘性有 硬度なし シルト
 第3層 暗褐色土 10Y23/3 ローム状(厚~10m)3% しまりやや有 粘性有 硬度なし シルト
 第274号土坑
 第1層 暗褐色土 10Y23/3 ローム状(厚~8m)5% しまり有 粘性やや有 硬度やや有 シルト
 第2層 黒褐色土 10Y23/2 ローム状(厚~12m)2% しまり有 粘性やや有 硬度なし シルト
 第3層 黒褐色土 10Y23/2 ローム状 灰白色粘土(径~30mm)5% しまり有 粘性やや有 硬度有 シルト
 第4層 灰黄色土 10YR4/2 灰白色粘土ブロック(径~30cm)1% 灰白色粘土粒(径~1cm)10% 層化炭粒(径~6mm)10% しまり有 粘性やや有 硬度有 シルト
 第275号土坑
 第1層 黒褐色土 10Y23/1 ローム状(厚~2m)5% しまり有 粘性やや有 硬度有 シルト
 第2層 黒色土 10Y22/1 ローム状(厚~10m)21% しまり有 粘性極めて有 硬度なし 粘土質シルト
 第3層 常硬粘土 10Y23/2 ローム状(厚~2m)10% しまりやや有 粘性有 硬度なし シルト
 第4層 比色不明褐色土 10YR6/4 しまり極めて有 粘性極めて有 硬度有 粘土
 第276号土坑
 第1層 黒色土 10YR4/4 ロームブロック(径~50cm)40% しまりやや有 粘性有 硬度極めて有 シルト
 第2層 黒褐色土 10Y23/2と黄褐色土(10YR5/6)可變に堆積 しまり極めて有 粘性極めて有 硬度有 粘土質シルト
 第355号土坑
 第1層 黒褐色土 10Y23/2 ローム状(厚~5m)5% 炭化物粒(径~3mm)1% しまり有 粘性有 硬度なし シルト
 第2層 黒色土 10Y22/1 ローム状(厚~2m)11% しまり有 粘性有 硬度有 シルト
 第3層 比色不明褐色土 10YK5/3 灰白色粘土粒(径~2m)1% しまり極めて有 粘性有 硬度極めて有 粘土質シルト
 第380号土坑
 第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化粒(径~10mm)7% ローム粒(径~8m)5% 礫石(径~3mm)2% しまり有 粘性有 硬度有 シルト
 第2層 黄褐色土 10YR5/8 壁面の崩壊した二次堆積物 しまり有 粘性極めて有 硬度やや有 粘土質シルト
 第3層 黒褐色土 10Y23/2 炭化粒(径~5mm)3% ローム粒(径~1mm)1% しまり有 粘性極めて有 硬度なし 粘土質シルト
 第4層 黒褐色土 10Y23/1 炭化粒(径~15mm)1% ローム粒(径~10mm)1% しまり有 粘性極めて有 硬度なし 粘土質シルト
 第1層 黒色土 10Y22/1 ローム状(厚~1m)2% しまり有 粘性有 硬度やや有 シルト
 第2層 黒色土 10YR4/4 炭化粒(径~25mm)20% しまりやや有 粘性なし 硬度なし 砂質シルト
 第231号土坑
 第1層 黒褐色土 10Y22/3 ローム状(径~4m)33% しまり有 粘性なし 硬度有 砂質シルト
 第232号土坑
 第1層 黒色土 10Y22/2 ローム状(厚~2m)2% しまりやや有 粘性やや有 硬度有 シルト
 第233号土坑
 第1層 黒色土 10YR1/7/1 ローム状(厚~2m)1% しまり有 粘性有 硬度有 シルト

図73 第231・232・233・273・274・275・276・355・380号土坑

と思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕第232号土坑同様、状況から自然の落ち込みである可能性も考えられる。

(浅田 智晴)

第597号土坑 (図74)

〔位置・確認〕XIB-222・223グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は円形を呈する。長径130cm、短径122cm、確認面からの深さは29cmを計測する。

〔壁・底面〕壁は底面より緩やかな傾斜を持ちながら立ち上がる。底面は全体的にやや丸みを帯び、中央部に向かってやや傾斜している。

〔堆積土〕7層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

〔小結〕時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第598号土坑 (図74)

〔位置・確認〕XT-XIA-223・224グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形を呈する。長軸120cm、短軸98cm、確認面からの深さは33cmを計測する。

〔壁・底面〕壁は北東壁がやや急に立ち上がる他は緩やかに底面から立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕6層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕遺物は出土していない。

〔小結〕時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第599号土坑 (図74)

〔位置・確認〕XT-224グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は楕円形を呈する。長軸72cm、短軸38cm、確認面からの深さは最大40cmを計測する。

〔壁・底面〕壁は底面からやや急に立ち上がる。底面はやや丸みを帯び、東側でテラス状になり西側

が1段低くなっている。

〔堆積土〕 5層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕 覆土中より鏝が1点出土している。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第600号土坑 (図74)

〔位置・確認〕 XR-222グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈する。長径63cm、短径45cm、確認面からの深さは38cmを計測する。

〔壁・底面〕 壁は南西部に偏る底面からやや急に立ち上がる。底面は楕円形でやや丸みを帯びている。

〔堆積土〕 8層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第604号土坑 (図74)

〔位置・確認〕 XR-221グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈する。長径74cm、短径55cm、確認面からの深さ20cmを計測する。

〔壁・底面〕 壁は底面から西壁がやや急に立ち上がる他は緩やかに立ち上がる。底面はやや起伏が認められ、南西部に緩やかな段を有する。南東部に深さ12cm程の小ピットが付随する。

〔堆積土〕 2層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第609号土坑 (図74)

〔位置・確認〕 XR-220グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈する。長径55cm、短径45cm、確認面からの深さ14cmを計測する。

〔壁・底面〕 壁は底面からどの方向にもやや急に立ち上がる。底面は中央に向けて緩やかに傾斜している。

〔堆積土〕 3層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第613号土坑 (図74)

[位置・確認] XQ-220グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形を呈する。長径52cm、短径38cm、確認面からの深さは最大19cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面からどの方向にもやや急に立ち上がる。底面は中央に向けて緩やかに傾斜している。底面北西部に一段の落ち込みを有する。

[堆積土] 2層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 覆土第2層中より石炭が1点出土している。S1は円基の石炭で先端部を欠損している。両面に細かな調整が施されている。

[小結] 縄文時代の土坑と思われるが性格等については不明である。

(笹森 一朗)

第614号土坑 (図74)

[位置・確認] XIA・XIB-218グリッドに位置する。第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈する。直径90cm、確認面からの深さは18cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から急に立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、南東部壁際が一部窪んでいる。

[堆積土] 4層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第615号土坑 (図74)

[位置・確認] XIB-217・218グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形を呈する。長径137cm、短径117cm、確認面からの深さは19cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から急に立ち上がる。底面は中央に向けて緩やかに傾斜している。

[堆積土] 5層に分層された。人為堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

【小結】 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第616号土坑 (図74)

【位置・確認】 X I D・X I E-217グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は不整楕円形を呈する。長径98cm、短径77cm、確認面からの深さは最大54cmを計測する。

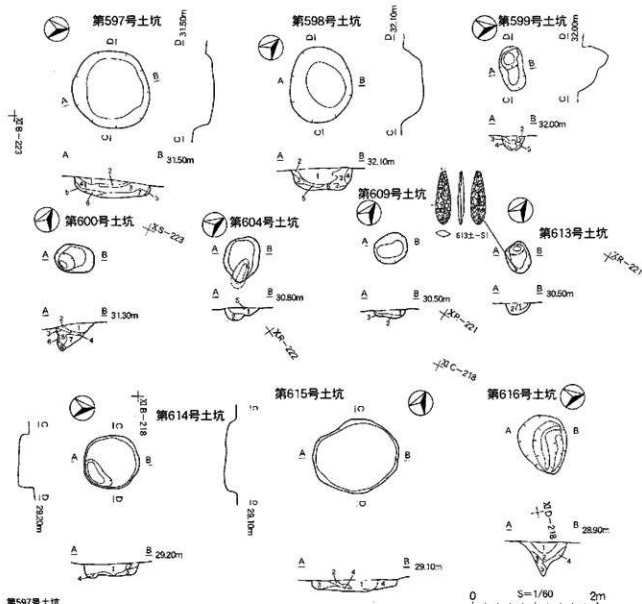
【壁・底面】 北・東壁は急に、南・西壁はやや緩やかに底面から立ち上がる。底面は狭く全体の断面形状は「V」字状を呈する。

【堆積土】 5層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

【出土遺物】 遺物は出土していない。

【小結】 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)



- 第597号土坑**
- 第1層 赤色土 10YR2/7 赤色砂状(径2~5mm)5% しまり有り 磁石中有 シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 白色砂状(径2mm)13% しまり有り 磁石有 シルト
- 第3層 黒色土 10YR2/1 白色砂状(径1~10mm)5% しまり有り 磁石有 シルト
- 第4層 赤褐色土 10YR2/7 白色砂状(径1~2mm)7% しまり有り 磁石有 シルト
- 第5層 黒色土 10YR2/4 白色砂状(径1~2mm)13% しまり有り 磁石有 褐色ローム層
- 第6層 赤褐色土 10YR2/7 コーハ/ブロック状(径2~3mm)7% 石灰質砂状(径1~3mm)5% しまり有り 磁石有 シルト
- 第7層 黒褐色土 10YR2/2 白色砂状(径1~10mm)15% しまり有り 磁石有 シルト
- 第598号土坑**
- 第1層 赤色土 10YR2/7 ローム状(径1~10mm)5% しまり有り 磁石有 シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(径3mm)5% しまり有り 磁石有 シルト
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム状(径1~5mm)10% 炭化植物1% しまり有り 磁石有 シルト
- 第4層 赤褐色土 10YR2/3 ローム状(径2~3mm)7% しまり有り 磁石有 シルト
- 第5層 赤褐色土 10YR2/1 ローム状(径3mm)1% しまり有り 磁石有 シルト
- 第6層 赤褐色土 10YR2/1 ローム状(径1~3mm)5% しまり有り 磁石有 シルト
- 第599号土坑**
- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム状(径1~2mm)3% しまり有り 磁石中有 シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(径3mm)5% しまり有り 磁石有 シルト
- 第3層 赤褐色土 10YR2/7 ローム状(径3mm)5% しまり有り 磁石有 シルト
- 第4層 黒色土 10YR2/1 ローム状(径2~5mm)5% しまり有り 磁石有 シルト
- 第5層 黒褐色土 10YR2/4 ローム状(径2mm)20% しまり有り 磁石有 シルト
- 第600号土坑**
- 第1層 赤色土 10YR2/7 ローム状(径1~3mm)2% しまり有り 磁石中有 シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(径3mm)5% しまり有り 磁石有 シルト
- 第3層 黒褐色土 10YR2/4 ローム状(径2mm)2% しまり有り 磁石有 シルト
- 第4層 赤褐色土 10YR2/3 ローム状(径2mm)20% しまり有り 磁石中有 シルト
- 第5層 赤褐色土 10YR2/1 しまり有り 磁石有 褐色ローム層
- 第6層 赤褐色土 10YR2/4 しまり有り 磁石有 褐色ローム層
- 第7層 赤褐色土 10YR2/1 ローム状(径1~3mm)3% しまり有り 磁石有 シルト

- 第604号土坑**
- 第1層 赤色土 10YR2/7 ローム状(径1~3mm)7% 炭化植物1% しまり有り 磁石中有 シルト
- 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム状(径3~5mm)10% 炭化植物1% しまり有り 磁石有 シルト
- 第609号土坑**
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 コーハ/ブロック状(径2~3mm)10% しまり有り 磁石有 シルト
- 第2層 赤褐色土 10YR2/4 しまり有り 磁石有 シルト
- 第3層 赤褐色土 10YR2/2 しまり有り 磁石有 シルト
- 第613号土坑**
- 第1層 赤色土 10YR2/7 ローム状(径5~10mm)3% しまり有り 磁石有 シルト
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(径1~3mm)5% しまり有り 磁石有 シルト
- 第614号土坑**
- 第1層 赤褐色土 10YR2/2 ローム状(径2~5mm)10% 炭化植物5% しまり有り 磁石有 シルト
- 第2層 赤褐色土 10YR2/2 しまり有り 磁石有 シルト
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム状(径1~3mm)5% 炭化植物2% しまり有り 磁石有 シルト
- 第4層 赤褐色土 10YR2/2 ローム状(径1~3mm)20% 炭化植物2% しまり有り 磁石有 シルト
- 第615号土坑**
- 第1層 赤色土 10YR2/7 ローム状(径1~5mm)7% コーハ/ブロック状(径2~5mm)10% 炭化植物2% 褐色砂(径3mm)10% しまり有り 磁石有 シルト
- 第2層 赤褐色土 10YR2/2 ローム状(径1~10mm)20% 炭化植物1% 粘土粒(径2mm)10% しまり有り 磁石有 シルト
- 第3層 赤褐色土 10YR2/1 ローム状(径2~5mm)10% 炭化植物3% 塊一次(径2mm)1% しまり有り 磁石有 シルト
- 第4層 赤褐色土 10YR2/2 ローム状(径1~3mm)7% 炭化植物1% 粘土粒(径5mm)1% しまり有り 磁石有 シルト
- 第616号土坑**
- 第1層 赤色土 10YR2/7 ローム状(径3mm)1% しまり有り 磁石中有 シルト
- 第2層 赤褐色土 10YR2/1 ローム状(径1~3mm)2% ローム状(径2~5mm)10% しまり有り 磁石有 シルト
- 第3層 赤褐色土 10YR2/2 ローム状(径1~10mm)3% しまり有り 磁石有 シルト
- 第4層 赤褐色土 10YR2/6 しまり有り 磁石有 褐色ローム層
- 第5層 赤褐色土 10YR2/1 しまり有り ローム状(径3~5cm)10% シルト

図74 第597・598・599・600・604・609・613・614・615・616号土坑出土遺物

第3節 溝跡

第201号溝跡（図75）

〔調査に至る経緯〕平成9年度にA区として調査が行われた地点で、5月後半に工事に先立ち幅杭が打設された。しかし調査当時は工事用の幅杭が入っておらず、実際に道路工事が施行される部分と調査範囲に若干の誤差が生まれており、未調査の部分が一部存在することが確認された。そのため、急速未調査部分の調査を進めたところ、IXS-211グリッドにおいて細長い黒色土の落ち込みが確認された。ちょうど巨木の切り株にかかって遺構が存在したため、除去したところ、切り株を迂回するように北東方向へほぼ直角に屈曲していた。反対側の端部は平成9年度調査区内に延びていたが、先端は途切れており、確認面からの掘り込みも浅い。未調査区にかけて次第に掘り込みが深くなっていくことから、元々掘り込みが浅かったか、後世の削平によって失われたと考えられる。そのため平成9年度調査区部分も含めて調査を行った。

〔位置・確認〕IXS・IXT-210～212グリッドにかけて位置する。工事用杭の存在により一部未調査部分が存在する。北東端は調査区外に延びており、詳細は不明である。第IV層上面での確認であるが、断面観察から第III層から掘り込まれていたことが判明した。

〔重複〕確認されなかった。

〔平面形・規模〕北西側では一部途切れる部分があるが、長軸方向が北西―南東方向にほぼ直線に延びている。この部分の長さは5m72cm、幅は40cmとほぼ一定している。IXS-211グリッドで緩やかだがほぼ直角に屈曲し、北東―南西方向に軸を変える。この部分の調査区内の長さ3m58cm、幅は広がり最大で80cmを測る。その先は調査区外に延びるため詳細は不明である。

〔断面・底面〕断面は逆台形を呈するが、北東端部ほど確認面からの掘り込みは浅くなっている。底面はほぼ平坦であるが、屈曲部では若干の傾斜が認められた。

〔堆積土〕第1層は基本層序第II層を起源とし、遺構内に流入した際にローム粒などが混入したものである。第2層は北東端部を除く全面に厚く堆積している。人為的に埋め戻された可能性も考えられる。第3層は砂質シルトで、確認された底面全面に薄く確認された。砂の含有量は場所によって若干異なることから、遺構内に一時的に水が帯水、もしくは流れた際に堆積したものである。北側に浅い沢が存在し、湧水している地点も比較的近くに存在した。そのため溝底面から湧水することもあり、定期的に水の影響を受けていた可能性が考えられる。

〔出土遺物〕縄文土器片、小礫が出土しているが、遺構確認面での出土で、遺構の埋没完了直前に流入土と共に混入したものである。

〔小結〕時期決定の根拠に欠けており、不明である。

（浅田 智晴）

第202号溝跡（図75）

〔位置・確認〕XQ-226・227、XR-227グリッドに位置する。黒色土の細長いプランとして検出された。

〔重複〕確認されなかった。

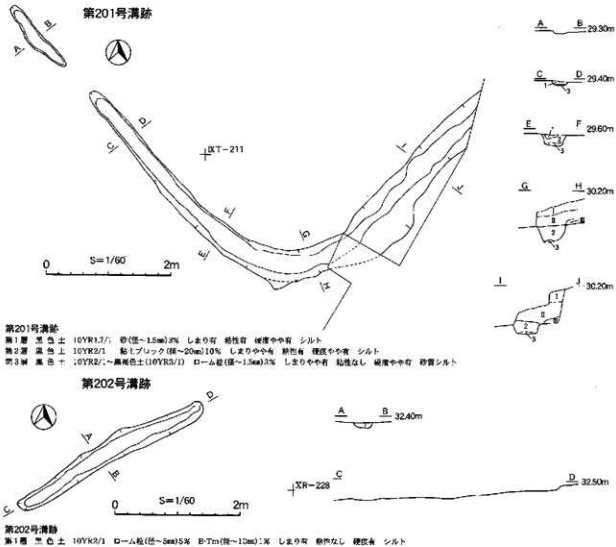


図75 第201・202号溝跡

〔平面形・規模〕平面形は溝状土坑に見られるような長楕円形である。開口部での最大長は3m34cm、最大幅30cm、深さ16cm、底面の最大長3m20cm、最大幅22cmを測る。確認面からの掘り込みは全体的に浅い。耕作等の土地改変によって、上面は削平されている可能性が高い。長軸方向は北東―南西方向を向く。

〔断面・底面〕断面は逆台形で、長軸端部も緩やかに傾斜している。底面は北東から南西に向かって下りの傾斜となる。

〔堆積土〕黒色土の単一層であった。覆土内に白頭山―苦小牧火山灰(B-Tm)が混入している。覆土を形成した流入土に混入していたものと思われる。

〔出土遺物〕縄文土器小片が出土しているが、覆上に混入したものと思われる。

〔小結〕覆土内に白頭山―苦小牧火山灰が確認されたことから、火山灰降下時期である平安時代以降に廃絶したものと思われる。

(浅田 智晴)

第4節 焼土遺構

第201号焼土遺構（図76）

〔位置・確認〕 X S-219・220グリッドに位置する。第Ⅲ層掘り下げ時に暗赤褐色の焼土の広がりを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形の集合体である。50cm×40cmの長方形の範囲内に点在する。確認面からの焼土の厚さは最大5cmを計測する。

〔堆積土〕 焼土部分はほぼ1層の単一層である。焼土に伴う明確な掘り込み等は確認できなかった。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。周辺からは縄文土器片が数点出土している。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠け不明であるが、第Ⅲ層中に存在することから縄文時代の所産と考えられる。

（齋藤 正）

第202号焼土遺構（図76）

〔位置・確認〕 X I D-226グリッドに位置する。第Ⅲ層掘り下げ時に暗赤褐色の焼土の広がりとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形の集合体である。ほぼ50cm四方の範囲内に点在する。確認面からの焼土の厚さは最大6cmを計測する。

〔堆積土〕 焼土部分は1層の単一層である。焼土に伴う明確な掘り込み等は確認できなかった。

〔出土遺物〕 焼土内から遺物は出土していない。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠け不明であるが、掘り込みも無く第Ⅲ層中に存在することから縄文時代の所産と考えられる。

（齋藤 正）

第203号焼土遺構（図76）

〔位置・確認〕 X I F-227グリッドに位置する。第Ⅲ層掘り下げ時に暗赤褐色の焼土の広がりとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形の集合体である。60cm×22cmの長方形の範囲内に点在する。確認面からの焼土の厚さは最大4cmを計測する。

〔堆積土〕 焼土部分は1層の単一層である。焼土に伴う明確な掘り込み等は確認できなかった。

〔出土遺物〕 焼土内から遺物は出土していない。周辺からは縄文土器片が数点出土している。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠け不明であるが、掘り込みも無く第Ⅲ層中に存在することから縄文時代の所産と考えられる。

（齋藤 正）

第204号焼土遺構（図76）

〔位置・確認〕 X I F-226グリッドに位置する。土層観察ベルトの第Ⅳ層上面で暗赤褐色のレンズ

状の断面として確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は不整形を呈する。70cm×25cmの長方形の範囲内に点在していたものと思われる。確認面からの焼土の厚さは最大6cmを計測する。

〔堆積土〕焼土部分は1層の単一層である。他の焼土遺構同様、焼土に伴う明確な掘り込みは認められなかった。

〔出土遺物〕焼土内から遺物は出土していない。上層の第Ⅲ層からは多量の縄文土器片が出土している。

〔小結〕時期決定の根拠に欠け不明であるが、土層観察用の断面からは上層からの掘り込みも認められず、第Ⅳ層に存在することから縄文時代の所産と考えられる。

(齋藤 正)

第205号焼土遺構 (図76)

〔位置・確認〕X I G-225グリッドに位置する。焼土が多量に混入した黒褐色土の円形プランとして検出された。

〔重複〕重複は確認されなかった。

〔平面形・規模〕平面形は円形を呈する。確認面での最大長62cm、最大幅57cm、深さ12cmを測る。

〔断面・底面〕壁は緩やかに立ち上がる。底面は不整形で、明確な掘り込みとはなっていない。

〔堆積土〕木根によって一部黒色土が流入しているが、基本的に多量の焼土粒、炭化物粒が混入する単一層であった。この場で焼土が形成されたのではなく、第Ⅲ層起源の土に多量の焼土粒、炭化物粒を混入したものが二次的に流入したと思われる。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕時期比定の根拠にかけ、不明であるが、基本層序第Ⅳ層上での確認で、上層に多量の縄文土器が包含されていることから、縄文時代の所産である可能性が高い。

(浅田 智晴)

第206号焼土遺構 (図76)

〔位置・確認〕X I F・X I G-226グリッドに位置する。周囲を焼土で囲まれた黒褐色土の細長いプランとして検出された。

〔重複〕重複は確認されなかった。

〔平面形・規模〕平面形は長楕円形を呈する。確認面での最大長2m40cm、最大幅70cm、深さ10cmを測る。

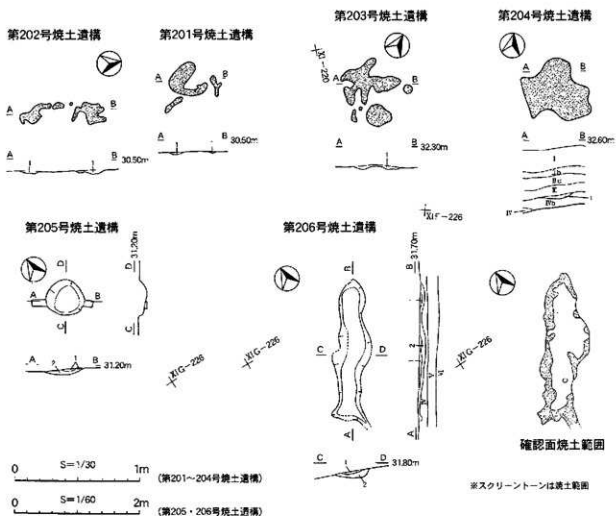
〔断面・底面〕壁は緩やかに立ち上がる。底面は不整形で、明確な掘り込みにはなっていない。

〔堆積土〕2層に分層された。第1層は基本層序第Ⅲ層の流入によるものと思われる。第2層は多量の焼土粒、炭化物粒が混入している。第Ⅲ層起源の土に焼土、炭化物が多量に混入した状況であった。

〔出土遺物〕なし。

〔小結〕時期比定の根拠にかけ不明であるが、基本層序第Ⅳ層上での確認で、上層に多量の縄文土器が包含されていることから、縄文時代の所産である可能性が高い。

(浅田 智晴)



第201号焼土遺構

第1層 赤褐色土 5YR4/6 焼土層 黒色土・炭化物少量混入

第202号焼土遺構

第1層 赤褐色土 7.5YR5/6 焼土層 砂粒・炭化物少量混入

第203号焼土遺構

第1層 朝顔赤色土 5YR5/8 焼土層 黒色土・炭化物少量混入

第204号焼土遺構

第1層 朝赤褐色土 5YR5/8 焼土層 黒色土少量・炭化物少量混入

第205号焼土遺構

第1層 深褐色土 10YR2/2 ローム層(厚~1m)1% しまり石 黏性やや有 硬度やや有 シルト

第2層 暗褐色土 10YR3/3 焼土ブロック(厚~60cm)25% 炭化樹皮(厚~5mm)5% しまり石 黏性やや有 硬度有 シルト

第206号焼土遺構

第1層 黒色土 10YR2/1 焼土粒(厚~1mm)1% しまり石 黏性やや有 硬度やや有 シルト

第2層 黒褐色土 10YR3/2 焼土ブロック(厚~15cm)50% 焼土粒(厚~10mm)10% しまり石 黏性有 硬度やや有 シルト

図76 第201・202・203・204・205・206号焼土遺構

第5節 ピット群

ピットは計10基検出された。X1Q～S-219～221グリッド周辺に比較的まとまって検出されたが、規則性は見出せなかった。以下遺構番号順に記述する。

第601号ピット (図77)

[位置・確認] XR-221グリッドに位置する。第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈する。長径43cm、短径38cm、確認面からの深さは12cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面からどの方向にも緩やかに立ち上がっている。底面は丸みを帯び中央部に向かい緩く傾斜している。

[堆積土] 2層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第602号ピット (図77)

[位置・確認] XR-221・222グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈する。長径47cm、短径42cm、確認面からの深さは15cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面からどの方向にも急に立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが南東部に向けてやや傾斜している。

[堆積土] 3層に分層された。第2・3層が堅く締まっている。人為堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第603号ピット (図77)

[位置・確認] XS-221グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈する。長径42cm、短径40cm、確認面からの深さは18cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面よりやや急に立ち上がる。底面は全体的にやや丸みを帯びる。

[堆積土] 2層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第604号ピット (図77)

[位置・確認] XR-221グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形を呈する。長径45cm、短径28cm、確認面からの深さは10cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、中央部がやや盛り上がり、端部に向けて緩やかに傾斜している。

[堆積土] 2層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 覆土中より礫が1点出土している。

[小結] 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第606号ピット (図77)

[位置・確認] XR-221グリッドに位置する。第IV層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形を呈する。長径37cm、短径32cm、確認面からの深さは13cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 1層である。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第607号ピット (図77)

[位置・確認] XR-221グリッドに位置する。第IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形を呈する。長径38cm、短径30cm、確認面からの深さは最大12cmを計測する。

[壁・底面] 壁は底面から北東壁以外は緩やかに立ち上がる。底面は中央に向けて緩やかに傾斜している。

[堆積土] 2層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第608号ピット (図77)

〔位置・確認〕 XQ・XR-221グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈する。長径43cm、短径32cm、確認面からの深さは12cmを計測する。

〔壁・底面〕 東西壁はやや急に、南北壁は緩やかに底面から立ち上がる。底面はやや丸みを帯び、中央部に向かいやや傾斜している。

〔堆積土〕 2層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第610号ピット (図77)

〔位置・確認〕 XR-220グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈する。長径35cm、短径28cm、確認面からの深さは12cmを計測する。

〔壁・底面〕 南北壁はやや急に、東西壁は緩やかに底面から立ち上がる。底面は中央部がやや盛り上がり、東側に傾斜している。

〔堆積土〕 1層である。自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第611号ピット (図77)

〔位置・確認〕 XR・XS-219グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈する。長径43cm、短径33cm、確認面からの深さは13cmを計測する。

〔壁・底面〕 南壁が急に立ち上がる他はやや急に立ち上がる。底面は比較的平坦である。

〔堆積土〕 2層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)

第612号ピット (図77)

〔位置・確認〕 XR-219グリッドに位置する。第IV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈する。長径47cm、短径40cm、確認面からの深さは10cmを計測する。

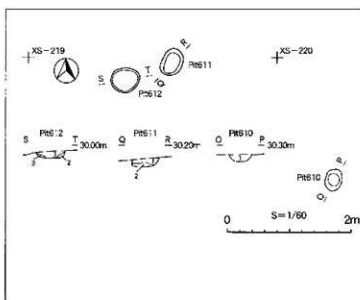
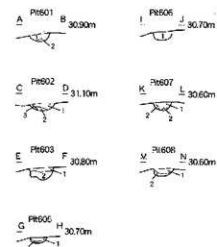
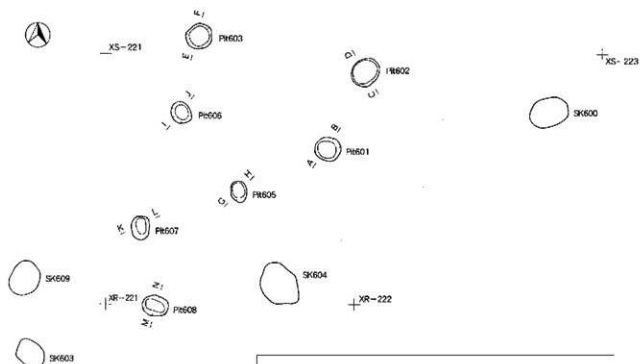
〔壁・底面〕 壁は底面からどの方向にも急に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 3層に分層された。自然堆積の様相を呈する。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

〔小結〕 時期決定の根拠に欠け不明である。

(笹森 一朗)



PR601	第1層 黒褐色土 10YR2/2	ローム殻(径2~5cm)7%	しまり有	粘性有	シルト	
	第2層 暗褐色土 10YR3/3	ローム殻(径2cm)1%	しまり有	粘性有	シルト	
PR602	第1層 赤色土 10YR2/1	ローム殻(径2~4cm)2%	しまりやや有	粘性やや有	シルト	
	第2層 黒褐色土 10YR2/2	ローム殻(径1cm)3%	しまり15箇所	粘性有	シルト	
	第3層 黒褐色土 10YR3/2	ローム殻(径2cm)1%	しまり12箇所	粘性有	シルト	
PR603	第1層 赤色土 10YR2/1	ローム殻(径1~2cm)7%	しまりやや有	粘性やや有	シルト	
	第2層 赤褐色土 10YR2/3	ロームブロック(径3~5cm)10%	しまり有	粘性有	シルト	
PR605	第1層 黒色土 10YR2/1	ローム殻(径1cm)10%	焼土粒(径1cm)1%	しまり有	粘性やや有	シルト
	第2層 暗褐色土 10YR3/2	しまり有	粘性有	赤褐色ローム主体		
PR606	第1層 暗褐色土 10YR3/3	ロームブロック(径2~5cm)15%	しまり有	粘性やや有	シルト	

PR607	第1層 赤褐色土 10YR2/2	ロームブロック(径1~3cm)10%	しまり有	粘性やや有	シルト	
	第2層 褐色土 10YR4/6	しまり有	粘性やや有	褐色ローム主体		
PR608	第1層 黒色土 10YR2/1	ローム殻(径5~10cm)3%	灰化焼粒1%	しまり有	粘性やや有	シルト
	第2層 暗褐色土 10YR3/4	しまり有	粘性有	シルト		
PR610	第1層 黒色土 10YR2/1	ロームブロック(径2~3cm)40%	しまり有	粘性有	シルト	
PR611	第1層 黒色土 10YR2/1	ローム殻(径1~3cm)7%	灰化焼粒1%	しまり有	粘性有	シルト
	第2層 暗褐色土 10YR3/2	ローム殻(径2~3cm)30%	しまり有	粘性有		
PR612	第1層 黒色土 10YR2/1	ローム殻(径1~10cm)10%	しまりやや有	粘性有	シルト	
	第2層 黒色土 10YR2/1	ローム殻(径1~3cm)5%	しまりやや有	粘性有	シルト	
	第3層 褐色土 10YR4/6	しまり有	粘性有	褐色ローム主体		

図77 F区ピット群

第6節 遺構外出土遺物

土器 (図78~84)

1~3は口唇部に横方向の襷系側面圧痕を施文、8では縦方向の圧痕も加わる。4~6は縄文施文だが胎土に繊維を混入する。7、9、10は縦方向に単軸絡条体第1類が施文される。縄文時代前期末葉、円筒下層d式に比定される。

11、12は縄側面圧痕による刻みによって地文が施文され、貼付隆帯上にも縄側面圧痕が施される。13は側面圧痕によって鋸歯文が描かれている。14は羽状縄文が施文されている。11~13は縄文時代中期前葉、円筒上層b式に、14は円筒上層式に比定される。

15、16は粗製深鉢の底部であるが、胎土や製作技法が非常に類似している。16は底面に網代痕が観察できる。17、172、186、187は地文が縦方向に施文されている。胎土、焼成は15、16と似ており、いずれも縄文時代中期末葉から後期初頭にかけての所産と思われる。

18、19は口唇部から縦方向に細い隆線を垂下させている。これは米山(2)遺跡において、隆線を用いて樹木文が施された土器の施文手法と同様である。その脇に沈線と磨消縄文帯による文様が施されている。縄文時代後期初頭の所産である。20~24も縄文施文に関しては上記と同様の方法をとっている。縄文時代後期初頭~前葉の所産と思われる。

25~29は平行沈線間に歯状工具による条線を充填している。口縁部は緩やかな波状口縁で、折り返し口縁となっている。29は無文の胴下半部と思われる。30~32は磨消縄文によって更に複雑な文様構成となっている。33、34は3本1単位の沈線により渦巻文を施文している。35は強く外反する波状口縁で、頂部を被せるように粘土紐を巻きつけ、両脇にも細く薄い粘土紐を巻く。下部は波頂部から垂直に沈線文が施文される。36~38は胴部破片で沈線のみが施文となっている。39は外反する口縁部が無文で、胴部に縄文施文される。40は網目状襷系文が施文される。いずれも縄文時代後期前葉の所産と思われる。42、43は無文の深鉢底部である。胎土、焼成等から縄文時代後期前葉の所産である可能性が高い。

44、45、47~52はすべて同一個体と思われる。口縁部は大きく開き、緩やかな花卉状の波状口縁を呈する。口唇部は内側に肥厚し、外面に縦方向の刻目列が巡らされる。刻目列下はナデにより無文となる。その下に強く屈曲する部分が存在する。屈曲部には縦方向の刻目列が回り、刻みの両側に沈線が巡る。屈曲後一度膨らみを持ち、再び屈曲して底部に至る。この部分に沈線と磨消による文様が施文されているが、詳細は不明である。胴下部から底部にかけては0段多条RLが横方向にのみ施文される。46は出土位置が異なるが、同様の形態になるものと思われる。所産時期は縄文時代後期中葉に比定される。53は大波状口縁で、頂部口唇部が内側に大きく肥厚する。口唇部下には縦方向の刻目列が2列施文される。刻目列下は縦の弧状沈線で区画された部分を磨消、その両脇に縦方向の羽状縄文が施文される。54、55は縄文と磨消による文様が施されている。54は平口縁で、口唇内側が肥厚する。所産時期はいずれも縄文時代後期中葉から後葉にかけてと思われる。

56は口唇部上を爪形の刺突で交互に施文し、口唇部下には擠み出しの瘤を作出している。口唇部形態が外傾することや胎土等からは縄文時代後期の所産と思われるが、この土器の施文方法に該当する土器が管見に限りでは見当たらず、北海道の爪形刺突を持つ縄文時代後期後葉の一群にもこのよう

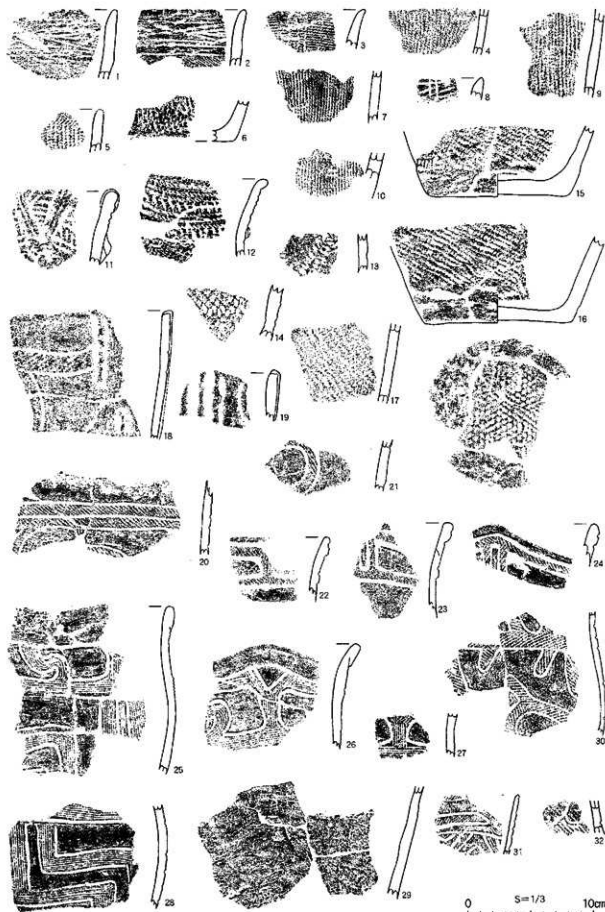


图78 F区遗址外出土土器 (1)

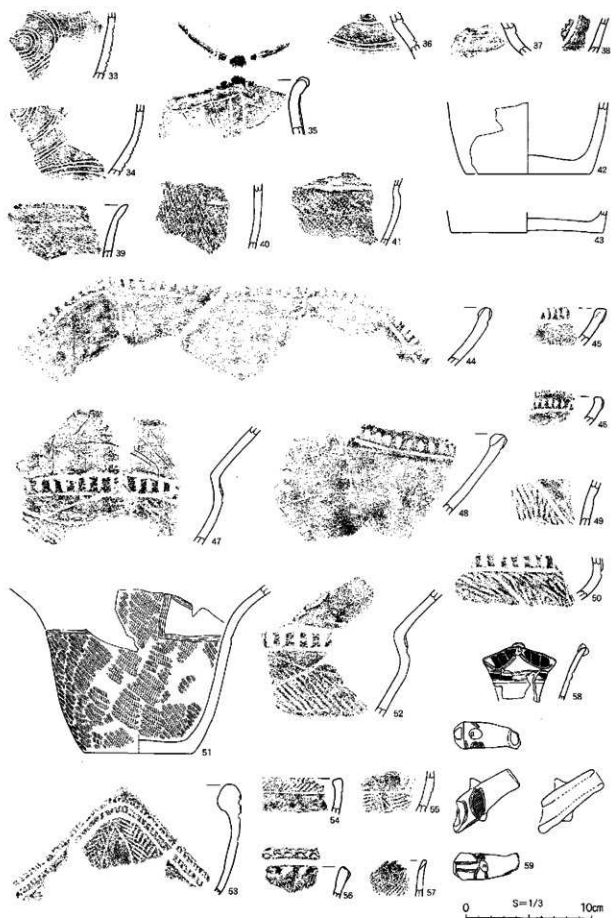


图79 F区遗物出土土器(2)

な施文例は無く、現在の所詳細な時期は不明である。

41はE区遺構外出土130に形態が似ており、縄文時代後期後葉と思われるが、若干胎土や焼成が異なる。57は縄文時代後期後葉～晩期初頭に見られる口唇部上の突起で、内面に縦方向の短沈線が施される。E区遺構外出土の類似資料と比較すると、細く鋭利な沈線となっている。58は壺の口縁部で、若干外反する。口唇部頂部には刻みの入った突起が、外面に瘤状突起が貼り付けられる。瘤状突起を起点に弧状沈線による磨消縄文帯が、その下部には平行縄文帯が施文される。59は注口部分で上下に貼り付けられた瘤状突起を結ぶ弧状の沈線内を縄文で充填している。下面は基部と瘤状突起を沈線で結ぶ。縄文時代後期後葉の所産と思われる。60～66は地文に羽状縄文が施文される。60、61は比較的細かい縄文によって施文されている。また、口唇部の形態は内削ぎ状になっているものが多い。主に縄文時代後期後葉の所産と思われるが、62、63は縄文時代晩期前葉である可能性も含まれる。67、68は深鉢胴部下半と思われる。上部に横方向の粗い条痕文が施文されている。69は小破片のため器種不明である。屈曲部外面に平行沈線が施されるものと思われる。70は3本1単位の棒状工具で棒掛状櫛描文を施文する。胎土から縄文時代後期後半の所産と思われる。71～84は外面無文の鉢、深鉢である。口唇部断面形は内削ぎ状のものが多く、72、74、75のように口唇部調整時のナデにより強く外反するものも見られる。胴部の調整も、指頭痕が明瞭に残存するものが多い。胎土、焼成等も類似した点が多く、所産時期は縄文時代後期後葉と考えられる。

85～87は無文の台塚土器の台部である。85、86は脚部の高さが低い。88～90は無文の小型鉢底部である。89は底部が外面に張り出し、調整は粗く、胎土も砂粒を多く混入している。90はミニチュアの部類に入るであろうか。いずれも時期比定は根拠に欠けるが、胎土、焼成等から、90は縄文時代後期前葉、85、86は縄文時代後期後葉、87、88は縄文時代後期後葉から晩期前葉と推測される。

91は胎土が精製され、焼成も良好である。92は磨消部に列点が施文される。93は三叉文が施文される。94～101、104は93と同様の施文になるものと思われる。102は2重の円形部分は磨消となっている。103は102と同一個体と思われる。105は縄文の節が細かく、磨消で入組文が施文されていると思われる。縄文時代後期後葉から晩期前葉の所産と思われる。106は口唇部内側に沈線が回り、外面は平行沈線間に羊歯状文が施文される。114は外反する口縁で口唇部は小波状となる。器厚が薄く、胎土も93等と類似する。91～107、114は縄文時代晩期前葉の所産と思われる。106は縄文時代晩期前葉～中葉にかけての所産と思われる。

107は平行沈線間に磨消無文部が作られる。108は口唇部下に4条の横走沈線を巡らす浅鉢である。109は壺の胴部で、胎土が精製されている。111、112は深鉢の口縁で、口縁部は外反し、胴部に縄文が施文される。112は屈曲部に粗いミガキが明瞭に残る。113は無文の壺の口縁部で、胴部には縄文が施文される。115は鉢の口縁部である。口唇下と胴部との屈曲部に沈線が巡る。口唇内にも沈線が巡る。116は鉢の底部である。下部に2条の沈線が巡る。いずれも縄文時代晩期中葉～後葉にかけての所産と思われるが、111、112、115は弥生時代まで下る可能性が考えられる。

110、117～124は胴部に縦方向の条痕文を施文した粗製の深鉢である。117～119は口唇部下に3条の浅い沈線を巡らす。110、120～124には沈線は無く、沈線が施される部分は無文となっている。口縁部の形態は110が外反し、その他は若干内湾する。口唇部は指の押圧によって小波状が作り出されているが、様相は様々で、118のように緩いもの、124のように強く押圧し、両側にはみ出た粘土

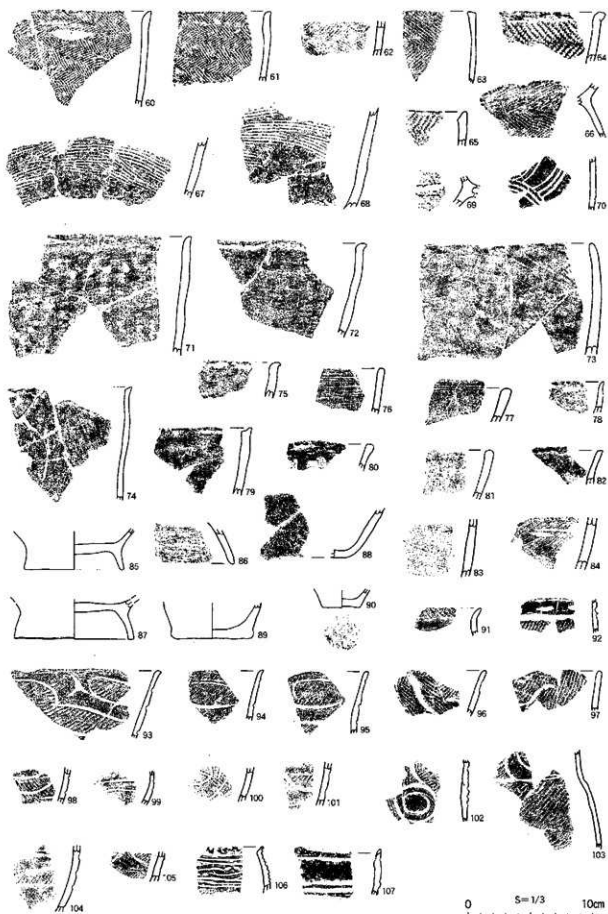


图80 F区遺構外出土土器(3)

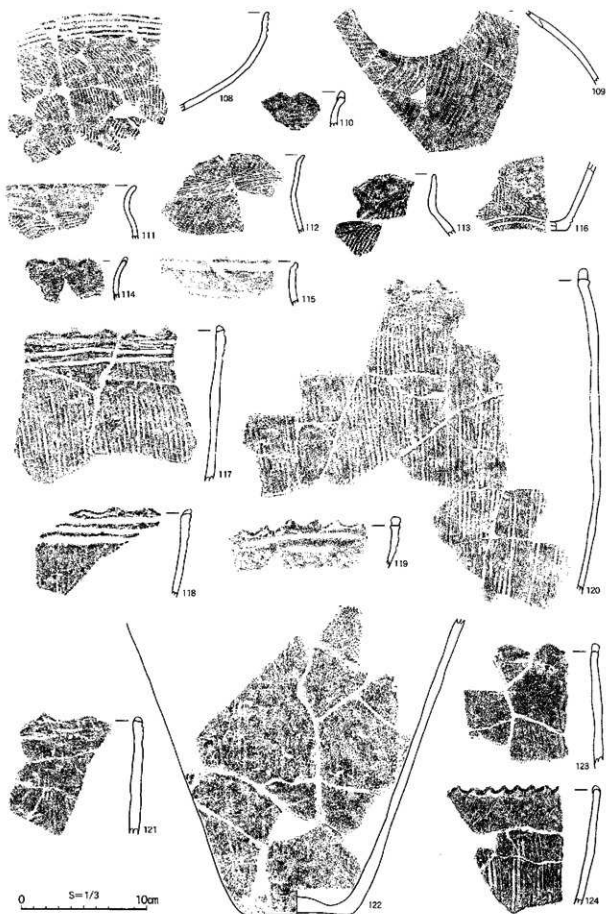


図81 F区遺構外出土土器 (4)

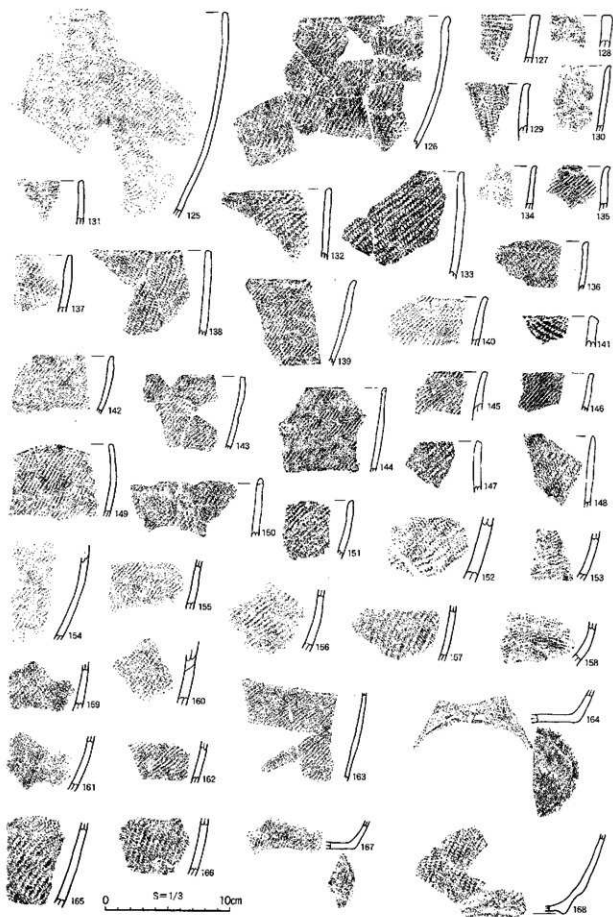


图82 F区遺構外出土土器 (5)



图83 F区遗物外出土器 (6)

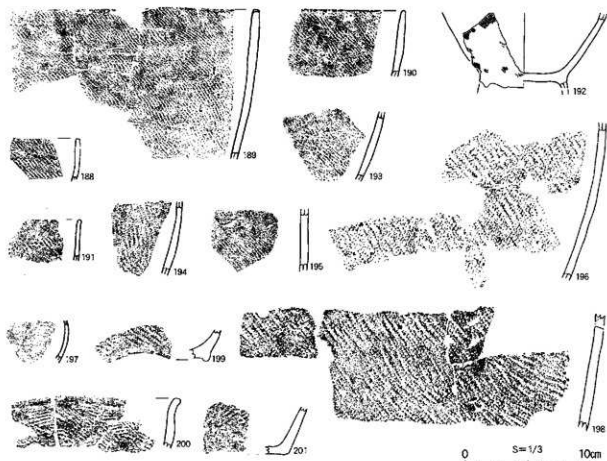


図84 F区遺構外出土土器(7)

が波打つようになるものとある。1つの条の条痕は幅を持ち、浅い。施文は一気に行われておらず、横方向に何段かにわけて行われているものと思われる。平成11年度報告でも遺物集中区から出土しているが条線と呼べるような線の細さが異なる点である。122は底部まで残存しており、条痕文がほぼ底部付近まで施文されている。縄文時代晩期中葉～後葉の所産と思われる。

125～168は縄文単節LR、169～171、173～185、188～201は縄文単節RL施文の鉢、深鉢である。復元できたものは少なく、情報は乏しいが、出土状況や胎上、焼成等から、所産時期は大半が縄文時代後期後葉～晩期前葉と推測される。口唇部が若干外反する形態がみられる。149は緩やかな波状口縁、150は口唇部押圧による小波状口縁となっている。152のように0段多条LRも若干含まれている。169は大型の粗製深鉢で、復元できた数少ない土器である。下部に一部単節LRが施文されている。口縁部は若干内湾しており、外面にススが附着する。口唇部の形態は若干外反するものが多いが、口縁部は緩やかに内湾するものが見られる。168、199は深鉢の底部であるが、底部に高台状の高まりが作出される。126、198には焼成後に穿孔された補修孔が確認される。

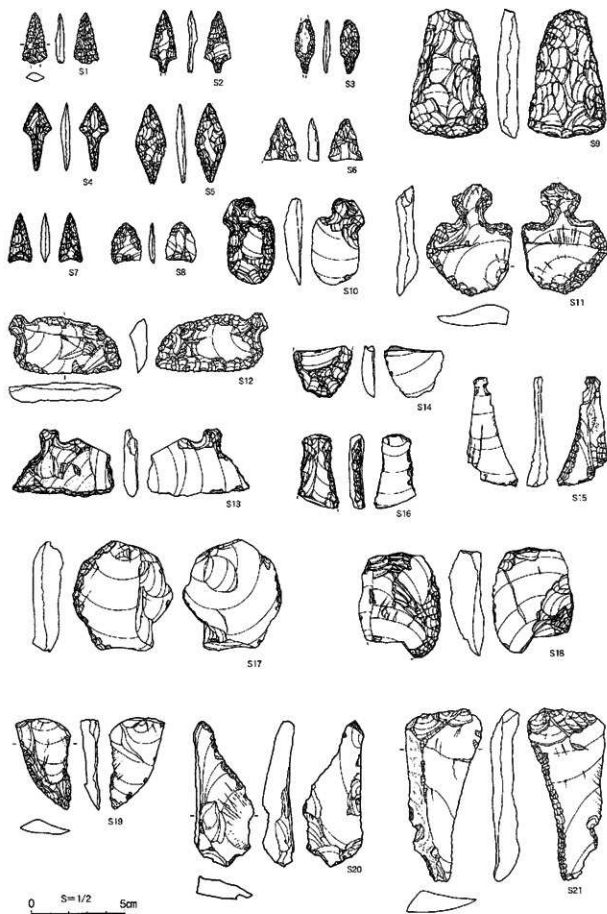


图85 F区遺構外出土石器 (1)

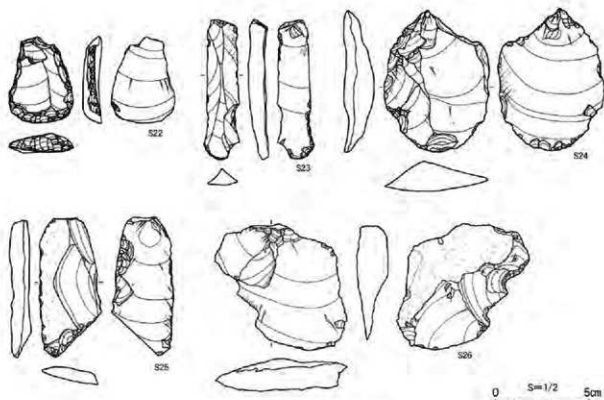


図86 F区遺構外出土石器(2)

石器(図85~88)

S1~8は石鏃である。有茎石鏃が多いがS5は凸基、S7は凹基となる。S8は石鏃の未製品である。S4は基部が長く、全長の約半分を占める。

S9は、両面調整の筥状石器である。この石器には、刃部両面には使用に伴う使用痕が、石器中央部の稜線上には着柄によると考えられる磨耗部が認められる。

S10~S15は、石匙およびその破損品と考えられる。S10・S11が椋形石匙、S12・S13が楕形石匙である。S10は背面側の周縁部全体に二次加工が施されている。S11は剥片の打点部分を刃部側に利用しており、一側辺の両面に二次加工が施される。S12は背面側一側辺、腹面側両側辺に二次加工が施される。S13は縦長剥片を利用した楕形石匙で、背面もしくは自然面(節理面)側の周縁部全体に二次加工が施される。S14は背面側の周縁部全体に二次加工が施される。S15は節理面で不規則に割れた節理面側の両側辺に二次加工が施されたもので、素材剥片の厚さから内湾する側が刃部に用いられたもので、もう一辺は剥片の厚みを除去する為の二次加工と考えられる。

S16~S25はスクレイパー類および二次加工のある剥片である。S16は縦長剥片の背面側の両側辺に、S17は縦長剥片の背面側の一辺と腹面側の一辺の一部に二次加工が施される。S18は縦長剥片の背面側の一側辺と両面の一部に、S19は縦長剥片の背面側の両側辺に二次加工が施される。S20とS21は素材剥片に内湾する鋭い縁辺を有したもので、共にその部分に二次加工が片面側から施されている。

S22はバチ形の形態をなすもので、打点側を除く他の3辺の背面側のみに二次加工が見られる。特に長軸と直交する側の短辺には急角度の刃部が作出されている。S23は縦長剥片の打点側と末端



图87 F区遗址外出土石器 (3)

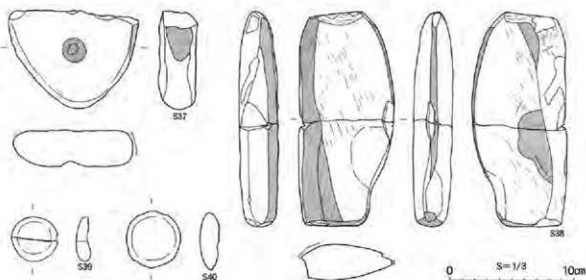


図88 F区遺構外出土石器 (4)

側に僅かにノッチ状の加工が認められ、石匙の柄み状部分の作出を狙ったものか。S24は打点部分に尖頭状の形態を作出、剥片末端部分にも二次加工が施される。S25は縦長剥片の一侧辺に大きな粗い剥離が、もう一侧辺には両側から微細な剥離が施される。S26は自然面を多く残す大型の剥片の末端部分に、使用に伴うと考えられる微細剥離が認められる。

S27、28は磨製石斧である。S27は両端を欠損している。全面に擦痕が観察される。S28は片面に敲打痕が残される。

S29～35、37は敲磨器類である。S29は細長い礫の片面、S30は片面と一側面に磨痕が残る。S31～35は凹石である。円礫もしくは楕円形の礫を用いたE区と異なり、磨石同様長楕円形もしくは板状の礫を用いている。凹みは長軸線上に沿って複数箇所に見られる。S37は片面の平坦部分中央に凹みが作られる。また側面に1箇所磨痕が残される。

S36は石皿で、平坦面全面に磨痕が観察されるが、同一面に凹みが6箇所存在する。

S38はほぼ全面に磨痕が確認されるが、特に両側面に顕著である。一側面が刃部状に鋭利になっている。

S39・40はいずれも片面が比較的滑らかで、反対の面には凹凸が見られるという特徴をもつ。円形岩版に似るが、磨痕は一部にしか観察されない。S39は被熱により変色しており、器面が摩滅している。形態の類似から、何らかの共通する用途に用いられた可能性がある。いずれも石質は凝灰岩である。

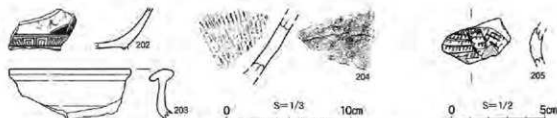


図89 F区遺構外出土陶磁器・土製品

陶磁器 (図89)

202は染付の碗で、外面に縦区画された内側に崩れた文字文が、下部に綺文が施文される。203は甕の口縁部で、口唇部と肩部に自然釉と思われる淡黄色の釉が掛かる。その他は鉄釉が施釉される。204は挿鉢胴部で、鉄釉が施釉される。節目は比較的粗い。いずれも近世の肥前産と思われる。所産時期は小片であるが、推測される器形や胎土等から大橋編年の肥前V期と推定される。

文化遺物 (近世以降) (図89)

205は鳥形の像と思われる。羽の右半分のみ残存しており、内面に型押し成形の際にできた指押さえの痕跡が残る。胎土は精製されており、焼成も良好である。

遺構外出土遺物出土状況 (図90~96)

F区の遺構外出土遺物は、出土が希薄な部分と、比較的多く出土を見る部分に比較的明瞭に分かれた。多く出土を見た部分に関しては分布図を提示した。

X II B-225~226グリッド周辺にかけては、縄文時代後期後葉の土器を中心に出土している。(図90) 主体となるのは無文や条痕文を施文した深鉢である。出土層位は大半が表土層である基本層序第I層である。若干存在する下層からの出土も見られることから、耕作等により攪乱されているものと思われる。F区において縄文時代後期後葉の資料がまとまって出土しているのはこの地区のみとなっている。これはE区や平成9年度B区の遺物集中区に比較的近い位置に存在する等、つまり当時の活動範囲と近い事が影響するものと思われる。X II A-226グリッド周辺からは珪質頁岩の残核、フレイクが散乱状態で出土している。土器の分布とは若干異なり、やや南側にその中心を置く状況である。

X I L~K-225~226グリッドからは縄文時代晩期の深鉢を中心に出土している。(図91・92) 西側には平成9年度B区で検出された浅い谷地形に続くと思われる、浅く細長い谷地形が存在し、東側に存在する丘陵と小谷との境界にある緩斜面に位置している。平成9年度B区や、平成11年度A区の旧河川跡など、水が流れる窪地を利用した遺物廃棄が確認されているが、今回谷地形の中から集中した遺物の出土は確認されなかった。この地区では縦方向の条痕を施文した深鉢がまとまって出土している。北東側の平成11年度B区では遺物の出土は確認されておらず、今回の調査区内ではこの範囲以外からの出土は見られなかった。平成11年度A区で旧河川跡から検出された、遺物集中出土区Iの形成状況と類似性があるものと思われる。その他には縄文時代後期初頭の土器が散見できる。遺存状況は器面の摩滅が進行していることから、水の影響を受けているものと思われる。出土層位は黒

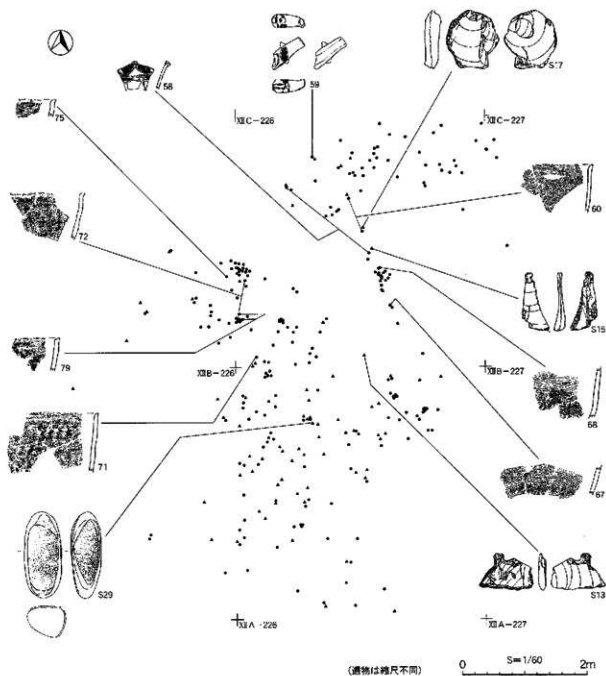


図90 F区遺構外出土遺物出土状況(1)

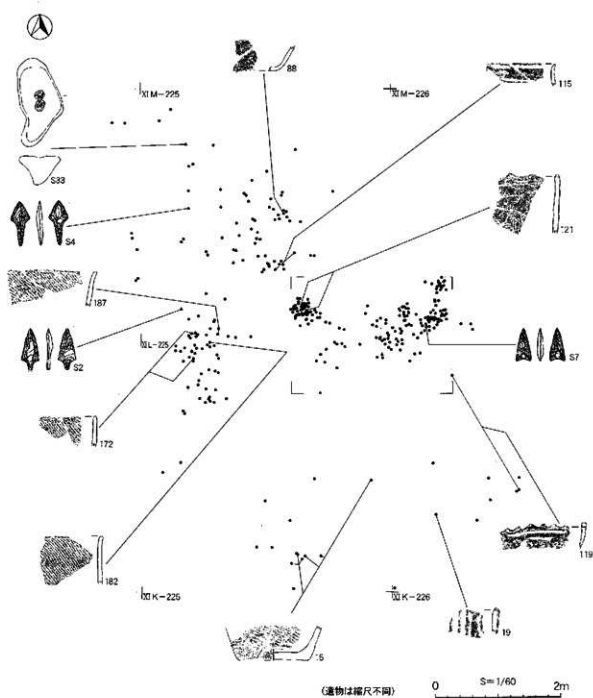


図91 F区遺構外出土遺物出土状況 (2)

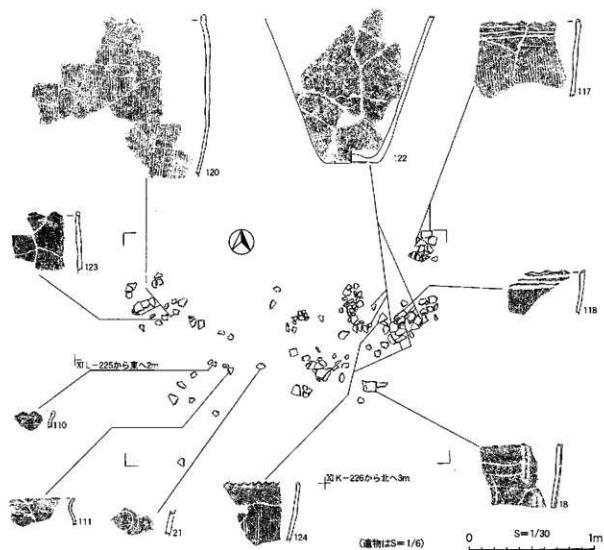


図92 F区遺構外出土遺物出土状況 (3)

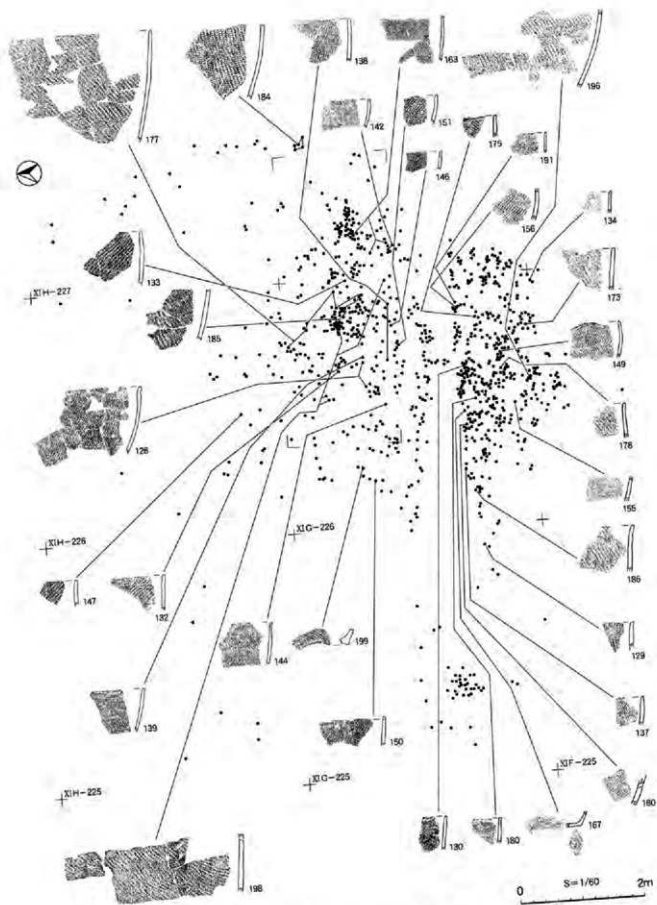


图93 F区遺構外出土遺物出土状況(4)

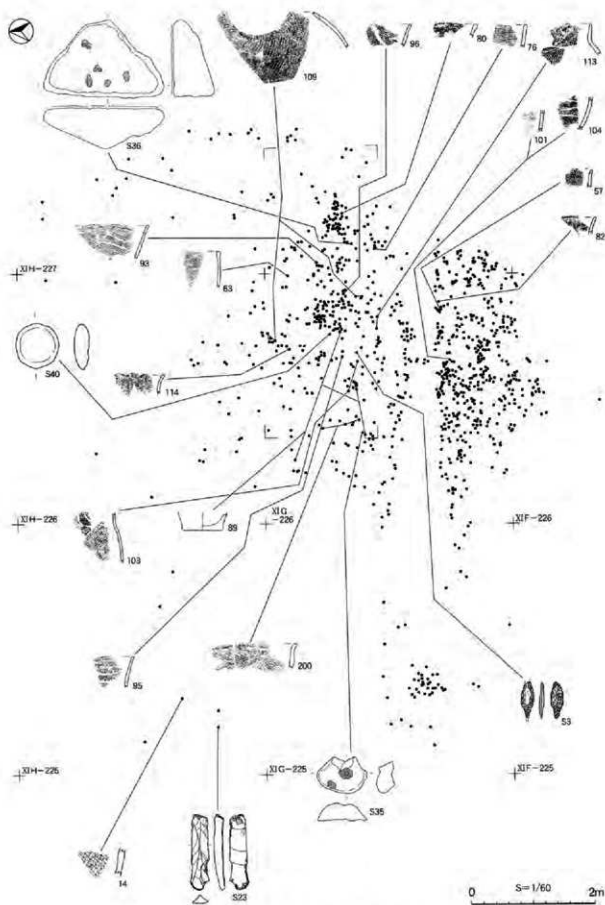


図94 F区遺構外出土遺物出土状況(5)

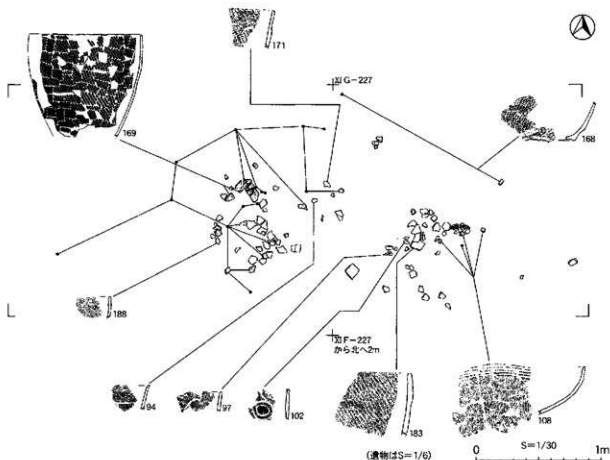


図95 F区遺構外出土遺物出土状況(6)

色土を主体とした基本層序第Ⅲ層である。

X I F～G-226～227グリッドからは縄文時代晩期前葉の遺物を中心に出土した。(図93・94・95) その他に縄文時代中期末葉から後期初頃、前葉の土器も出土している。F区において最も範囲、出土量の多い地区となる。出土層位は遺物包含層である基本層序第Ⅲ層である。また縄文施文のみの粗製深鉢も、範囲全体から多数出土している。その中で、169は復元率の最も高い大型深鉢であるが、一箇所で潰れた状況ではなく、約2m四方の範囲に散在する状況である。一方で浅鉢の108は1箇所にまとまって出土している。この他にも接合事例では遠距離で接合する事例は少なかった。出土遺物の遺存状況はE区と比較すると摩滅や剥落は少なく比較的良好であったが、復元率は非常に悪く、一箇所に同一個体がまとまって出土する例がなかった。従って、遺物の廃棄の段階で、既に壊れた状況であったことが想定される。時期毎の分布状況は、縄文時代晩期の精製土器が南西側に少ない以外はあまり差は見られない。

X I D-218グリッドからは縄文時代後期中葉の深鉢が礫と共にまとまって出土している(図96)。出土はいずれも基本層序第Ⅲ層からの出土である。口縁部を中心に上半部は主に東側にまとまっており、下半部はそこから約1m程離れて出土している。互いの接合関係は確認できなかったが、いずれも同一個体である。出土状況からこの場に廃棄されたものと思われる。

F区の出土状況からは、E区とは異なる状況がうかがえる。すなわち、縄文時代後期前葉から後葉

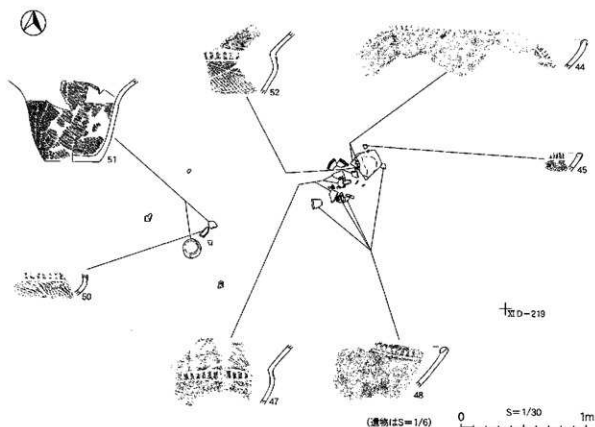


図96 F区遺構外出土遺物出土状況(7)

主体のE区に対し、F区では縄文時代後期後葉の出土資料が減少し、縄文時代晩期の資料がまとまって出土する例が見られる。平成11年度調査区では旧河川跡とその周辺から縄文時代後期後葉～晩期後葉にかけての遺物集中区が存在するが、縄文時代晩期の資料はその他の遺構内外からは出土せず、まとまった出土状況を示している。F区の状況もこれに類似するものと思われる。縄文時代後期後葉の資料が広範囲に渡って出土するのは出土量の多さに関連すると思われるが、比較的広範囲に廃棄が行なわれている傾向が窺える。そのため、本遺跡内において、縄文時代後期と晩期の活動範囲が異なること、遺物の廃棄行為にも差があることが想定される。

(浅田 智晴)

第4章 自然科学的分析

第1節 出土炭化材の放射性炭素年代測定

(株)地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

報告内容の説明

14C age (y BP) : 14C年代測定値

試料の 14C/12C 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。半減期として5568年を用いた。

補正 14C age (y BP) : 補正 14C年代値

試料の炭素安定同位体比(13C/12C)を測定して試料の炭素の同位体比を知り14C/12Cの測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。

δ 13C (permil) : 試料の測定 14C/12C 比を補正するための 13C/12C 比。
この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表される。

$$\delta 13C (\text{‰}) = \frac{(13C/12C)_{\text{試料}} - (13C/12C)_{\text{標準}}}{(13C/12C)_{\text{標準}}} \times 1000$$

ここで、13C/12C [標準] = 0.0112372である。

暦年代 : 過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の14Cの測定、サンゴのU-Th年代と14C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース("INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3))により約19000年までの換算が可能となった。*

*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析

Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

処理・調整・その他 : 試料の前処理、調整などの情報

前処理 acid-alkali-acid : 酸-アルカリ-酸洗浄
acid washes : 酸洗浄
acid etch : 酸によるエッチング
none : 未処理

調整・その他

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理
Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出
Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出
Extended Counting : Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関 : BETA ANALYTIC INC.

4985 SW 74 Court, Miami, FL33156, U.S.A

C14年代測定結果

青森県埋蔵文化財調査センター 様 20000169

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}C$ (permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta- 149642	3740 ± 40	-26.2	3720 ± 40
試料名 (16204) KN3 (SK363-364)			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	
Beta- 149643	3740 ± 40	-27.6	3700 ± 40
試料名 (16205) KN4 (SK588)			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material		acid/alkali/acid	

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンドは、国際的な慣例として、NBS Oxalic Acidの C14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(88%確率)である。

(株)地球科学研究所 〒468 名古屋市天白区植田本町1-608 TEL052-802-0703

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.2;lab.mut=1)

Laboratory number: 149642

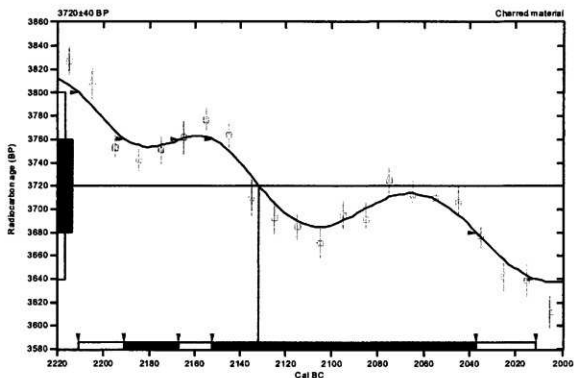
Conventional radiocarbon age: 3720±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal BC 2210 to 2010 (Cal BP 4160 to 3960)
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal BC 2130 (Cal BP 4080)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 2190 to 2170 (Cal BP 4140 to 4120) and
(68% probability) Cal BC 2150 to 2040 (Cal BP 4100 to 3990)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxi-xxii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Tolma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-27.6;lab.mulf=1)

Laboratory number: 149643

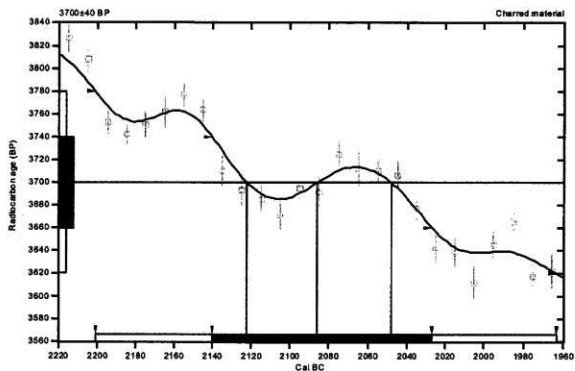
Conventional radiocarbon age: 3700±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal BC 2290 to 1960 (Cal BP 4150 to 3910)
(95% probability)

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age
with calibration curve: Cal BC 2120 (Cal BP 4070) and
Cal BC 2090 (Cal BP 4040) and
Cal BC 2050 (Cal BP 4000)

1 Sigma calibrated result: Cal BC 2140 to 2030 (Cal BP 4090 to 3980)



References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), p.ii-iii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p.1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p.17-322

Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

第2節 第356、365号土坑、第471号ピットの自然科学的分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

上野尻遺跡は、青森市大字矢田字上野尻に所在し、貴船川の左岸、東岳からのびる丘陵のすそ野に立地している。これまでの発掘調査では、縄文時代後期の掘立柱建物跡25基が環状に検出され、他にも土坑や柱穴、溝跡などの遺構が検出されている。なお、掘立柱建物跡が環状に配置された事例は、青森県内では2例目であり、当該時の集落を考える上で非常に重要な遺跡である。

今回は、環状に配置された掘立柱建物跡群の周辺から検出された土坑群を対象に、1) 土坑の年代、2) 土坑から出土した焼土・炭化物の由来、3) 土坑の用途、について情報を得るため分析調査を実施する。分析手法は、土坑の年代については放射性炭素年代測定を、土坑から出土した焼土については、被熱の痕跡を調査するためにX線回折分析を、炭化物については樹種同定を実施する。なお、炭化物や焼土を含む土壌について植物珪酸体分析も実施し、燃料材に関する情報を得る。土坑の用途推定については、遺体埋納に関する情報を得るため土壌理化学分析を実施する。

1. 試料

上野尻遺跡では、第201、203、223、248、258、259、293、306、356、358、362、363、364、365、367、368号土坑、第471号ピットの17遺構から計35点の土壌試料が採取されている。これら土坑は、環状に配列されている掘立柱建物跡群の周辺に分布している。これら土坑のうち3遺構（第356、365号土坑、第471号ピット）を対象に分析を実施する。以下に、分析対象とした土坑の概要および分析試料の詳細を示す。

1) 第356号土坑

第356号土坑は、第306号土坑に近接し、東西および南北約3.0m、深さ56cmを測り、不整形円形を呈する土坑である。土坑底部には、浅い掘り込みが認められる。覆土は、17層に分層され、炭化物・炭化材を多く含む。試料は、覆土中位と下位から採取された土壌8点（試料10～17）である。当遺構では、遺構の年代、焼土の成因および燃料材の推定、土坑の用途を検討するために、放射性炭素年代測定1点（試料14）、樹種同定（試料10～17）、植物珪酸体分析1点（試料16）、土壌理化学分析4点（試料10・12・14・15）、X線回折分析1点（試料16）を実施する。

2) 第365号土坑

第365号土坑は、長径約1.2m、短径約1m、深さ22cmの隅丸長方形を呈する土坑である。覆土は10層からなり、覆土中に炭化物・炭化材を含む。試料は、覆土2層から採取された種実遺体を含む土壌（試料23）、1層から採取された炭泥じり土壌（試料22）、3層から採取された炭化物（試料24）の3点である。本遺構では、放射性炭素年代測定1点（試料24）、樹種同定（試料24）、土壌理化学分析2点（試料22・23）、種実遺体同定（試料23）を実施する。

3) 第471号ピット

第471号ピットは、長径約60cm、短径約30cm、深さ80cmの不整形長円形を呈する柱穴である。覆土

は6層からなり、炭化物を含む。試料は、覆土から採取された炭化物1点（試料番号29）である。本試料について樹種同定と土壤理化学分析を実施する。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

測定は、株式会社 加速器分析研究所の協力を得た。

(2) 樹種同定

木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

(3) 種実遺体同定

双眼実体顕微鏡下で種実遺体を観察し、その形態的特徴と当社所有の現生標本との比較から種類を分類・同定する。同定後の種実遺体は、ビンに乾燥剤を入れて保存する。

(4) 植物珪酸体分析

珪化細胞列など組織構造を呈する植物珪酸体の大半は、植物体が土壤中に取り込まれた後に土壌化や攪乱などの影響によって分離して単体となる。しかし、植物体が燃えた後の灰には、組織構造が珪化組織片として残存する機会が多い（例えば、バリノ・サーヴェイ株式会社、1993）。そこで、燃料材の検討を行うため、この珪化組織片の産状に注目した。

今回の試料は土壌であったため、植物珪酸体分析の手法を用いた。試料の一部を採取し、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W、250KHz、1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、珪化組織片や植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、ブリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現する珪化組織片を、近藤・佐瀬（1986）の分類を参考にしながら同定・計数する。

(5) 土壤理化学分析

今回測定する成分は、特に動物の体組織や骨に多く含まれるリン酸とカルシウムの含量測定を行う。リン酸は骨に多量に含まれるが、土壤中に固定されやすい。そのため、遺体が埋葬されると土壤中にリン酸の富化が認められることから、遺体あるいは遺骨の痕跡を推定することができる。また、リン酸の供給源として植物体もあげられる。植物由来のリン酸成分が供給された場合、リン酸含量よりも腐植含量が高くなる。よって、植物体の影響を調べるために腐植含量も測定する。

リン酸は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解-原子吸光度法、腐植はチューリン法でそれぞれ行う（土壤養分測定法委員会、1981）。以下に具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉碎して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉碎し、0.5mmφの篩を全通させる（微粉砕試料）。

風乾細土試料2.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。

ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸 (P_2O_5) 濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光度計によりカルシウム (CaO) 濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量 (P_2O_5mg/g) とカルシウム含量 ($CaOmg/g$) を求める。

微粉砕試料0.100~0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量 (Org-C乾土%) を求める。これに1.724を乗じて腐植含量 (%) を算出する。

(6) X線回折分析

105℃で2時間乾燥させた試料をメノウ乳鉢で微粉砕し、X線回折用アルミニウムホルダーに充填し、X線回折分析試料 (無定方位試料) を作成する。作成したX線回折分析試料 (無定方位試料) について以下の条件でX線回折分析を行う (足立, 1980; 日本粘土学会, 1987)。

検出された物質の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物をX線粉末回折線総合解析プログラム (五十嵐, 未公表) により検索する。

装置: 島津制作所製XD-3A	Time Constant: 1.0sec
Target: Cu ($K\alpha$)	Scanning Speed: 2°/min
Filter: Ni	Chart Speed: 2 cm/min
Voltage: 30KVp	Divergency: 1°
Current: 30mA	Receiving Slit: 0.3mm
Count Full Scale: 5,000C/S	Scanning Range: 3~45°

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表1に示す。補正年代は、第356号土坑の試料14が3050±50B.P.、第365号土坑の試料24が3720±60B.P.であった。

年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用し、年代値は現代 (1950年) を基準に何年前かを計算した値である。なお、表中の $\delta^{13}C$ の値は、試料炭素の $^{13}C/^{12}C$ 原子比を質量分析器で測定し、標準にPDBを用いて算出した値である。今回の試料の補正年代は、この値に基づいて補正を行った年代である。

表1 放射線炭素年代測定結果

番号	遺構名	グリッド	層位	質	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code. No.
14	SK-356	X II J-221	グリッド 7層	炭化物 (クリ)	3050±50	-27.1±1.4	3080±50	IAAA-10312
24	SK-365	X II M-218	グリッド 3層	炭化物 (クリ)	3720±60	-31.7±1.5	3830±50	IAAA-10313

(2) 樹種同定

樹種同定結果を表2に示す。試料12、24からは、複数の種類が認められた。このうち、試料24では、3種類が認められたが、2種類は保存状態が悪く、樹種の同定には至らなかった。その他の試料

表2 樹種同定結果

番号	遺構名	遺構種類	平面形	グリッド	層位	樹種
10	SK-356	土坑(墓坑?)	不整形	XII-221	2層	クリ
11				XII-221	9層	トネリコ属
12				XII-221	7層	クリ
						カツラ
13				XII-221	5層	コナラ属コナラ亜属コナラ節
14				XII-221	7層	クリ
15				XII-220	4層	クリ
17	XII-221	9層	クリ			
24	SK-365	土坑(墓坑?)	隅丸方形	XII-216	3層	クリ 広葉樹(環孔材) 広葉樹(散孔材)
29	SK-471	柱穴	不整形長円形	XII-224	4層	クリ

は、全て広葉樹材で、4種類(コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・カツラ・トネリコ属)に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は1~4列、孔圏外で急激へやや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

・カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.) カツラ科

散孔材で、管孔はほぼ単独で、まれに2個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性II型、1~2細胞幅、1~30細胞高。

・トネリコ属 (*Fraxinus*) モクセイ科

試料は、年輪界で割れている。環孔材で、孔圏部は2列以上、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形~楕円形、単独または2個が放射方向に複合し、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1~3細胞幅、1~40細胞高。

(3) 種実遺体同定

第365号土坑の覆土2層から検出された種子2・3は、いずれもオニグルミの核の破片である。以下に解剖学的特徴を記す。

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura)

クルミ科クルミ属

黒褐色を呈し、広卵形で先端部分がやや尖る。明瞭な縦の縫合線があり、縫合線に沿って半分に割れている。表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みがある。

表3 土壤理化学分析結果

番号	遺体名	種類	グリッド	植物碎屑の外側	層位	土性	土色	腐植含量 (%)	P ₂ O ₅ (mg/g)	CaO (mg/g)
10	SK-356	土坑	X II	-221	2層	LIC	10YR1.7/1 黒	3.14	1.45	3.42
12		土坑	X II	-221	7層	LIC	10YR1.7/1 黒	7.22	2.53	5.41
14		土坑	X II	-221	7層	LIC	10YR1.7/1 黒	7.00	2.51	5.24
15		土坑	X II	-220	4層	LIC	10YR2/1 黒	8.35	4.13	3.83
22	SK-365	土坑	X II	M-216	1層	LIC	10YR2/2 黒	6.68	2.05	5.23
23		土坑	X II	M-216	2層	LIC	10YR2/2 黒	6.68	2.12	4.77
25	SK-471	土坑	X II	-224	4層	LIC	10YR2/2 黒	7.20	2.74	4.06

注1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色誌(農林省農林水産技術会議監修, 1967)による。

注2) 土性：土壤調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編, 1984)の野外土性による。

LIC…軽粘土(粘土25~45%、シルト0~45%、砂10~55%)

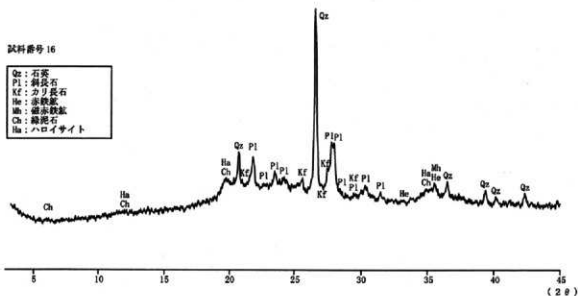


図1 粘土鉱物X線回折図

(4) 植物珪酸体分析

いずれの試料からも、イネ科草本類の灰の存在を示唆するような珪化組織片は検出されなかった。なお、単体の植物珪酸体としては、タケ亜科が多く検出された。

(5) 土壤理化学分析

結果を表3に示す。各成分の測定値は、腐植含量が2.19~8.35%、リン酸含量が1.23~4.13P₂O₅mg/g、カルシウム含量が3.42~6.60CaOmg/gを示す。

(6) X線回折分析

各試料のX線回折結果を図1に示す。検出された鉱物は石英(quartz)、斜長石(plagioclase)、カリ長石(K-feldspars)、赤鉄鉱(hematite)、磁赤鉄鉱(magnetite)、緑泥石(chlorite)、ハロイサイト(halloysite)、雲母鉱物(mica minerals)である。

4. 考察

(1) 土坑の年代

放射性炭素年代測定を行った結果、第356号土坑(試料14)は3050±50B.P.、第365号土坑(試料24)は3720±60B.P.という年代値が得られた。いずれの分析試料も土坑の覆土下位から出土した炭化材であることから、遺構に共存する可能性が高く、土坑の使用年代に近い値を示していると考え

られる。したがって、第356号土坑は約3000年前頃、第365号土坑は約3700年前頃の遺構と言える。

なお、今回の分析で得られた年代値は、東北地方における分析例（キーリ・C.T. 武藤，1984）では、縄文時代後期～晩期相当とされている。また、第356号土坑・第365号土坑とでは約700年の年代差が認められるが、当遺跡からは縄文時代後期前葉～後葉を中心として、縄文時代前期～晩期に相当する遺物が出土しており、それぞれの年代値は、いずれも遺物の年代幅に収まることから調和的な結果と言える。各年代の評価については、土坑の出土遺物などの考古学的所見と合わせて検討する必要がある。

（2）土坑から出土した焼土・炭化物の由来

1）燃料材について

上野尻遺跡から検出された土坑覆土からは、焼土や炭化材が認められ、発掘調査所見でも土坑内における煮沸や火を焚く行為が想定されている（永嶋，2001）。土坑内でこのような行為が行われた場合、焚き付け材としてイネ科草本類などの利用が想定されることから、第356号土坑（試料16）の焼土まじり土壌について植物珪酸体分析を実施した。分析結果では、植物体が燃えた後の灰に残存することの多い珪化組織片は全く認められず、単体の植物珪酸体のタケ亜科が検出されるのみである。同じ様な状況が当遺跡から検出された第105号土坑でも確認されている（バリノ・サーヴェイ株式会社，2001）。したがって、現状では、燃料材として考えられるのはクリなどの広葉樹材のみであり、焚き付け材としてイネ科草本類などの利用は指摘できない。

2）炭化物の由来について

上野尻遺跡から検出された土坑・柱穴の覆土から採取された炭混じり土壌中からは、同定可能な炭化物が12点抽出され、4種類の広葉樹材（コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・カツラ・トネリコ属）が確認された。これら広葉樹材のうち、クリはいずれの遺構からも確認されており、総点数の約1/2を占めている。複数の炭化物が認められた第356号土坑でも、クリを主とした種類構成がみられることから、クリを主とした植物利用が推定される。このような様相は、本遺跡の第105号土坑で行った炭化材の樹種同定結果（バリノ・サーヴェイ株式会社，2001）とも一致する。

なお、青森県内の縄文時代の遺跡から出土する炭化材には、クリが多い傾向が認められている（嶋倉，1979，1982，1985）。クリについては、三内丸山遺跡の分析結果などから、縄文時代の栽培についても指摘されている（辻，1997；山中，1999）。現在栽培されているクリは、9年生～10年生以後から20年生前後の樹齢が成果期であり、一般に20年生以後は年毎に収量が減少する（志村，1984）とされている。また、栽培によって果実の収量を安定させると共に、収量の落ちた老木を用材として利用していたことなども指摘されている（千野，1983）。したがって、本遺跡においても、前述した分析調査例などによれば、クリの栽培や老木の用材利用などの可能性もある。当遺跡で実施した炭化材の分析は、土坑や柱穴から出土したものに限定されるため、今後は、住居構築材の樹種組成の分析調査や花粉化石を良好に保有する河道路や埋没谷の埋積土などを対象に分析を行い、古植生に関する情報を蓄積し、当時の植生と植物利用について検証する必要がある。

3）焼土の由来について

土坑の覆土中に認められた焼土とされている赤褐色のブロック塊についてX線回折分析を行った結果、いずれも検出鉱物中にハロイサイト（halloysite）が見られることから、ハロイサイトが非晶質

化する500~650℃以上の熱を受けたとは考えにくい。また、両試料とも検出鉱物として赤鉄鉱(hematite)が認められることから、500℃以下の低温被熱の可能性が考えられる。しかし、試料中にみられる粘土は、産地によって組成の差が大きく、温度による物理的・化学的変化も至って複雑である。さらに、堆積物の風化に伴った産出鉱物である可能性も考えられることから、今回の赤褐色ブロック塊については、X線回折結果のみで焼成による被熱の有無を判断することはできない。

なお、上野尻遺跡ではこれまでの土坑群の調査所見から、土坑廃絶後の埋没過程に遺物が投げ込まれる状況や、埋没過程の土坑の窪み内で煮沸または火を焚く行為などが想定されている。今回、分析を行った焼土は、土坑の覆土下位(第356号土坑)から採取されている試料であり、遺構に伴う可能性が高い。焼土に焼き付け材と考えられる植物珪酸体が検出されなかったため、今後は出土遺物や覆土の詳細な堆積状況、焼成に伴う硬化面の有無など考古学的成果と合わせて、焼土の由来を検討する必要がある。

(3) 土坑の用途

第356、365号土坑、第471号ピットでは、遺体埋納に関する情報を得るため、土壌中のカルシウム含量・腐植含量・リン酸含量について分析調査を実施した。今回の分析結果では、カルシウムの含量は、3.42~6.60CaOmg/gとばらつきがみられる。この値は、前回調査を実施した第105号土坑・第113号土坑覆土とほぼ類似した値である(パリオ・サーヴェイ株式会社, 2001)。なお、カルシウムは、骨に含まれる成分の一つであり、土壌中に普通に含まれる量、すなわち天然賦存量は1~50CaOmg/g(藤貞, 1979)と、含有幅が大きい傾向にある。リン酸とカルシウムの関係を見ると、相関係数が-0.11であり、土坑覆土のカルシウムとリン酸はほとんど関連性がないことを示唆している。

一方、腐植含量とリン酸含量は、相関係数0.81と正の相関関係にある。これより、土坑のリン酸含量は、土壌腐植の影響を受けていると考えられる。そこで、腐植含量とリン酸含量について、最小二乗方によって同相直線を求め、それから正の方向へ逸脱した試料を調べると(図2)、第356号土坑の試料15は正の方向へ突出する。同試料のリン酸含量は4.13P₂O₅mg/gと、前回報告した第105号土坑・第113号土坑の分析値を含めて最も高い含量値を示す。また、Bowen(1983)、Bolt & Bruggenwert(1980)、川崎ほか(1991)、天野ほか(1991)などの調査事例によれば、リン酸の天然賦存量の上限値は約3.0P₂O₅mg/gと考えられる。試料15(第356号土坑)のリン酸含量の測定値は、こ

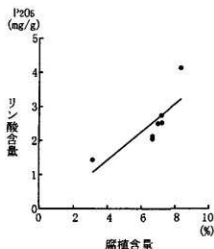


図2 腐植とリン酸の相関関係

の天然賦存量を上回る値であることから、リン酸は土壌腐植だけでなく外的要因によって富化されている可能性がある。ただし、当試料は土坑の覆土上位から採取されたものであるため、遺構の用途を示す埋積物であるのかどうか検討が必要である。第365号土坑、第471号ピットは、第356号土坑(試料15)のような顕著なリン酸含量の富化が認められないため、今回の分析結果からは墓坑の可能性を指摘することができない。

今後は、第356号土坑のリン酸含量の富化の由来を検証するために、基本土層や土坑覆土上位の堆

積物の土壌理化学性についても分析調査などを実施したい。また、第365号土坑、第471号ピットなどの墓坑以外の用途が想定される土坑については、覆土内の微細遺物を対象とした分析調査や、土坑の形態や覆土の堆積状況などの考古学的な所見と合わせて総合的に評価したいと考えている。

引用文献

- 足立吟也 (1980) 「6章 粉末X線回折法 機器分析のてびき3」, p.64-76, 化学同人。
- 千野裕道 (1983) 縄文時代のクリと集落周辺植生 -南関東地方を中心に-, 東京都埋蔵文化財センター研究論集, II, p.25-42。
- 近藤鍊三・佐瀬 隆 (1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用, 第四紀研究, 25, p.31-64。
- 日本粘土学会編 (1987) 「粘土ハンドブック 第二版」, 1289p., 技報堂出版。
- バリノ・サーヴェイ株式会社 (2001) 上野尻遺跡の自然科学分析・「青森県埋蔵文化財調査報告書 第302集 上野尻遺跡Ⅱ -青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-」, p.145-149, 青森県教育委員会。
- 嶋倉巳三郎 (1979) 青森市近野遺跡から出土した炭化材の樹種, 青森県埋蔵文化財調査報告書第47集「近野遺跡 発掘調査報告書 (IV) -青森県総合運動公園建設関係発掘調査-」, p.321-323, 青森県教育委員会。
- 嶋倉巳三郎 (1982) 炭化材の樹種同定, 青森県埋蔵文化財調査報告書第70集「馬場瀬遺跡 発掘調査報告書」, p.284-285, 青森県教育委員会。
- 嶋倉巳三郎 (1985) 尻高(4)遺跡出土の炭化材について, 青森県埋蔵文化財調査報告書第89集「尻高(2)・(3)・(4)遺跡 発掘調査報告書」, p.235, 青森県教育委員会。
- 志村 勲 (1984) クリの生育特性, 「農業技術体系 果樹編5 クリ基礎編」, p.11-16, 社団法人農山漁村文化協会。
- 辻 誠一郎 (1997) 三内丸山を支えた生態系, 岡田康博・NHK青森放送局編「縄文都市を掘る 三内丸山から原日本が見える」, p.174-188, NHK出版。
- 永嶋 豊 (2001) 第2節 土坑群, 青森県埋蔵文化財調査報告書第302集「上野尻遺跡Ⅱ -青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-」, p.21-56, 青森県教育委員会。
- 山中楓介・岡田康博・中村郁郎・佐藤洋一郎 (1999) 植物遺体のDNA多型解析手法の確立による縄文時代前期三内丸山遺跡のクリ栽培の可能性, 考古学と自然科学, 38, p.13-28。

E区ビット観察表1

図番号	透視 番号	平面形	グリッド	重複	開口部径 長軸 (cm)	開口部径 短軸 (cm)	底 部 長軸 (cm)	底 部 短軸 (cm)	深さ (cm)	遺物	備考
35-図①	399	楕円	X II O-212		53	42	39	27	18		
35-図①	400	楕円	X II O-212		34	27	26	20	13		
35-図①	401	円	X II O-213		28	26	22	18	11		
35-図②	398	楕円	X III P-214・215		43	28	28	19	21		
35-図②	404	楕円	X II O-214		33	26	22	18	28		
35-図②	406	円	X II O-214		24	22	16	14	12		
35-図②	407	楕円	X II O-215		45	34	34	23	15	有	
35-図②	408	楕円	X II O-215		38	29	30	23	17		
35-図②	409	円	X II O-215		31	28	19	18	29		
35-図②	411	楕円	X II O-215		30	22	21	15	17		
35-図②	412 (楕円)		X II O-215	Ph412<Ph413	(24)	21	(20)	15	29		
35-図②	413	楕円	X II O-215	Ph412<Ph413	30	26	22	20	28		
35-図②	493	楕円	X II O-215		29	15	13	12	15		
35-図②	494	円	X II O-215		17	16	12	11	23		
36-図③	392	円	X II P-217・218		17	15	9	7	8		
36-図③	395	円	X II P-217		21	18	14	13	10		
36-図③	396	円	X II P-217		29	26	19	16	13		
36-図③	397	楕円	X II O-217		24	19	18	12	17		
36-図③	415	楕円	X II O-216		31	26	20	17	29		
36-図③	495	円	X II O-216		32	28	22	21	22		
36-図③	496	円	X II O-216		30	29	20	16	16		
36-図③	497	円	X II O-216		16	14	10	8	16		
36-図③	498	楕円	X II O-216		16	14	9	8	12		
36-図③	499	楕円	X II O-216		24	21	15	14	21		
36-図③	512	楕円	X II O-217		28	22	22	17	16		
36-図③	513	楕円	X II O-217		24	20	17	13	19		
36-図③	514	楕円	X II O-217		26	24	20	16	17		
36-図③	515	楕円	X II O-216		22	18	14	11	12		
36-図③	516	楕円	X II P-216		34	30	28	25	32		
36-図③	517	円	X II P-216		22	22	18	18	25		
36-図③	518	楕円	X II P-217		26	19	18	15	19		
36-図③	519	円	X II P-217		15	13	9	8	18		
36-図③	566	円	X II P-217		34	32	26	24	22		
37-図④	384	円	X II Q-218		24	21	15	11	49		
37-図④	390	円	X II P-218		22	20	17	14	21		
37-図④	391	円	X II P-218		18	16	13	12	24		
37-図④	394	楕円	X II P-218		34	28	25	17	19		
37-図⑤	360	楕円	X II M-215	Ph590<Ph360	34	(22)	18	13	18	有	
37-図⑤	403	円	X II N-214		28	25	16	15	13		
37-図⑤	404	楕円	X II N-214		16	8	10	8	19		
37-図⑤	405	円	X II N・O-214・215		27	24	19	17	23		
37-図⑤	414	楕円	X II N-215		26	23	17	14	15		
37-図⑤	467	円	X II N-215		26	26	12	12	40	有	
37-図⑤	501	楕円	X II N-215		20	18	15	13	17		
37-図⑤	590	楕円	X II M-215	Ph590<Ph360	(19)	18	15	12	22		
38-図⑥	418	楕円	X II M-217		34	29	24	15	24		
38-図⑥	438	楕円	X II M-217・218		30	26	19	14	16		
38-図⑥	439	楕円	X II M-217		35	26	27	16	15		
38-図⑥	440	楕円	X II M-217	Ph560<441土<Ph440	58	30	24	15	12		
38-図⑥	442	楕円	X II M-217		36	29	21	14	21		
38-図⑥	474	楕円	X II M-217		33	26	22	12	23		
38-図⑥	500	円	X II N-216		27	24	18	18	19		
38-図⑥	502	円	X II N-216		26	24	28	24	31		
38-図⑥	503	楕円	X II N-216		19	14	15	12	29		
38-図⑥	504	楕円	X II N-216		26	21	13	9	30		
38-図⑥	505	楕円	X II N-216	Ph506<Ph505	28	19	14	9	32		
38-図⑥	506 (円)		X II N-216	Ph506<Ph505	(12)	13	17	16	24		
38-図⑥	507	楕円	X II M・N-216		29	25	32	29	41		
38-図⑥	508	楕円	X II M-217		22	18	18	11	39		
38-図⑥	509	楕円	X II N-217		28	19	27	19	25		
38-図⑥	510	いびつな 円	X II N-217		23	30	16	15	32		
38-図⑥	511	楕円	X II N-217		26	23	18	16	26		
38-図⑥	569	(円)	X II M-217	Ph569<441土<Ph440	(14)	24	(10)	15	13		

E区ビット観察表 2

図番号	遺構番号	平面形	グリッド	遺構	開口部径 長軸 (cm)	開口部径 短軸 (cm)	底 部 長軸 (cm)	底 部 短軸 (cm)	深さ (cm)	遺物	備考
39-図①	443	円	X II M-218		20	18	16	15	15		
39-図①	444	楕円	X II M-218		26	19	11	6	25		
39-図①	445	円	X II M-218		20	19	12	10	14		
39-図①	446	円	X II N-218		19	16	16	11	19		
39-図①	447	円	X II N-218		20	20	14	13	18		
39-図①	557	円	X II N-219		28	26	20	19	15		
40-図②	452	楕円	X II M-220		24	17	14	14	32		
40-図②	454	楕円	X II N-220		26	22	19	19	21		
40-図②	455	円	X II M-221		25	22	17	12	31		
40-図②	456	円	X II M-221		24	21	15	11	9		
40-図②	457	円	X II M-221		22	20	13	12	8		
40-図②	458	楕円	X II M-221		26	22	14	8	29		
40-図②	459	楕円	X II M-221		37	27	14	13	14		
40-図②	460	円	X II M-221		18	16	14	12	7		
40-図②	558	楕円	X II N-220		33	22	12	10	8		
40-図②	371	円	X II J-212		21	18	18	14	25		
40-図②	372	楕円	X II J-212		26	22	18	14	32		
41-図③	333	円	X II K-213		24	24	18	14	17		
41-図③	334	円	X II K-213		19	15	12	9	12		
41-図③	335	円	X II K-213		21	18	14	9	15		
41-図③	336	楕円	X II K-213	Pr589<Pr336	27	21	17	(8)	12		
41-図③	337	楕円	X II K-213		26	21	15	10	20		
41-図③	338	円	X II J-213		20	18	11	8	24		
41-図③	373	いびつな楕円	X II J-K-213		23	19	16	9	17		
41-図③	374	楕円	X II L-213		21	17	14	10	45		
41-図③	589	楕円	X II K-213	Pr589<Pr336	17	11	9	7	19		
41-図③	449	いびつな円	X II L-218		22	20	20	17	11		
41-図③	450	円	X II L-219		30	26	16	13	15		
41-図③	461	楕円	X II L-218		28	19	17	10	12		
41-図③	469	円	X II L-218		25	22	16	13	9		
42-図④	323	楕円	X II K-214		19	14	12	9	7		
42-図④	324	円	X II K-214		28	24	19	17	19		
42-図④	325	円	X II K-214		19	18	11	9	14		
42-図④	326	円	X II K-214		23	19	11	8	21		
42-図④	327	楕円	X II K-214		46	30	39	17	22		
42-図④	328	いびつな楕円	X II K-214		20	12	12	7	14		
42-図④	330	楕円	X II K-214		20	15	14	11	16		
42-図④	331	円	X II K-214		23	22	17	14	13		
42-図④	332	円	X II J-214		22	21	13	11	17		
42-図④	370	楕円	X II L-215		23	19	12	10	10		
42-図④	379	円	X II L-214		34	30	16	14	23		
42-図④	560	楕円	X II J-220		31	24	16	12	28		
42-図④	561	楕円	X II J-220-221		30	23	21	16	20		
43-図⑤	377	円	X II L-216		30	29	18	16	22		
43-図⑤	378	楕円	X II K-216		24	18	13	10	14		
43-図⑤	381	円	X II L-216		37	34	26	24	18		
43-図⑤	416	楕円	X II L-216		20	17	15	12	8		
43-図⑤	417	楕円	X II L-216		19	15	13	9	16		
43-図⑤	419	円	X II L-217		31	28	18	15	24		
43-図⑤	435	楕円	X II L-217		25	19	14	13	10		
43-図⑤	436	楕円	X II L-217		25	19	18	15	12		
43-図⑤	437	楕円	X II L-217		25	19	17	12	15		
43-図⑤	470	楕円	X II L-217		49	34	27	19	29		
43-図⑤	472	円	X II L-217		27	25	18	14	19		
43-図⑤	475	円	X II L-216		23	21	18	16	15		
43-図⑤	476	円	X II L-216		24	22	18	16	17		
43-図⑤	477	楕円	X II L-216		38	28	22	14	25		
44-図⑥	451	楕円	X II L-220		24	19	13	9	19	有	
44-図⑥	453	円	X II L-220		21	18	18	16	16		
44-図⑥	463	円	X II L-220		20	18	10	9	13		
44-図⑥	559	円	X II K-220		31	28	26	18	20		
44-図⑥	575	楕円	X II I-224		30	23	22	14	11		
44-図⑥	576	楕円	X II J-224		31	22	14	14	16		
45-図⑦	464	楕円	X II L-222	Pr465<Pr464	54	45	24	22	78	有	
45-図⑦	465	楕円	X II L-222	Pr465<Pr464	(40)	38	30	24	60	有	

E区ビット観察表3

図番号	通溝番号	平面形	グリッド	重板	開口部径 長軸 (cm)	開口部径 短軸 (cm)	底 部 長軸 (cm)	底 部 短軸 (cm)	深さ (cm)	遺物	備考
45-図46	562	円	X II K-223・224		40	36	29	24	56		
45-図47	571	楕円	X II K-222		45	38	33	18	29		
45-図48	573	円	X II J・K-223		23	22	14	11	8		
45-図49	574	円	X II K-225		24	22	17	14	20		
46-図50	471	いびつな 楕円	X II I・J-223・ 224		62	32	19	13	80		分析試料29
46-図51	563	楕円	X II J-223		32	26	14	12	15		
46-図52	570	円	X II I-222		42	40	24	22	74		
46-図53	572	いびつな 円	X II J-223		30	26	12	10	26		
46-図54	577	いびつな 楕円	X II J-223・224		27	22	26	13	32		
47-図55	520	いびつな 方	X II H・I-214		30	24	18	14	19		
47-図56	521	方	X II I-214		30	28	22	18	9		
47-図57	522	いびつな 方	X II I-214		23	22	15	14	7		
47-図58	523	いびつな 方	X II I-214		30	24	20	14	6		
47-図59	524	方	X II I-214		16	13	7	7	8		
47-図60	525	楕円	X II I-214		30	22	23	15	9		
47-図61	492	いびつな 方	X II G-216		19	17	12	7	11		
47-図62	526	いびつな 方	X II H-217		21	20	20	16	28		
47-図63	527	いびつな 方	X II G-217		34	21	24	17	13		
47-図64	528	いびつな 楕円	X II H-216		42	21	30	9	16		
47-図65	529	圓丸方	X II F-215		18	14	14	9	10		
47-図66	530	いびつな 方	X II F-215		35	22	14	9	12		
47-図67	542	いびつな 圓丸方	X II E-215		25	20	13	11	12		
47-図68	543	いびつな 方	X II E-215		17	15	12	10	8		
47-図69	544	圓丸方	X II D-215		26	20	22	15	12		
47-図70	545	いびつな 方	X II E-215		26	22	15	14	9		
47-図71	546	方	X II E-215		16	13	11	9	6		
47-図72	420	圓丸方	X II F-220		21	18	16	13	10		
48-図73	479	いびつな 圓丸方	X II I・J-217		22	19	13	10	8		
48-図74	480	圓丸方	X II J-217		25	25	18	16	46		
48-図75	481	圓丸方	X II J-217		12	8	9	5	18		
48-図76	482	圓丸方	X II J-217		27	21	19	15	12		
48-図77	483	圓丸方	X II J-217・218		20	19	19	12	7		
48-図78	484	圓丸方	X II J-218		35	28	25	19	14		
48-図79	485	いびつな 圓丸方	X II I-217		57	55	45	40	54		
48-図80	486	圓丸方	X II H・I-217		25	23	18	8	10		
48-図81	487	いびつな 圓丸方	X II I-217	Ph488<Ph487	13	11	8	5	26		
48-図82	488	いびつな 圓丸方	X II I-217	Ph488<Ph487	28	(14)	20	(12)	13		
48-図83	489	いびつな 方	X II J-216	Ph489<Ph490	(15)	20	14	9	22		
48-図84	490	いびつな 方	X II J-216	Ph489<Ph490	19	18	11	8	22		
48-図85	491	いびつな 圓丸方	X II J-217		22	20	11	8	13		
48-図86	582	いびつな 圓丸方	X II J-216		37	33	33	21	20		
48-図87	583	圓丸方	X II J・I-216		35	27	20	18	18		
48-図88	584	圓丸方	X II I-216		22	18	12	6	16		
48-図89	585	圓丸方	X II I-216		23	17	12	9	18		
48-図90	586	圓丸方	X II I-216		22	21	14	4	20		

E区ビット観察表4

図番号	遺構番号	平面形	グリッド	遺構	開口部径 長軸 (cm)	開口部径 短軸 (cm)	底 部 長軸 (cm)	底 部 短軸 (cm)	深さ (cm)	遺物	備考
49-図⑨	427	いびつな 方	X II G-219		21	21	14	13	8		
49-図⑨	428	いびつな 方	X II G-219		25	16	14	11	14		
49-図⑨	429	いびつな 方	X II G-218		16	16	14	11	14		
49-図⑨	421	いびつな 円	X II F-219		43	42	22	11	7		
49-図⑨	422	隅丸方	X II F-219		20	16	15	14	18		
49-図⑨	423	いびつな 隅丸方	X II F-219		25	19	14	13	10		
49-図⑨	424	いびつな 隅丸方	X II F-219		31	24	15	15	19		
49-図⑨	425	方	X II F-218	PH428<PH425	17	16	15	12	12		
49-図⑨	426	方	X II F-218	PH428<PH425	21	14	17	11	11		
49-図⑨	430	いびつな 隅丸方	X II E・F-218		37	36	19	15	22		
49-図⑨	432	いびつな 方	X II F-218		24	17	17	11	9		
49-図⑨	433	いびつな 隅丸方	X II F-218		23	18	14	12	13		
49-図⑨	434	いびつな 方	X II F-218		17	14	12	10	9		
50-図⑨	537	いびつな 隅丸方	X II E-216	PH538<PH537	23	21	7	5	10		
50-図⑨	538	隅丸方	X II E-216	PH538<PH537	(21)	23	15	10	10		
50-図⑨	539	隅丸方	X II E-216		19	16	12	11	8		
50-図⑨	540	隅丸方	X II F-217		27	18	13	10	22		
50-図⑨	541	隅丸方	X II F-217		23	18	13	9	10		
50-図⑨	549	隅丸方	X II E-216		25	25	16	11	7		
50-図⑨	552	いびつな 隅丸方	X II E-218	PH552<PH553	(27)	27	18	9	17		
50-図⑨	553	いびつな 隅丸方	X II E-218	PH552, 555 <PH553	30	18	24	14	20		
50-図⑨	554	方	X II F-217		19	18	15	7	10		
50-図⑨	555	方	X II E-218	PH555<PH553	(10)	15	(7)	10	9		
50-図⑨	531	隅丸方	X II C-216		26	19	16	14	27		
50-図⑨	532	いびつな 方	X II D-216		23	22	18	16	15		
50-図⑨	533	いびつな 方	X II D-215		24	20	12	10	13		
50-図⑨	534	いびつな 横円	X II D-215		20	16	12	9	10		
50-図⑨	535	隅丸方	X II D-216	PH536<PH535	18	(14)	10	7	14		
50-図⑨	536	隅丸方	X II D-216	PH536<PH535	(18)	18	11	7	14		
50-図⑨	547	方	X II C-217	PH548<PH547	28	18	19	9	17		
50-図⑨	548	方	X II C-217	PH548<PH547	36	(21)	27	14	10		
50-図⑨	551	いびつな 隅丸方	X II C-217		26	16	22	12	10		

観察表凡例

観察表に用いた縄文土器の分類については、以下の通りである。表内では第Ⅱ群Ⅰ類土器を「Ⅱ-1」のように省略して記載している。

なお、既報告の『上野尻遺跡Ⅱ』（2001）において用いられた縄文土器の分類とは項目の増加のため対応しておらず、対応表を以下に掲載した。

第Ⅰ群土器 縄文時代前期の土器

第Ⅱ群土器 縄文時代中期の土器

第Ⅱ群Ⅰ類 縄文時代中期前葉～後葉の土器

第Ⅱ群Ⅱ類 縄文時代中期末葉の土器

第Ⅲ群土器 縄文時代後期の土器

第Ⅲ群Ⅰ類 縄文時代後期初頭～前葉の土器

第Ⅲ群Ⅱ類 縄文時代後期中葉の土器

第Ⅲ群Ⅲ類 縄文時代後期後葉の土器

第Ⅲ群Ⅳ類 縄文時代後期と思われるが、詳細な時期比定が困難な土器

第Ⅳ群土器 縄文時代晩期の土器

第Ⅳ群Ⅰ類 縄文時代晩期前葉の土器

第Ⅳ群Ⅱ類 縄文時代晩期中葉の土器

第Ⅳ群Ⅲ類 縄文時代晩期後葉の土器

第Ⅳ群Ⅳ類 縄文時代晩期と思われるが、詳細な時期比定が困難な土器

対応表

本報告 『上野尻遺跡Ⅱ』

第Ⅱ群Ⅰ類 — 第Ⅰ群土器 縄文時代中期前葉～後葉の土器

第Ⅱ群Ⅱ類 — 第Ⅱ群土器 縄文時代中期末葉の土器

第Ⅲ群Ⅰ類 — 第Ⅲ群土器 縄文時代後期初頭～前葉の土器

第Ⅲ群Ⅱ類 — 第Ⅳ群土器 縄文時代後期中葉の土器

第Ⅲ群Ⅲ類 — 第Ⅴ群土器 縄文時代後期後葉の土器

第Ⅲ群Ⅳ類 — 第Ⅵ群土器 縄文時代後期とみられるが型式不明の土器

第Ⅳ群Ⅲ類 — 第Ⅶ群土器 縄文時代晩期後葉の土器

E区遺構内出土土器観察表1

図	番号	出土地	層位	形状	部位	口縁部	胴部	底文	内面 装飾	分類 時期	備考	図一	単位 No.	
7	202土1	SK-202	5	深鉢	口	瓦線文			ナヅ	Ⅱ-1			148	
7	202土2	SK-202	6	深鉢	胴上		無文		ケズリ ナヅ	Ⅱ-1			147	
7	202土3	SK-202	10	壺	胴下		縄文(L), 瓦線文		L線行	Ⅱ-1			467	
7	203土1	SK-203	1	深鉢	胴上		縄文(かなり摩滅), 内面 スス付		斜行縄文	Ⅱ-4	P-7		150	
7	203土2	SK-203	4	深鉢	底状部	波状口縁, 内面文				Ⅱ-1	P-5		468	
7	203土3	SK-203	1	深鉢	胴上		縄文		L&R斜行	Ⅱ-4	P-1		149	
13	248土1	SK-248	1	深鉢	胴上		縄文		斜行縄文	Ⅱ-1	P-10		262	
13	248土2	SK-248	1	深鉢	口	無文	外面スス付		ナヅ	Ⅱ-3	P-12		252	
13	248土3	SK-248	1	深鉢	胴下		無文	外面スス付	ナヅ +ニガキ	Ⅱ-3	P-125		260	
13	248土4	SK-248	3	深鉢	胴下		無文	内面スス付	ケズリ ナヅ	Ⅱ-3	P-207		262	
13	248土5	SK-248	2	鉢	口	口縁内面に波線, 平行瓦線文			ナヅ	Ⅱ-3	P-162, 184	254-259 256	254	
13	248土6	SK-248	2	鉢	口	口縁内面に波線, 平行瓦線文			ナヅ	Ⅱ-3	P-184	254-259 256	255	
13	248土7	SK-248	4+2	深鉢	口	具原形状(L&R), 内面炭化 敷上 物行等, 外面スス付			具原形状	Ⅱ-3	P-234, 236		260	
13	248土8	SK-248	2	深鉢	胴下		具原形状(L&R), 内面 スス付		具原形状	Ⅱ-3	P-161		257	
13	248土9	SK-248	2	深鉢	口	具原形状(L&R), 外面スス 付			具原形状	Ⅱ-3	P-41		261	
13	248土10	SK-248	6	深鉢	胴上		具原形状(L&R), 内面 炭化物付		具原形状	Ⅱ-3	P-43		266	
13	248土11	SK-248	1	深鉢	胴下 ～底		具原形状(L&R), 内面 スス付		具原形状	Ⅱ-3	P-107, 111		263	
13	248土12	SK-248	覆土	壺小口	胴下		縄文帯(L&R)		L&R斜行	Ⅱ-3			267	
13	248土13	SK-248	4	ニニチヌ アヤ	口	口縁部に縄文(L&R), 胴内, 内 外面スス付			ケズリ ナヅ	Ⅱ-3	P-219		266	
13	248土14	SK-248		注口	注口				ケズリ	Ⅱ-3			265	
13	248土15	SK-248	2	注口	注口				ケズリ ナヅ	Ⅱ-3	P-42		264	
13	258土1	SK-258	1	深鉢小鉢	口	平行・波線状瓦線文			ナヅ +ニガキ	Ⅱ-1	P-258		277	
13	258土2	SK-258	5	深鉢	胴下		瓦線文, 縄文(欠破)		L&R斜行	Ⅱ-1	P-77		271	
13	258土3	SK-258	覆土	深鉢	口	無文	外面スス付		ナヅ	Ⅱ-3			276	
13	258土4	SK-258	1	深鉢	胴下		無文		ナヅ	Ⅱ-3	P-241		275	
13	258土5	SK-258	5	深鉢	胴上		無文	外面炭化物付	ナヅ	Ⅱ-3	P-264		273	
13	258土6	SK-258	6	深鉢	無	無文	内面スス付		ナヅ	Ⅱ-3	P-275		272	
13	258土7	SK-258	9	深鉢	胴下		具原形状(L&R)+R(L), 0取多 量, 外面スス付		具原形状	Ⅱ-3	P-303		280	
13	258土8	SK-258	5	深鉢	胴下		縄文(L&R), 内面炭化物付		L&R斜行	Ⅱ-3	P-271, 276		279	
13	258土9	SK-258	1	深鉢	胴上		縄文(L&R)		L&R斜行	Ⅱ-3	P-83		289	
13	258土10	SK-258	1	深鉢	胴上		縄文(L&R), 外面スス付		L&R斜行	Ⅱ-3	P-83		258	
13	258土11	SK-258	1	深鉢	胴下 ～底		縄文(L&R)		L&R斜行	Ⅱ-3	P-81		281	
13	258土12	SK-258	1	深鉢	胴下		縄文(L&R), 外面スス付		L&R斜行	Ⅱ-3	P-285, 286, 92		278	
13	258土13	SK-258	覆土	壺	底状部	口唇内面に波線, 口縁部に縄文 (L&R), 平行瓦線文	縄文帯(L&R), 脇線, 内面 わがまにスス付		L&R斜行	Ⅱ-3			254-259 266	289
13	258土14	SK-258	5+9	深鉢	口	口唇内面に波線(平行瓦線)	縄文(L&R), 外面スス付, 内面 炭化物付		L&R斜行	Ⅱ-3	P-301, 302, 303		270	
14	272土1	SK-272	5	深鉢	口	波線文			ナヅ	Ⅱ-1	P-29		293	
14	272土2	SK-272	5	深鉢	胴下		波線文, 内面炭化物付, 外 面かなり摩滅		ナヅ	Ⅱ-1	P-44		294	
14	272土3	SK-272	3	深鉢	口	無文			ナヅ	Ⅱ-3	P-208		290	
14	272土4	SK-272	8	深鉢	口	無文			ナヅ	Ⅱ-3	P-47		288	
14	272土5	SK-272	4	深鉢	胴上		縄文(L&R)		L&R斜行	Ⅱ-3	P-231		300	
14	272土6	SK-272	5	深鉢	胴下		無文	外面スス付	ナヅ	Ⅱ-3	P-50		291	
14	272土7	SK-272	1-3	深鉢	胴下		縄文(L&R), 内面スス付		L&R斜行	Ⅱ-3	P-169, 206, 234		297	
14	272土8	SK-272- 248	3-4	深鉢	胴上		無文		ナヅ	Ⅱ-3	P-221, 106, 110		299	
14	272土9	SK-272	4	深鉢	胴上		具原形状(L&R)+R(L), 内面 スス付		具原形状	Ⅱ-3	P-215		296	
14	272土10	SK-272	1	深鉢	胴上		縄文(L&R)		L&R斜行	Ⅱ-3	P-131		298	
14	272土11	SK-272	2	壺小口	肩		縄文帯(具原形状+L&R)		具原形状	Ⅱ-3	P-5		304	

E区遺構内出土土器観察表2

順	番号	出土地	層位	器種	部位	口部部	胴部	地文	内面 調整	分類 時期	備考	同一 整理 号	
14	272土-12	SK-272	2	壺小口口	胴下		縄文帯L口	L絞行	ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-1	303	
14	272土-13	SK-272	2	口口	口口		縄文帯(口L-Ⅱ-Ⅱ見取部) 胎線:口口下の胎の縁には 磨込状態、丁寧な土ぎ	SL・L絞行 黒膠羽状	ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-171	301	
14	293土-1	SK-293	4	鉢	口	胎状口縁、口口沈線2条、沈線 間に胎目			ナデ	Ⅱ-2	P-228	451	
14	293土-2	SK-293	10	深鉢	口	胎文			ナデ	Ⅱ-3	P-31	205	
14	293土-3	SK-293	3	深鉢	胴上		胎文		ナデ	Ⅱ-3	P-191	311	
14	293土-4	SK-293	5	深鉢	胴上		胎文		ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-227、横身不明線	310	
14	293土-5	SK-293	4	深鉢	胴上		胎文		ナデ	Ⅱ-3	P-210	309	
14	293土-6	SK-293	4	深鉢	胴上		縄文L口	L絞行	ナデ +ミガキ	Ⅱ-3	P-213, 220	308	
14	293土-7	SK-293	1	深鉢	口	小突起、異形胎目(L口+RL) 胎線、内面スス付着		異形胎状	ナデ	Ⅱ-3	P-143	253	
14	293土-8	SK-293	2	鉢	口	口唇内面に胎線、平行沈線文			ナデ	Ⅱ-3	P-164	254-255 289	
14	293土-9	SK-293	1	壺小口口	胴下		縄文帯(L口)	L絞行	ナデ	Ⅱ-3	P-128	307	
15	316土-1	SK-316	1	深鉢	胎状 部	胎線文				不明 (磨減)	Ⅱ-2	P-109	261
15	316土-2	SK-316	3	深鉢	口	胎文			ナデ	Ⅱ-3	P-186	348	
15	316土-3	SK-316	1	深鉢	胴上		縄文胎目、外面炭化物付着	RL絞行	ナデ	Ⅱ-3	P-124	349	
15	316土-4	SK-316	2	壺小口口	胴上 ~下		縄文帯、胎線、内面スス付 着	絞行縄文	ナデ	Ⅱ-3	P-188, 197	347	
15	318土-1	SK-318	深鉢	口	縄文L口、外面スス付着			L絞行	ナデ	Ⅱ-3	P-72	351	
15	318土-2	SK-318	台部	台		台部一箇文 (口縁部胎線 文)	RLケチ	ナデ	Ⅱ-3	P-286, 304	350		
15	375土-1	SK-375	鉢	胴上 ?		胎線文、条線文、外側スス 付着		条線文	ナデ	Ⅱ-1	P-172	295	
15	375土-2	SK-375	深鉢	口	胎状縄文、内面炭化物付着			胎状縄文	不明 (炭化物)	Ⅱ-3	P-232	352 353	
15	375土-3	SK-375	深鉢	口	縄文(口)なり摩滅、内面スス付 着			縄文	ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-248	448	
15	375土-4	SK-375	深鉢	口	異形胎目(L口+RL)、内面炭化 物付着			異形胎状	不明 (炭化物)	Ⅱ-3	P-306	352 354	
15	375土-5	SK-375	深鉢	胴上		異形胎目(L口+RL)、内面 炭化物付着		異形胎状	不明 (炭化物)	Ⅱ-3	P-293	353 354	
15	375土-6	SK-375	鉢	口	胎文、口唇~内面にスス付着				ナデ	Ⅱ-3	P-267	449	
15	375土-7	SK-375	壺	肩		胎文			ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-172	355	
15	376土-1	SK-376	深鉢	口	胎状縄文、内面炭化物付着			胎状縄文	ナデ	Ⅱ-3	P-204	289	
15	376土-2	SK-376	深鉢	胴上		異形胎目(SL+L口)		異形胎状	ナデ	Ⅱ-3	P-7	450	
15	376土-3	SK-376	壺小口口	胴下		縄文帯胎目		胎状縄文	ナデ	Ⅱ-3	P-141	302	
18	306土-1	SK-306	6	深鉢	胴上		磨巧文、平行沈線文		ナデ	Ⅱ-1	P-66	313	
18	306土-2	SK-306	1	深鉢	胴下		沈線文		ナデ	Ⅱ-1	P-11	314	
18	306土-3	SK-306	2	深鉢	内 部	胎状口縁、口唇部胎線、胎文			ナデ +ミガキ	Ⅱ-2	P-9	315	
18	306土-4	SK-306	7	深鉢	口	胎文			ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-25	328	
18	306土-5	SK-306	3	深鉢	胴上		胎文、外面炭化物付着		ナデ	Ⅱ-3	P-22	335	
18	306土-6	SK-306	1P-19 +22	深鉢	口~ 胴上	胎文			ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-44, 51, 83	326	
18	306土-7	SK-306	13-21	深鉢	口~ 胴上	胎文			ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-33, 92	329	
18	306土-8	SK-306	19	深鉢	胴上 下		胎文		ナデ	Ⅱ-3	P-66, 94	330	
18	306土-9	SK-306	7-9	深鉢	胴上		胎文		ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-83, 79	333	
18	306土-10	SK-306	5-19	深鉢	胴上		胎文		ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-62, 102, 111	336	
18	306土-11	SK-306	21	深鉢	口~ 胴上	胎文			ナデ +ミガキ	Ⅱ-3	P-82	327	
18	306土-12	SK-306	13	深鉢	胴上		胎文		ナデ	Ⅱ-3		331	
18	306土-13	SK-306	9	深鉢	胴上		胎文、内面炭化物付着		ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-115	338	
18	306土-14	SK-306	5	深鉢	胴上		胎文、内面炭化物付着		不明 (炭化物)	Ⅱ-3	P-105	337	
18	306土-15	SK-306	3	深鉢	口	異形胎目(L口+RL)、外面炭化 物付着、内面スス付着		異形胎状	ナデ +ミガキ	Ⅱ-3		318	
18	306土-16	SK-306	1	深鉢	口	異形胎目(SL+L口)、外面スス 付着		異形胎状	ケズリ +ナデ	Ⅱ-3	P-12	317	

E区遺構内出土土器観察表3

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口縁部	胴部	底文	内面	分層	備考	同一	数量	
									調査	時期			個	
18	356土-17	SK-306	9	深鉢	口	黒厚煎状(LR+RL)			黒厚煎状	ナゾ	E-9		P-57	319
18	356土-18	SK-306	17	深鉢	胴上		黒厚煎状(LR+RL)、内面 スス付着		黒厚煎状	ナゾ	E-9		P-37	320
18	356土-19	SK-306	9	深鉢	胴上		黒厚煎状(DL+LL)、O形多 孔		黒厚煎状	ケズリ ナゾ	E-9		P-41	340
18	356土-20	SK-306	確認 層	深鉢	胴下 ～底		黒厚煎状(LR+RL)		黒厚煎状	ナゾ	E-9		P-7	341
18	356土-21	SK-306	2-19	壺	胴上					ケズリ ナゾ	E-9		P-60、109	332
18	356土-22	SK-306	2	壺	口	胴下	縄文(LR)、沈黙文、内面 スス付着		LR斜行	ナゾ	E-9	322	P-89	321
18	356土-23	SK-306	2-7	注口	胴下		縄文等(LR+RL)、縞の割 寄せ、内面スス付着		LR+RL 斜行	ケズリ ナゾ	E-9		P-30、90	320
18	356土-24	SK-306	3	壺	口	胴上	縄文(LR)、沈黙文、内面 スス付着		LR斜行	ナゾ	E-9	321	P-17	322
18	356土-25	SK-306	2	壺	口	胴上	縄文等(LR+RL)、縞縞上 に縞状圧痕、縄文(LR)		LR+RL斜行	ケズリ ナゾ	E-9		P-20、縞き不明瞭	316
18	356土-26	SK-306		注口	注口		縄文等(LR+RL)、縞縞、 注口下部の縞には縞状圧 痕、丹塗丁寧なミゴキ		LR+RL 斜行	ケズリ ナゾ	E-9			323
18	356土-27	SK-306		注口	注口		縞縞、沈黙文、丹塗丁寧な ミゴキ			ケズリ	E-9			324
18	356土-28	SK-306	13	小笠 壺	口	胴下 ～底				ナゾ	E-9			342
18	356土-29	SK-306	覆土	口	胴	胴	縞文			ケズリ ナゾ	E-9			325
20	356土-1	SK-356	3	深鉢	胴上 下					ナゾ ナゾ ナゾ	E-9		P-49	372 371
20	356土-2	SK-356	3	深鉢	胴上 下		縞文、外面わずかにスス 付着			ナゾ	E-9		P-24	370
20	356土-3	SK-356	2-5	深鉢	胴上 下		縞文			ナゾ	E-9		P-51、51	373 374
20	356土-4	SK-356	1-5	深鉢	胴上 下		縞文			ナゾ ナゾ	E-9		P-16、36	371 372
20	356土-5	SK-356	3	深鉢	胴下		縞文			ナゾ	E-9		P-60	374 373
20	356土-6	SK-356	確認 層	深鉢	胴上		黒厚煎状(LR+LL)、内面 スス付着		黒厚煎状	ナゾ	E-9		P-8	366
20	356土-7	SK-356	1	深鉢	胴下		黒厚煎状(LR+RL)、内外 面スス付着		黒厚煎状	ケズリ ナゾ	E-9		P-18	364
20	356土-8	SK-356	1	鉢	口	口	白口沈黙、口縁～沈黙間に縞 状割目			ナゾ	E-2		P-20	377
23	356土-9	SK-356	5	深鉢	口	胴上	小突部、突起内面に縞状圧痕、 外面に縞縞、縄文(LR+RL)、 胴部に縞縞上縁、外面スス付 着、内面灰化物付着		黒厚煎状(LR+LL)、内面 スス付着	ナゾ	E-9		P-10	361
23	356土-10	SK-356	7-12	深鉢	口	胴上	小突部、沈黙文、縞縞、内外 面灰化物付着		縞文、内外面灰化物付着	ナゾ	E-9		P-28、29、33	369-368 360
23	356土-11	SK-356		深鉢	底沈 部		底沈口縁、縄文(LR)、波縞縞 に縞縞、沈黙文		LR斜行	ナゾ	E-9			364
23	356土-12	SK-356	覆土	深鉢	口	胴上	小突部、外面灰化物付着、内 面スス付着			ナゾ	E-9			369-368 376
23	356土-13	SK-356	7	深鉢	底沈 部		底沈口縁、縄文(LR)、縞縞縞 状縞縞と中心部、沈黙文		LR斜行	ナゾ	E-9		P-41	363
23	356土-14	SK-356	5	深鉢	胴上		黒厚煎状(LR+RL)、内外 面スス付着		黒厚煎状	ナゾ	E-9		P-42、52	365
23	356土-15	SK-356	1	深鉢	胴上		縄文等(LR)、内外面スス 付着		LR斜行	ナゾ	E-9		P-13	378
23	356土-16	SK-356	14	深鉢	口	胴上	小突部、沈黙文、縞縞縞縞、 外面灰化物付着、内面スス付 着			ナゾ	E-9		P-23	369-368 375
23	356土-17	SK-356	6-12	深鉢	胴上		沈黙文、外面灰化物付着、内面 わずかにスス付着		左と異	ナゾ	E-9		P-29、47	369-368 382
23	356土-18	SK-356	15	壺	口	胴上	縞文			ナゾ	E-9		P-55	385
23	356土-19	SK-356	7	壺	口	胴上	縞文、内面わずかにスス付 着			ナゾ	E-9		P-39	386
23	356土-20	SK-356		壺	胴上		縞文			ナゾ	E-9			369 387
23	356土-21	SK-356	3	壺	胴下		縞文			ナゾ	E-9		P-31	367 368
23	356土-22	SK-356	14	壺	口	胴下	縞文			ナゾ	E-9		P-53	389
23	356土-23	SK-356	15	壺	胴下	胴下	縞文			ナゾ	E-9		P-54	319
23	356土-24	SK-356	覆土	壺	口	胴上	縞縞上に縞状圧痕			ケズリ ナゾ	E-9			387

E区遺構内出土土器観察表4

図番号	出土地	層位	器種	部位	口縁部	胴部	地文	内面 調整	分類 (内装)	備考	同一 整理 号
23 356土-25	SK-356	1	壺小口	胴下		縄文(RL)、胎線の上に帯状 圧痕	RL斜行	ナデ	Ⅱ-3	P-21	288
23 356土-26	SK-356	1	壺小口	胴下		縄文(RL)	RL斜行	ナデ	Ⅱ-3	P-17	280
23 356土-27	SK-356	掘土	注口	胴上下		縄文(RL)、胎線、注口の 筋線、内面スス付着	L斜行	ナデ	Ⅱ-3		281
23 356土-28	SK-356	掘土	小胴下 小口	胴		縄文(RL)、胎線、枕線文	L斜行	ナデ	Ⅱ-3		279
23 356土-29	SK-356	16	台座	台		縄文		ナデ	Ⅱ-3	P-56	262
23 356土-30	SK-356	14	小瓶蓋部	完形		縄文、内面スス付着		ナデ	Ⅱ-3	P-40	263
23 356土-31	SK-356	5	小瓶蓋部	略形	縄文	縄文		ナデ +ニ芽草	Ⅱ-3	P-48	358
23 356土-32	SK-356		ミニチュ ア蓋	胴上下		縄文		ナデ	Ⅱ-3		269
24 357土-1	SK-357	1	段鉢	口	台口枕線、内面スス付着			ナデ	Ⅱ-1	P-42	296
24 357土-2	SK-357	編段 面	段鉢	底		縄文		ナデ	Ⅱ-1	P-36、40	290
24 357土-3	SK-357	1	壺	胴下 ~底		平行枕線2条		ナズリ +ナデ	Ⅱ-1	P-23, 39, 41, 44	291
24 357土-4	SK-357	1	壺	胴~ 胴上		渦巻状枕線文		ナデ	Ⅱ-1	P-39, 44	294-295 298-299
24 357土-5	SK-357	1	壺	胴上 下		渦巻状枕線文		ナデ	Ⅱ-1	P-44, 8	294 298-299
24 357土-6	SK-357	1	壺	胴下		渦巻状枕線文		ナデ	Ⅱ-1	P-2, 39	295 298-299
25 357土-7	SK-357	1	壺	口	横内文			ナデ	Ⅱ-1	P-39	297
25 357土-8	SK-357	1	壺	胴下	横内文			ナデ	Ⅱ-1	P-30, 4	401
25 357土-9	SK-357	1	壺	胴下		渦巻状枕線文		ナデ	Ⅱ-1	P-39	292-294 298-299
25 357土-10	SK-357	1	壺	胴上 下		渦巻状枕線文		ナデ	Ⅱ-1	P-18, 39	295 298-299
25 357土-11	SK-357	1	段鉢	胴下		沈線、縄文(RL)	RL斜行	ナデ +ニ芽草	Ⅱ-4	P-45	400
26 357土-12	SK-357	1	壺	胴上 ~底		横内文、渦巻状文等の枕 線文、外面彩色顔料塗布		ナデ	Ⅱ-1	P-37, 27, 24, 31, 6, 13, 25, 19, 20, 34, 29	393
27 358土-1	SK-358	1-8	段鉢	口	単純条帯第1層(L)			ナデ	Ⅱ-1	P-7, 16	402 403
27 358土-2	SK-358	4	段鉢	口	単純条帯第1層(L)			ナデ	Ⅱ-1	P-8	403 402
27 358土-3	SK-358	編段 面	段鉢	口	斜り直し口縁、単純条帯第 1層(L)O			ナデ	Ⅱ-1		406
27 358土-4	SK-358	1	段鉢	胴上		単純条帯第5層	単純条帯第5層	ナデ	Ⅱ-1	P-2	408
27 358土-5	SK-358	1	段鉢	胴上		単純条帯第5層(O)	単純条帯第5層	ナデ	Ⅱ-1	P-3	407
27 358土-6	SK-358	1	段鉢	口	平行枕線文、横内文			ナデ	Ⅱ-1	P-19	404
27 358土-7	SK-358	3	鉢?	胴上		沈線文		ナデ	Ⅱ-1	P-20	409
27 358土-8	SK-358	編段 面	段鉢	胴上		縄文(L)O	L斜行	ナデ	Ⅱ-4		405
28 361土-1	SK-361	1	段鉢	胴上		縄文、内面スス付着		ナデ	Ⅱ-1	P-7	412
28 361土-2	SK-361	編段 面	段鉢	口	単純条帯第1層(L)			ナデ	Ⅱ-1		415 414
28 361土-3	SK-361	1	段鉢	胴上		単純条帯第1層(L)	単純条帯第1層	ナデ	Ⅱ-1	P-8	414 415
28 361土-4	SK-361	3	段鉢	胴下		沈線文、内面スス付着		ナデ	Ⅱ-1	P-10	412
28 361土-5	SK-361	1	段鉢	胴下		単純条帯第5層(O)	単純条帯第5層	ナデ	Ⅱ-1	P-6	416
28 361土-6	SK-361	編段 面	段鉢	底	波状口縁、縄文(RL)、沈線文、 裏面に花巻1条			ナデ +ニ芽草	Ⅱ-1		411
28 362土-1	SK-362	編段 面	段鉢	胴上		単純条帯第5層(L)	単純条帯第5層	ナズリ +ナデ	Ⅱ-1		419
28 362土-2	SK-362	3	段鉢	胴上		帯状縄文(RL、L)O	帯状縄文	ナデ	Ⅱ-1	P-15	420
28 362土-3	SK-362	3	段鉢	胴下		縄文(RL)	RL斜行	ナデ	Ⅱ-1	P-11	421
28 362土-4	SK-362	8	段鉢	胴上		沈線文(平行・横内?)		ナデ	Ⅱ-1	P-14	422
28 362土-5	SK-362	5	段鉢	胴上		粘土凝結層の上に横内、 横内文		ナデ +ニ芽草	Ⅱ-1	P-12	424
28 362土-6	SK-362	4	段鉢	胴上		縄文		ナデ	Ⅱ-1	P-1	423
28 362土-7	SK-362	6	壺	胴上		縄文(RL、胎線、横内文)	RL斜行	ナデ	Ⅱ-1	P-6	425
28 362土-8	SK-362	編段 面	ミニチュ ア?	口	口唇に斜角、枕線、横内文、内 面に沈線2条、内面スス付着			ナデ	Ⅱ-1		418
28 362土-9	SK-362	4	段鉢	口	斜り直し口縁、単純条帯第5 層(O)			ナデ +ニ芽草	Ⅱ-1	P-1, 3	417
29 363-364 土-1	SK-363- 364	1	段鉢	口	斜り直し口縁、単純条帯第5 層(O)			ナデ	Ⅱ-1	P-2	426
29 363-364 土-2	SK-363- 364	1	段鉢	胴上		単純条帯第5層(O)	単純条帯第5層	ナデ	Ⅱ-1	P-11	427
29 363-364 土-3	SK-363- 364	1	段鉢	胴上		沈線文		ナデ	Ⅱ-1	P-9	429
29 363-364 土-4	SK-363- 364	1	段鉢	胴上		沈線文		ナデ	Ⅱ-1	P-4	428

E区遺構内出土土器観察表 5

図番号	出土地	層位	器種	部位	口部形	胴部	地文	内面 調色	分類 (時期)	備考	同一	整理 №	
29	303・304 土5	SR-303 +304	横須 直	直	胴下		沈黙文、横文(L)O	L&R斜行	ナゾ	Ⅱ-1		430	
30	305土-1	SR-305	5	横須 口～ 胴	胴下	口部→粘土磁胎付、胴部に赤土・ 横文(L)調色。外面に横文(OO 調色。口縁→口部→横文(OO調 色付着。器身剥落部	結成第1層	結成第1層	ナゾ	Ⅱ-1	P-3	431A	432
30	305土-2	SR-305	3	横須 胴下	胴下		結成第1層	結成第1層	ナゾ	Ⅱ-1	P-5	432A	434
30	305土-3	SR-305	15	横須 胴～ 胴	胴下	口部→横文(OO調色付着。器身 剥落部	結成第1層	結成第1層	ナゾ	Ⅱ-1		432A	433
30	306土-1	SR-306	横須 直	直	胴下		横文(L)J	R&L斜行	ナゾ	Ⅲ-4	P-1		441
30	306土-2	SR-306	横須 直	直	胴上		華輪器身部第1層(L)	華輪器身部第1層	ナゾ	Ⅲ-1			439
30	306土-3	SR-306	直	胴下	胴下		粘土磁胎付、沈黙文。内 面にスス付着		ケズリ +ナゾ	Ⅲ-1			440
30	306土-4	SR-306	6	横須 胴下	胴下		黒原器身部(L)R	黒原器身部	ナゾ	Ⅲ-3	P-7		442
30	306土-5	SR-306	横土 横須 直	直	胴下	口	横文。外面にスス付着		ナゾ	Ⅲ-3			436
30	306土-6	SR-306	横須 直	直	胴下		横文。内・外面にわずかに スス付着		ナゾ	Ⅲ-3			437
30	306土-7	SR-306	横須 直	直	胴上	胴上	横文		ケズリ +ナゾ	Ⅲ-3	P-3		438
30	306土-8	SR-306	横須 直	直	胴上	直	横文。外面にスス付着		ナゾ	Ⅲ-4			435
31	307土-1	SR-307	9	横 胴下	胴下		横文。横文(L)O。内面 わずかにスス付着	L&R斜行	ナゾ	Ⅲ-1	P-11		444
31	307土-2	SR-307	横土 中位	横須 中位	口	沈黙文			ナゾ +土質キ	Ⅲ-1			443
31	308土-1	SR-307	4	横 胴下 ～底	胴下 ～底		横文。内面に赤色顔料付着		ケズリ +ナゾ	Ⅲ-1	P-6		445
31	308土-1	SR-308	3	横須 胴上	胴上		横文		ナゾ +土質キ	Ⅲ-1	P-3		447
31	308土-2	SR-308	1	横須 表反 部	表反 部	波状口縁、沈黙文			ナゾ	Ⅲ-1	P-1		446
32	507土-1	SR-507	3	横須 直	直	横文等(O)・L(R)。外面にわずかに スス付着		R・L&R 斜行	ナゾ	Ⅲ-3	P-1		453
32	507土-2	SR-507	横須 直	直	胴下		横文		ケズリ +ナゾ	Ⅲ-3			452
32	508土-1	SR-508	1	横須 胴上	胴上		横文。外面に灰化物付着		ナゾ	Ⅲ-3	P-1, 2		455
32	508土-2	SR-508	1	横須 胴上	胴上		横文。外面に灰化物付着		ナゾ	Ⅲ-3	P-3		454
32	509土-1	SR-509	1	直小径口 口	口	横文			ナゾ	Ⅲ-3			457A
46	PI-305-1	PI-305	1	直小径口 胴下	胴下		横文		ナゾ	Ⅲ-4	P-18		459
46	PI-407-1	PI-407	横須 直	直	胴上		華輪器身部第2層(O)。外面 スス付着	華輪器身部第2層	ナゾ	Ⅲ-1			452
46	PI-451-1	PI-451	横須 口	口	華輪器身部第2層(L)。外面に わずかに灰化物付着			華輪器身部第2層	ナゾ +土質キ	Ⅲ-1			453
46	PI-464-1	PI-464	7	直小径口 胴下	胴下		横文(横原器身部)R。R(L) 加飾	横原器身部	ケズリ +ナゾ	Ⅲ-3	P-6		454
46	PI-465-1	PI-464	横土 中位	直小径口 胴下 ～底	胴下 ～底		横文		ケズリ +ナゾ	Ⅲ-3			455
46	PI-465-1	PI-465	7	横須 口	口	横文			ナゾ	Ⅲ-3	P-11		455A
46	PI-465-2	PI-465	7	横須 胴下	胴下		横文		ナゾ	Ⅲ-3	P-10		455B
46	PI-465-3	PI-465	3	横須 胴下	胴下		横文		ナゾ	Ⅲ-3	P-4		455C
46	PI-465-4	PI-465	3	横須 胴下	胴下		横文		ナゾ	Ⅲ-3	P-13		455D
46	PI-467-1	PI-467	横須 胴下	胴下	胴下		横文(R)J。内面にスス付着	R&L斜行	ナゾ	Ⅲ-4			460

E区遺構外出土土器観察表1

観	番号	出土地	器種	形状	口部部	胴部	地文	内周	分形	備考	出	整理
								形状	(時期)			地
53	1	XⅡH-222	Ⅱ	酒杯	山	残部強直部		1次脚部直	2.5寸	I	胎土内側部底入	934
53	2	XⅡH-223	Ⅱ	酒杯	山	残部強直部		1次脚部直	2.5寸	I	胎土内側部底入	817
53	3	XⅡD-225	I	酒杯	廣	廣	廣	残部直	2.5寸	I	胎土内側部底入	698
53	4	XⅡF-223	I	酒杯	廣	胎部強直部付付、上脚部強直部	廣	1.1脚	2.5寸	I	胎土内側部底入	819
53	5	XⅡD-222	I	酒杯	廣	胎部強直部		胎部強直部	2.5寸	I	胎土内側部底入	680
53	6	XⅡE-220	I	酒杯	廣	胎部強直部		胎部強直部	2.5寸	I~II	胎土内側部多量底入	726
53	7	残部	Ⅱ	酒杯	廣	胎部強直部		1.1脚	2.5寸	II-2	胎土内側部多量底入	855
53	8	XⅡD-217	Ⅱ	酒杯	直	廣		1.1脚	胎部II-2~ 直	胎土内側部、褐色底入、 1.1脚部底入	1019	
53	9	XⅡF-215	Ⅱ	酒杯	直	ナブ	廣	ナブ	胎部II-2~ 直	胎土内側部、褐色底入、 胎部強直部	1145	
53	10	XⅡD-216	Ⅱ	酒杯	廣	胎部強直部		1.1脚	胎部I	胎土内側部、褐色底入	11.12	977
53	11	XⅡD-216	I	酒杯	廣	胎部強直部		1.1脚	胎部I	胎土内側部、褐色底入	10.12	975
53	12	XⅡD-216	Ⅱ	酒杯	廣	胎部強直部		1.1脚	胎部II	胎土内側部、褐色底入	10.11	974
53	13	XⅡK-215	Ⅱ	酒杯	口	口部強直部、廣		1.1脚	胎部I	胎部強直部、胎土内側部底入	1146	
53	14	XⅡJ-215	Ⅱ	酒杯	口	口部強直部、竹管状工具による割 取後残部		1.1脚	胎部I	胎土内側部、褐色底入	1079	
53	15	XⅡK-215	Ⅱ	酒杯	口	口部強直部、胎部強直部 割取後残部		1.1脚	胎部I	胎土内側部、褐色底入	1075	
53	16	XⅡE-220	I	酒杯	口	口部強直部、口部外縁、口部下 行残部	ナブ	胎部I	胎部I	胎土内側部底入	732	
53	17	XⅡG-219	Ⅱ	壺	口	口部強直部、口部下残部、胎部、 胎部下に竹管状	ナブ	1.1脚	胎部I	胎土内側部、褐色底入	870	
53	18	XⅡS-216	Ⅱ	酒杯	口	口部強直部、口部外縁、口部上 端	胎部強直部	1.1脚	胎部I	胎土内側部底入	947	
53	19	XⅡJ-215	I	酒杯	口	口部強直部		1.1脚	胎部I	胎土内側部底入	1084	
53	20	XⅡG-217	Ⅱ	酒杯	山	胎部強直部、口部外縁、胎部強直部 各平平行残部、胎部下平平行残部	ナブ	1.1脚	胎部I	胎土内側部底入	1003	
53	21	XⅡK-218	I	酒杯	山	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部、褐色底入	1096	
53	22	XⅡK-218	I	酒杯	山	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	1093	
53	23	XⅡE-220	I	酒杯	口	胎部強直部、口部外縁、胎部強直部 各平平行残部	ナブ	胎部I	胎部I	胎土内側部底入	733	
53	24	XⅡG-217	I	酒杯	山	胎部強直部、強い外反	ナブ	胎部I	胎部I	胎土内側部底入	890	
53	25	XⅡE-219	Ⅱ	酒杯	口	胎部強直部、胎部強直部	胎部強直部	胎部I	胎部I	胎土内側部底入	878	
53	26	XⅡD-215	I	酒杯	口	胎部強直部、口部下平平行残部	ナブ	胎部I	胎部I	胎土内側部底入	1073	
53	27	XⅡG-221	I	酒杯	山	胎部強直部、口部下平平行残部	ナブ	胎部I	胎部I	胎土内側部底入	722	
53	28	XⅡC-222	I	酒杯	口	胎部強直部、口部下平平行残部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	683	
53	29	XⅡH-222	I	酒杯	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	935	
53	30	XⅡF-216	Ⅱ	壺	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	953	
53	31	XⅡK-214	Ⅱ	壺	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	833	
53	32	XⅡK-214	Ⅱ	壺	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	832	
53	33	XⅡE-217	Ⅱ	酒杯	口	口部外縁、口部下平平行残部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	594	
53	34	XⅡK-214	Ⅱ	壺	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	830	
53	35	XⅡG-217	Ⅱ	酒杯	山	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	1062	
53	36	XⅡF-216	Ⅱ	壺	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	942	
53	37	XⅡE-215	Ⅱ	酒杯	口	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入、小型	1078	
53	38	XⅡK-213	Ⅱ	壺	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入、褐色底入	824	
53	39	XⅡF-215	Ⅱ	壺	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	1060	
53	40	XⅡG-215	I	酒杯	口	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部、褐色底入	1081	
53	41	XⅡG-219	Ⅱ	酒杯	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	871	
53	42	XⅡK-215	Ⅱ	壺	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	1077	
53	43	XⅡE-217	Ⅱ	酒杯	口	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	889	
53	44	XⅡK-215	Ⅱ	壺	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎部強直部、胎土内側部、 褐色底入	1076	
53	45	XⅡF-215	Ⅱ	壺	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎部強直部、胎土内側部、 褐色底入	1101	
53	46	XⅡM-218	I	酒杯	山	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部	1101	
54	47	XⅡH-228	I	山	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部底入	784		
54	48	XⅡG-220	I	酒杯	山	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部、胎部強直部	743	
54	49	XⅡL-219	Ⅱ	壺	廣	胎部強直部、胎部強直部		胎部I	胎部I	胎土内側部、褐色底入	50	630

E区遺構外出土土器観察表2

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口部証	胴部	底文	内面	分層	備考	同一	整理
54	50	XBL-217	Ⅱ	準乳土瓶	胴部		人施文、輪線、粘着化粧に 刺突、下部3分半	L1L横	ナデ	Ⅲ-3	両部上付底、胎土内砂色、 褐色胎土	19	607
54	51	XBL-217	Ⅰ	準乳土瓶	胴		人施文、輪線	RL、L1L横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土	52	642
54	52	XBL-217	Ⅱ	準乳土瓶	胴部		人施文、輪線、下部1分半	RL	ナデ	Ⅲ-3	両部上付底、胎土内砂色、 褐色胎土	51	641
54	53	XEG-223	Ⅰ	壺口	胴		人施文、輪線、突起欠落	RL、L1L	ナデ	Ⅲ-3	輪線無刺突、胎土内砂色、 褐色胎土		602
54	54	XBL-217	Ⅱ	壺口	胴		平行帯施文、粘着化粧	RL、L1L横	ナデ	Ⅲ-3	胎土質、内面輪線無刺 突		1127
54	55	XEG-218	Ⅱ	壺小口	胴		人施文、突起上縁小、胎 土	RL	ナデ	Ⅲ-3	胎土質、内面輪線無刺 突		1149
54	56	XBL-217	Ⅰ、Ⅱ	壺口	胴注口	作門部帯施文、上下面粘着、 接合部突起上縁胎土	人施文、突起上縁胎土、粘 着、下部3分半	0段多条L1+RL	ナデ	Ⅲ-3	胎土内褐色胎土		631
54	57	XBL-217	Ⅰ	壺口	胴		人施文、突起胎土	RL横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色、褐色胎土		639
54	58	XEG-219	Ⅰ	壺鉢口	口	口唇上突起、内面胎土、外縁胎 土	人施文、粘着欠落	0段多条L1+RL	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		1114
54	59	XEG-221	Ⅱ	壺鉢口	口		人施文、粘着	RL横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		1130
54	60	XEF-221	Ⅱ	壺鉢口	口		人施文、粘着	L1+RL	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		714
54	61	XEG-221	Ⅱ	壺鉢口	口	口唇下平行帯施文	2分半	RL横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色、褐色胎土		903
54	62	XEF-216	Ⅱ	壺鉢口	口	口唇下平行帯施文	ナデ	RL横	ナデ	Ⅲ-3	胎土質		1069
54	63	XBL-217	Ⅱ	壺鉢口	口	口唇上突起、内面内縁に縁、口唇 外側胎土	平行帯施文	RL横	ナデ	Ⅲ-3	胎土質	90	1126
54	64	XBL-217	Ⅰ、Ⅱ	壺小口	口	口唇上突起、外側胎土、胎 土	平行帯施文、2分半	L1L、0段多条L1	ナデ	Ⅲ-3	胎土質		644
54	65	XEH-223	Ⅱ	壺小口	口	口唇内側胎土、口唇上突起、外縁 V字突起、胎土質、内面胎 土	平行帯施文、帯施文内底、 沈線上胎土	RL、L1L横	3分半	Ⅲ-3	胎土質		810
54	66	XEG-221	Ⅰ、Ⅱ	壺鉢口	口	口唇上突起胎土、胎土質	平行帯施文上胎土	L1L横	ナデ	Ⅲ-3	胎土質、胎土内砂色胎 土		1160
54	67	XEG-221	Ⅰ	壺鉢口	口	口唇外側胎土、口唇下平行帯 施文、帯胎土	2分半	L1L横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色多量胎土		904
54	68	XEF-220	Ⅰ	壺鉢口	口	口唇上突起外側へ縁胎土、外縁胎 土質	人施文	RL横→斜	ナデ	Ⅲ-3	胎土質		767
54	69	XEG-221	Ⅱ	壺鉢口	口	口唇外側胎土	人施文、粘着胎土	RL斜	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		760
54	70	XEG-221	Ⅰ	壺小口	口	口唇上突起胎土、胎土質、粘 着胎土	人施文、突起胎土、粘 着胎土	RL横	ナデ	Ⅲ-3	胎土質、胎土質、輪 線無刺突		1161
54	71	XEF-222	Ⅱ	壺鉢口	口	口唇上突起、上面胎土、胎土 質、内側胎土	平行沈線胎土	L1L横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		931
54	72	XEF-219	Ⅱ	壺小口	口		未定胎土施文、胎土	L1L、L1L斜	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		963
54	73	XED-222	Ⅰ	壺鉢口	口	口唇上胎土粘着胎土、内外側胎 土	人施文	L1L横	ナデ	Ⅲ-3	胎土質	74	885
54	74	XED-222	Ⅰ	壺鉢口	口	口唇上胎土粘着胎土、内外側胎 土	人施文	RL横	ナデ	Ⅲ-3	胎土質	73	582
54	75	XEH-222	Ⅱ	壺鉢口	口	胎土質、口唇内側内面胎土、 胎土質胎土	未定胎土施文、胎土	L1L、RL	横ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色多量	77	616
54	76	XEF-222	Ⅱ	壺鉢口	口	胎土質、口唇内側内面胎土、 胎土質胎土	未定胎土施文、胎土	RL+0段多条L1	横ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色多量	76	672
54	77	XEG-221	Ⅰ	壺鉢口	口	胎土質、口唇外側胎土	人施文、胎土	RL→L1L	横ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色、褐色胎土		762
54	78	XEF-222	Ⅰ	壺鉢口	口	胎土質、口唇内側内面胎土、 胎土質胎土	人施文、口唇下胎土	RL、L1L	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		870
54	79	XEH-223	Ⅰ	壺鉢口	口	胎土質、口唇内側内面胎土	人施文	RL→L1L	横ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		813
54	80	XED-218	Ⅱ	壺鉢口	口	胎土質胎土	人施文	RL横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		1106
54	81	XEF-221	Ⅰ	壺鉢口	口	胎土質、胎土質胎土、胎土 質胎土胎土	人施文、胎土	RL横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		713
54	82	XED-219	Ⅰ	壺鉢口	口	胎土質胎土	人施文、胎土	RL、L1L横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		1115
54	83	XEF-216	Ⅰ	壺小口	口	口唇上突起、胎土質胎土、内 側胎土、外側胎土	人施文、胎土	RL斜	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		984
54	84	XEG-221	Ⅰ	壺鉢口	口	口唇上突起、内面胎土、外側胎 土、口唇内側胎土	人施文、胎土	RL→L1L	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		727
54	85	XEF-222	Ⅰ	壺鉢口	口	口唇上突起、胎土質胎土、外側胎 土	人施文、胎土	RL横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		674
54	86	XEF-222	Ⅰ	壺鉢口	口	口唇上突起内面胎土、内側胎 土、口唇下平行帯	人施文、胎土	0段多条L1	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		815
54	87	XEG-221	Ⅰ	壺鉢口	口		人施文胎土、胎土	L1L	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色多量胎土		730
54	88	XED-222	Ⅰ	壺小口	口		人施文、帯状突起	L1L+RL	ナデ	Ⅲ-3	胎土質		687
54	89	XEF-216	Ⅱ	壺鉢口	口	口唇ナデ	口唇下3分胎土、人施文	L1L斜	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土	90、91	936
54	90	XEF-216	Ⅱ	壺鉢口	口		人施文、胎土	L1L横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土、褐色胎土	89、91	940
54	91	XEF-216	Ⅱ	壺鉢口	口	口唇ナデ	口唇下3分胎土、人施文	L1L横	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土	89、90	936
54	92	XEF-216	Ⅱ	壺鉢口	口	口唇内側胎土、口唇上胎土内側 に縁	平行沈線胎土	L1L斜	ナデ	Ⅲ-3	胎土質		1135
54	93	XEG-223	Ⅰ	壺鉢口	口	口唇内側胎土	0段胎土上胎土	沈線	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		623
54	94	XEG-217	Ⅰ	壺鉢口	口	口唇外側胎土、胎土質胎土	0段胎土上胎土	沈線	ナデ	Ⅲ-3	胎土内砂色胎土		802
54	95	XEF-217	Ⅰ	壺小口	口		0段胎土上胎土	沈線	不明	Ⅲ-3	胎土質、胎土内砂色胎 土		892
54	96	XEG-218	Ⅰ	壺鉢口	口	口唇外側胎土、胎土質胎土	沈線	ナデ	Ⅲ-3	胎土質、胎土内砂色胎 土		1155	

E区遺構外出土土器観察表 3

図番号	出土地	層位	器種	部位	口縁部	胴部	底文	内面	分層	備考	同一	整理
55-97	X EK-217	I	壺小口口	胴		壺尊上腹文、突起、それ以外はナシ	L1底	ナシ	Ⅱ-3			645
55-98	X EL-217	I, II	壺小口口	胴		平行横文、底文部分短縮	RL, 側部多量LR	ナシ	Ⅱ-3			1125
55-99	X EL-217	Ⅱ	壺小口口	胴		壺尊上腹文、突起、それ以外はナシ	L1底	ナシ	Ⅱ-3			1016
55-100	X EL-217	I, II, III	壺小口口	胴		木葉入底文、突起、器底部壺尊内面縁部短縮	L1, RL	ナシ	Ⅱ-3			628
56-101	X EG-221	Ⅱ	壺口	口	口唇外周突起、上面短縮、口唇下平行沈線上面突起		沈線	ナシ	Ⅱ-3			101~107
56-102	X EG-221	Ⅱ	壺口	口	口唇下平行沈線上面突起		沈線	ナシ	Ⅱ-3			101~107
56-103	X EG-221	Ⅱ	壺口	胴		縦状沈線上面突起	沈線	ナシ	Ⅱ-3			101~107
56-104	X EG-221	Ⅱ	壺口	胴		横状、平行沈線上面突起、短縮、胴部下平ナシ	沈線、下平腹文	ナシ	Ⅱ-3			101~107
56-105	X EG-221	Ⅱ	壺口	胴		横状、平行沈線上面突起、短縮	沈線	ナシ	Ⅱ-3			101~107
56-106	X EG-221	Ⅱ	壺口	胴		沈線	ナシ	Ⅱ-3				101~107
56-107	X EG-222	Ⅱ	壺口	胴		突起、胴部下平ナシ	沈線、下平腹文	ナシ	Ⅱ-3			101~107
56-108	X EJ-219		壺口	壺口		ニガキ、上下腹突起、下面突起部内周短縮、突起部短縮	沈線	不明	Ⅱ-3			663
56-109	X EJ-219	I	壺口	壺口		ニガキ、上面突起、下面突起部短縮	L1底	不明	Ⅱ-3			1104
56-110	X EJ-219		壺口	壺口		ニガキ、下、胴部短縮、上面突起部短縮、基部短縮	沈線	不明	Ⅱ-3			646
56-111	X EF-220	Ⅱ	壺口	壺口		ニガキ、上下腹突起、下面突起部短縮	沈線	不明	Ⅱ-3			731
56-112	表裏	壺口	壺口	壺口		ニガキ、上下腹突起	底文	不明	Ⅱ-3			1106
56-113	X EF-220	Ⅱ	壺口	壺口		下面突起、沈線問題点	沈線	不明	Ⅱ-3			1121
56-114	X EJ-219	Ⅱ	壺口	壺口		ニガキ、下面突起	底文	不明	Ⅱ-3			1122
56-115	X EJ-219	Ⅱ	壺口	壺口		ニガキ、上下突起	底文	不明	Ⅱ-3			652
56-116	X EJ-219	I	壺口	壺口		ニガキ	底文	不明	Ⅱ-3			1123
56-117	X EF-221	Ⅱ	壺口	壺口		ニガキ	底文	不明	Ⅱ-3			1120
56-118	X EF-221	I	壺口	壺口		上面突起	底文	不明	Ⅱ-3			794
57-119	X EG-217	I	深鉢	口	底文口縁、器底突起欠損、器口下縁縁部短縮	羽状腹文	RL+LR	ナシ	Ⅱ-3			998
57-120	X EG-217	I, II	深鉢	口	底文口縁、器底突起上面短縮、器口下縁縁部短縮	羽状腹文	RL+LR	ナシ	Ⅱ-3			608
57-121	X EG-217	I	深鉢	口	底文口縁、器底突起上面短縮、器口下縁縁部短縮	羽状腹文	RL+LR	ナシ	Ⅱ-3			999
57-122	X EB-216	Ⅱ	深鉢	口	底文口縁、器底突起上面短縮、器口下縁縁部短縮	底文	RL	ナシ	Ⅱ-3			964
57-123	X EB-216	Ⅱ	深鉢	口	底文口縁、器底突起上面短縮、器口下縁縁部短縮	底文	RL	ナシ	Ⅱ-3			1139
57-124	X EJ-224	II	壺小口口	胴		平行沈線、ニガキ	横ナシ	Ⅱ-3				1171
57-125	X EG-221	Ⅱ	壺小口口	胴		平行沈線上面突起	不明	Ⅱ-3				728
57-126	X ED-221	I	壺小口口	胴		2条横線入底文	ナシ	Ⅱ-3				1147
57-127	X EJ-216	Ⅱ	壺小口口	胴		2条横線入底文	ナシ、輪縁部短縮	Ⅱ-3				982
57-128	X EL-217	I	深鉢	胴		器底突起、下部ニガキ	L1底	横ナシ	Ⅱ-3			643
57-129	X EL-217	I	深鉢	胴		縁部短縮タン状突起、上面短縮	底文	ナシ	Ⅱ-3			1128
57-130	X EG-216	Ⅱ	深鉢	胴		上部ニガキ、下面羽状腹文	RL+LR	横ナシ	Ⅱ-3			945
57-131	X EJ-219	Ⅱ	深鉢	口	口唇底上面突起内短縮(一部外短縮) 基部短縮、口唇内面短縮	羽状腹文	RL+LR	横ナシ	Ⅱ-3			629
57-132	X EG-219	Ⅱ	深鉢	口	口唇上面突起突起短縮、口唇内面短縮	羽状腹文	LR+RL	横ナシ	Ⅱ-3			980
57-133	X EG-219	Ⅱ	深鉢	口	口唇上面突起短縮、外側短縮、口唇内面短縮	短縮	底文	横ナシ	Ⅱ-3			582
57-134	X EG-221	I	深鉢	口	口唇上面突起、外側短縮、口唇内面短縮	羽状腹文	器底短縮+RL	横ナシ	Ⅱ-3			725
57-135	X EG-219	Ⅱ	深鉢	口	口唇上面突起、外側短縮、口唇内面短縮	入底文	L1底	ナシ	Ⅱ-3			975
57-136	X EJ-221	Ⅱ	深鉢	口	口唇上面突起短縮、外側短縮	入底文	RL底、L1底	横ナシ	Ⅱ-3			1041
57-137	X EG-221	I	深鉢	口	口唇上面突起短縮、外側、外側短縮、口唇内面短縮	底文	RL底	横ナシ	Ⅱ-3			764
57-138	X EG-221	I	深鉢	口	口唇上面突起短縮、内面短縮	羽状腹文	RL+LR	横ナシ	Ⅱ-3			901
57-139	X EG-221	I, II	深鉢	口	口唇上面突起短縮、外側短縮、口唇内面短縮	羽状腹文	RL+LR	横ナシ	Ⅱ-3			1157

E区遺構外出土土器類聚表 4

図	番号	出土地	層位	遺構	部位	口部形	胴部	底文	内面	分類	備考	図一	整理
57	140	X E19-217	Ⅱ	溝跡	口	口唇上突起の短形小、腹部割唐	素文	0段多条LR	横ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1015
58	141	X E10-221	Ⅰ	溝跡	口	口唇内削ぎ、口唇上突起内削ぎ	羽状素文	0段多条LR+RL	Ⅱ折ナ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	620
58	142	X E11-217	Ⅰ,Ⅱ	溝跡	口唇	口唇上突起内削ぎ、外側割唐	羽状素文、胴部最大径上突起上段形小	RL+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	899
58	143	X E10-221	Ⅰ	溝跡	口	口唇ナリ外削ぎ、内側割唐、口唇下突起、口唇上突起欠損	羽状素文	RL+0段多条LR	横ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	781
58	144	X E10-216	Ⅱ	溝跡	口唇	口唇上突起、突起上短小	素文	LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	939
58	145	X E10-217	Ⅰ	溝跡	胴	突起欠損	突起欠損	RL+LR	横ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1001
58	146	X E10-216	Ⅱ	溝跡	胴			胴部最大径上突起上段形小	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	959
58	147	X E10-217	Ⅰ	溝跡	胴			胴部最大径上突起上段形小	LR+RL	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	900
58	148	X E10-217	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+0段多条LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1014
58	149	X E10-222	Ⅰ	溝跡	口	口唇部+内削ぎ	羽状素文	RL+0段多条LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	671
58	150	X E10-222	Ⅰ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	669
58	151	X E10-221	Ⅰ	溝跡	口	口唇部+内削ぎ	羽状素文	0段多条LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	763
58	152	X E10-222	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+0段多条LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	687
58	153	X E10-216	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+0段多条LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	946
58	154	X E10-215	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	0段多条LR+RL	横ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1074
58	155	X E10-216	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+0段多条LR	横ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	941
58	156	X E10-223	Ⅰ	溝跡	口	口唇ナリ	羽状素文	RL+0段多条LR	横ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	814
59	157	X E10-219	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+0段多条LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	601
59	158	X E10-216	Ⅱ	溝跡	口唇	口唇内削ぎ	羽状素文	0段多条LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	949
59	159	X E10-221	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+0段多条LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	902
59	160	X E10-223	Ⅰ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+0段多条LR	横ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	813
59	161	X E10-222	Ⅰ	溝跡	口	口唇部+内削ぎ	羽状素文	LR+RL	横ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	666
59	162	X E10-220	Ⅰ	溝跡	口	口唇部+内削ぎ	羽状素文	胴部+LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	740
59	163	X E10-223	Ⅰ	溝跡	口	口唇部+内削ぎ	羽状素文	RL+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	811
59	164	X E11-218	Ⅰ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	838
59	165	X E10-221	Ⅰ	溝跡	口	口唇部+内削ぎ	羽状素文	LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	723
59	166	X E10-218	Ⅰ	溝跡	口	口唇平直、外側割唐	羽状素文	LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1091
59	167	X E11-214	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+LR	Ⅱ折ナ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	835
59	168	X E10-221	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	LR+LR	横ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	724
59	169	X E10-217	Ⅱ	溝跡	口	口唇部+内削ぎ	羽状素文	RL+LR	横ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1018
59	170	X E10-220	Ⅰ	溝跡	口	口唇部+内削ぎ	羽状素文	LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1137
59	171	X E10-221	Ⅰ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+RL	横ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	708
59	172	X E10-217	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1010
59	173	X E11-218	Ⅰ	溝跡	口	口唇ナリ平直	羽状素文	RL+0段多条LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	837
59	174	X E10-220	Ⅰ	溝跡	口	口唇内削ぎ	羽状素文	LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	741
59	175	X E10-219	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ、内削ぎ	羽状素文	RL+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	177 876
59	176	X E10-220	Ⅰ	溝跡	口	口唇内削ぎ、内側割唐	羽状素文	LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	742
59	177	X E10-219	Ⅱ	溝跡	口	口唇内削ぎ、内削ぎ	羽状素文	LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	176 1164
59	178	X E11-219	Ⅱ	溝跡	胴		羽状素文	0段多条LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	628
59	179	X E10-221	Ⅱ	溝跡	胴		羽状素文	RL+0段多条LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1021
59	180	X E10-220	Ⅰ	溝跡	胴		羽状素文	0段多条LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	745
59	181	X E10-219	Ⅱ	溝跡	胴		羽状素文	RL+LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	883
59	182	X E11-219	Ⅱ	溝跡	胴		羽状素文	RL+0段多条LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1112
59	183	X E11-219	Ⅱ	溝跡	胴		羽状素文	0段多条LR+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	884
59	184	X E11-221	Ⅱ	溝跡	胴		平行波線下羽状素文	LR+LR	Ⅱ折ナ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1033
60	185	X E11-217	Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ	溝跡	胴底		羽状素文腹平行波線、下部Ⅱ折ナ	LR+LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	898
60	186	X E10-217	Ⅰ	台付土器	口唇	口唇内削ぎ	羽状素文	RL+RL	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	620
60	187	X E11-219	Ⅱ	台付土器	台	裾込入	羽状素文	LR+LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1113
60	188	X E11-219	Ⅱ	溝跡	胴底		羽状素文、上部半周で向きかへた凸	LR+LR	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	702
60	189	X E10-227	Ⅱ	溝跡	胴		条文	条底面	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	600
60	190	X E10-223	Ⅰ	溝	口	口唇下突起、平行波線文	素文	LR	Ⅱ折ナ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	816
60	191	X E11-219	Ⅱ	溝	口	口唇ナリ	ナリ	素文	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	889
60	192	X E11-219	Ⅱ	溝	底	底上短小	素文	素文	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	861
60	193	X E10-218	Ⅱ	溝	底	底上短小	素文	素文	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	841
60	194	X E10-218	Ⅱ	溝	底	底上短小	素文	素文	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	1090
60	195	X E11-218	Ⅱ	溝	底	底上短小	素文	素文	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	845
60	196	X E11-218	Ⅱ	溝	底	底上短小	素文	素文	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	846
60	197	X E11-219	Ⅱ	溝	口唇	口唇内削ぎ	ナリ	素文	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	635
60	198	X E11-219	Ⅱ	溝	口唇	口唇内削ぎ	Ⅱ折ナ	素文	ナリ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	637
60	199	X E10-222	Ⅰ	溝	底	底上短小	素文	Ⅱ折ナ	Ⅱ折ナ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	688
60	200	X E11-219	Ⅱ	溝	底	底上短小	素文	Ⅱ折ナ	Ⅱ折ナ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	636
60	201	X E11-219	Ⅱ	溝	底	底上短小	素文	Ⅱ折ナ	Ⅱ折ナ	Ⅱ-3	Ⅱ	Ⅱ	885

E区遺構外出土土器観察表5

図	番号	出土層	層位	器種	部位	口縁部	胴部	底文	内面 模様	分類 (時期)	備考	同一	登録 No.
60	202	X B F 219	I	磁器	口	口縁内反	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器底摩滅		651
60	203	X B F 221	I	磁器	口	口縁内反	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器口縁部		707
60	204	X B F 221	I	磁器	口	口縁下部残存部、内面底面	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		1028
60	205	X B F 219	I	磁器	口	口縁下部	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		655
60	206	X B F 221	I	磁器	口	口縁内面下部	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		715
60	207	X B F 222	I	磁器	口	口縁内面下部	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		617
60	208	X B F 218	I	磁器	口	口縁内面下部	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		836
60	209	X B F 221	I	磁器	口	口縁上部	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		1027
60	210	X B F 221	I	磁器	口	口縁内面下部	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		1023
60	211	X B F 221	I	磁器	口	不明形、器底面による	無いナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		1029
60	212	X B F 221	Ⅱ	磁器	口	口縁内面下部	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		711
60	213	X B F 222	I	磁器	口	口縁内面下部	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		922
60	214	X B F 217	I	磁器	口	不明形、器底面による	無いナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面、褐色底面		1011
60	215	X B F 217	Ⅱ	磁器	口	口縁下部	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		897
60	216	X B F 216	Ⅱ	磁器	口	口縁内面下部	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		953
60	217	X B F 220	I	磁器	口	口縁下部	3万年	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		815
60	218	X B F 218	Ⅱ	磁器	口	口縁上部	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		1089
61	219	X B F 221	I	台形土器	台	台底面内面底面	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		619
61	220	X B F 222	I	台形土器	台	台底面内面底面	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		618
61	221	X B F 220	I	台形土器	台		ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		766
61	222	X B F 219	I, Ⅱ	台形土器	台	台底面内面底面	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	二次焼成による変色、器土内面底面、褐色底面		603
61	223	X B F 219	Ⅱ	台形土器	台	台底面内面底面	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	二次焼成による変色、器土内面底面、褐色底面		632
61	224	X B F 218	Ⅱ	台形土器	台		3万年	無文	不明	Ⅱ-4	器土内面底面		821
61	225	X B F 219	Ⅱ	台形土器	台		台底面内面底面、器底面	無文	不明	Ⅱ-2	器底面内面底面による変色化、器土内面底面、褐色底面		827
61	226	X B F 220	I	台形土器	台		ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面、台底の側面底面		772
61	227	X B F 222	I	台形土器	台		ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面、台底面底面に凸部あり		659
61	228	X B F 219	Ⅱ	磁器	口	口縁上部	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面、器底上げ部、スリ付		633
61	229	X B F 219	Ⅱ	磁器	口	口縁上部	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面、器底上げ部		634
61	230	X B F 221	Ⅱ	磁器	口	口縁上部	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面、褐色底面、器底上げ部		1024
61	231	X B F 221	Ⅱ	磁器	口	口縁上部	ナナ、器底外周に粘土加り付いた凸部がある	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面、器底上げ部		716
61	232	X B F 221	Ⅱ	磁器	口	口縁上部	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面、器底上げ部		717
61	233	X B F 220	I	磁器	口	口縁上部	ナナ、器底中央部に凸部あり	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面、褐色底面		735
61	234	X B F 219	Ⅱ	磁器	口	口縁上部	ナナ	無文	不明	Ⅱ-3	器土内面底面、褐色底面、器底上げ部		648
61	235	X B F 218	I	磁器	口	口縁上部	ナナ	無文	不明	Ⅱ-1	器土内面底面		839
61	236	Ⅱ	Ⅱ	磁器	口	口縁内面平行底面	口縁下部平行底面	L, R 底	不明	Ⅱ-2	器土内面底面、褐色底面		1042
61	237	X B F 217	Ⅱ	磁器	口	口縁上部	器土内面底面	L, R 底	不明	Ⅱ-3	器土内面底面	238	1142
61	238	X B F 217	Ⅱ	磁器	口	口縁上部	器土内面底面	L, R 底	不明	Ⅱ-3	器土内面底面		1068
61	239	X B F 222	Ⅱ	磁器	口	口縁上部	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器土内面底面	237	679
61	240	X B F 218	I	磁器	口	口縁上部	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器土内面底面		1096
61	241	X B F 220	I	磁器	口	口縁上部	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器底面、器土内面底面、器底		1138
61	242	X B F 216	Ⅱ	磁器	口	口縁上部、内面底面	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器土内面底面		957
61	243	X B F 219	Ⅱ	磁器	口	口縁上部、内面底面	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器土内面底面		873
61	244	X B F 221	Ⅱ	磁器	口	口縁上部、内面底面	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器土内面底面		1034
61	245	X B F 216	Ⅱ	磁器	口	口縁上部	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器土内面底面		944
61	246	X B F 220	I	磁器	口	口縁上部	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器土内面底面		705
61	247	X B F 224	I	磁器	口	器底面	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器土内面底面		908
61	248	X B F 216	Ⅱ	磁器	口	器底面	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器土内面底面		948
61	249	X B F 221	I	磁器	口	器底面	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器土内面底面		1118
61	250	X B F 222	I	磁器	口	ナナ	器底面	L, R 底	不明	Ⅱ-4	器土内面底面		600

E区遺構外出土土器観察表 6

図	番号	出土地	層位	器種	形状	口部	胴部	底文	内面	分節	備考	同一	数量
61	251	XⅡK-218	I	ミニチュア	口台	ナデ		無文	ナデ	Ⅲ-4	台付鉢、胎土内貯粒入		1097
61	252	XⅡE-216	Ⅱ	ミニチュア	台			無文	ナデ	Ⅲ-4	台付鉢、胎土内貯粒入		1141
61	253	XⅡE-217	Ⅱ	ミニチュア	底			無文	ナデ	Ⅲ-4	底、胎土内貯粒入		895
61	254	XⅡD-226	Ⅱ	小形	?			波状縦筋に胎痕	ナデ	Ⅲ-4	胎土製		1153
61	255	XⅡL-240	Ⅱ	ミニチュア	形	底	底	無文	ナデ	Ⅲ-4	底		213
62	256	表層		ミニチュア	煎豆			発着脚付	ナデ	Ⅲ-4	香粉		1,25

F区遺構外出土土器観察表 1

図	番号	出土地	層位	器種	形状	口部	胴部	底文	内面	分節	備考	同一	数量
78	1	XⅠE-217	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	深鉢	胎輪筋条体割取底	横文	丸底	Ⅱ-5	胎土内貯粒多量入		2060
78	2	XⅠD-217	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	深鉢	胎輪筋条体割取底	横文	L.R.+R.L.	Ⅱ-5	胎土内貯粒多量入		2048
78	3	XⅠJ-223	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	口折ナデ			胎輪筋条体割、胎痕付底	Ⅱ-5	胎土内貯粒多量入		808
78	4	XⅠE-221	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	深鉢			L.R.胎	Ⅱ-5	胎土内貯粒、竹刺入		2164
78	5	XⅠA-219	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	深鉢			L.R.+R.L.	Ⅱ-5	胎土内貯粒入		2038
78	6	XⅠS-221	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	深鉢			胎輪筋条体割	Ⅱ-5	胎土内貯粒多量入		804
78	7	XⅠH-221	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	深鉢			胎輪筋条体割	Ⅱ-5	胎土内貯粒多量入		710
78	8	XⅠC-213	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	深鉢			胎輪筋条体割取底	Ⅱ-5	胎土内貯粒		823
78	9	XⅠD-217	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	深鉢			胎輪筋条体割	Ⅱ-5	胎土内貯粒		2048
78	10	XⅠC-214	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	深鉢			胎輪筋条体割	Ⅱ-5	胎土内貯粒		2062
78	11	XⅡP-224	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	胎土製胎取、縦文割取底			L.R.胎取底	不明	Ⅲ-1	胎土内貯粒、砂、骨刺入	920
78	12	XⅡP-225	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	縦文割取底、胎付取器上小			L.R.胎	不明	Ⅲ-1	胎土内貯粒、骨刺入	688
78	13	XⅠK-225	Ⅱ	深鉢	Ⅱ		胎輪筋条体割取底+横文割取底		外周のくれ、内貯粒胎土ナデ	ナデ	Ⅲ-1	胎土内貯粒、石炭入	703
78	14	XⅠG-225	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				胎輪筋条体割、胎痕付底	Ⅱ-5	胎土内貯粒、石炭入		1134
78	15	XⅠK-225	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				L.R.胎	ナデ	Ⅲ-2 Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入	806
78	16	XⅡD-212	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				L.R.胎	ナデ	Ⅲ-2 Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入、胎土割取底	625
78	17	XⅠA-217	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				L.R.胎	ナデ	Ⅲ-2 Ⅲ-1	胎土内貯粒	2179
78	18	XⅠK-226	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	横中の底取口縁、頂部より胎付取器上小			L.R.胎、波状口縁	不明	Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入	19 851
78	19	XⅠK-226	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	胎輪筋条体割取口縁より底			胎輪筋条体割	不明	Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入	18 889
78	20	XⅡA-224	I	深鉢	Ⅱ				L.R.胎、横付管	ナデ	Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入	910
78	21	XⅠK-225	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				L.R.胎	不明	Ⅲ-1	胎土内貯粒	990
78	22	XⅡA-224	I	深鉢	Ⅱ	口唇肥厚、波状口縁			縦文割取底	不明	Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入	23, 24 914
78	23	XⅡA-224	I	深鉢	Ⅱ	口唇肥厚、波状口縁			縦文割取底	不明	Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入	23, 24 911
78	24	XⅡA-224	I	深鉢	Ⅱ	口唇肥厚、波状口縁			縦文割取底	不明	Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入	22, 23 913
78	25	XQ-226	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				胎輪筋条体割取底	Ⅱ-5	胎土内貯粒入		20~29 995
78	26	XP-226	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	波状口縁、口縁折り起し、外反			胎輪筋条体割取底	Ⅱ-5	胎土内貯粒入		20~29 996
78	27	XQ-226	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				胎輪筋条体割取底	Ⅱ-5	胎土内貯粒入		20~28 853
78	28	XP-226	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				胎輪筋条体割取底	Ⅱ-5	胎土内貯粒入		20~29 997
78	29	XP-226他	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				胎輪筋条体割取底	Ⅱ-5	胎土内貯粒入		20~29 891
78	30	XⅠR-222	I	深鉢	Ⅱ				胎輪筋条体割取底	Ⅱ-5	胎土内貯粒入		801
78	31	XⅠD-218	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	口折ナデ			L.R.胎	ナデ	Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入	2057
78	32	XⅠP-226	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				L.R.胎	ナデ	Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入	2030
79	33	XⅡ-224	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				胎輪筋条体割	Ⅱ-5	胎土内貯粒多量入		2069
79	34	XⅠA-224	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				胎輪筋条体割	Ⅱ-5	胎土内貯粒多量入		2021
79	35	XⅠA-224	Ⅱ	深鉢	Ⅱ	波状口縁、外反、胎取器付			胎輪筋条体割	Ⅱ-5	胎土内貯粒多量入		2138
79	36	XⅠP-226	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				L.R.胎	Ⅱ-5	胎土内貯粒多量入		2008
79	37	XⅠP-226	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				L.R.胎	Ⅱ-5	胎土内貯粒多量入		2045
79	38	XⅠC-219	I	深鉢	Ⅱ				胎輪筋条体割	ナデ	Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入	2108
79	39	XⅠA-216	I	深鉢	Ⅱ	口縁外反			L.R.胎	ナデ	Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入、胎土割取底	2034
79	40	XⅠC-220	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				胎輪筋条体割	ナデ	Ⅲ-1	胎土内貯粒多量入	744
79	41	XⅠP-225	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				L.R.胎	ナデ	Ⅲ-4	胎土内貯粒多量入	2042
79	42	XR-219	Ⅱ	深鉢	Ⅱ				胎輪筋条体割	ナデ	Ⅲ-1	二次焼結による灰色、胎土砂、褐色胎入、胎土割取底	2213

F区遺構外出土土器観察表2

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口縁部	胴部	底文	内面	分層	備考	同一	整理	
79	43	X1B-224	I	深鉢	底	波状口縁、口唇内側肥厚、前方内折みあり	無文	ミ字半	ミ字半	Ⅱ-1	粘土内折筋、褐色粒混入		912	
79	44	X1D-218	Ⅱ	深鉢	口	波状口縁、口唇内側肥厚、前方内折みあり	無文	ナ字	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋、砂粒多量混入、黒褐色		2141	
79	45	X1D-218	Ⅱ	深鉢	口	口唇内側肥厚、前方内折みあり	無文	ナ字	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2049	
79	46	X1F-226	Ⅱ	深鉢	口	口唇内側肥厚、前方内折みあり	無文	ナ字	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入、黒褐色		2125	
79	47	X1C-D-218	Ⅱ	深鉢	胴		無文、斜み、沈線	0段多量以出	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋、骨粒混入、黒褐色		2139	
79	48	X1C-D-218	Ⅱ	深鉢	口	口唇内側肥厚部分割離	無文	ナ字	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋、骨粒混入		2140	
79	49	X1B-218	Ⅱ	深鉢	胴		無文、沈線	0段多量以出	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋、砂粒多量混入		2123	
79	50	X1D-218	Ⅱ	深鉢	胴		無文、沈線	0段多量以出	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋、砂粒多量混入		2107	
79	51	X1D-218	Ⅱ	深鉢	胴、底		無文、沈線	0段多量以出～多	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋、砂粒多量混入		2138	
79	52	X1D-218	Ⅱ	深鉢	胴		無文、斜み、沈線	0段多量以出	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋、砂粒多量混入		2015	
79	53	X1F-228	I	深鉢	口	大波状口縁、口唇内側肥厚、外縁ミ字半状沈線、沈線間隙斜み	無文帯横成文、文帯内羽状無文	Ⅱ、L、L	ミ字半	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		785	
79	54	X1B-228	Ⅱ	深鉢	口	口唇内側肥厚、口唇下縁文	沈線	L、L	横ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2150	
79	55	X1B-228	Ⅱ	深鉢	胴		無文、沈線、波筋	横ナ字	Ⅱ-0	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2149	
79	56	X1P-223	Ⅱ	深鉢	口	口唇外折、口唇上平状交互折突、口唇下縁折突	無文	Ⅱ、L	不明	Ⅱ-4	黒褐色、粘土内黄色粒混入		807	
79	57	X1F-225	Ⅱ	深鉢	口	口唇外折、内側折み	無文	L、L	ナ字	Ⅱ-0、Ⅱ-1	粘土内折筋混入		2005	
79	58	X1B-226	I	蓋	口	波状口縁、内反、基部突起の内側折み、波筋	無文帯横成文	L、L	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋		908	
79	59	X1B-226	I	蓋	口	波状口縁、内反	沈線内側無文、上下突起	Ⅱ、L	不明	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		904	
80	40	X1B-226	I	深鉢	口	口唇内折、内側折み肥厚	羽状無文	Ⅱ、0段多量以出、若干折筋あり	横ナ字	Ⅱ-0		61	999	
80	41	X1B-226	Ⅱ	深鉢	口	口唇内折、内側折み肥厚	羽状無文	0段多量L、Ⅱ、L混入(Ⅱ+Ⅱ)	横ナ字	Ⅱ-0		60	970	
80	62	X1P-226	Ⅱ	深鉢	胴		羽状無文	Ⅱ、L	横ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋		2047	
80	63	X1P-226	Ⅱ	深鉢	口	口唇平直、内側に若干折筋	羽状無文	Ⅱ、L	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋		2050	
80	64	X1D-225	Ⅱ	深鉢	口	口唇内折、外側折出	羽状無文	Ⅱ、L	ミ字半	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		1618	
80	65	XG-208	I	深鉢	口	口唇ナ字、若干内折筋	羽状無文	L、Ⅱ	ミ字半	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2004	
80	66	X1B-222	Ⅱ	合符鉢	合		波筋帯無文無文	Ⅱ、L	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋多量混入		2615	
80	67	X1B-226	I	深鉢	胴下		条状文、下部ミナ字	横方条状文、下部無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋多量、褐色粒混入	68	967	
80	68	X1B-226	I	深鉢	胴下		条状文、下部ミナ字	横方条状文、下部無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋多量、褐色粒混入	67	965	
80	69	X1C-219	Ⅱ	不明	胴		波筋上沈線	L、L	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2079	
80	70	XP-225	Ⅱ	深鉢	胴		沈線内側文	L、L	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋		690	
80	71	X1B-226	I、Ⅱ	深鉢	口	口唇内折筋	波筋上波筋	無文	Ⅱ+横ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋多量混入		962	
80	72	X1B-226	I、Ⅱ	深鉢	口	口唇外側に強い溝	ナ字	無文	横ミ字半	Ⅱ-0	粘土内折筋混入	78.79	981	
80	73	X1P-227	Ⅱ	深鉢	口	口唇外側に強い溝	ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋		2129	
80	74	X1P-226	Ⅱ	深鉢	口	口唇外側に強い溝	ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋		847	
80	75	X1B-225	I	深鉢	口	口唇外側に強い溝	ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		72.79	760
80	76	X1P-227	Ⅱ	深鉢	口	横ナ字	横ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋		602	
80	77	X1B-226	Ⅱ	深鉢	口	横ナ字	横ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2145	
80	78	X1B-226	Ⅱ	深鉢	口	横ナ字	横ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2144	
80	79	X1B-226	I	深鉢	口	口唇外側に強い溝、内折筋	横ナ字	無文	横ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋		72.75	1158
80	80	X1P-227	Ⅱ	深鉢	口	口唇上強いナ字による溝あり	横ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋、褐色粒混入		799	
80	81	X1P-226	Ⅱ	深鉢	口	横ナ字	横ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2061	
80	82	X1P-226	Ⅱ	深鉢	口	横ナ字	横ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2072	
80	83	X1B-226	Ⅱ	深鉢	胴	口縁外反	横ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2092	
80	84	X1P-227	Ⅱ	深鉢	口	横ナ字	横ナ字	無文	横ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2212	
80	85	X1N-211	Ⅱ	合符鉢	合		横ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-4	二次焼成による変色、粘土内折筋、褐色粒混入、黒褐色		823	
80	86	X1P-227	Ⅱ	合符鉢	合		ミ字半	無文	ナ字	Ⅱ-4	粘土内折筋混入		2146	
80	87	X1B-225	Ⅱ	合符鉢	合		横ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋混入		2142	
80	88	X1L-228	Ⅱ	深鉢	底		ナ字	無文	ナ字	Ⅱ-4	粘土内折筋混入		1133	
80	89	X1P-226	Ⅱ、Ⅲ	深鉢	底		ナ字?	無文	ナ字	Ⅱ-0	粘土内折筋多量混入		1658	
80	90	X1P-226	Ⅱ	深鉢	底		横ミ字半	無文	ナ字	Ⅱ-4	粘土内折筋、褐色粒混入		2070	
80	91	X1P-226	Ⅱ	蓋	口	無文	横ミ字半	Ⅱ、L	Ⅱ、L	Ⅱ-1	粘土内折筋		1647	
80	92	X1P-227	Ⅱ	深鉢	胴		波筋内側成文	L、L	ナ字	Ⅱ-1	粘土内折筋		1148	
80	93	X1P-228	Ⅱ	深鉢	口	口唇外折み、交互文	無文、沈線	L、L	ナ字	Ⅱ-1	粘土内折筋、交互文		1661	

F区遺構外出土土器観察表3

図	番号	出土地	層位	図録	写紙	口部形状	制作	地文	内面	分層 (時期)	備考	頁	整理 No.	
80	94	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口縁部を中心外反	縄文、沈澱	L.R.横	ナデ	Ⅱ-1	粘土製		1056	
80	95	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口縁部を中心外反	縄文、沈澱	L.R.横	ナデ	Ⅱ-1	粘土製		1055	
80	96	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口縁部を中心外反	縄文、沈澱	L.R.横、斜	ナデ	Ⅱ-1	粘土製		1160	
80	97	X 1 F-227	Ⅲ	漆黒	口	波状口縁	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-1	粘土製		1046	
80	98	X 1 F-225	Ⅰ	漆黒	口	波状口縁	縄文、沈澱、磨光	L.R.斜	ナデ	Ⅱ-1	粘土製		2089	
80	99	X 1 F-225	Ⅰ	漆黒	口	波状口縁	縄文、沈澱、磨光	L.R.斜	ナデ	Ⅱ-1	粘土製	100	2091	
80	100	X 1 F-225	Ⅰ	漆黒	口	波状口縁	縄文、沈澱、磨光	R.L.斜	ナデ	Ⅱ-1	粘土製	99	2093	
80	101	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	波状口縁	縄文、沈澱、磨光	L.R.横	ナデ	Ⅱ-1	粘土製	104	2100	
80	102	X 1 F-227	Ⅲ	漆黒	口	波状口縁	沈澱層による内面ナデ	L.R.横	ナデ	Ⅱ-1	粘土製		1163	
80	103	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	波状口縁	トナリ沈澱層、下半縄文	0.9多色L.R.横	ナデ	Ⅱ-1	粘土製		1143	
80	104	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	波状口縁	縄文、沈澱、磨光	L.R.横	ナデ	Ⅱ-1	粘土製	101	2087	
80	105	X 1 C-234	Ⅲ	漆黒	口	波状口縁	縄文、沈澱、磨光	L.R.横	ナデ	Ⅱ-1	粘土製		2063	
80	106	X T-219	Ⅲ	漆黒	口	口唇外反	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-1	粘土製の破片		2069	
80	107	X 1 L-211	Ⅲ	漆黒	口	波状口縁、口唇内側に沈澱	平行沈澱	沈澱文	ナデ	Ⅱ-2-3	粘土製の破片		932	
81	108	X 1 F-227	Ⅲ	漆黒	口	口唇下4条平行沈澱文、L字文	縄文	R.L.斜	ナデ	Ⅱ-2	粘土内貯蔵、黄色粘土		793	
81	109	X 1 F-226	Ⅲ, IV	漆黒	口	波状口縁	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-2-2	内面磨光、粘土製、破片		1054	
81	110	X 1 K-225	Ⅲ	漆黒	口	内唇小波状口縁、口唇下ナデ、外反	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-2-2	粘土内貯蔵破片		789	
81	111	X 1 K-225	Ⅲ	漆黒	口	口唇外反、横ナデ	縄文	L.R.斜	ナデ	Ⅱ-2-2	粘土製		784	
81	112	X 1 K-223	Ⅲ	漆黒	口	横中か外反、縁部隆起型で胎いりナデ	縄文	L.R.斜	ナデ	Ⅱ-2-3	粘土製		806	
81	113	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	縁部隆起型で胎いりナデ	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-2-3	粘土製		1052	
81	114	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	波状口縁、口唇外反	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-2-3	粘土製、スス付		1059	
81	115	X 1 L-225	Ⅲ	漆黒	口	口唇内唇平行沈澱、口唇下平行沈澱	縄文	無文	ナデ	Ⅱ-2-3	粘土内貯蔵破片		826	
81	116	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇下2条平行沈澱	縄文	L.R.斜	ナデ	Ⅱ-2-3			2044	
81	117	X 1 L-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇内唇隆起による小波状口縁、口唇下3条平行沈澱	多色文	多色横	ナデ	Ⅱ-2-3	粘土内貯蔵、黄色粘土		907	
81	118	X 1 L-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇内唇隆起による小波状口縁、口唇下3条平行沈澱	多色文	多色横	ナデ	Ⅱ-2-3	粘土内貯蔵、黄色粘土		991	
81	119	X 1 K-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇内唇隆起による小波状口縁、口唇下2条平行沈澱	多色文	多色横	ナデ	Ⅱ-2-3	粘土内貯蔵、黄色粘土		1159	
81	120	X 1 L-225	Ⅲ	漆黒	口	口唇内唇隆起による小波状口縁	多色文	多色横	ナデ	Ⅱ-2-3	粘土内貯蔵破片		604	
81	121	X 1 L-225	Ⅲ	漆黒	口	口唇内唇隆起による小波状口縁、口唇下2条平行沈澱	多色文	多色横	ナデ	Ⅱ-2-3	粘土内貯蔵破片		693	
81	122	X 1 L-226	Ⅲ	漆黒	口	波状口縁	多色文、下部はナデ	多色横	斜ナデ	Ⅱ-2-3	粘土内貯蔵破片、表面上げ、底面に小波付		624	
81	123	X 1 L-225	Ⅲ	漆黒	口	口唇内唇隆起による小波状口縁、口縁部外反、口唇下波状口縁	多色文	多色横	ナデ	Ⅱ-2-3	縁部磨光、粘土内貯蔵破片		622	
81	124	X 1 L-226	Ⅲ	漆黒	口	内唇隆起による小波状口縁、口唇下波状口縁	多色文	多色横	ナデ	Ⅱ-2-3	粘土製、破片		692	
82	125	X 1 F-225	Ⅰ	漆黒	口	口唇ナデ、平唇	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-4	スス付、粘土製		2131	
82	126	X 1 F-226	Ⅲ, IV	漆黒	口	口唇ナデによる外反	縄文	L.R.横-斜	ナデ	Ⅱ-4	スス付、粘土内貯蔵破片		1067	
82	127	X 1 D-218	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ	縄文	L.R. 斜	ナデ	Ⅱ-4	粘土製		2148	
82	128	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ	縄文	L.R. 斜	ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		2151	
82	129	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ	縄文	L.R.斜	ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		2159	
82	130	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇内唇ナデ	縄文	L.R.横	横ナデ	Ⅱ-4	スス付、粘土製		2062	
82	131	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ	縄文	L.R.横	横ナデ	Ⅱ-4	粘土製		2118	
82	132	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ	縄文	L.R.横	横ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		1151	
82	133	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ	縄文	L.R.横、破れかひの胎で無文	斜ナデ	Ⅱ-4	粘土製		1019	
82	134	X 1 E-216	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ、外唇隆起	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-4	外面スス付、粘土製		2122	
82	135	X 1 E-215	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ、口唇外反	縄文	L.R.横	横ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		2010	
82	136	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	縁中か外反	縄文	L.R.横	不明	Ⅱ-4	内面に灰化付着	151	1057	
82	137	X 1 F-216	Ⅲ	漆黒	口	波状口縁	縄文	L.R.横	横ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		2128	
82	138	X 1 F-226	Ⅲ, IV	漆黒	口	口唇ナデ平唇隆起	縄文	L.R.斜	ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		1064	
82	139	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ、外唇隆起	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		1045	
82	140	X 1 E-216	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ、口唇外反	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		2116	
82	141	X 1 K-225	Ⅲ	漆黒	口	口唇隆起平唇	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		1039	
82	142	X 1 F-227	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ平唇隆起	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-4	粘土製、縁部磨光、スス付着		103	792
82	143	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ平唇隆起、外唇に隆起	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-4	粘土製		1063	
82	144	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ平唇隆起	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		1065	
82	145	X 1 E-215	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		2079	
82	146	X 1 F-226	Ⅲ	漆黒	口	口縁部を中心外反	縄文	L.R.横(胎かひ)	ナデ	Ⅱ-4	粘土製		1060	
82	147	X 1 G-226	Ⅲ	漆黒	口	口縁部を中心外反	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-4	粘土内貯蔵破片		1068	
82	148	X 1 F-225	Ⅲ	漆黒	口	口唇ナデ	縄文	L.R.横	ナデ	Ⅱ-4	スス付着、粘土内貯蔵破片		2201	

F区遺構外出土土器観察表4

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口縁部	胴部	地文	内面	分類	備考	同一
									特徴	(時期)		No
82	149	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	波状口縁	縄文	LR縞	ナデ	B-4	スス付着、粘土層裏	207
82	150	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	口唇縁部押圧による折れ、内側溝	縄文	LR縞 (縦V)	横ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	1044
82	151	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	縁巾小波状口縁	縄文	LR縞	横ナデ	B-4	内面炭化物付着	136 850
82	152	X1F-226	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR	ナデ	B-4	スス付着	2210
82	153	X1F-216	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	158 2090
82	154	X1E-225	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土層裏	2174
82	155	X1F-226	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	横ナデ	B-4	粘土内砂粒混入、スス付着	2081
82	156	X1F-226	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	0縞多量LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入、内面黄色顔料付着	2022
82	157	X1F-218	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	0縞多量LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2020
82	158	X1F-226	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	103 2086
82	159	X1F-227	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2207
82	160	X1F-226	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2077
82	161	X1C-224	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2184
82	162	X1F-225	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	横ナデ	B-4	粘土層裏	2200
82	163	X1F-227	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	横ナデ	B-4	粘土層裏、炭化物層	142 798
82	164	X1F-225	Ⅲ	深鉢	底		縄文	LR縞	横ナデ	B-4	粘土層裏、若干土付着	2074
82	165	X1C-224	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	横ナデ	B-4	粘土層裏、炭化物層	2160
82	166	X1C-215	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	横ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2083
82	167	X1F-226	Ⅲ	深鉢	底		縄文	LR縞	横ナデ	B-4	粘土層裏	2101
82	168	X1F-227	Ⅲ、Ⅳ	深鉢	底		縄文	LR縞	ナデ	B-4	底面付着	796
83	169	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口縁	口縁ナデ	縄文	LR縞、下部にLR縞	ナデ	B-4	スス付着、粘土内砂粒混入	840
83	170	X1E-226	Ⅲ	深鉢	口	口唇ナデ	縄文	LR縞	横ナデ	B-4	粘土内砂粒多量混入	2016
83	171	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	口唇ナデ、内側に若干溝	縄文	LR縞	横ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	1152
83	172	X1K-225	Ⅲ	深鉢	口	口唇ナデ	縄文	LR縞	ナデ	B-2	断面厚縁、粘土内砂粒混入	756
83	173	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	口唇ナデ、平縁	縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2120
83	174	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	口唇ナデ	縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2112
83	175	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	口唇縁部施文後外側磨削	縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2123
83	176	X1E-225	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞-斜	ナデ	B-4	内面スス付着、粘土内砂粒混入	2126
83	177	X1F-226	Ⅲ、Ⅳ	深鉢	口縁	口唇ナデ	縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	1119
83	178	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	口唇縁巾小波状口縁、口唇平縁	縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2111
83	179	X1R-228	Ⅲ	深鉢	口	口唇内面磨	縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒多量混入	181 786
83	180	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	口唇ナデ、外側縁部	縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2104
83	181	X1R-227	Ⅲ	深鉢	口	口唇内面磨	縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒多量混入	179 794
83	182	X1K-225	Ⅲ	深鉢	口	口唇外縁	縄文	LR縞	ナデ	B-4		725
83	183	X1F-227	Ⅲ	深鉢	口縁	口唇ニ若干	縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入、厚手	787
83	184	X1F-227	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入、スス付着	797
83	185	X1F-226	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	1048
83	186	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	口唇縁巾小波状口縁	縄文	LR縞	ナデ	B-2	粘土内砂粒、褐色炭混入	2012
83	187	X1L-225	Ⅲ	深鉢	口	口唇外縁	縄文	LR縞	ナデ	B-2	粘土内砂粒混入	827
84	188	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	口唇ナデ、若干内側磨	縄文	LR縞	横ナデ	B-4	粘土層裏、スス付着	1023
84	189	X1E-221	Ⅲ	深鉢	口縁	口唇ナデ、流平平縁	縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土層裏	2165
84	190	X1E-221	Ⅲ	深鉢	口	縄文	縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入、スス付着	2036
84	191	X1F-226	Ⅲ	深鉢	口	縄文	縄文	LR	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入、小型土器	2031
84	192	X1F-226	Ⅲ	台付鉢	底面		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2299
84	193	X1E-221	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒混入	2107
84	194	X1E-225	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	横ナデ	B-4	粘土層裏	2189
84	195	X1E-225	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土層裏	2169
84	196	X1E-226	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒多量混入	2014
84	197	X1C-219	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土層裏、厚手	2088
84	198	X1F-226	Ⅲ	深鉢	胴		縄文	LR縞	ナデ	B-4	厚手、縁部孔有、粘土内砂粒混入	788
84	199	X1F-226	Ⅲ	深鉢	底		縄文	LR縞	ナデ	B-4	底面付着、粘土層裏	849
84	200	X1F-226	Ⅲ	鉢	口	口縁短く片尻	縄文	無地、横-斜	ナデ	B-4	粘土内砂粒多量混入	1053
84	201	X1R-222	I	深鉢	底		縄文	LR縞	ナデ	B-4	粘土内砂粒多量混入	663

E区遺構内出土石器・石製品観察表

順	番号	出土層様	部位	器種	素材形態	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 札
7	51	SK-203	8	割縁	阿蘇割片	埴原頁岩	32.2	23.4	7.8	4.4		96
13	51	SK-248	1	凹石		埴原頁岩	8.0	7.9	3.5	290.0		84
13	51	SK-258	1	磨石		安山岩	68.0	55.0	26.0	150.0		75
14	52	SK-258	磨土 上位	凹石		埴原頁岩	138.0	66.0	41.0	400.0		77
14	53	SK-258	磨土 上位	磨石		石高安山岩	90.0	79.9	51.0	475.0		76
14	51	SK-272	磨土 上位	凹石		埴原頁岩	155.0	73.0	36.0	430.0		78
15	51	SK-376	1	有茎石鏝	削片	埴原頁岩	20.0	12.5	4.5	0.6		15
15	52	SK-376	2	凹石		埴原頁岩	7.5	5.9	3.5	230.0		85
19	51	SK-306	1	有茎石鏝	削片	埴原頁岩	23.5	10.0	3.0			13
19	52	SK-306	磨土 上位	割縁	縦長削片	埴原頁岩	62.6	30.2	14.3	22.3	左側に割縁跡あり	92
19	53	SK-306	磨土 下位	凹石		安山岩	118.0	82.0	36.0	370.0		11
19	54	SK-306	磨土 上位	凹石		塊状岩	130.0	55.0	38.0	380.0		13
19	55	SK-306	磨土 上位	凹石		埴原頁岩	107.0	51.0	30.0	380.0		8
19	56	SK-306	磨土 下位	凹石		安山岩	289.0	91.0	45.0	1830.0		44
19	57	SK-306	磨土 下位	磨石		安山岩	79.0	66.0	26.0	200.0		66
19	58	SK-306	10	石鏝	塊状岩	95.0	54.0	41.0	200.0		29	
23	51	SK-356	12	凹石	埴原頁岩	51.0	44.0	46.0	106.0		104	
24	52	SK-356	磨土 上位	凹石		埴原頁岩	147.0	60.0	54.0	140.0		5
24	53	SK-356	磨土 上位	石鏝		磨岩	132.0	84.0	49.0	540.0		40
24	54	SK-356	16	台石		安山岩	132.0	81.0	47.0	335.0	赤色物質付着	24
24	55	SK-356	磨土 上位	磨石		安山岩	95.0	78.0	61.0	630.0		28
24	51	SK-356	9	不明	塊状岩	16.4	3.6	3.2	180.0	磨刻有	57	
25	51	SK-357	磨土 上位	磨石		埴原頁岩	73.0	87.0	66.0	470.0		35
27	51	SK-358	4	縦割石鏝	削片	埴原頁岩	44.7	42.6	12.4	22.4	裏面に光沢、両側面に割縁跡あり	67
27	52	SK-358	磨土 中位	台石		安山岩	19.3	13.0	6.9	259.0	赤色物質付着	83
29	51	SK-363・364	1	割縁	縦長削片	埴原頁岩	47.5	38.0	17.8	30.4	方形割縁跡あり	87
31	51	SK-367	12	磨縁不明	削片	埴原頁岩	26.5	10.7	6.3	2.2	裏面により欠損	18

E区集石出土石器観察表

順	番号	出土層	部位	器種	素材形態	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 札
52	51	X 2D-223	Ⅱ	台石		頁岩	78.0	67.6	23.0	170.0	赤色物質付着	25
52	52	X 2E-223	Ⅱ	台石?		砂岩	44.0	73.6	28.0	95.0		27
52	53	X 2E-223	Ⅱ	磨石		安山岩	91.0	79.6	62.0	640.0		36
52	54	X 2E-223	Ⅱ	台石		安山岩	160.0	78.6	60.0	900.0		37
52	55	X 2D-223	Ⅱ	台石		安山岩	162.0	133.0	45.0	1650.0		64
52	56	X 2E-223	Ⅱ	台石		安山岩	106.0	91.8	34.0	395.0		87
52	57	X 2D-222	Ⅱ	台石?		埴原頁岩	148.0	218.6	100.0	3250.0		71

E区遺構外出土石器・石製品観察表 1

順	番号	出土地	部位	器種	素材形態	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 札
63	51	X 2L-222	Ⅱ	有茎石鏝	削片	埴原頁岩	36.6	18.4	5.5	2.0	ゴツリあり	35
63	52	X 2F-217	Ⅱ	有茎石鏝	削片	玉髄質 埴原頁岩	26.8	13.8	4.0	0.7		29
63	53	X 2F-217	Ⅱ	有茎石鏝	削片	埴原頁岩	26.5	13.0	5.0	0.8		31
63	54	X 2M-221	Ⅱ	有茎石鏝	削片	埴原頁岩	26.0	13.0	4.5	1.1		23
63	55	X 2L-217	Ⅱ	有茎石鏝 (磨石)	削片	玉髄質 埴原頁岩	27.4	12.4	5.0	1.0	器体中央部に傷痕が見える	24
63	56	X 2M-218	Ⅱ	有茎石鏝	削片	埴原頁岩	20.0	11.5	4.5	0.8		46
63	57	X 2H-219	Ⅱ	有茎石鏝	削片	埴原頁岩	29.1	17.2	5.5	1.5	ゴツリあり	28
63	58	X 2P-219	Ⅱ	有茎石鏝	削片	玉髄	25.7	14.8	5.1	1.3		27
63	59	X 2N-218	Ⅱ	有茎石鏝	削片	埴原頁岩	24.5	13.0	5.0	0.8		37
63	510	X 2L-219	Ⅱ	有茎石鏝	削片	埴原頁岩	20.5	11.5	4.0	0.6		38
63	511	X 2K-215	Ⅰ	有茎石鏝	削片	玉髄質 埴原頁岩	21.2	10.3	3.6	0.4		22
63	512	X 2K-217	Ⅱ	有茎石鏝	削片	玉髄質 埴原頁岩	22.8	12.0	4.0	0.5		45
63	513	X 2L-214	Ⅱ	有茎石鏝	削片	埴原頁岩	55.2	15.6	6.8	2.8	器底にタール付着物あり	34
63	514	X 2B-217	Ⅱ	有茎石鏝	削片	埴原頁岩	30.2	12.8	5.1	1.7	磨痕、ゴツリあり	51

E区遺構外出土石器・石製品観察表 2

順	番号	出土地	層位	器種	原料形態	材質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	図号 No.
63	515	表層	—	凸形石鏃	削片	地質頁岩	35.0	14.0	5.0	19		107
63	516	X E1225	II	凸形石鏃	削片	地質頁岩	38.0	13.5	8.5	17		20
63	517	X E1216	II	有茎石鏃	削片	玉髄質 地質頁岩	22.0	9.0	3.5	0.4		33
63	518	X E1217	III	有茎石鏃	削片	地質頁岩	19.0	10.0	3.0	0.2		26
63	519	X E1218	II	凸形石鏃	削片	地質頁岩	28.0	11.5	7.0	1.1		21
63	520	X E1217	II	有茎石鏃	削片	地質頁岩	26.0	13.0	4.0	0.5		66
63	521	表層	—	凹形石鏃	削片	玉髄石	16.0	10.0	3.0	0.3		108
63	522	X E1218	II	有茎石鏃	削片	地質頁岩	21.6	6.7	3.6	0.5	測と同じ石鏃	64
63	523	X E1218	III	石鏃	削片	玉髄質 地質頁岩	18.0	10.0	4.0	0.5		48
63	524	X E1216	I	石鏃木鏃部	磨製削片	地質頁岩	42.7	18.6	9.0	4.1		65
63	525	X E1217	II	石鏃	削片	地質頁岩	30.1	18.1	7.9	2.4		99
63	526	—	—	石鏃	削片	地質頁岩	73.5	30.0	17.0	28.8	96土野原IV付随土	106
63	527	X E1229	IIIc	磨製石鏃	磨製削片	地質頁岩	60.0	36.0	7.0	11.7	97土野原IV出土	114
63	528	X E1219	II	磨製石鏃	磨製削片	玉髄質 地質頁岩	60.4	37.8	13.5	19.8		6
63	529	X E1222	II	磨製石鏃	削片	地質頁岩	69.6	30.2	13.3	18.6		9
63	530	—	—	磨製石鏃	磨製削片	地質頁岩	47.0	30.0	8.5	6.6	96土野原IV付随土	105
63	531	X E1229	IIIc	磨製石鏃	磨製削片	地質頁岩	63.0	33.0	11.8	8.6	97土野原IV出土	117
63	532	X E1223	II	磨製石鏃	磨製削片	地質頁岩	47.6	16.7	10.3	5.8		137
63	533	X E1217	II	磨製石鏃	磨製削片	地質頁岩	37.2	31.3	6.2	2.8		79
63	534	X E1230	IIIc	磨製石鏃+	磨製削片	地質頁岩	43.0	28.0	7.5	6.0	97土野原IV出土	120
63	535	X E1219	II	磨製石鏃	磨製削片	地質頁岩	34.0	30.5	9.3	7.3	未製品?	78
63	536	X E1219	II	磨製石鏃	磨製削片	地質頁岩	28.5	48.4	8.6	8.5	方面に磨製跡	5
63	537	X E1218	II	磨製石鏃	磨製削片	地質頁岩	27.0	63.1	6.4	7.1	方面に磨製あり	7
63	538	X E1219	II	磨製石鏃	磨製削片	地質頁岩	60.4	61.0	12.0	27.2	微細磨製あり	69
64	539	X E1217	II	石鏃削片	磨製削片	地質頁岩	53.8	47.0	11.2	21.5		101
64	540	X E1220	II	石鏃	磨製削片	地質頁岩	55.9	33.1	7.4	6.2	素材の打面は磨製行	100
64	541	X E1218	II	磨製不明	削片	地質頁岩	66.8	28.8	10.7	14.5		72
64	542	X E1230	IIIc	削片	磨製削片	地質頁岩	38.0	40.0	9.0	6.5	97土野原IV出土	121
64	543	X E1215	II	削片	磨製削片	地質頁岩	35.5	50.5	13.6	18.6	表面に先民	86
64	544	X E1220	I	削片	磨製削片	地質頁岩	25.0	25.2	5.9	3.2		88
64	545	X E1230	IIIc	削片	磨製削片	地質頁岩	61.0	33.0	8.0	10.1	97土野原IV出土	120
64	546	X E1220	I	磨製	磨製削片	地質頁岩	22.3	30.6	5.8	2.2		90
64	547	X E1218	I	両面加工石鏃	磨製削片	地質頁岩	43.3	21.3	10.2	5.8	磨物	93
64	548	X E1230	II	石鏃	磨製削片	地質頁岩	56.8	37.7	9.4	10.1		61
64	549	X E1220	IIIc	石鏃	磨製削片	地質頁岩	52.7	41.8	13.1	14.2		99
64	550	X E1218	II	磨製石鏃	磨製削片	地質頁岩	41.8	28.8	9.2	6.4		63
64	551	X E1222	II	石鏃	削片	地質頁岩	24.7	18.1	5.2	1.4		62
65	552	表	トレンチ I	磨製石鏃	磨製石鏃	緑色輝石 凝灰岩	56.0	46.0	27.0	100.0	96土野原土	79
65	553	X E1223	I	磨製石鏃	磨製石鏃	緑色輝石 凝灰岩	27.0	42.0	12.0	10.0		17
65	554	X E1230	I	磨製石鏃	磨製石鏃	緑色輝石 凝灰岩	71.0	32.0	13.0	50.0		15
65	555	X E1222	II	磨石	宝山岩	79.0	67.0	51.0	360.0		69	
65	556	X E1219	II	磨石	石黄安山岩	82.0	80.0	51.0	470.0		20	
65	557	X E1215	II	磨石	凝灰岩	77.0	67.0	20.0	140.0		56	
65	558	X E1215	II	磨石	宝山岩	83.0	66.0	58.0	440.0		54	
65	559	X E1217	II	磨石	宝山岩	92.0	73.0	52.0	460.0		22	
65	560	X E1219	I	磨石	白磁砂岩	95.0	73.0	50.0	470.0		73	
65	561	X E1221	II	磨石	石黄安山岩	83.0	73.0	64.0	490.0		63	
65	562	X E1219	I	磨石	石黄安山岩	91.0	97.0	62.0	720.0		73	
65	563	X E1221	II	磨石	石黄安山岩	101.0	83.0	57.0	600.0		62	
65	564	表層	—	磨石	宝山岩	111.0	64.0	52.0	470.0		20	
65	565	X E1217	II	磨石	凝灰岩	150.0	99.0	30.0	410.0		1	
65	566	X E1215	II	磨石	石黄安山岩	88.0	64.0	46.0	350.0		52	
65	567	表層	—	磨石	凝灰岩	80.0	65.0	37.0	340.0		34	
65	568	X E1222	II	磨石	緑色凝灰岩	119.0	58.0	39.0	340.0		3	
65	569	X E1219	I	磨石	凝灰岩	97.0	58.0	40.0	320.0		74	
65	570	X E1219	—	磨石	凝灰岩	167.0	82.0	30.0	420.0		42	
67	571	X E1215	II	玉?	凝灰岩	46.0	65.0	50.0	120.0		53	
67	572	X E1218	I	円形磨石+	凝灰岩	47.0	46.0	16.0	50.0	磨石に若干磨痕	86	
67	573	X E1215	II	円形磨石?	凝灰岩	50.0	47.0	19.0	60.0		55	
67	574	X E1219	II	磨石?	凝灰岩	2.6	3.2	0.6	4.9		56	
67	575	表層	—	凝石	凝灰凝灰岩	75.0	53.0	37.0	170.0	古代	14	
69	576	X E1223	II	磨石	地質頁岩	2.2	2.2	0.3	1.5		61	
69	577	X E1226	II	磨石	地質頁岩	2.3	2.3	0.4	1.6		52	
69	578	X E1225	II	磨石	地質頁岩	2.3	2.3	0.5	2.0		73	

F区遺構内出土石器観察表

図	番号	出土遺構	層位	器種	素材物種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 №
24	S1	SK-613	Ⅲ上	円形石鏃	削片	珸質頁岩	43.0	13.0	5.0	2.4		8

F区遺構外出土石器・石製品観察表

図	番号	出土地	層位	器種	素材物種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理 №
85	S1	X 1D-218	Ⅲ	有茎石鏃		玉髓質珸質頁岩	27.0	13.0	5.0	1.0	00上野原山出土	132
85	S2	X 1L-225	Ⅲ	有茎石鏃		珸質頁岩	33.0	14.0	5.0	1.3		25
85	S3	X 1F-226	Ⅲ	有茎石鏃		玉髓質珸質頁岩	29.0	16.0	3.5	0.9		26
85	S4	X 1L-225	Ⅲ	有茎石鏃	削片	珸質頁岩	35.9	16.1	5.4	0.8		30
85	S5	XG-212	Ⅲ	凸形石鏃	削片	珸質頁岩	41.9	16.3	5.0	1.2	刃部に欠け	54
85	S6	XX-211	Ⅲ	石鏃	削片	玉髓質珸質頁岩	23.0	18.5	5.5	0.8		55
85	S7	X 1K-226	Ⅲ	凹形石鏃	削片	珸質頁岩	26.4	12.4	4.7	0.7		42
85	S8	XP-217	Ⅲ	石鏃・水銅品	削片	珸質頁岩	22.0	16.0	3.0	0.3		58
85	S9	XX-211	Ⅲ	石鏃	削片	珸質頁岩	68.7	41.8	12.1	18.3	刃部に欠け	53
85	S10	XS-211	I	鍔形石鏃	縦長削片	珸質頁岩	46.4	28.5	9.7	4.8		83
85	S11	高塚	—	鍔形石鏃	縦長削片	珸質頁岩	59.0	46.0	11.0	23.3	00上野原山出土	140
85	S12	X 1B-226	Ⅲ	鍔形石鏃	縦長削片	珸質頁岩	31.0	90.0	10.0	19.1	00上野原山出土	133
85	S13	X 1B-226	Ⅲ	鍔形石鏃	縦長削片	珸質頁岩	35.9	54.8	7.8	6.2	尖部部に磨損	10
85	S14	XT-211	Ⅲ	石鏃削片	削片	珸質頁岩	27.2	31.6	7.1	2.0	尖部に磨損跡	56
85	S15	X 1B-226	Ⅲ	石鏃	削片	珸質頁岩	58.5	26.5	11.0	7.1		74
85	S16	XA-A-229	I	削鏃	縦長削片	珸質頁岩	39.2	22.4	8.6	3.7	右側面に微細な磨損跡	70
85	S17	X 1B-226	I	削鏃	縦長削片	珸質頁岩	58.8	53.6	16.8	23.3		85
85	S18	XP-217	Ⅲ	削鏃	縦長削片	珸質頁岩	56.5	43.9	18.0	38.4		57
85	S19	X 1A-224	Ⅲ	削鏃	縦長削片	珸質頁岩	48.0	30.0	10.0	9.3	00上野原山出土	135
85	S20	X 1B-226	Ⅲ	削鏃	縦長削片	珸質頁岩	77.5	32.0	17.0	27.6	97上野原山出土	133
85	S21	XD-207	I	削鏃	縦長削片	玉髓質珸質頁岩	93.0	41.0	15.0	35.5	00上野原山出土	138
86	S22	X 1K-223	Ⅲ	鍔鏃	縦長削片	珸質頁岩	46.4	34.3	10.4	8.7		75
86	S23	X 1G-235	Ⅲ	二次加工削片	縦長削片	珸質頁岩	75.0	19.0	11.0	7.3		78
86	S24	X 1F-225	Ⅲ	二次加工削片	縦長削片	珸質頁岩	76.0	27.0	16.0	52.1	00上野原山出土	134
86	S25	X 1F-226	Ⅲ	二次加工削片	縦長削片	珸質頁岩	74.0	34.0	11.0	24.8	00上野原山出土	136
86	S26	X 1G-235	Ⅲ	二次加工削片	縦長削片	珸質頁岩	67.0	71.0	17.0	64.5	00上野原山出土	137
87	S27	X 1C-225	Ⅲ	磨製石斧		緑色燧石	96.0	55.0	38.0	322.8	00上野原山出土	81
87	S28	XT-218	Ⅲ	磨製石斧		安山岩	39.0	43.0	23.0	46.7	00上野原山出土	82
87	S29	X 1A-226	I	磨石		鵝卵石	137.0	60.0	47.0	560.0		59
87	S30	X 1A-226	Ⅲ	磨石		鵝卵石	156.0	54.0	45.0	560.0		68
87	S31	X 1B-226	Ⅲ	磨石		鵝卵石	112.0	76.0	41.0	440.0		4
87	S32	X 1K-218	Ⅳ	磨石		洗砂岩	146.0	52.0	32.0	350.0		21
87	S33	X 1L-225	Ⅲ	磨石		鵝卵石	141.0	73.0	45.0	470.0		41
87	S34	XD-208	Ⅲ	磨石		鵝卵石	134.0	83.0	48.0	620.0		19
87	S35	X 1F-226	Ⅳ	磨石		鵝卵石	58.0	80.0	29.0	160.0		46
87	S36	X 1F-227	Ⅲ	磨石		鵝卵石	124.0	196.0	65.0	1390.0		65
88	S37	XX-215	Ⅲ	磨石		鵝卵石	79.0	104.0	30.0	300.0		18
88	S38	X 1T-226	I, II	石刀+		輝綠岩	172.0	77.0	31.0	610.0	a, b結合	9
88	S39	X 1K-225	Ⅲ	円形磨石?		鵝卵石	36.0	37.0	12.0	30.0		58
88	S40	X 1F-226	Ⅲ	円形磨石?		鵝卵石	44.0	48.0	16.0	40.0		57

E区遺構外出土陶磁器

図	番号	出土地	層位	器種	器種	部位	特徴	整理 №
88	263	表段	—	陶器	磁鉢	胴	洗砂岩	1166
88	264	X 1D-222	I	陶器	磁鉢	底	洗砂V磨?	1168
88	265	表段	—	陶器	磁鉢	口	洗砂V磨?	1169
88	266	X 1G-223	I	陶器	磁鉢	胴	洗砂・洗砂不明	1162
88	267	X 1G-223	I	土器	火鉢	口	洗砂・洗砂不明	1161
88	268	X 1E-216	I	土器	磁鉢	底	洗砂・洗砂不明	0955
88	269	X 1F-218	I	土器	磁鉢	底	洗砂・洗砂不明	1092
88	270	X 1J-223	I	土器	磁鉢	底	洗砂・洗砂不明	1165

F区遺構内出土陶磁器

図	番号	遺構名	層位	器種	器種	部位	特徴	整理 №
94	200期-1	200期	Ⅲ上	磁器	足	底	草木灰染	2
94	200期-2	200期	Ⅲ上	磁器	胴	底	草木灰染	3
94	200期-3	200期	Ⅲ上	磁器	蓋	底	洗砂・洗砂不明	4
94	200期-4	200期	Ⅲ上	陶器	胴?	底	洗砂・洗砂不明	6

F区遺構外出土陶磁器

図	番号	出土地	層位	類別	器種	部位	特 徴	数量 %
89	202	X I L-223	I	陶磁	壺	口	肥前V層	1164
89	203	X I J-223	II	陶磁	碗	底	肥前V層	1167
89	204	X I P-226	I	陶磁	磁鉢	胴	肥前V層	2064

E区遺構内出土土製品観察表(縄文)

図	番号	出土遺構	層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	数量 %
14	土1	SK-258	縄土	土器片利用土製品	3.8	3.8	0.5	9.1	不整形片	±30
14	土1	SK-293	I	埴輪土製品	(3.2)	3.0	0.5	11.5	下層欠損	±2
18	土1	SK-306	縄遺跡	土器片利用土製品	4.4	4.7	1.1	25.7	円形	±3
29	土1	SK-363-364	I	埴輪土製品	(3.3)	2.6	0.3	6.6	下層欠損	±27
29	土2	SK-363-364	縄遺跡	土器片利用土製品	4.1	4.2	1.3	19.1	三角形	±26

E区遺構外出土土製品観察表(縄文)

図	番号	出土地	層位	類別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	数量 %
62	257	X B P-217	I	動物形土製品?	(2.5)	2.5	0.8	4.3	器底とが中央部位の張り出しが有、二次に分かれる	±31
62	258	X B K-217	II	土器片利用土製品	4.2	4.1	0.5	8.8	三角形	±29
62	259	X B D-224	I	土器片利用土製品	3.4	3.1	0.5	4.9	三角形	±13
62	260	X B D-224	I	土器片利用土製品	3.0	3.5	0.4	4.8	三角形	±14
62	261	X B N-212	II	土器片利用土製品	3.5	4.6	0.6	9.7	三角形	±28
62	262	X B G-221	II	土器片利用土製品	4.5	4.2	0.7	14.9	円形	±12

E区遺構外出土土製品観察表(近世)

図	番号	出土地	層位	類別	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	数量 %
69	271	X B H-218	II	人形	(3.7)	2.9	1.7	9.0	女性顔	±4
69	272	X B J-224	I	人形	3.5	2.3	0.9	6.1	七福神か	±8
69	273	遺埋	-	人形	5.0	3.5	1.7	25.5	七福神か	±10
69	274	X B G-216	II	獣土?	5.8	4.4	2.0	31.1	顔部を受けており、高い、スグ線が多量埋蔵できる	±11

F区遺構外出土土製品観察表(近世)

図	番号	出土地	層位	類別	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	数量 %
89	205	X P-225	II	壺	(3.7)	(2.6)	0.6	4.5	鳥	±7

E区遺構外出土銭貨観察表

図	番号	出土地	層位	類別	高さ (cm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備 考	数量 %
69	銭1	X B J-224	II	寛永通宝	2.7	2.7	1.0	2.6	新貨水 両文銭	銭1
69	銭2	X B J-223	II	寛永通宝	2.3	2.3	1.0	1.2	新貨水 一部欠損	銭2
69	銭3	X B P-222	II	寛永通宝	2.3	2.3	1.0	1.4	新貨水	銭4
69	銭4	X B K-224	II	寛永通宝	2.2	(0.9)	1.0	0.6	新貨水 左半分のみ残存	銭3

F区遺構内出土鉄器観察表

図	番号	出土遺構	層位	器種	口径 (cm)	器底 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	数量 %
71	F1	201層	縄土	鍋	25.0	10.00	2~4	893.0	釣り手部分欠損・三足	鉄1

第5章 ま と め

今回の調査では、遺構は掘立柱建物跡26棟、土坑60基、溝状土坑1基、ビット216基、溝跡2条、竪穴遺構3基、焼土遺構6基が検出された。そのうち本報告書に掲載したものは掘立柱建物跡群の外側で、一部保存エリアにかかる部分である。今回報告エリアに掘立柱建物跡が1棟検出されていたが、掘立柱建物跡はまとめて次年度に報告する。遺物は段ボール箱にして約100箱分が出土した。以下、今年度報告分の遺構・遺物について簡単にまとめる。

1. 遺構

[土坑・土坑内出土遺物]

土坑はE区からは41基検出された。掘立柱建物跡群の外側の保存エリアにかかる部分の南西側に集中している。形態は楕円形・円形のもの为主体であるが、不整形なものもいくつかみられる。

遺物は掘立柱建物跡群の周辺ではほぼすべての土坑から出土している。ほとんどが小破片である。掘立柱建物跡から離れた区域から検出された土坑からは遺物はほとんど出土していない。

土坑内から出土した遺物の時期は、縄文時代後期前葉・後葉に集中している。掲載した遺物を見ると、縄文時代後期後葉のものとみられる土器片が130点、縄文時代後期前葉のものとみられる土器片が59点で、縄文時代後期後葉の土器が全体の64%を占めている。土坑の廃絶時期の予測できるものは15基と半数にも満たないが、縄文時代後期前葉のものと後期後葉のものがほぼ同数確認できる。

土坑の用途については、形態・土壌分析・周辺の遺構の状況などからは解明できなかった。

[溝状土坑]

1基のみがE区から検出された。掘立柱建物跡群外側南側から検出され、北東－南西方向にのびているが、時期など詳細については不明である。

[ビット]

ビットはE区では206基検出された。土坑と同様に掘立柱建物跡群の外側南西側に集中している。南側から東側にかけてはほとんど検出されていない。柱穴を伴うビットは今回報告分にはあまりみられず、掘立柱建物跡群にもっと近接した区域（来年度報告予定）から検出されている。ビットの規則性は見い出せず、掘立柱建物跡などに組むことはできなかった。しかし整理段階で、掘立柱建物跡の南西側の来年度報告分に含まれる部分に新たな掘立と思われるビットの存在を確認したため、再考した後に来年度掘立柱建物跡群の中に入れて報告することとした。

[竪穴遺構]

F区で計3基検出された。出土遺物からいずれも近代以降の所産である可能性が高い。平面形はいずれも長方形を呈するものと思われるが、3基のうち2基で張出部が存在し、第201号竪穴遺構では階段状に段差がつく。また壁に沿って柱穴が巡っており、何らかの上層構造が存在していたと考えられる。なお、平成11年度D区で竪穴遺構が1基検出されているが、柱穴や張出部は検出されておらず、遺物も出土していないため、関連性は不明である。

[溝跡]

F区で2条検出された。うち1条は覆土中に白頭山苦小牧火山灰と思われる火山灰を混入するため、火山灰降下時期である古代以降に廃絶したものである。

[焼土遺構]

F区で6基検出された。遺物の出土は見られなかったが、縄文時代の遺物包含層である基本層序第Ⅲ層やその下層からの検出であることから、所産時期は縄文時代である可能性が高いと思われる。

2. 遺物

[土器]

E区では縄文時代前期末葉、中期前葉、後葉、後期初頭～後葉、晩期前葉～後葉の所産と思われる土器が出土している。主体となるのは既報告同様、縄文時代後期後葉である。特に従来の編年では十腰内V式に比定されるものが多い。一方F区ではE区と様相を異にする。縄文時代後期初頭～前葉はE・F区とも比較的まとまった量が出土しているが、縄文時代後期後葉に関しては、F区ではE区寄りからのみ出土している。F区南側では縄文時代晩期前葉から後期にかけての資料が、集中区を形成するようにまとまって出土している。その他の時期の資料は散見される状況であった。

[石器]

剥片石器では石鏃、筈状石器、石匙、石錐、スクレイパー、二次加工のある剥片、異形石器が、礫石器では磨製石斧、敵磨器類、石皿、台石が出土した。所産時期は出土した縄文土器と同様の時期になるものと思われる。また、古代の所産と思われる砥石も出土している。石匙は既報告で述べられた、打面を刃部の端部を持つてくるものが見られる。異形石器の一部は石偶と称しても良いもので、左右対称の突起を持ち、非常に酷似した形態を持つ。

[文化遺物]

縄文時代では土器片利用土製品が多く見られる。形態は三角形が多数を占める。鐔形土製品はいずれも欠損により詳細は不明である。

近世以降では人形・像が中心となっている。いずれも大きく欠損しており詳細は不明である。古銭は寛永通宝を中心に、近世から近代の所産のものが僅かながら出土した。石製品は碁石などが出土しているが、すべて遺構外からの出土であった。

[陶磁器]

近世後半から近代にかけての所産と思われるものが出土しているが、いずれも破片資料であり、出土量も少ない。

3. 遺跡のまとめ

今回の調査区では、縄文時代後期を主体とした遺構・遺物が検出された。特に遺跡の北側に縄文時代後期のものと思われる掘立柱建物跡群が環状に巡り、それらが保存されるに至ったことは特筆すべきことである。今回の調査区からも、前回と同じくこの遺跡が縄文時代後期を主体とする集落跡であったことが想定される。掘立柱建物跡群については来年度報告予定であり、遺跡の詳しいまとめについては来年度に譲ることとする。

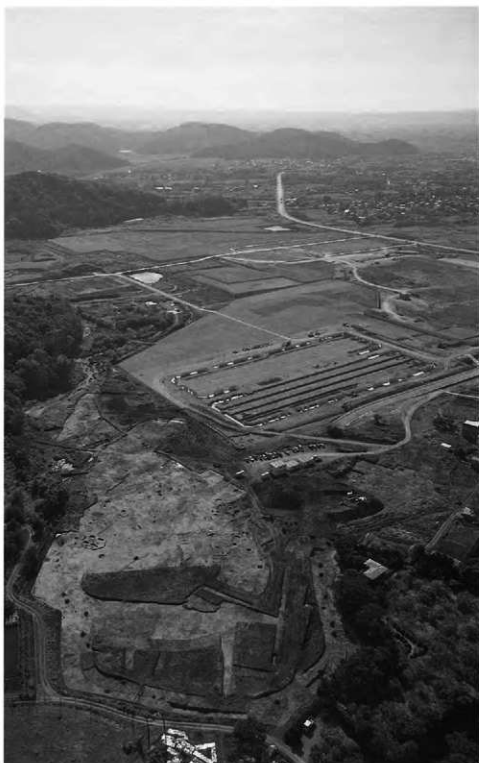
(工藤・浅田)

引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1977 『水木沢遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第34集
- 青森県教育委員会 1982 『馬場瀬遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第70集
- 青森県教育委員会 1984 『牛ヶ沢(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第86集
- 青森県教育委員会 1987 『大湊近川遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第140集
- 青森県教育委員会 1991 『鬼沢狭沢・尾上山(2)・(3)遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書第135集
- 青森県教育委員会 1992 『野脇遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第149集
- 青森県教育委員会 1993 『富ノ沢(2)遺跡VI』(1) 青森県埋蔵文化財調査報告書第147集
- 青森県教育委員会 1994 『三内丸山(2)遺跡Ⅱ』(第1分冊) 青森県埋蔵文化財調査報告書第157集
- 青森県教育委員会 1998 『隈無(1)・(2)・(6)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第237集
- 青森県教育委員会 1999 『山下遺跡・上野尻遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第258集
- 青森県教育委員会 1999 『安田(2)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第255集
- 青森県教育委員会 2000 『山下遺跡Ⅱ・米山(2)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第274集
- 青森県教育委員会 2000 『三内丸山(6)遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第279集
- 青森県教育委員会 2000 『岩渡小谷(2)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第300集
- 青森県教育委員会 2001 『上野尻遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第302集
- 青森県教育委員会 2001 『笹ノ沢(2)・(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第305集
- 青森県教育委員会 2001 『黒坂遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第306集
- 青森市教育委員会 1991 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 青森市埋蔵文化財調査報告書第35集
- 岩手県教育委員会 2000 『長倉Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第336集
- 新市区内藤町遺跡調査会 1992 『内藤町遺跡』
- 階上町教育委員会 1999 『滝端遺跡発掘調査報告書』
- 八戸市教育委員会 1986 『八戸新都市域内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ-丹後谷地遺跡-』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集
- 八戸市教育委員会 1988 『田面木平遺跡(1)』 八戸新都市域内埋蔵文化財発掘調査報告書V
- 八戸市教育委員会 1991 『風張(1)遺跡Ⅰ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第20集
- 八戸市教育委員会 1991 『風張(1)遺跡Ⅱ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第40集
- 八戸市教育委員会 1991 『風張(1)遺跡Ⅲ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第42集
- 八戸市教育委員会 2001 『牛ヶ沢(4)遺跡Ⅱ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第89集
- 北海道埋蔵文化財センター 『千歳市 キウス4遺跡(8)』 (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第157集
- 宮城県教育委員会 1986 『田柄貝塚Ⅰ』 宮城県文化財調査報告書第111集
- 奥三面を考える会 2001 『三面川流域の考古学』第1号
- 角張淳一 2001 『続・石器研究についての感想』 『アルカCD』

- 金子昭彦 1994 「十腰内Ⅲ式とⅣ式の境界—
東北地方北半部における縄文時代後期中央～後葉への土器変遷—」 『岩手考古学』第7号
- 金子昭彦 1999 「東北地方 後期前半」 『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の福年』
- 小林圭一 1999 「東北地方 後期(楕円土器)」 『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 鈴木克彦 1997 「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・3
—十腰内5式以降、後期終末型式の研究—」 『北奥古代文化』第26号
- 鈴木克彦 1998 「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・2(上X下)
—十腰内3、4、5式土器の研究—」 『考古学雑誌』第83巻第2・3号 日本考古学会
- 鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』 雄山閣
- 須藤隆 1998 『東北日本先史時代文化変化・社会変動の研究』 繁集堂
- 鷹野光行 1981 「北海道の土器」 『縄文文化の研究』4
- 東北陶磁資料館 1987 『東北の近世陶磁』
- 成田滋彦 1981 「後期の土器 青森県の土器」 『縄文文化の研究』4
- 成田滋彦 1989 「入江・十腰内土器様式」 『縄文土器大観』4

写 真 图 版



写真図版 1 遺跡遠景



調査風景 NE→



調査風景 NW→



調査風景 SE→



調査風景 E→



基本順序(XIC-218) E→



第202号土坑 セクション SW→



第202号土坑内ピット セクション SW→



第202号土坑 完掘 S→



第203・587号土坑 セクション S→



第203・587号土坑 完掘 S→



第248・258・272号土坑 セクション SW→



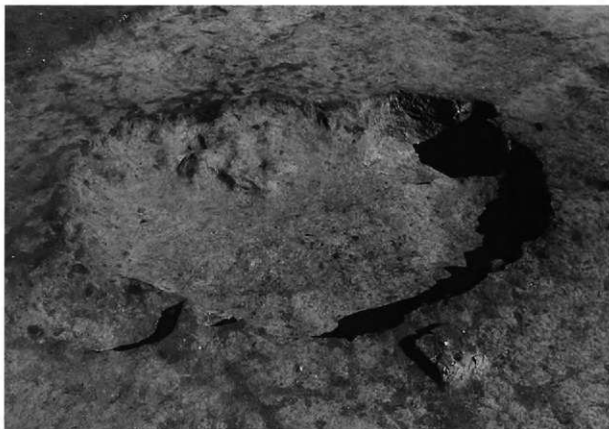
第293・316号土坑 セクション W→



第258号土坑 遺物出土状況 N→



第248・258・262・272・293・316・317・318・375・376号土坑 確認 SE→



第248・258・262・272・293・316・317・318・375・376号土坑 完掘 SW→



第306号土坑 東西セクション NE→



第306号土坑 完掘 NW→



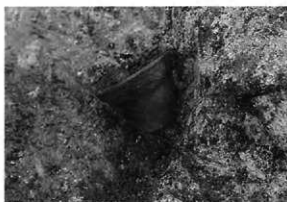
E区北西侧土坑群 確認 SW→



第356号土坑 完掘 SE→



第356号土坑 遺物出土状況 W→



第356号土坑 遺物出土状況 SE→



第357号土坑 遺物出土状況 SW→



第357号土坑 セクション S→



第357号土坑 完掘 S→



第358・359号土坑・Pit360・590 完掘 NW→



第358・359号土坑・Pit360 セクション SW→



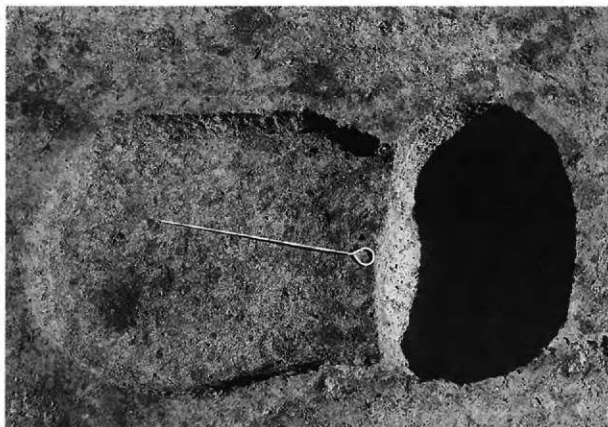
第361・362号土坑 セクション SW→



第361号土坑 セクション SW→



第362号土坑 セクション SW→



第361・362号土坑 完掘 SW→



第363・364号土坑 完掘 NW→



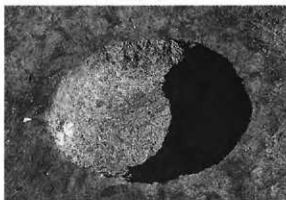
第363・364号土坑 セクション S→



第365号土坑 セクション SW→



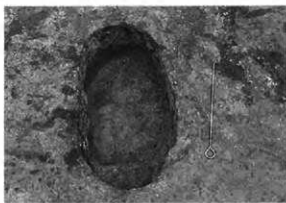
第366号土坑 セクション E→



第366号土坑 完掘 W→



第367・588号土坑 セクション SW→



第367・588号土坑 完掘 S→



第368号土坑 完掘 SE→



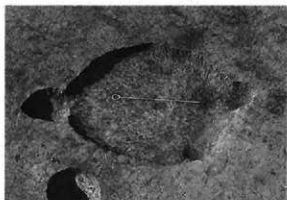
第369号土坑 セクション SE→



第369号土坑 完掘 SW→



Pit440・第441号土坑・Pit569 セクション E→



Pit440・第441号土坑・Pit569 完掘 E→



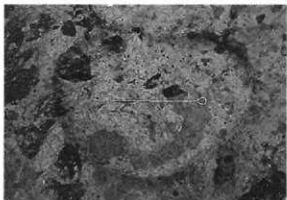
第462号土坑 セクション SW→



第468号土坑 完掘 S→



第565号土坑 セクション W→



第565号土坑 完掘 W→



第568号土坑 セクション SW→



第566・567号土坑・Pt591・第201号溝状土坑 完掘 NE→



第568号土坑 完掘 S→



第592号土坑 南北セクション W→



第592号土坑 完掘 E→



第593号土坑 完掘 SE→



第594号土坑 完掘 S→



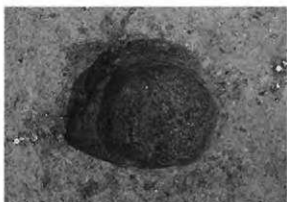
第595号土坑 完掘 W→



第596号土坑 完掘 W→



Pit394 セクション S→



Pit394 完掘 S→



Pit409 セクション SE→



Pit409 完掘 W→



Pit464・465 セクション SW→



Pit464 セクション SW→



Pit465・464 完掘 NE→



Pit470 セクション SE→



Pit474 完掘 S→



Pit561 セクション S→



Pit562 完掘 SE→



Pit570 セクション S→



Pit570 完掘 NE→



集石検出状況 SW→



石器出土状況 SW→



E区 遺構検出状況 W→



E区 遺構検出状況 NW→



遺物集中区 遺物出土状況(XI C~XII L-215~224) NW→



遺物集中区 遺物出土状況(XI C~XII L-215~224) S→



基本層序(XIE-217) S→



調査前風景 N→



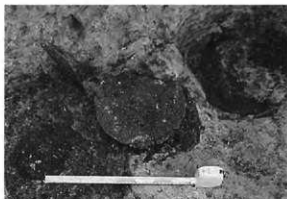
基本層序(XR-228) N→



第201号竪穴遺構 セクション SW→



第201号竪穴遺構 セクション SE→



第201号竪穴遺構 遺物出土状況 N→



第201号竪穴遺構 完照 SW→



第202号竪穴遺構 完掘 E→



第203号竪穴遺構 セクション S→



第203号竪穴遺構 セクション S→



第203号竪穴遺構 セクション E→



第203号竪穴遺構 完掘 S→



第273号土坑 完掘 S→



第274号土坑 完掘 W→



第275・276号土坑 セクション N→



第276号土坑 完掘 N→



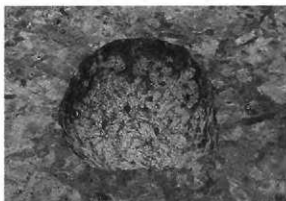
第355号土坑 完掘 W→



第380号土坑 完掘 S→



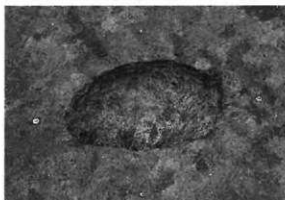
第597号土坑 完掘 E→



第598号土坑 完掘 SE→



第599号土坑 完掘 E→



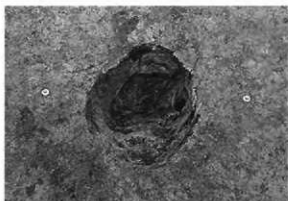
第600号土坑 完掘 E→



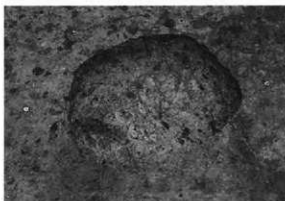
第604号土坑 完掘 E→



第609号土坑 完掘 E→



第613号土坑 完掘 E→



第614号土坑 完掘 E→



第615号土坑 完掘 S→



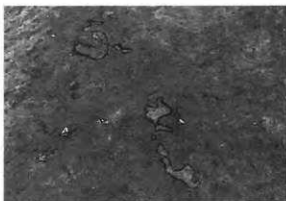
第616号土坑 セクション SE→



第201号溝跡 完掘 W→



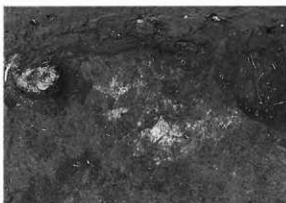
第202号溝跡 完掘 SW→



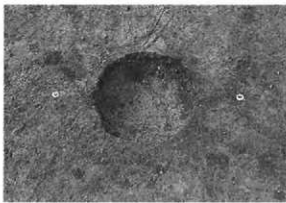
第201・202号焼土遺構 確認 S→



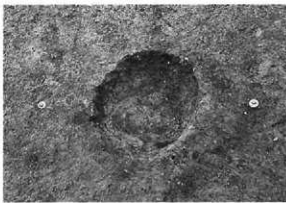
第203号焼土遺構 確認 W→



第204号焼土遺構 確認 S→



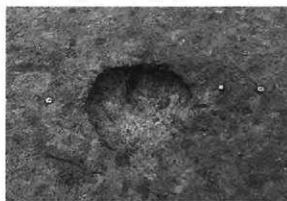
Pit601 完掘 E→



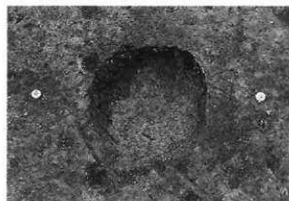
Pit602 完掘 E→



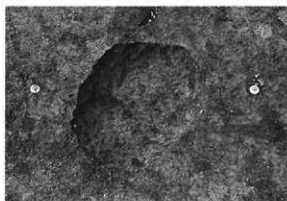
Pit603 完掘 E→



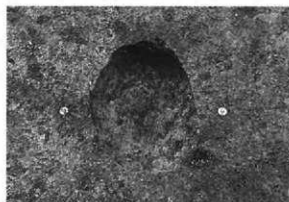
Pit605 完掘 E→



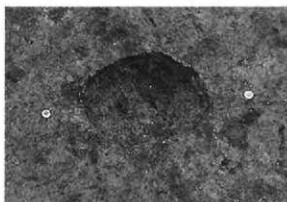
Pit606 完掘 E→



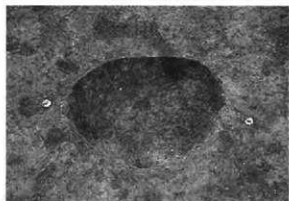
Pit607 完掘 E→



Pit608 完掘 E→



Pit610 完掘 E→



Pit611 完掘 E→



Pit612 完掘 E→



遺物出土状況(XI L-225) E→



作業風景 SE→



作業風景 S→

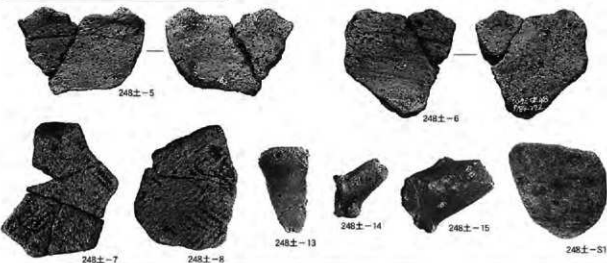
第202号土坑



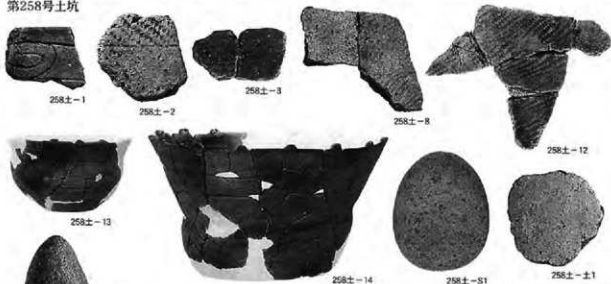
第203号土坑



第248号土坑



第258号土坑



第272号土坑



第272号土坑



第293号土坑



第316号土坑



第318号土坑

第375号土坑

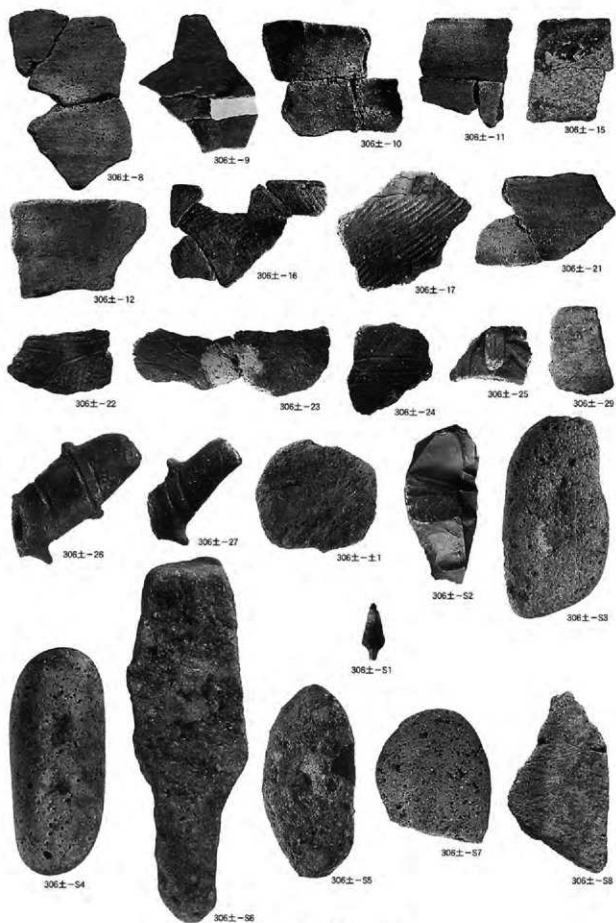


第376号土坑

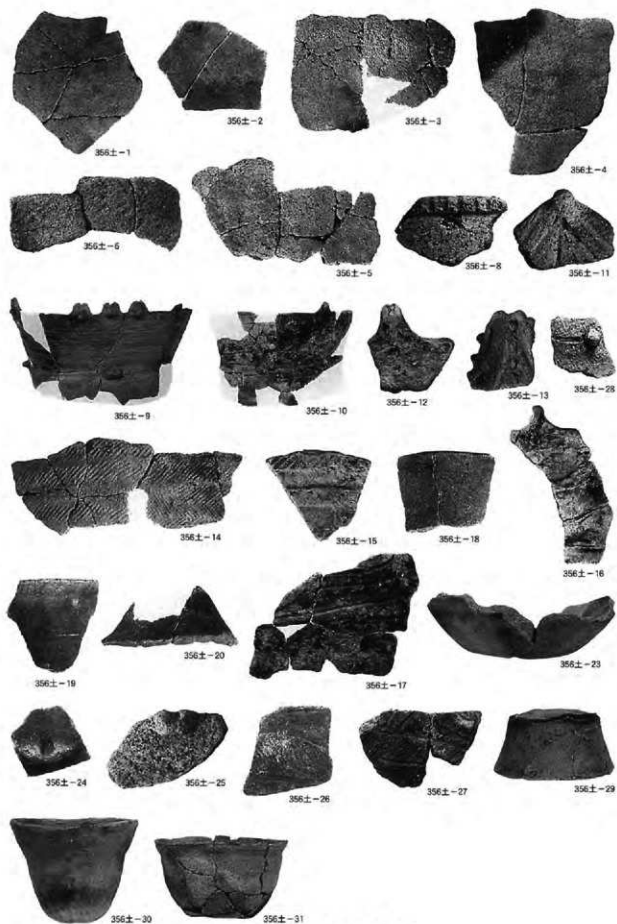


第306号土坑



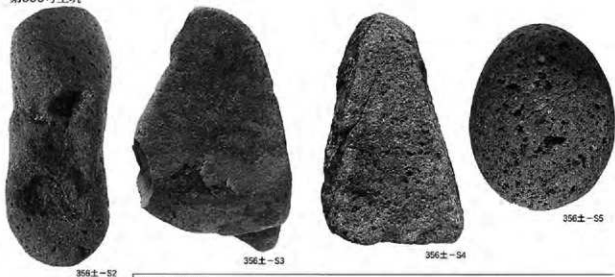


写真図版28 第306号土坑 出土遺物

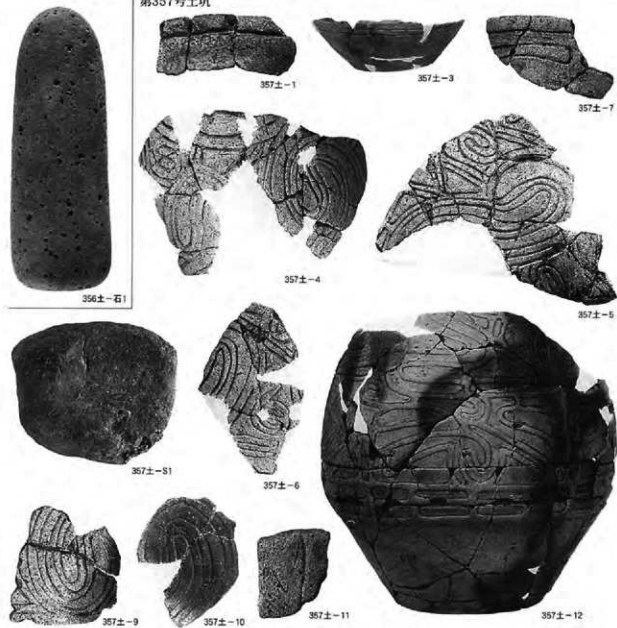


写真図版29 第356号土坑 出土遺物

第356号土坑



第357号土坑

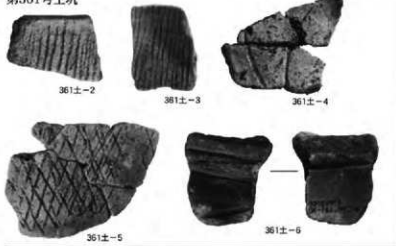


写真図版30 第356・357号土坑 出土遺物

第358号土坑



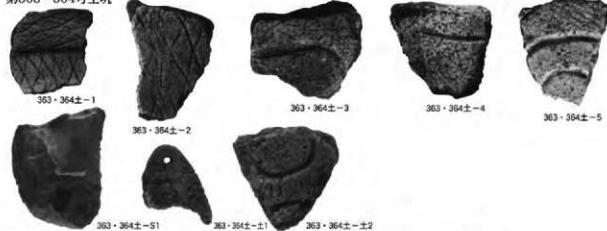
第361号土坑



第362号土坑



第363・364号土坑



第365号土坑



第366号土坑



第367・588号土坑



第368号土坑



第567号土坑



第568号土坑



Pit407



Pit451



Pit464

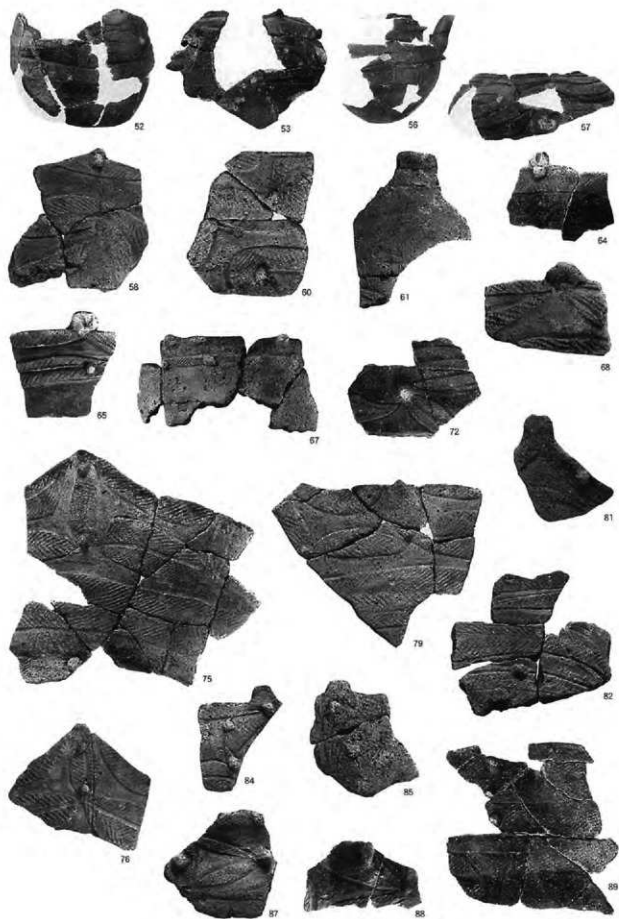


Pit465

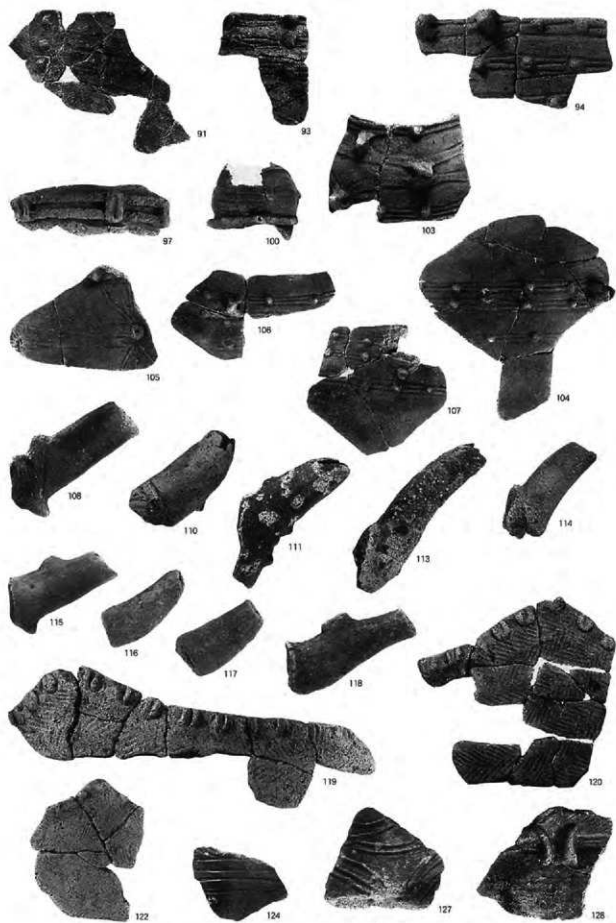




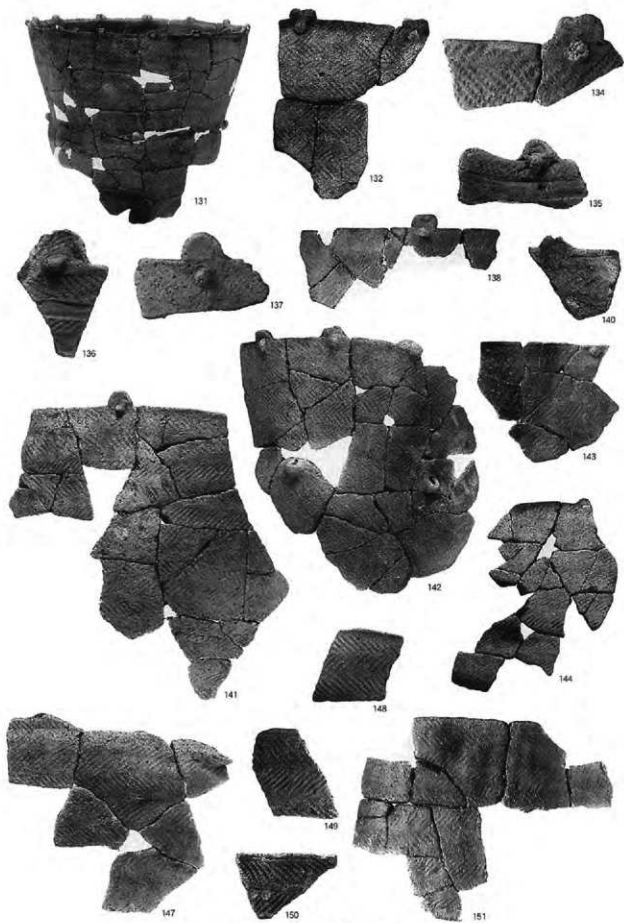
写真図版33 E区 遺構外出土遺物 (1)



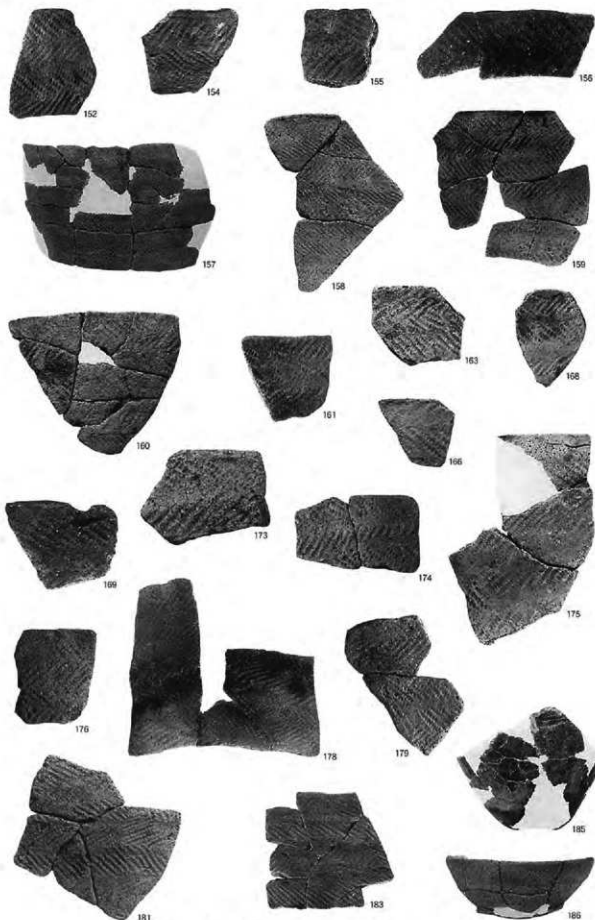
写真图版34 E区 遗構外出土遺物(2)



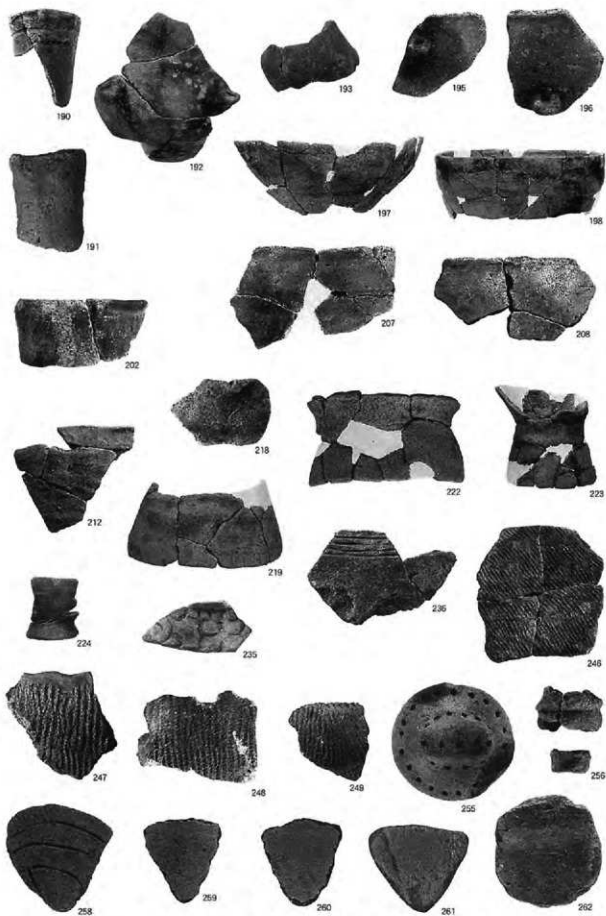
写真図版35 E区 遺構外出土遺物(3)



写真図版36 E区 遺構外出土遺物(4)



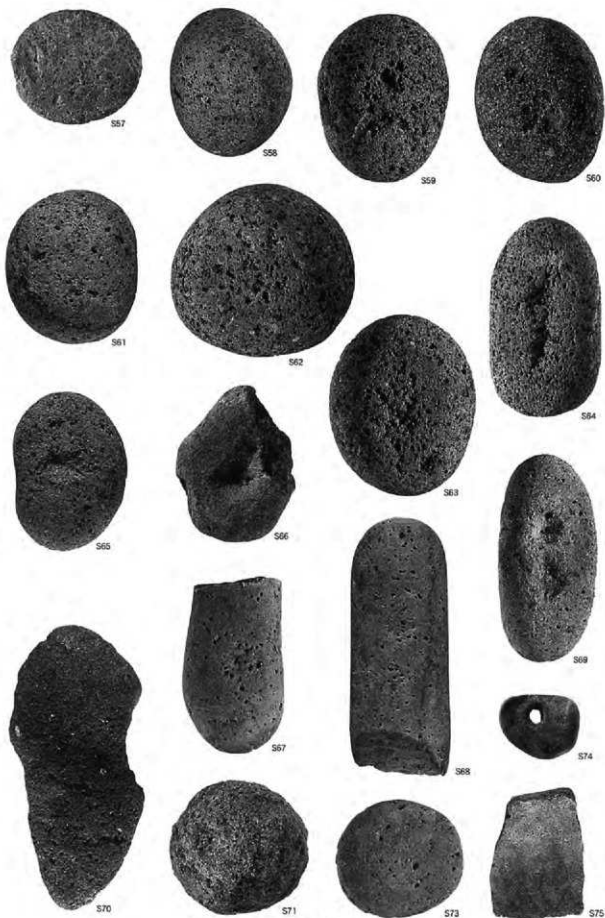
写真図版37 E区 遺構外出土遺物(5)



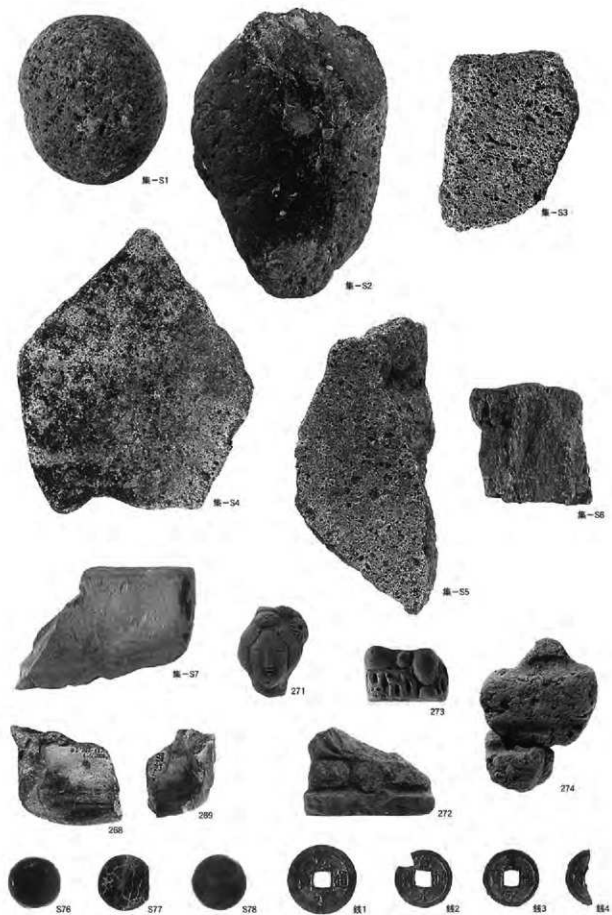
写真图版38 E区 遺構外出土遺物(6)



写真図版39 E区 遺構外出土遺物(7)



写真図版40 E区 遺構外出土遺物(8)



写真図版41 E区 遺構外出土遺物(9)



201号-F1



203号-1



203号-2



203号-3



203号-4



613土-S1

第201号整穴遺構

第203号整穴遺構

第613号土坑



1



3



4



7



8



2



11



12



16



18



19



20



22



23



24



25



26



27



28



31



33



34



35



30



40



42

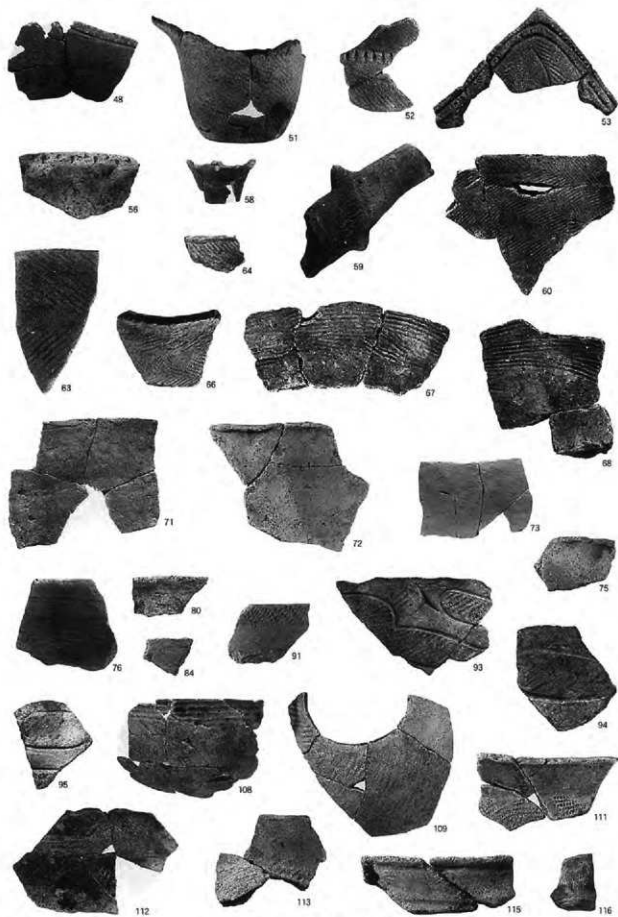


44

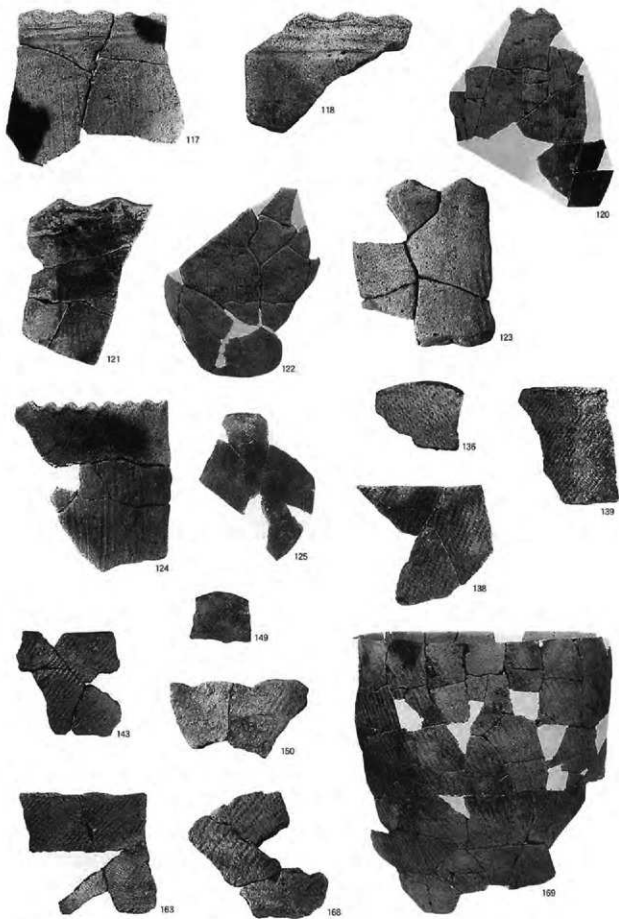


47

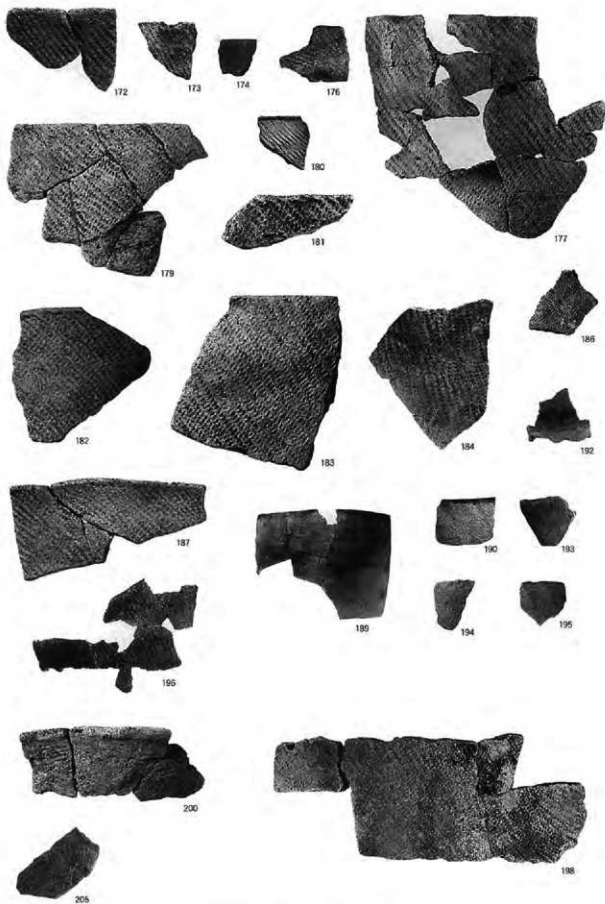
写真図版42 第201・203号整穴遺構、第613号土坑、F区 遺構外出土遺物(1)



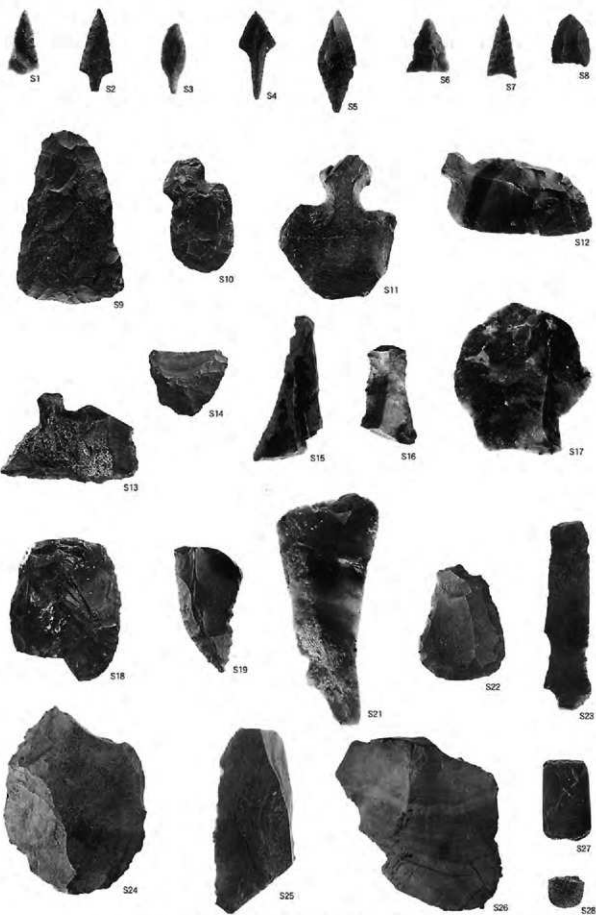
写真図版43 F区 遺構外出土遺物(2)



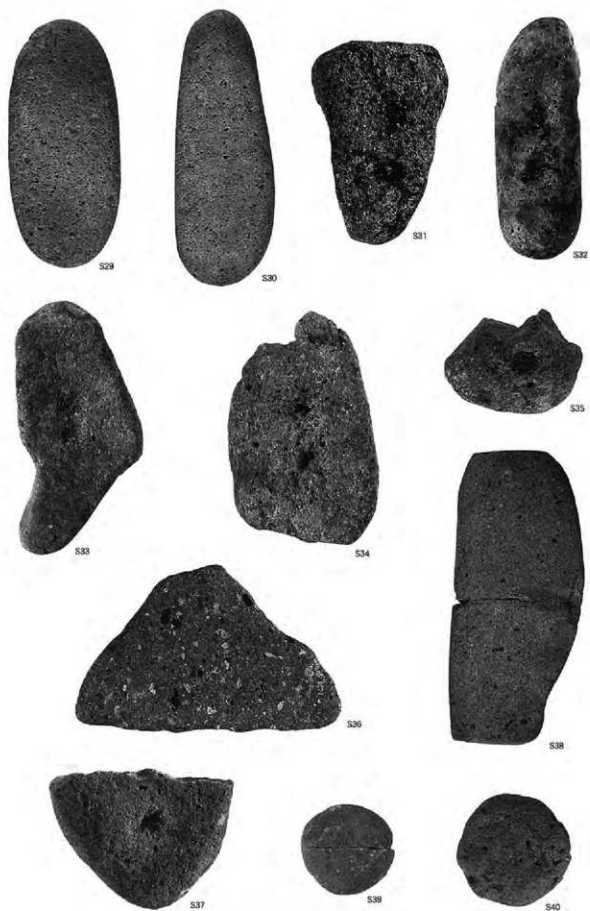
写真図版44 F区 遺構外出土遺物(3)



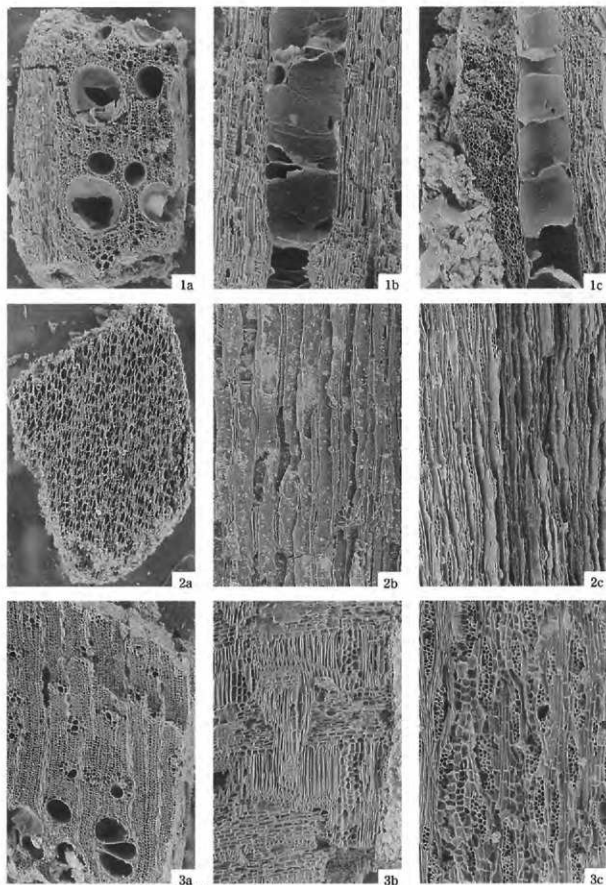
写真図版45 F区 遺構外出土遺物(4)



写真图版46 F区 遺構外出土遺物 (5)



写真図版47 F区 遺構外出土遺物(6)



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節(試料番号13)

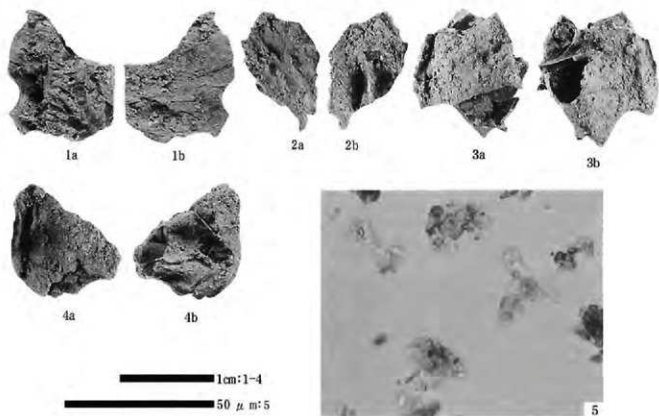
2. カツラ(試料番号12)

3. トネリコ属(料番号11)

a: 木口, b: 柃目, c: 板目

200 μ m: a

200 μ m: b, c



1. オニグルミ(試料番号23) 2. オニグルミ(試料番号23)
3. オニグルミ(試料番号23) 4. オニグルミ(試料番号23)
5. 植物珪酸体分析プレパラート内の状況写真(試料番号16)

写真図版49 種実遺体・植物珪酸体分析プレパラートの状況写真

報告書抄録

ふりがな	かみのじりいせき さん							
書名	上野尻遺跡Ⅲ							
副書名	青森県新総合運動公園建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第323集							
編著者名	工藤 由美子 浅田 智晴 笹森 一朗 斎藤 正							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森市新城市天田内152-15 TEL 017-788-5701							
発行機関	青森県教育委員会							
発行年月日	2002年3月29日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
上野尻遺跡	青森県青森市 大字矢田字 上野尻54、他	02201	01281	40° 50° 28"	140° 50° 58"	20000419 ～ 20001110	10,060	青森県新総合運動公園建設事業に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上野尻遺跡	集落跡	縄文時代	土坑 溝状土坑	36基 1基	縄文土器（後期・晩期）、石器			
		古代以降	溝跡	1条				
		近代	竪穴遺構	2基	陶磁器			
		時期不明	竪穴遺構 土坑 溝跡 焼土遺構 ピット	1基 24基 1条 6基 216基				

青森県埋蔵文化財調査報告書第323集

上野尻遺跡Ⅲ

—青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 平成14年3月29日
発 行 青森県教育委員会
〒030-0801 青森市新町二丁目3-1
編 集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森市新城市天田内152-15
TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702
印 刷 株式会社 誠 工 社
〒030-0113 青森市第二問屋町三丁目3-18
TEL 017-729-1611 FAX 017-729-1188



活彩あもり
—新くあもり新時代—